

令和6年度
草津市男女共同参画についてのアンケート
調査報告書

令和7年3月

草 津 市

目 次

I 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 対象と方法	1
3. 回収結果	1
4. 調査結果の精度	2
5. その他留意点	2
II 調査結果	3
1. 回答者属性	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) パートナー関係	4
(4) 同居者	6
(5) 同居している子どもの年齢	8
(6) 居住歴	9
2. 男女共同参画について	10
(1) 各分野での男女平等	10
(2) 性別役割分担の意識	24
(3) 性別役割分担に賛成する理由	27
(4) 性別役割分担に反対する理由	30
(5) 性別役割分担意識を期待された経験	33
(6) 性別役割分担意識を期待された場面	34
(7) 期待された性別役割分担意識の内容	36
(8) 性別役割分担意識に不都合さや不快感を感じるか	39
(9) 地域での男女間格差の有無	40
(10) 地域での男女間格差の内容	42
(11) 男女共同参画に関する用語の認知	45
3. 仕事について	51
(1) 現在の就労状況	51
(2) 「主に家事」・「無職」の理由	59
(3) 女性が仕事を続けていくために必要なこと	62
(4) 女性管理職が少ない理由	67
4. ワーク・ライフ・バランスについて	70
(1) 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度	70
(2) 生活時間	76
(3) 職場でのワーク・ライフ・バランス実現への必要な取組	90
(4) 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと	96
(5) 男性の育児休業・介護休業取得についての考え	100
(6) 男性の育児休業・介護休業取得のために必要な職場における取組	103
5. 男女間の暴力やハラスメントについて	107
(1) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験	107
(2) ドメスティック・バイオレンスを受けた経験	114
(3) ドメスティック・バイオレンスへの対処方法	116
(4) どこにも相談しなかった理由	117
(5) セクシュアリティを理由とした困難な問題や経験の見聞き	118
(6) セクシュアリティを理由とした問題に対する必要な支援	119
(7) 相談機関の認知	121
6. 市の施策・男女共同参画センターについて	123
(1) 男女共同参画センターの認知	123

(2) 男女共同参画センターに期待する機能	124
(3) 草津市でのジェンダー平等の進捗状況	129
(4) 草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組.....	130
7. 自由記述	136

Ⅲ 調査結果の概要..... 137

(1) 社会の各分野における男女平等感	137
(2) 性別役割分担意識	137
(3) 性別役割分担に賛成する理由	137
(4) 性別役割分担に反対する理由	138
(5) 性別役割分担を期待された経験	138
(6) 性別役割分担意識を期待された場面	138
(7) 期待された性別役割分担意識の内容	138
(8) 性別役割分担意識に不都合さや不快感を感じるか	139
(9) 地域での男女間格差の有無	139
(10) 地域での男女間格差の内容	139
(11) 男女共同参画に関する用語の認知	139
(1) 現在の就労状況	140
(2) 「主に家事」・「無職」の理由	140
(3) 女性が仕事を続けていくために必要なこと	140
(4) 女性管理職が少ない理由	140
(1) 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度....	141
(2) 生活時間	141
(3) 職場でのワーク・ライフ・バランス実現への取り組み.....	143
(4) 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと	143
(5) 男性の育児休業・介護休業取得についての考え	143
(5) 男性の育児休業・介護休業取得のために必要な職場における取組.....	144
(1) 過去5年間にセクシュアル・ハラスメントを受けた経験.....	144
(2) 過去5年間にドメスティック・バイオレンスを受けた経験.....	144
(3) ドメスティック・バイオレンスへの対処方法	144
(4) どこにも相談しなかった理由	145
(5) 過去5年間にセクシュアリティを理由とした困難な問題や経験の見聞き	145
(6) セクシュアリティを理由とした困難な問題に対する必要な支援.....	145
(7) 相談窓口の認知	145
(1) 男女共同参画センターの認知	145
(2) 男女共同参画センターに期待する機能	145
(3) 草津市でのジェンダー平等の進捗状況	146
(4) 草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取り組み.....	146

Ⅳ 調査票..... 147

I 調査の概要

1. 目的

草津市では、男女共同参画社会の実現を市政の重要な柱とし、「草津市男女共同参画推進条例」、「草津市男女共同参画推進計画」に基づき、男女が真に対等な市民として、性別にかかわらず持てる力を発揮し、人権が尊重され、平和で豊かな地域づくりをめざして、取組を進めています。

このたび、市民の皆さまの男女共同参画に関する考えをお伺いし、今後の施策・方針にいかしていくため、「草津市男女共同参画についてのアンケート」を実施しました。

2. 対象と方法

対 象 者：令和6年7月31日現在における本市在住の満18歳以上の3,000人

各小学校区の満20歳以上の男女別・年齢別の構成比に基づき抽出数を設定

標本抽出方法：住民基本台帳より上記条件で無作為抽出

方 法：郵送による調査票配付・回収およびインターネットによる回答

期 間：令和6年9月19日～10月8日

3. 回収結果

	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
郵送	3,000 件	584 件	582 件	—
インターネット		286 件	286 件	—
合計	—	870 件	868 件	29.1%

※不達が22通あったため、有効回答率は不達分を除いた率としています。

4. 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、本結果が草津市民意識や課題としてどの程度の精度があるものなのかを以下の数式で求めました。

国等が実施する調査では、信頼度 95% の水準（同じ調査で対象を変えて行った場合に、100 回中 95 回は同様の結果が得られる。5 回程度は異なる結果となることが許容される。）を求めることが一般的とされており、これに基づき今回の調査における標本測定値の標本誤差を算出しました。

計算の結果 ε （標本誤差）=0.0331 となります。これは、草津市民の回答は今回のアンケート調査結果の ± 3.31 ポイント（パーセンテージポイント）の区間に 95% の確率で存在することを意味します。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε ：標本誤差

± 1.96 ：信頼度 95% の時の係数

N：母集団数（調査時点の 18 歳以上の草津市人口：115,871 人）

n：標本数（有効回答数：868）

P：標本測定値 0.5（50% (0.5) のときに最大となるため 0.5 で計算）

5. その他留意点

- ・図表中の「n (number of case)」は、回答者総数または分類別の回答者数を示します。
- ・回答結果の割合「%」は、回答対象者数 (n) に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示し、そのため、合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- ・「前回調査」とあるのは、令和元年度に実施した「草津市男女共同参画についてのアンケート調査」を指します。
- ・「全国調査」とあるのは、令和 4 年に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」を指します。
- ・「滋賀県調査」とあるのは、令和 6 年の実施した「男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査」を指します。

Ⅱ 調査結果

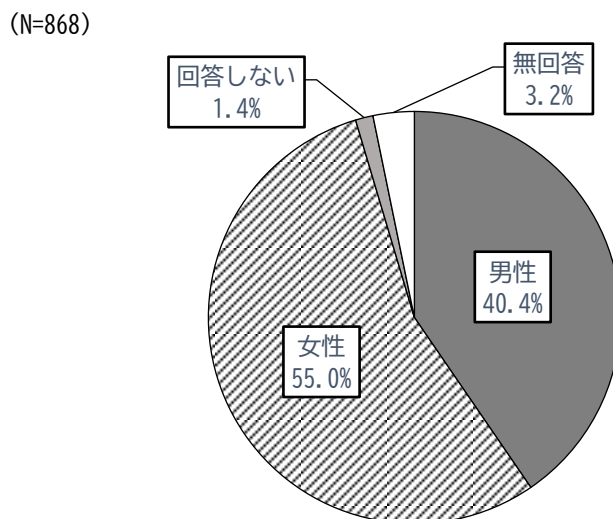
1. 回答者属性

(1) 性別

問 25 あなたの性別をお答えください。(1つに○) ※あなたが認識している性別でお答えください。

全体でみると、「女性」が 55.0%、「男性」が 40.4%、「回答しない」が 1.4%となっています。

図 性別



(2) 年齢

問 26 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

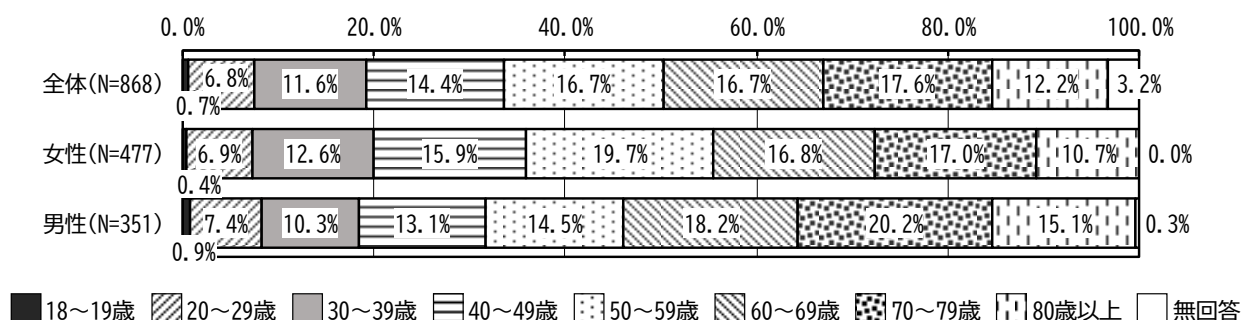
全体でみると、「70～79 歳」が 17.6%で最も高く、次いで「50～59 歳」、「60～69 歳」(いずれも 16.7%) となっています。

【性別】

性別でみると、女性では「50～59 歳」が 19.7%で最も高く、次いで「70～79 歳」(17.0%)、「60～69 歳」(16.8%) となっています。

男性では「70～79 歳」が 20.2%で最も高く、次いで「60～69 歳」が 18.2%、「80 歳以上」が 15.1% となっています。

図 【性別】年齢



(3) パートナー関係

問 27 あなたのパートナー関係（結婚、事実婚など）についてお聞きます。（1つに○）

全体でみると、「配偶者・パートナーがいる」が 64.6%で最も高く、次いで「配偶者・パートナーはいない、いたことはない」（16.1%）、「配偶者・パートナーとは離別・死別した」（15.7%）となっています。

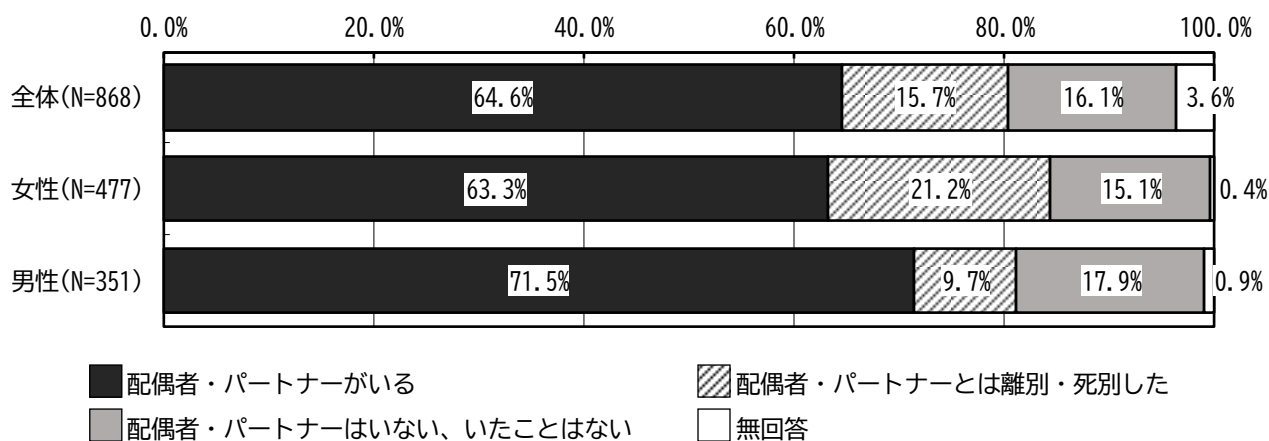
【性別】

性別でみると、「配偶者・パートナーがいる」は女性では6割、男性では7割を超えています。

「配偶者・パートナーとは離別・死別した」は女性では21.2%、男性では9.7%と、女性が11.5ポイント高くなっています。

「配偶者、パートナーはいない、いたことはない」は男女とも約2割となっています。

図 【性別】パートナー関係



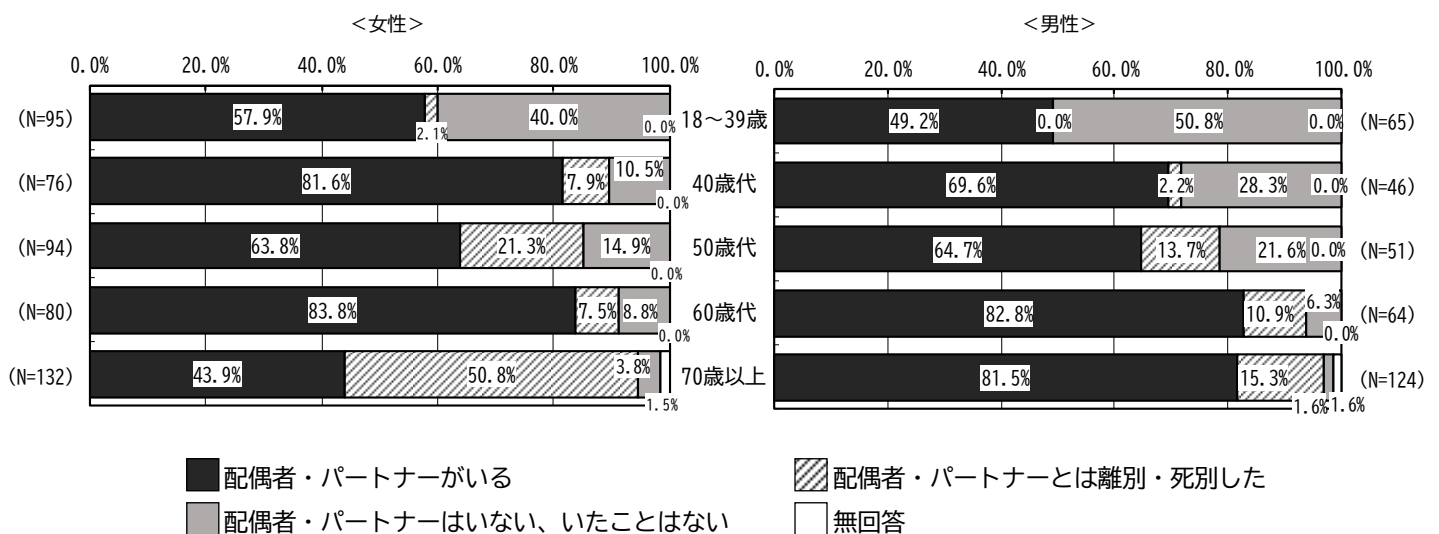
【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は40・60歳代が「配偶者・パートナーがいる」が8割を超えており、それ以外の年齢では4割から6割となっています。「配偶者・パートナーとは離別・死別した」は70歳以上で50.8%と最も高くなっています。

男性は「配偶者・パートナーがいる」は60歳代以上で80%を超え、「配偶者・パートナーとは離別・死別した」は50歳代以上で10%を超えています。

男女とも「配偶者、パートナーはいない、いたことはない」は年齢が上がるにつれて概ね低くなっており、18～39歳の女性は40.0%、男性は50.8%となっています。50歳代は、40歳代、60歳代と比較すると、「配偶者・パートナーがいる」が少なくなっています。

図 【性年齢別】 パートナー関係



(4) 同居者

問 28 あなたは現在、どなたと同居されていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

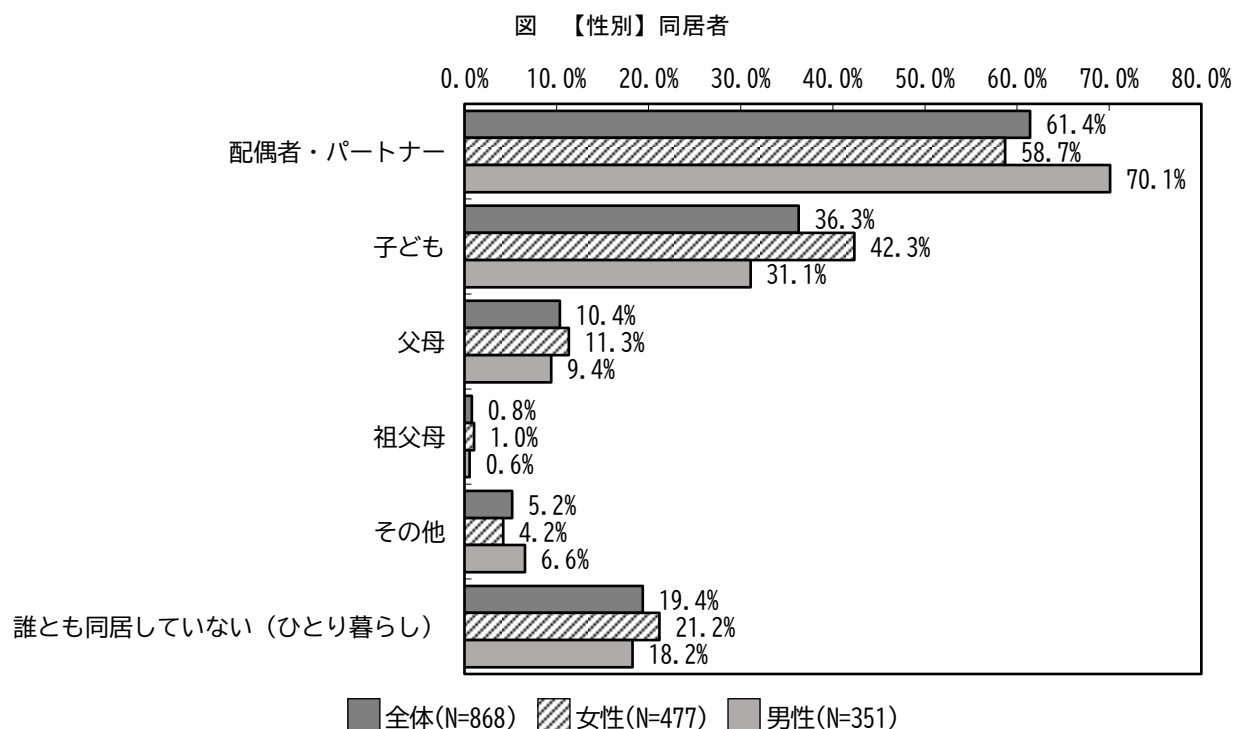
全体でみると、「配偶者・パートナー」が 61.4%で最も高く、次いで「子ども」(36.3%)、「誰とも同居していない(ひとり暮らし)」(19.4%) となっています。

【性別】

性別でみると、男女とも上位3項目は全体と同じ結果となっています。

「配偶者・パートナー」は男性が 11.4 ポイント高く、「子ども」は女性が 11.2 ポイント高くなっています。

「誰とも同居していない(ひとり暮らし)」は男女とも約2割となっています。



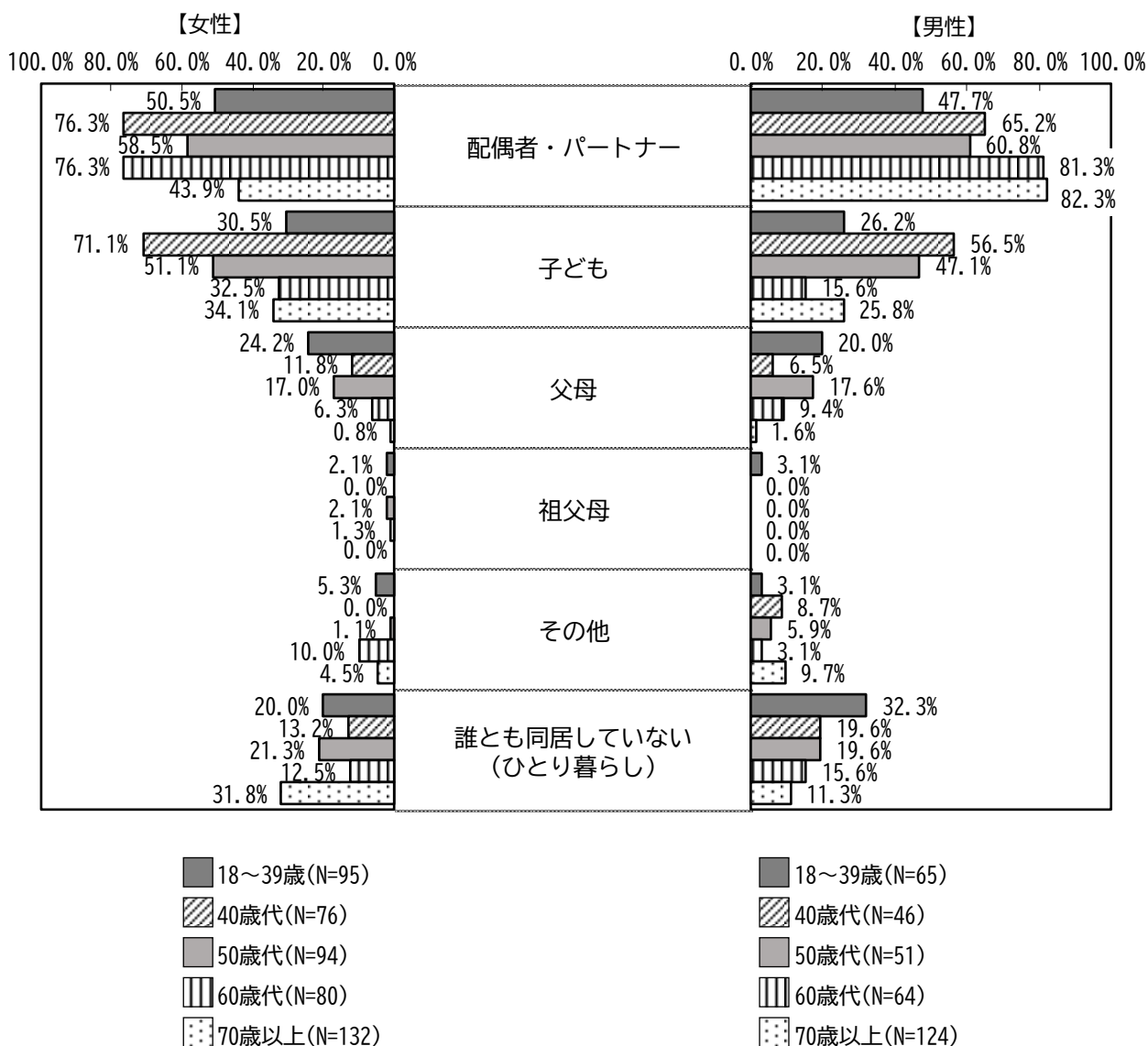
【性年齢別】

性年齢別でみると、すべての性年齢別で「配偶者・パートナー」が最も高く、女性は40・60歳代で70%、男性は60歳以上で80%を超えています。

「子ども」は、女性では40歳代が71.1%、次いで50歳代が51.1%、男性では40歳代が56.5%、次いで50歳代が47.1%と高くなっています。

「誰とも同居していない(ひとり暮らし)」は、女性では70歳以上が31.8%で高くなっています。男性では年齢が上がるにつれて低くなっています。

図 【性年齢別】同居者



（５）同居している子どもの年齢

問 28－1 問 28 で同居している子どもがいると回答された人におたずねします。あてはまる年齢・学齢をすべて選択してください。

全体でみると、「１～５以外」が 39.0% で最も高く、次いで「高校生以上の学生」(27.6%)、「小学生」(25.7%) となっています。

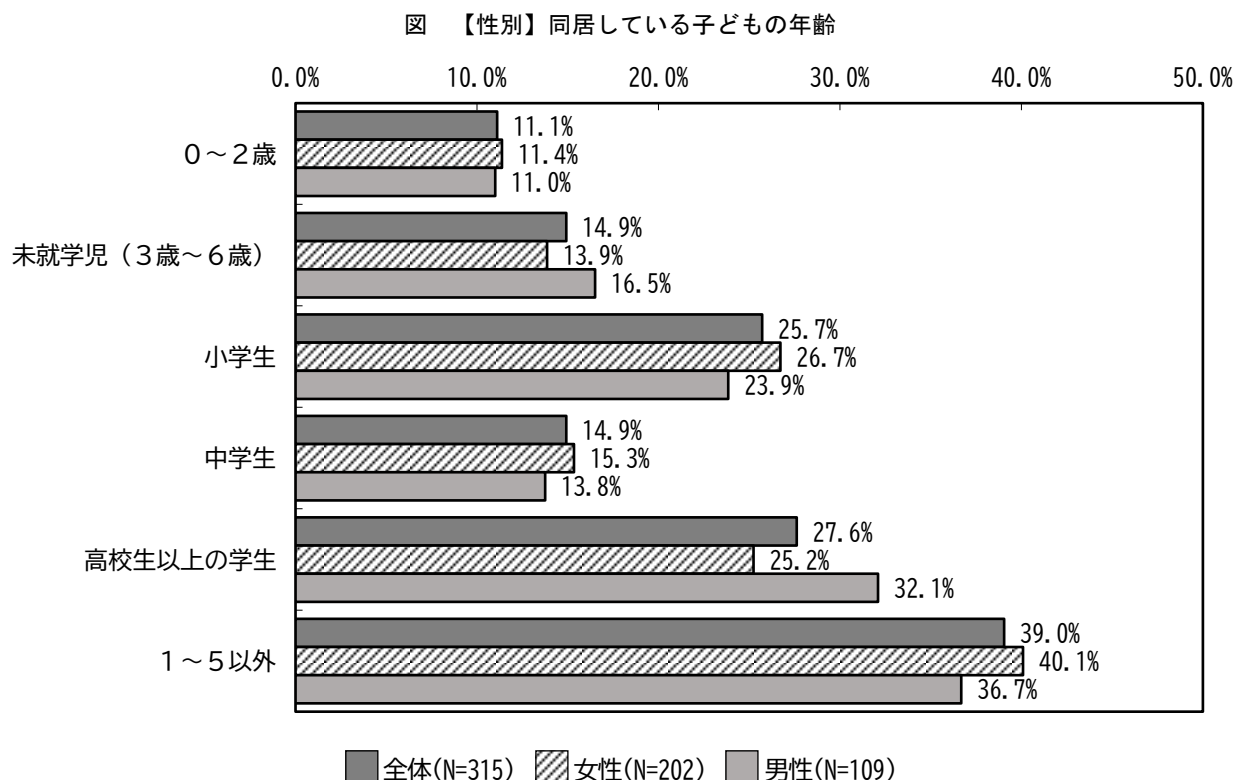
※「１～５以外」は、「１．０～２歳、２．未就学児（３歳～６歳）、３．小学生、４．中学生、５．高校生以上の学生」以外を指す。

【回答者（保護者）の性別】

性別でみると、男女とも「１～５以外」が最も高く、約４割となっています。

次いで、女性では「小学生」(26.7%)、「高校生以上の学生」(25.2%) となっており、男性では「高校生以上の学生」(32.1%)、「小学生」(23.9%) となっています。

「高校生以上の学生」は男性が 6.9 ポイント高くなっています。その他の選択肢では性別による大きな差はみられません。



(6) 居住歴

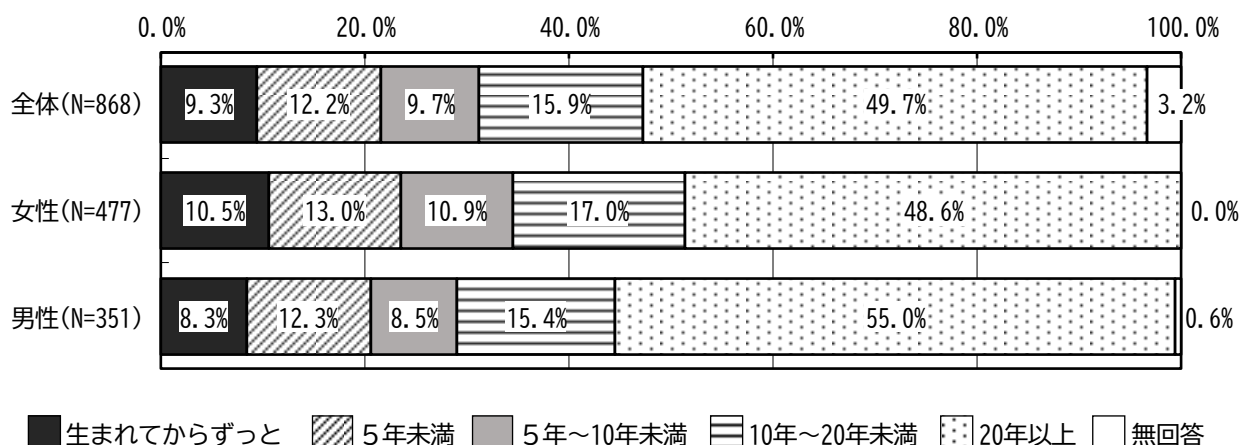
問 29 あなたは草津市に住んで何年になりますか。(1つに○)

全体でみると、「20 年以上」が 49.7%で最も高く、次いで「10 年～20 年未満」(15.9%)、「5 年未満」(12.2%) となっています。

【性別】

性別でみると、男女とも「20 年以上」が最も高く、女性では 48.6%、男性では 55.0%となっています。次いで、男女とも「10 年～20 年未満」、「5 年未満」となっています。

図 【性別】居住歴



2. 男女共同参画について

(1) 各分野での男女平等

問1 あなたは、次にあげるそれぞれの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(1～8のそれぞれ1つに○)

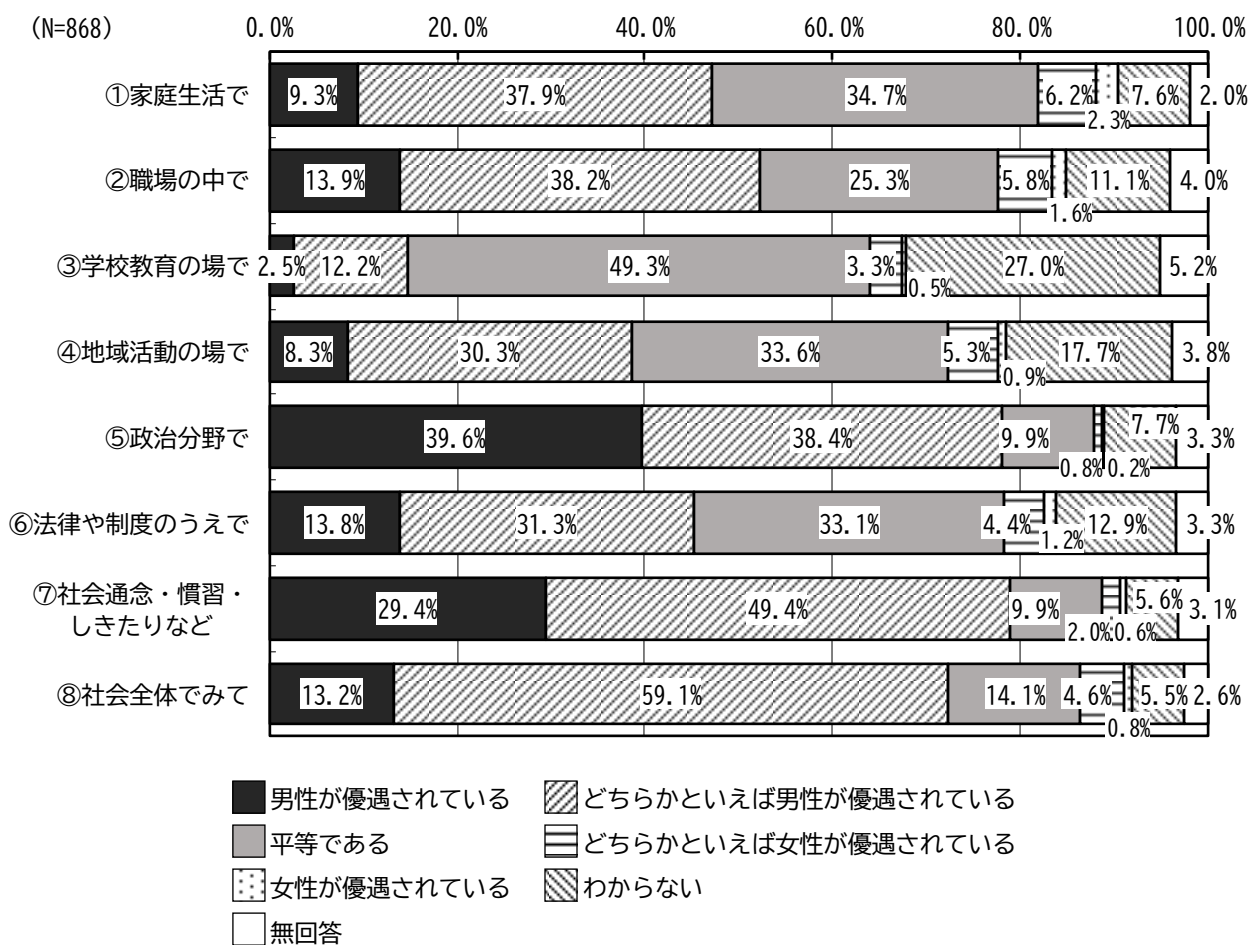
全体でみると、「平等である」は「③学校教育の場で」が49.3%で最も高く、次いで「①家庭生活で」(34.7%)、「④地域活動の場で」(33.6%)となっています。

『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)が多くみられるのは、「⑦社会通念・習慣・しきたりなど」、「⑤政治分野で」、「⑧社会全体でみて」で、いずれも70%を超えています。

『女性優遇』(「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計)は、すべての分野で10%以下となっています。

「わからない」は「③学校教育の場で」が27.0%で最も高く、「④地域活動の場で」、「⑥法律や制度のうえで」、「②職場の中で」も10%を超えています。

図 各分野での男女平等



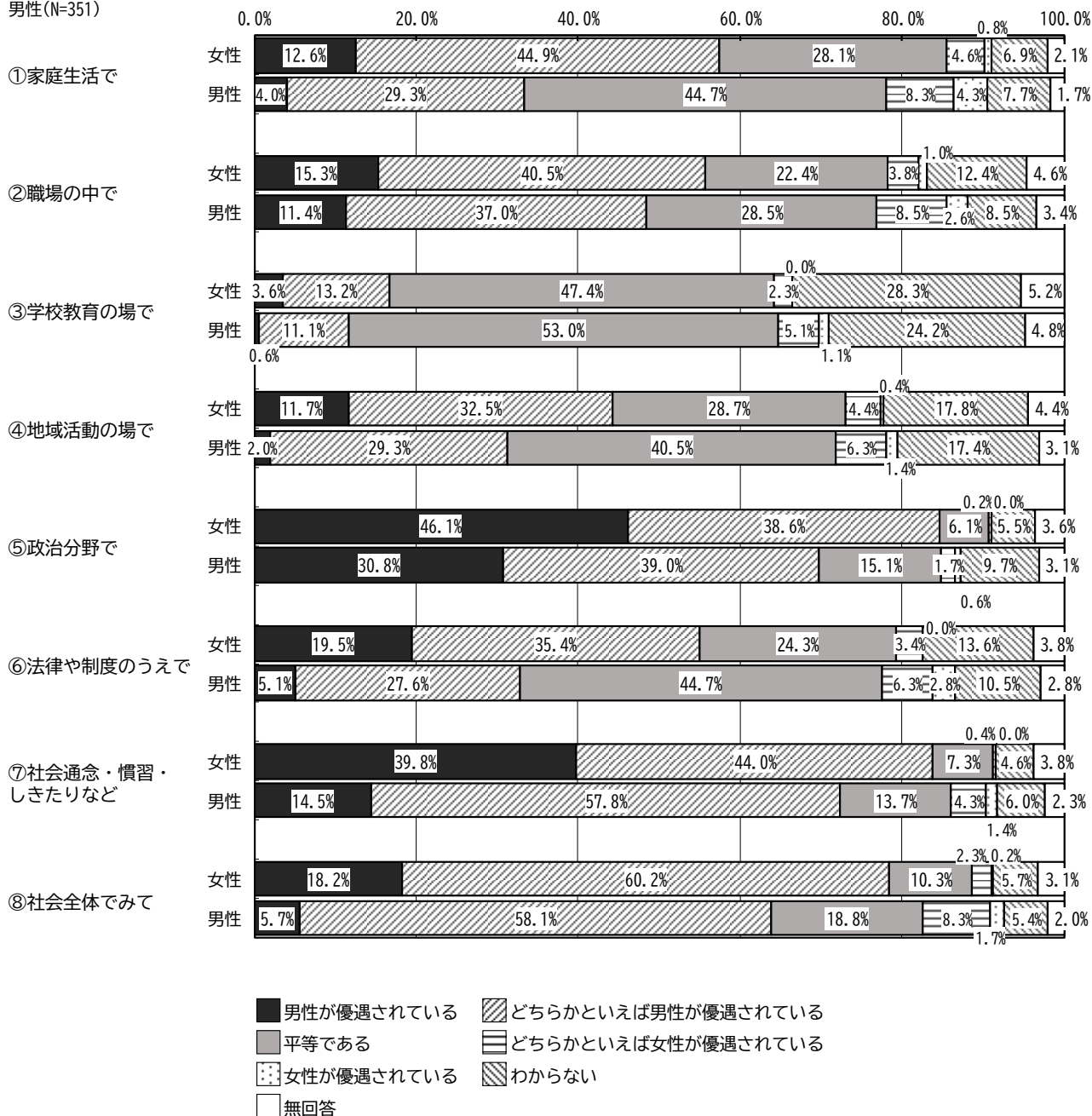
【性別】

性別でみると、女性はすべての分野で「平等である」が男性よりも低くなっており、特に「⑥法律や制度のうえで」は20.4ポイント低くなっています。

また、すべての分野で『男性優遇』は女性が高くなっています。特に「①家庭生活で」、「⑥法律や制度のうえで」は男性よりも20ポイント以上、「⑤政治分野で」、「⑧社会全体でみて」、「④地域活動の場で」、「⑦社会通念・習慣・しきたりなど」も10ポイント以上高くなっています。

図 【性別】各分野での男女平等

女性(N=477)
男性(N=351)



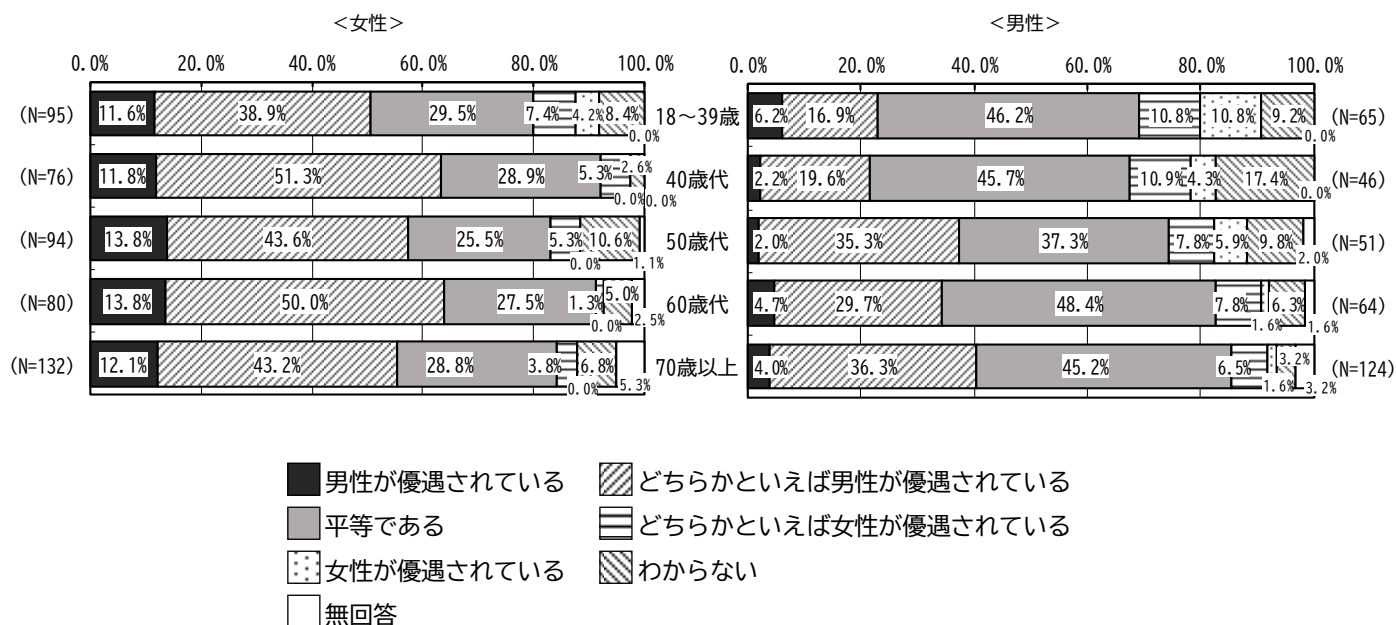
【性年齢別】

① 家庭生活で

性年齢別でみると、女性のすべての年齢で『男性優遇』が5割を超えており、60歳代では63.8%、40歳代では63.1%と高くなっています。

男性はどの年齢も「平等である」が最も高く、約4割から約5割となっています。

図 【性年齢別】 各分野での男女平等 ー ① 家庭生活で

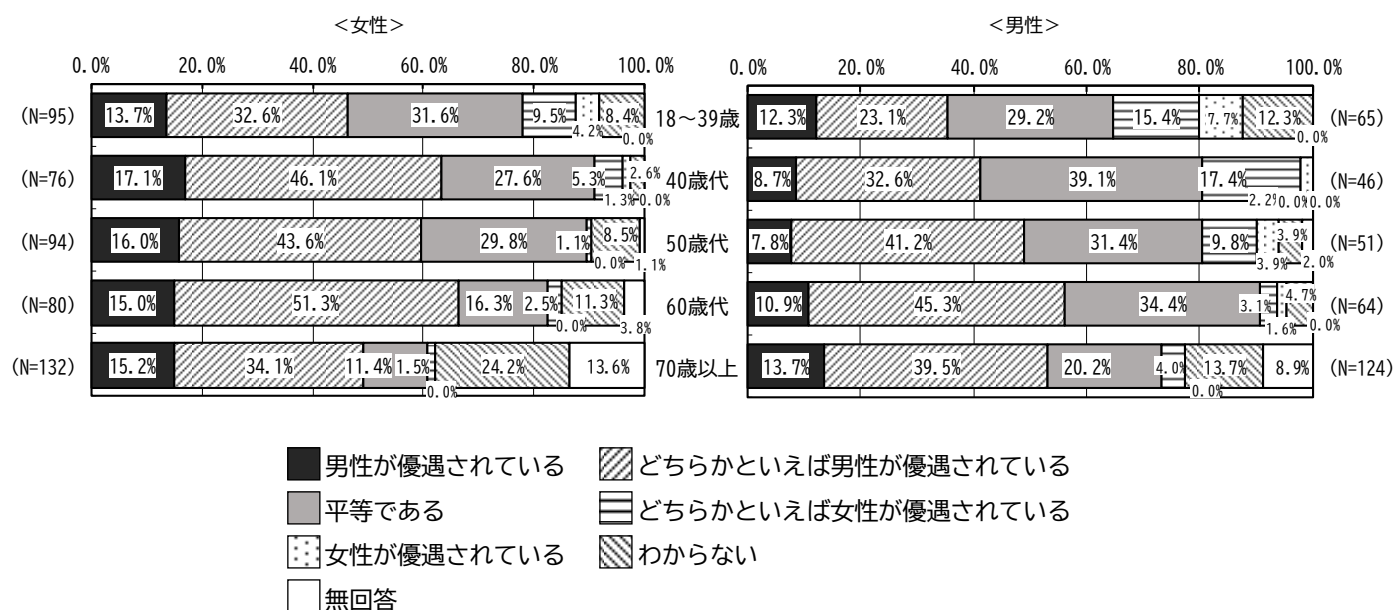


② 職場の中で

性年齢別でみると、女性のすべての年齢で『男性優遇』が高くなっており、60歳代では66.3%、40歳代では63.2%となっています。

男性の40歳代以下では「平等である」が約3割から約4割、50歳代以上は「どちらかといえば男性が優遇されている」が約4割から約5割で最も高くなっています。

図 【性年齢別】 各分野での男女平等 ー ② 職場の中で



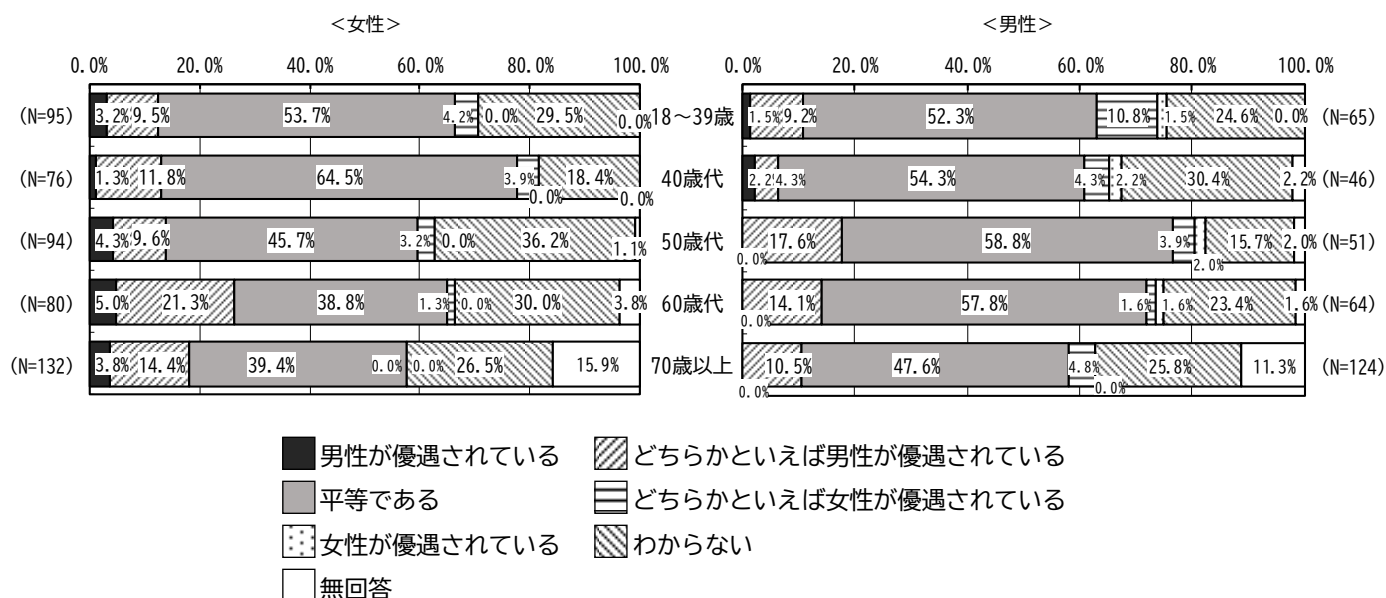
③ 学校教育の場で

性年齢別でみると、すべての性年齢で「平等である」が最も高くなっています。

『男性優遇』は女性の60歳代が26.3%で最も高くなっています。

男性では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が50歳代で17.6%、60歳代で14.1%となっています。

図 【性年齢別】各分野での男女平等 ー ③ 学校教育の場で

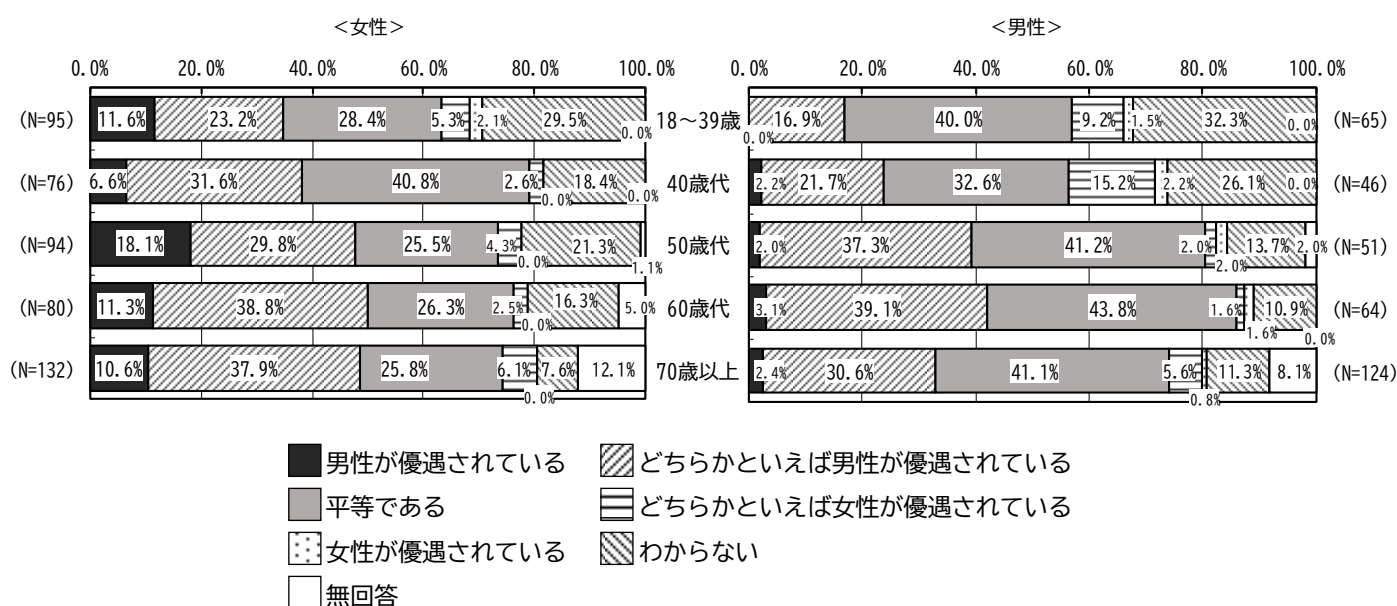


④ 地域活動の場で

性年齢別でみると、女性では、18～39歳は「わからない」、40歳代は「平等である」が最も高くなっています。『男性優遇』は40歳代以下で約3割から約4割、50歳代以上で約5割となっています。

男性では、すべての年齢で「平等である」が最も高く、約3割から約4割となっています。『男性優遇』は40歳代以下で約2割ですが、50歳代以上では約3割から約4割となっています。

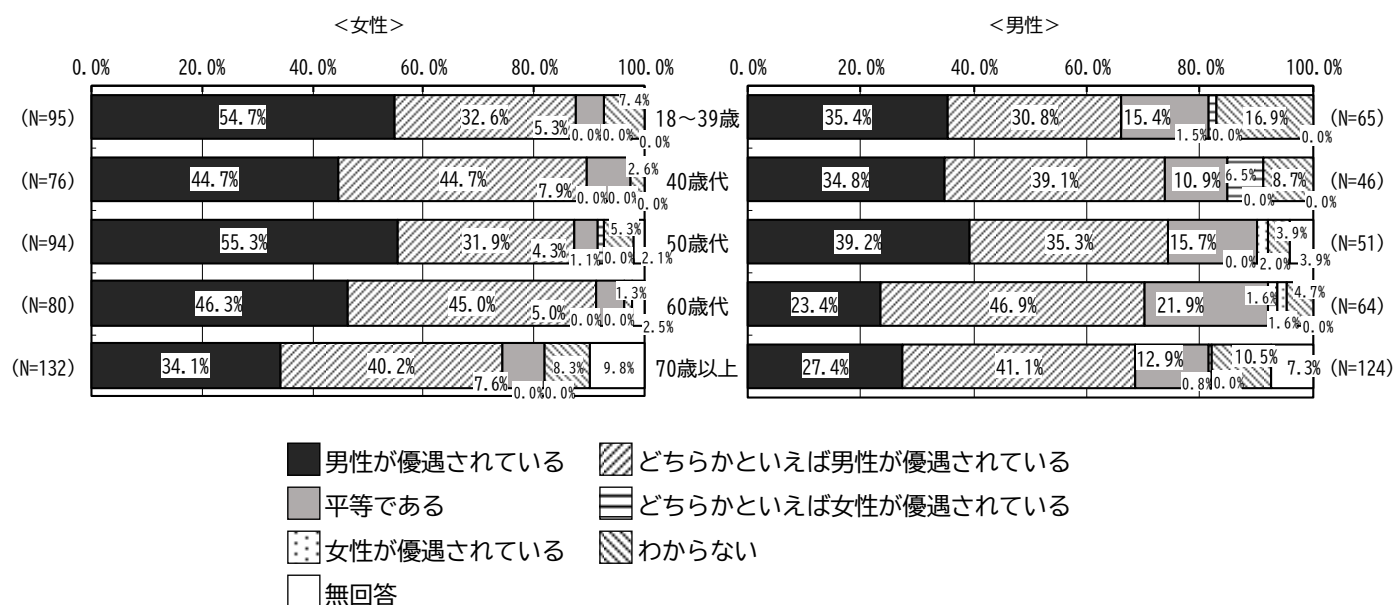
図 【性年齢別】各分野での男女平等 ー ④ 地域活動の場で



⑤ 政治分野で

性年齢別でみると、すべての性年齢で『男性優遇』が約7割から約9割を占めています。女性の60歳代が91.3%で最も高くなっています。

図 【性年齢別】各分野での男女平等 ー ⑤ 政治分野で

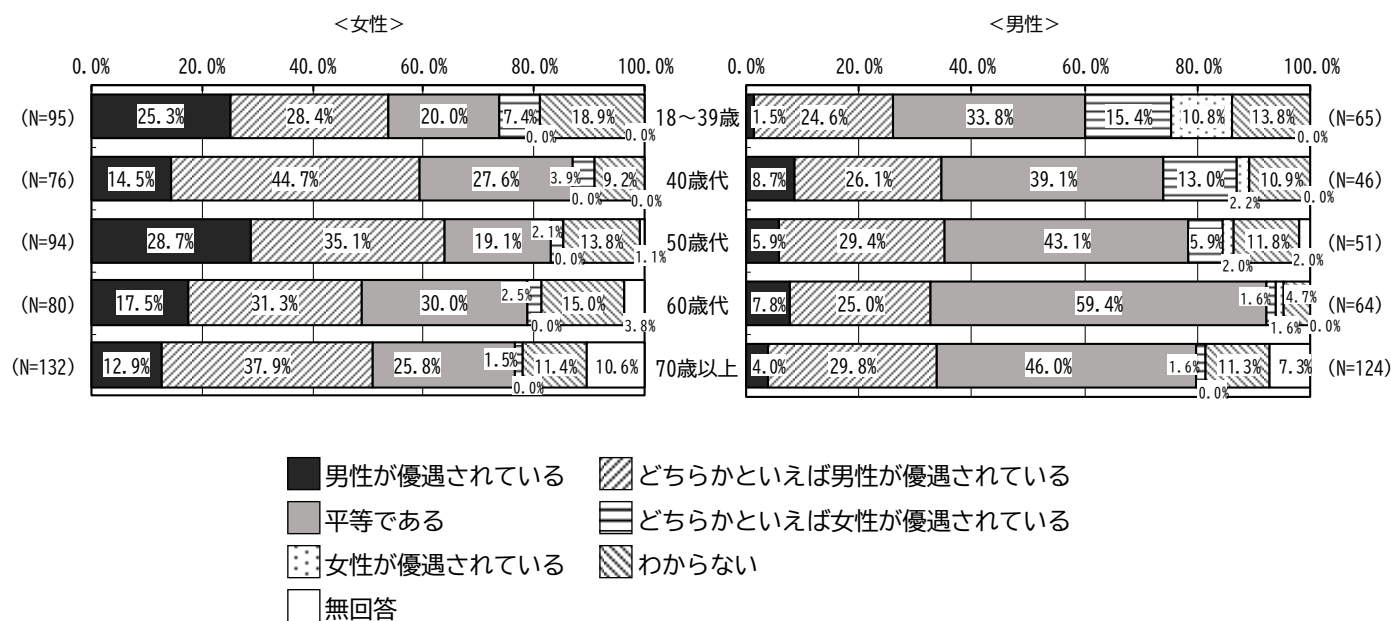


⑥ 法律や制度のうえで

性年齢別でみると、女性ではすべての年齢で『男性優遇』が約5割から約6割を占めており、50歳代は63.8%で最も高くなっています。

男性ではすべての年齢で「平等である」が最も高く、60歳代は59.4%となっています。

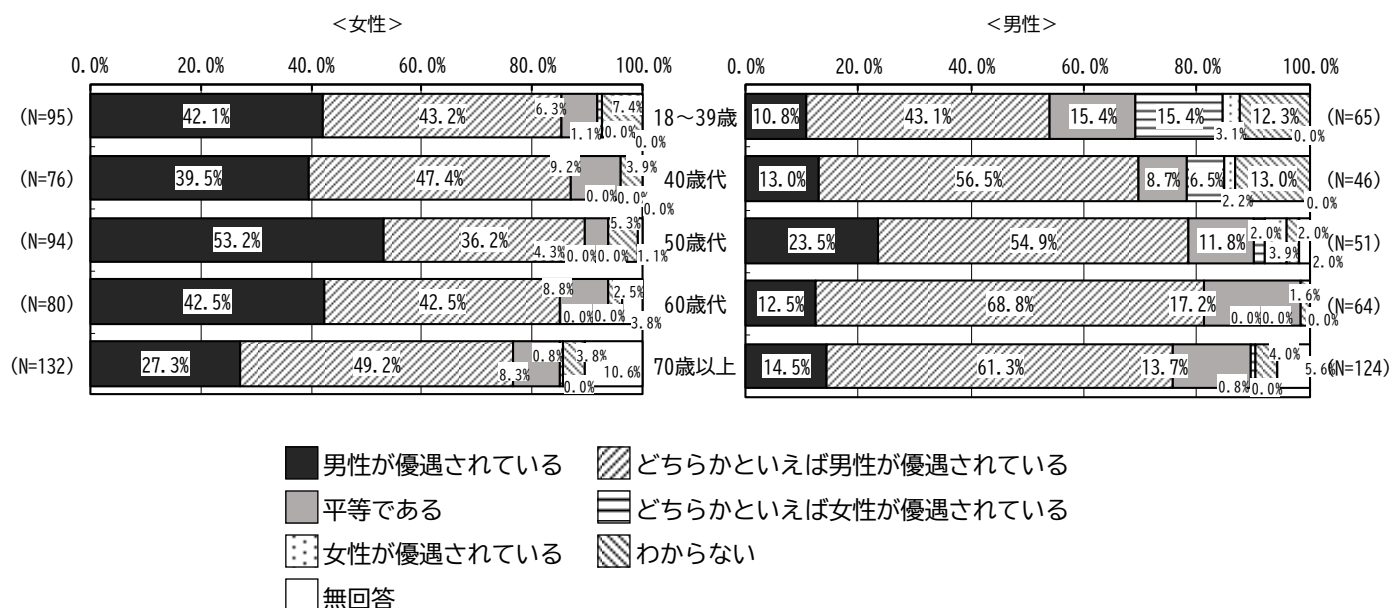
図 【性年齢別】各分野での男女平等 ー ⑥ 法律や制度のうえで



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

性年齢別でみると、すべての性年齢で『男性優遇』が約5割から約9割を占めており、女性では50歳代が89.4%、男性では60歳代が81.3%で最も高くなっています。

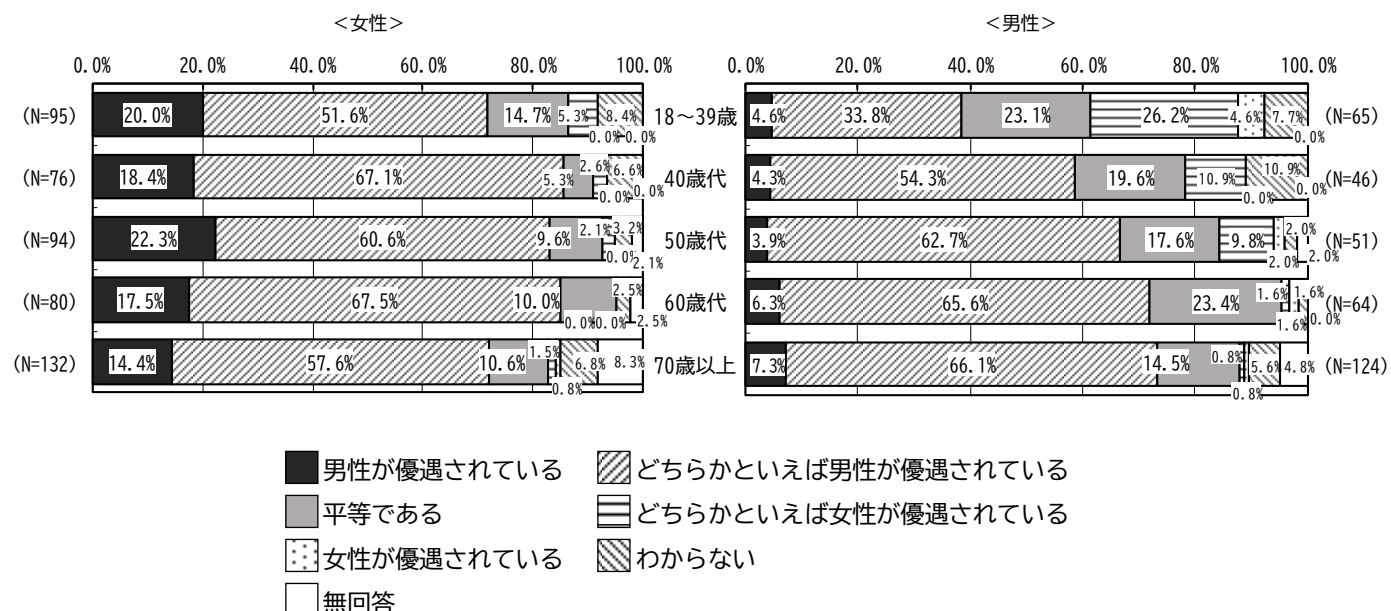
図 【性年齢別】各分野での男女平等 ー ⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど



⑧ 社会全体でみて

性年齢別でみると、すべての性年齢で『男性優遇』が高くなっており、女性では40歳代から60歳代で8割を超え、男性では60歳以上で7割を超えています。

図 【性年齢別】各分野での男女平等 ー ⑧ 社会全体でみて



〔本市調査の経年比較〕

①家庭生活で

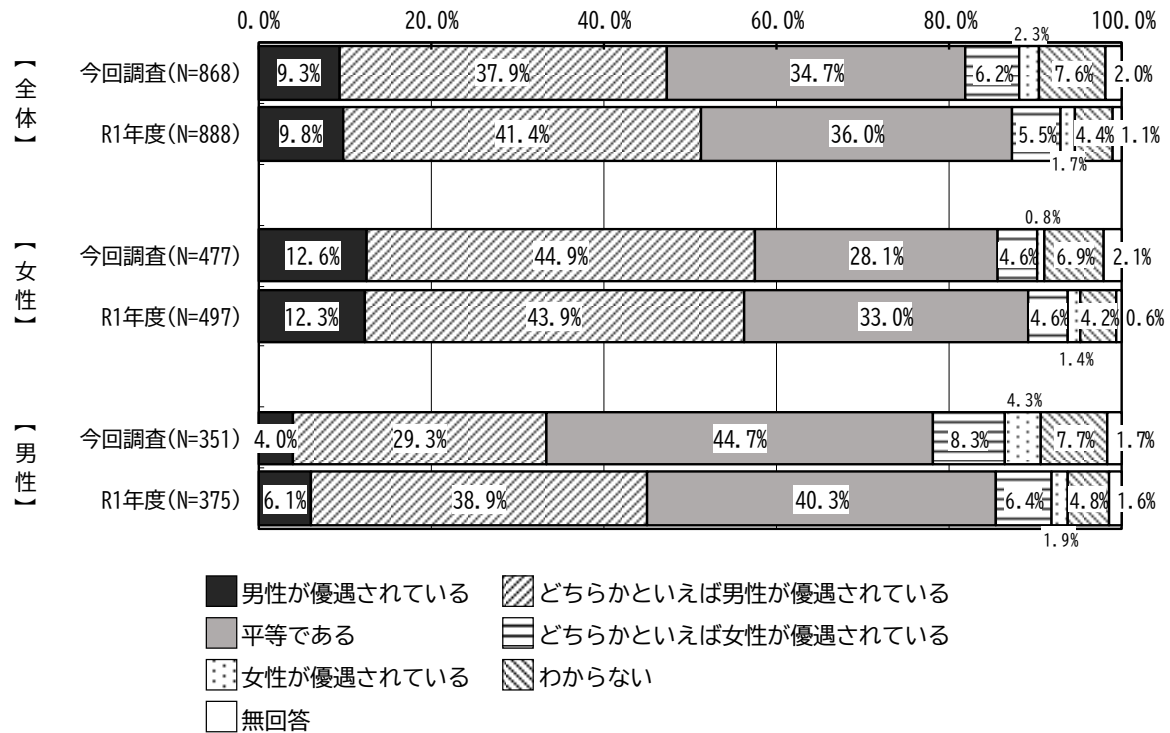
令和元年調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

【性別】

性別でみると、女性では令和元年度と概ね同様の結果となっています。

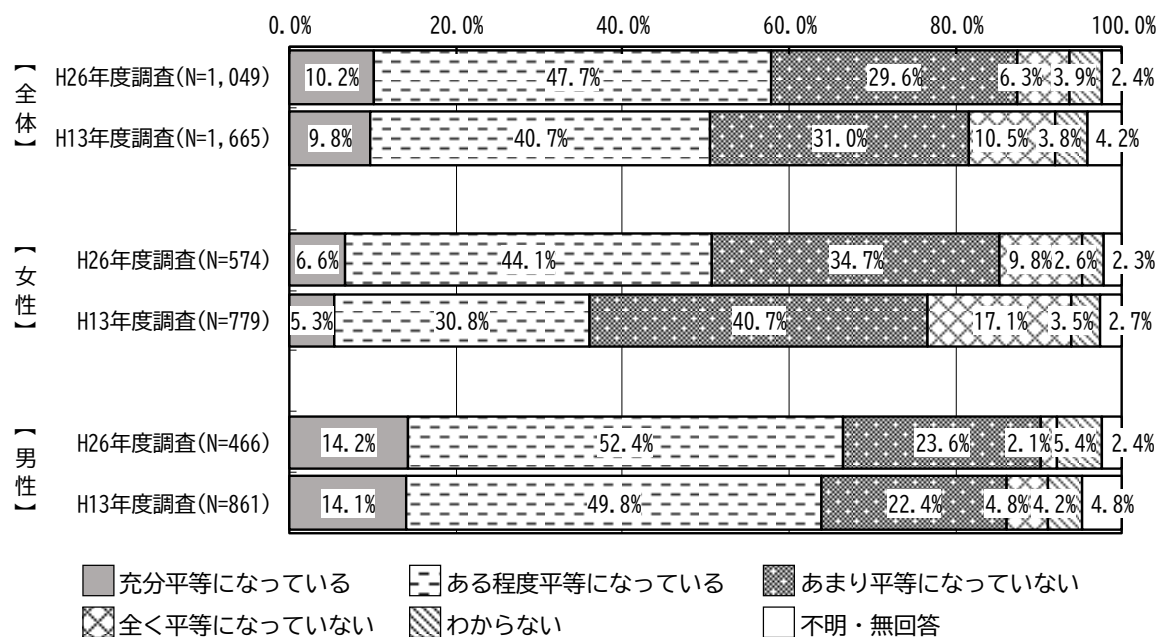
男性では『男性優遇』が令和元年度から 11.7 ポイント低くなっています。

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（令和元年度） ①家庭生活で〕



〔参考〕

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（平成13・26年度） ①家庭生活で〕



②職場の中で

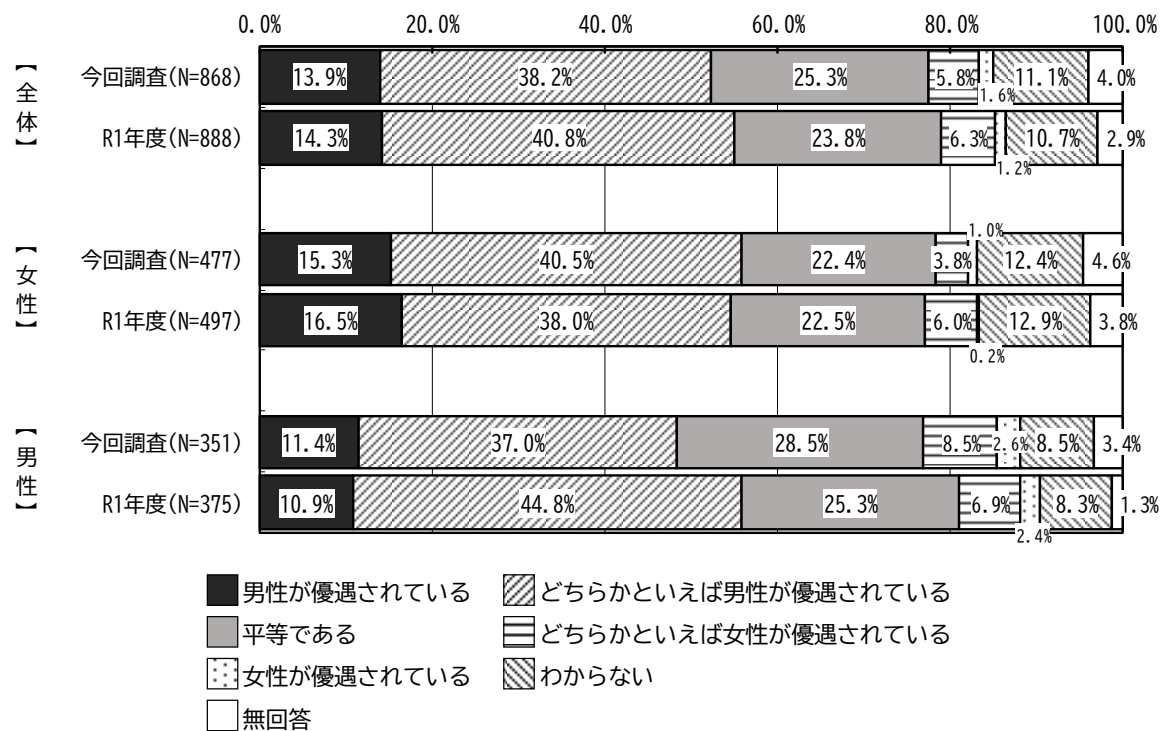
令和元年調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

【性別】

性別でみると、女性では令和元年度と概ね同様の結果となっています。

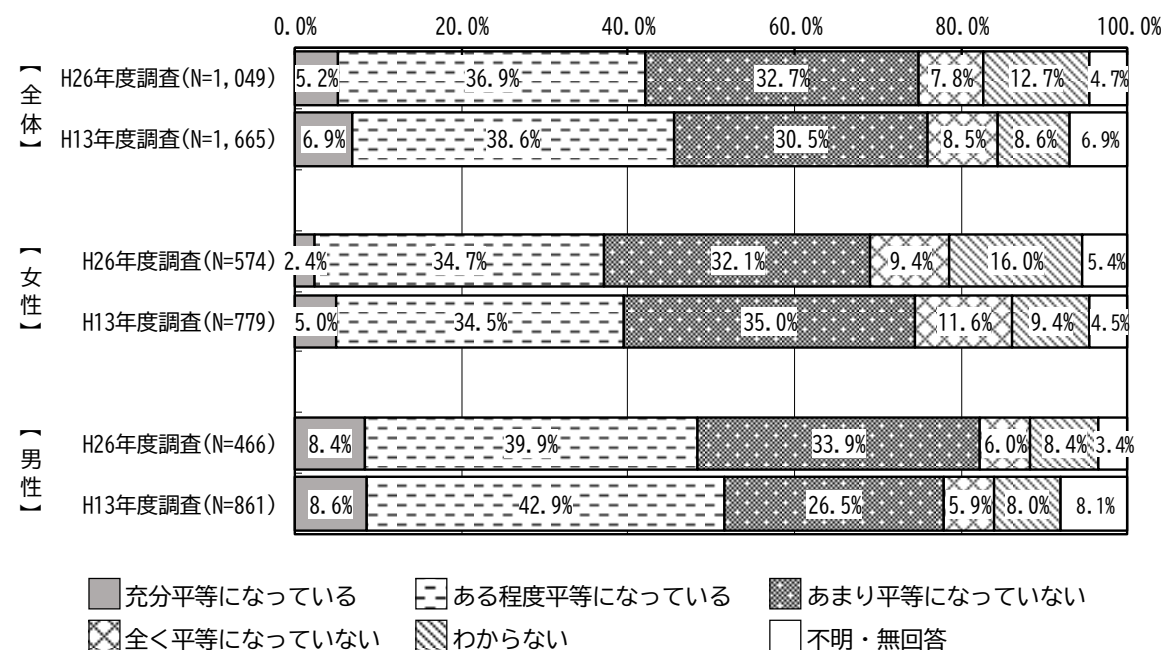
男性では『男性優遇』が令和元年度から7.3ポイント低くなっています。

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（令和元年度） ②職場の中で〕



【参考】

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（平成13・26年度） ②職場の中で〕



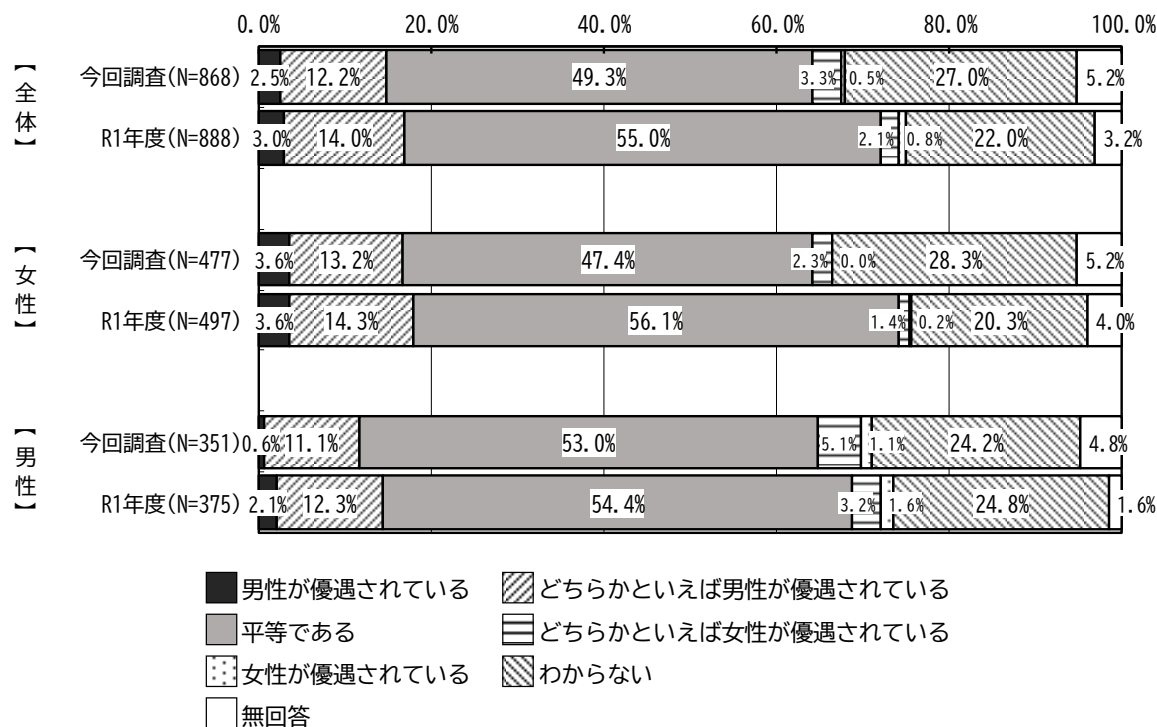
③学校教育の場で

令和元年調査と比較すると、「平等である」は5.7ポイント低くなっています。

【性別】

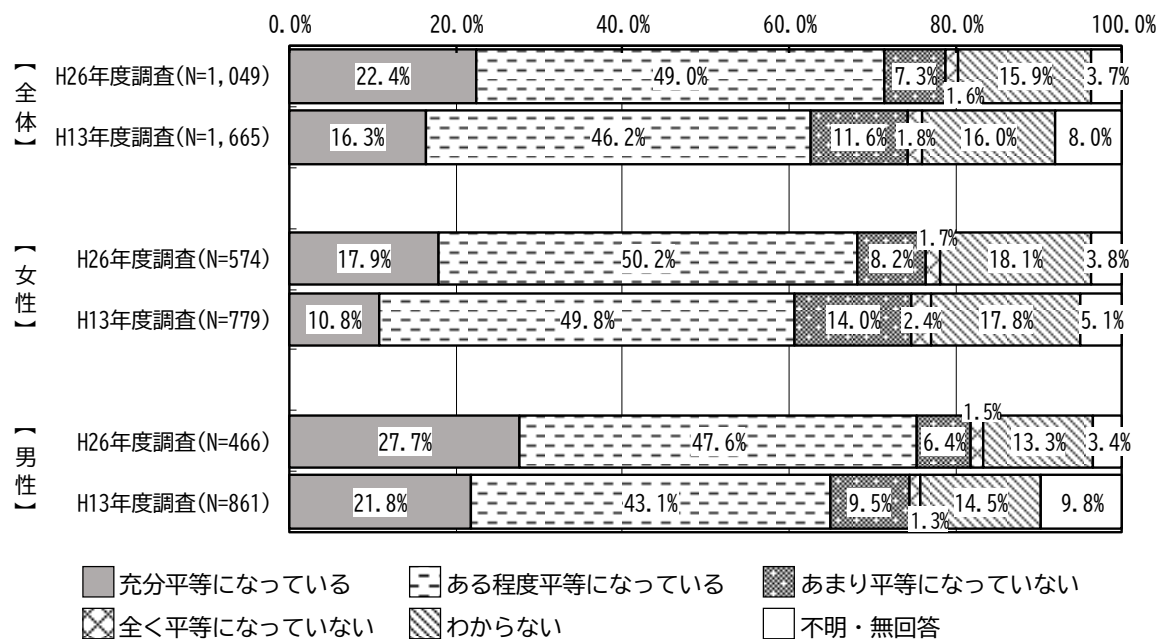
性別でみると、女性では「平等である」が令和元年度から8.7ポイント低くなっています。男性では概ね同様の結果となっています。

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（令和元年度） ③学校教育の中で〕



【参考】

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（平成13・26年度） ③学校教育の中で〕



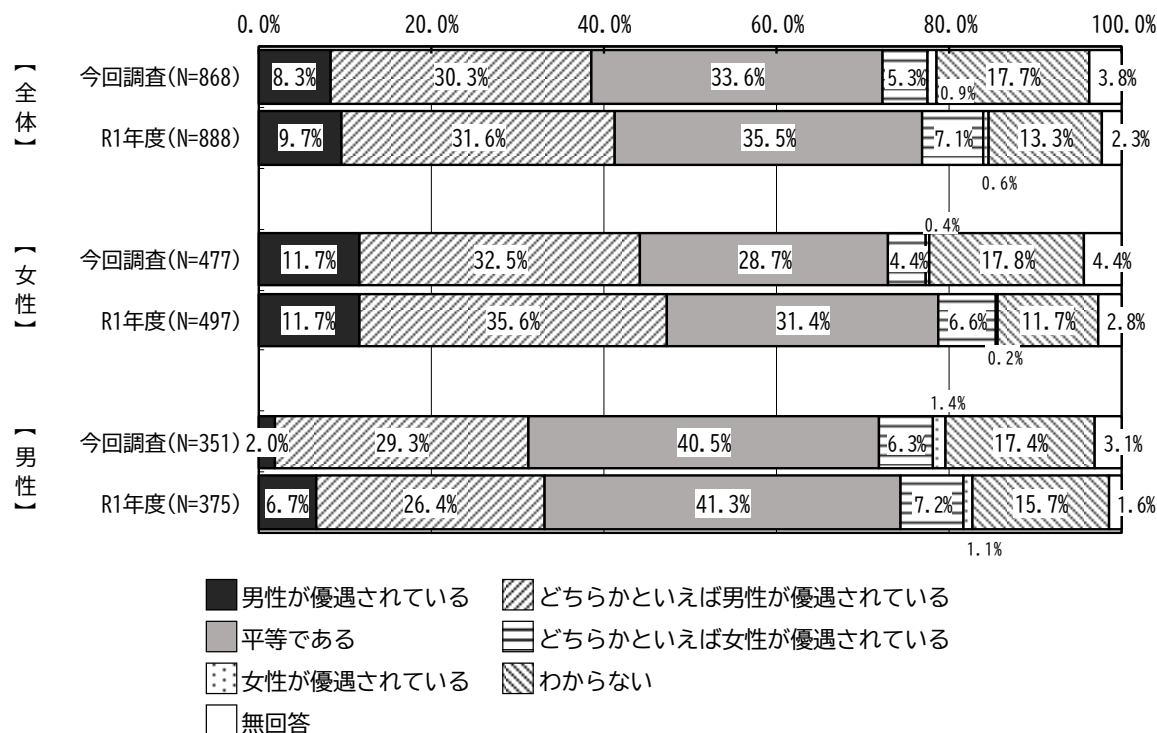
④地域活動の場で

令和元年調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

【性別】

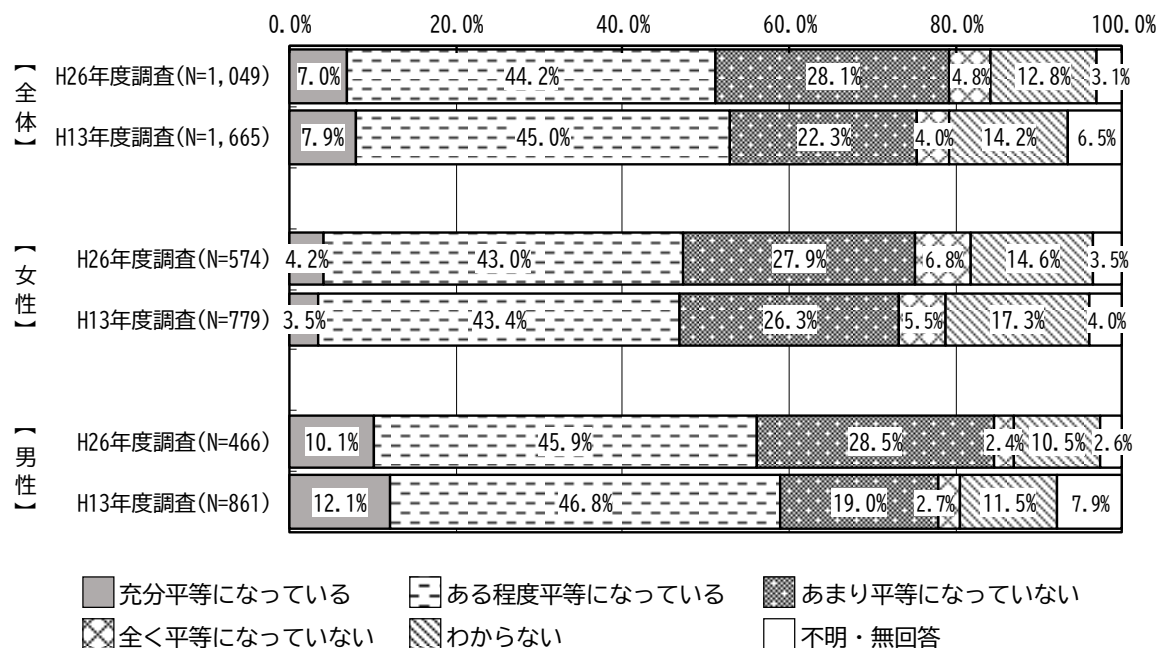
性別でみると、男女とも令和元年度と概ね同様の結果となっています。

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（令和元年度） ④地域活動の場で〕



【参考】

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（平成13・26年度） ④地域活動の中で〕



⑤政治分野で

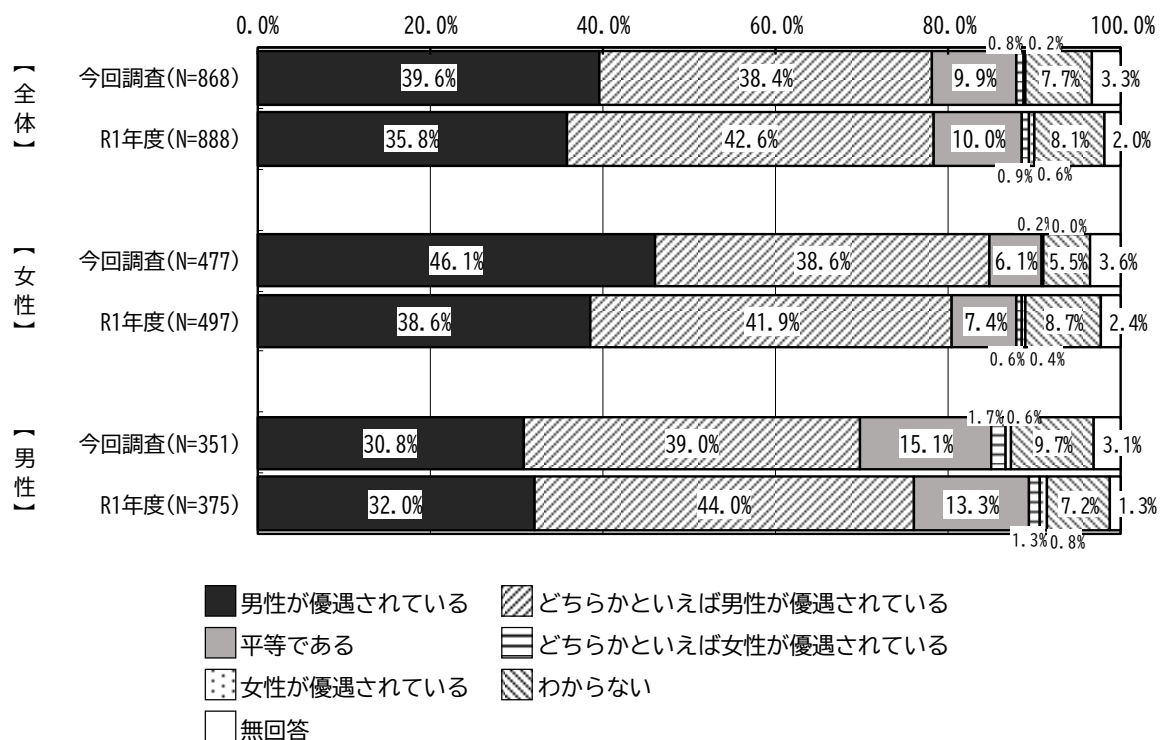
令和元年調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

【性別】

性別でみると、女性では「男性が優遇されている」が令和元年度から 7.5 ポイント高くなっています。

男性では『男性優遇』が令和元年度から 6.2 ポイント低くなっています。

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（令和元年度） ④地域活動の中で〕



※「⑤政治分野で」は、平成元年以前は設問に無し。

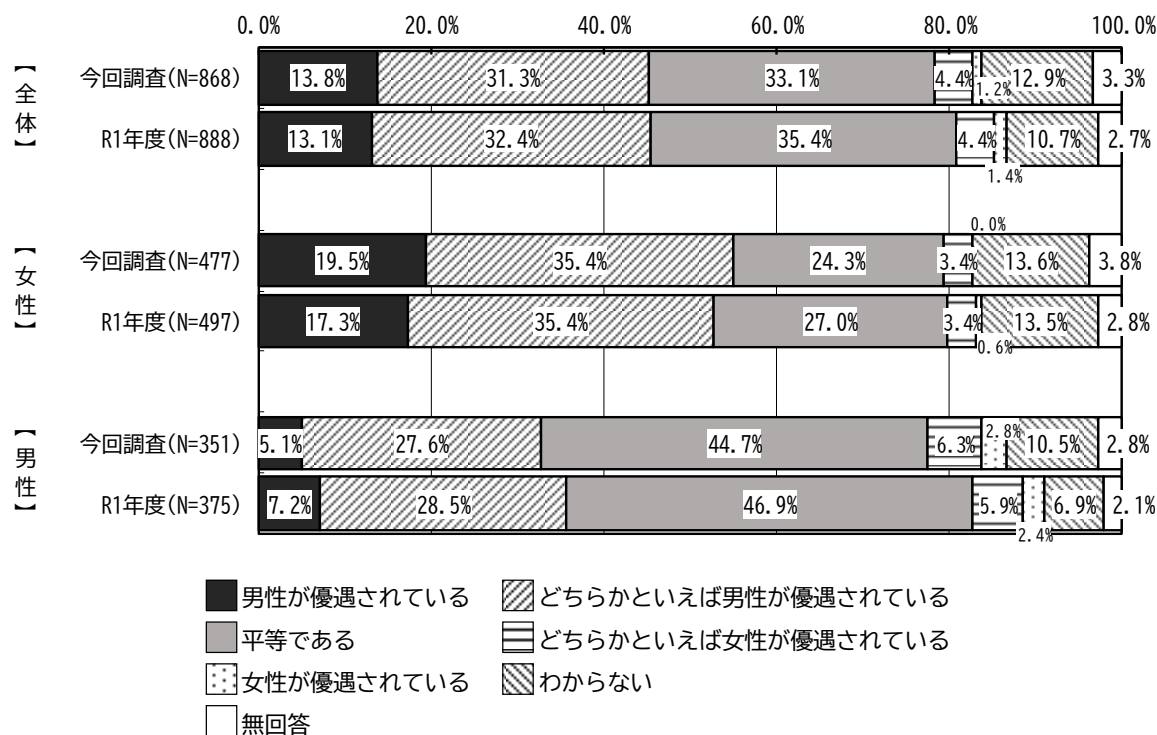
⑥法律や制度のうえで

令和元年調査と比較すると、令和元年度と概ね同様の結果となっています。

【性別】

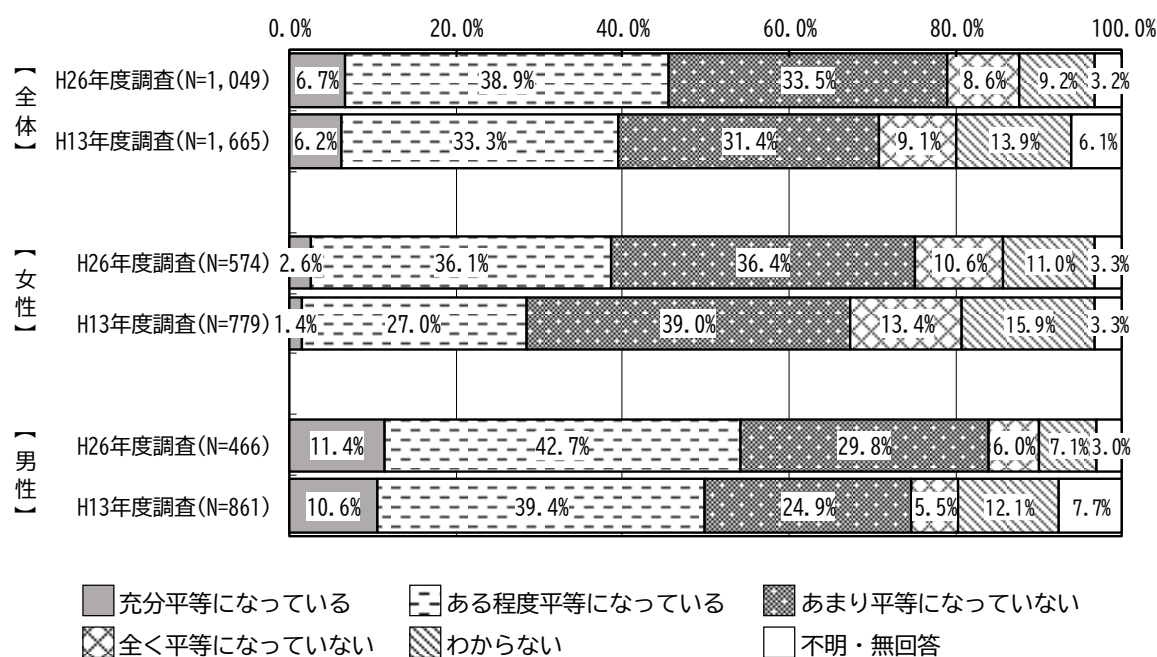
性別でみると、男女とも令和元年度と概ね同様の結果となっています。

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（令和元年度） ⑥法律や制度のうえで〕



〔参考〕

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（平成13・26年度） ⑥法律や制度のうえで〕



⑦社会通念・慣習・しきたりなど

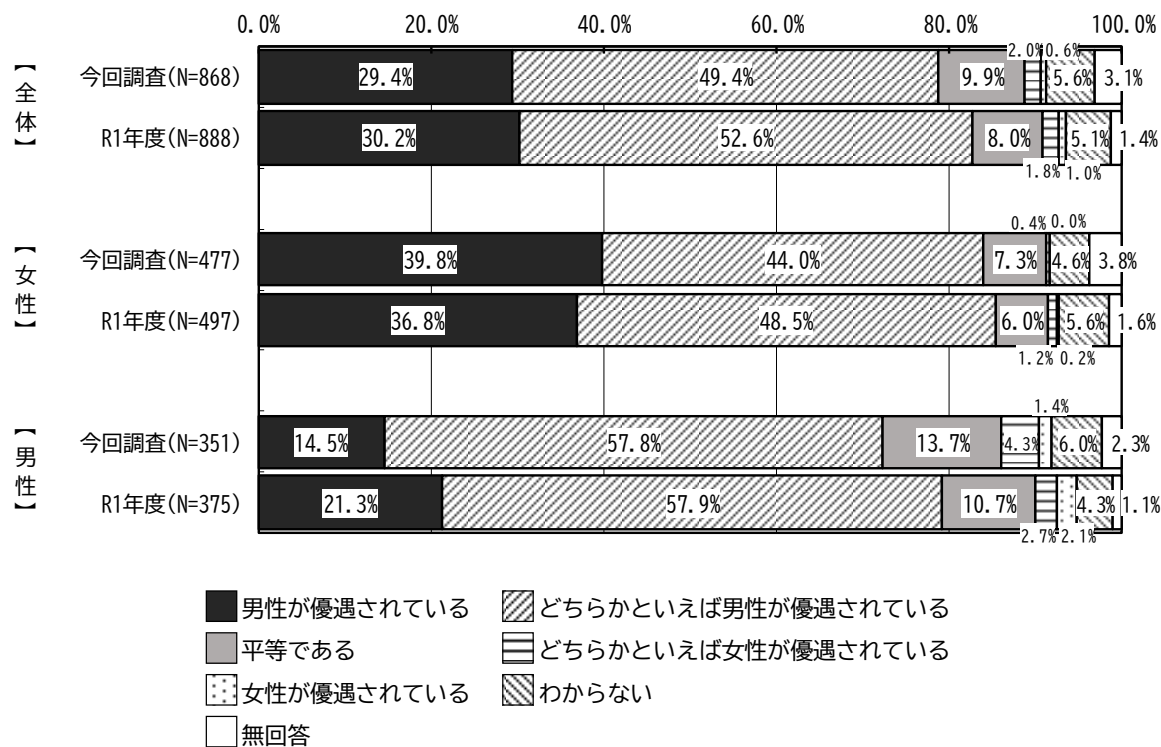
令和元年調査と比較すると、令和元年度と概ね同様の結果となっています。

【性別】

性別でみると、女性では令和元年度と概ね同様の結果となっています。

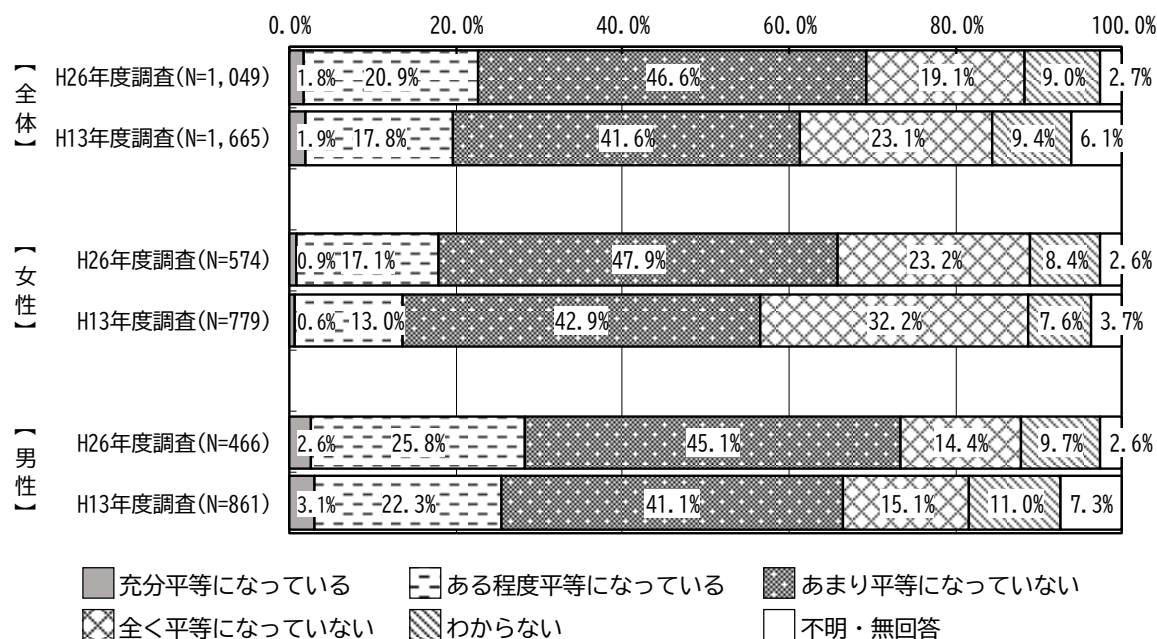
男性では令和元年度から『男性優遇』が6.9ポイント低くなっています。

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（令和元年度） ⑦社会通念・習慣・しきたりなど〕



【参考】

図 各分野での男女平等〔本市調査の経年比較（平成13・26年度） ⑦社会通念・習慣・しきたりなど〕



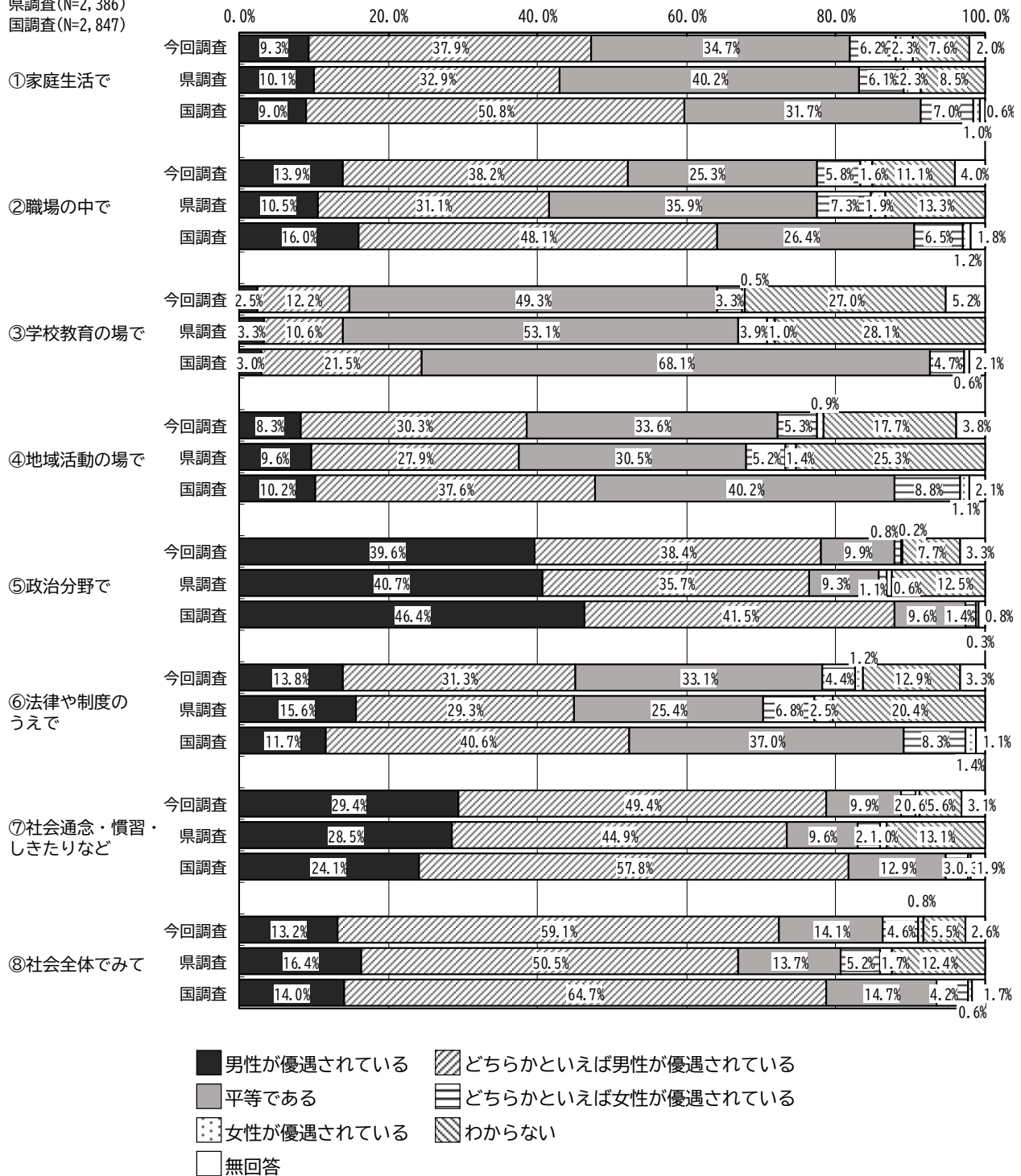
〔全国調査・滋賀県調査との比較〕

全国調査・滋賀県調査と比較すると、滋賀県調査とは「②職場の中で」で『男性優遇』が今回調査の方が10.5ポイント高くなっています。

国調査は選択肢に「わからない」がない分、構成比に違いがあらわれています。

図 各分野での男女平等〔全国調査・滋賀県調査との比較〕

今回調査(N=868)
県調査(N=2,386)
国調査(N=2,847)



※県調査は無回答を除いて構成比が計算されている。また国調査は「わからない」の選択肢はなし。

(2) 性別役割分担の意識

問2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはごどう思いますか。
(1つに○)

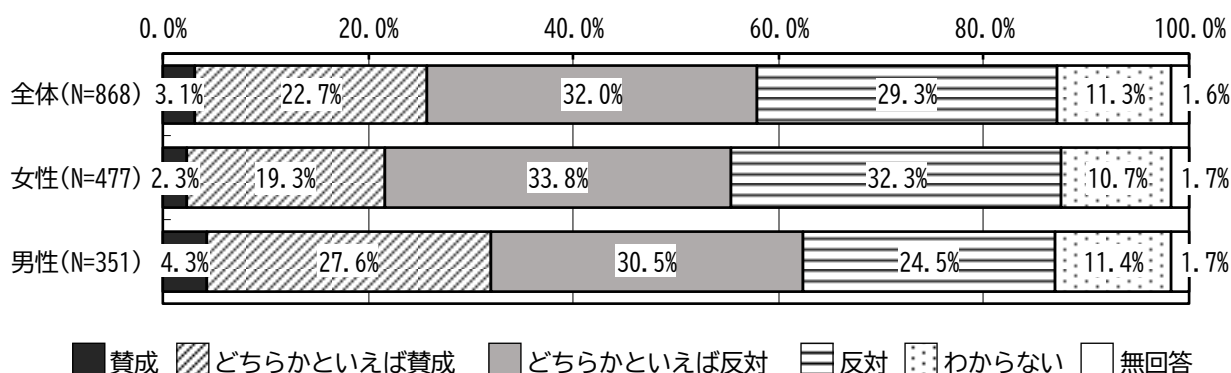
全体でみると、「どちらかといえば反対」が32.0%で最も高く、次いで「反対」(29.3%)、「どちらかといえば賛成」(22.7%)となっています。

『肯定的』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が25.8%、『否定的』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)が61.3%となっています。

【性別】

性別でみると、女性では『否定的』が66.1%、『肯定的』が21.6%となり、男性では『否定的』が55.0%、『肯定的』が31.9%となっています。男女とも『否定的』が5割を超えていますが、『肯定的』は男性が女性より10.3ポイント高くなっています。

図 【性別】性別役割分担の意識

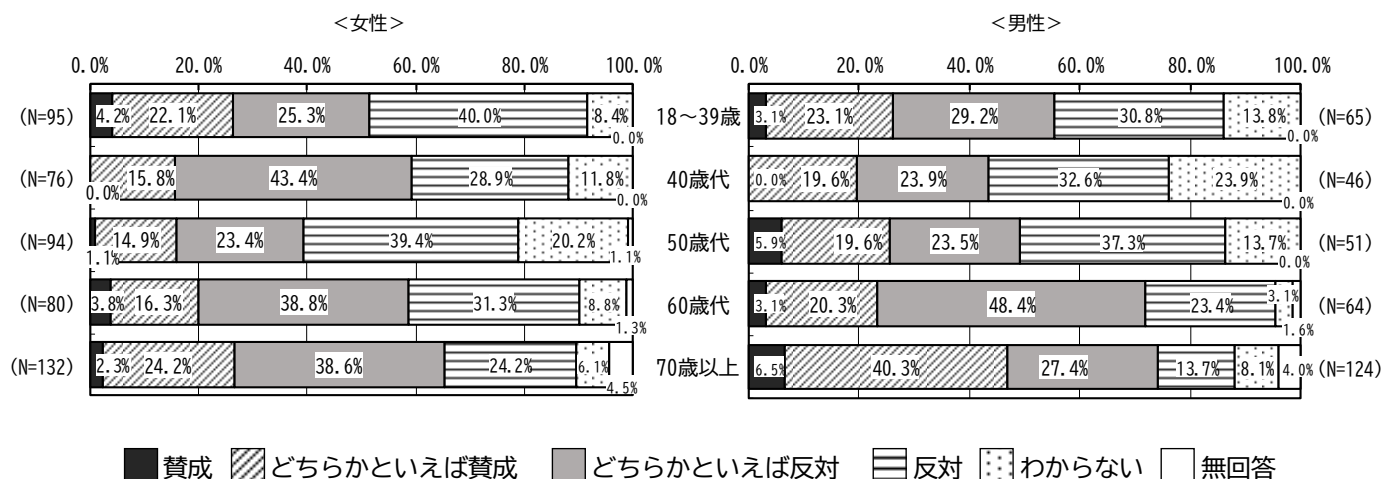


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性ではすべての年齢で『肯定的』が約2割から約3割、『否定的』が約6割から約7割となっています。40・60歳代では70%を超えています。

男性では『肯定的』が70歳以上で46.8%と最も高く、その他の年齢は約2割から約3割にとどまっています。『否定的』は70歳以上で41.1%と最も低く、その他の年齢は約6割から約7割を占め、60歳代が71.8%で最も高くなっています。

図 【性年齢別】性別役割分担の意識



【本市調査の経年比較】

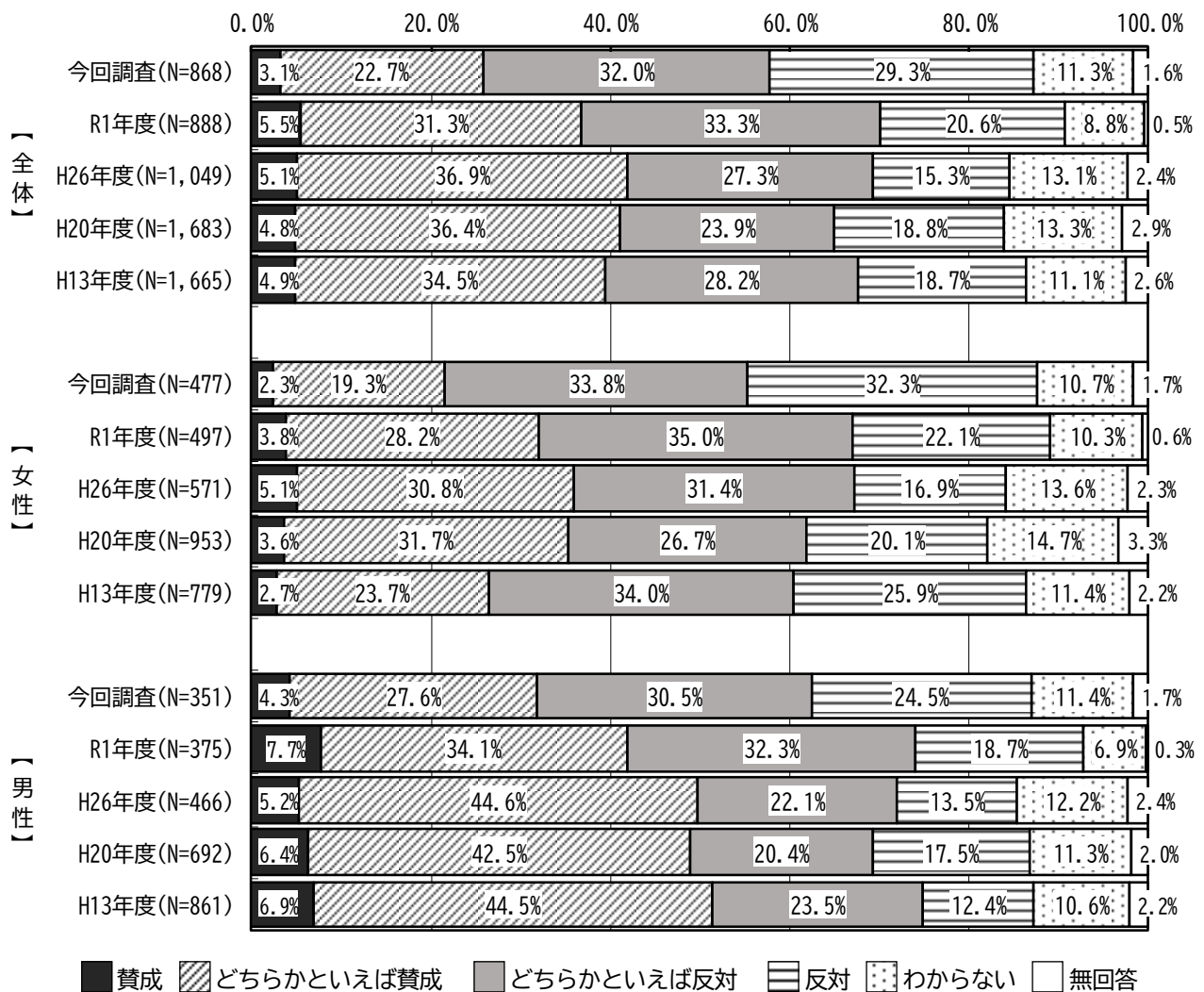
本市調査を経年で比較すると、『否定的』は平成13年度から平成26年度まで40%台でしたが、令和元年度では53.9%、今回調査では61.3%と年々高くなっています。

【性別】

性別でみると、女性では『否定的』は平成13年度は59.9%で、平成20年度から平成26年度で40%台に下がりますが、令和元年度以降は年々高くなっています。

男性では、『否定的』は平成13年度から平成26年度は30%台でしたが、令和元年度以降50%台と高くなっています。

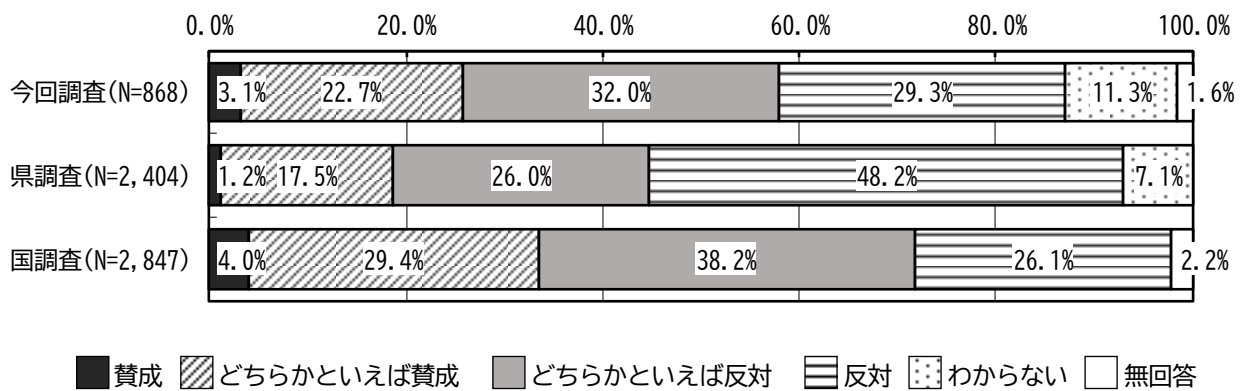
図 性別役割分担の意識【本市調査の経年比較（平成13・20・26・令和元年度）】



〔全国調査・滋賀県調査との比較〕

全国調査・滋賀県調査と比較すると、『否定的』は県調査の方が 12.9 ポイント高くなっています。
 国調査は選択肢に「わからない」がない分、構成比に違いがあらわれています。

図 性別役割分担の意識〔全国調査・滋賀県調査との比較〕



※県調査は無回答を除いて構成比が計算されている。また国調査は「わからない」の選択肢はなし。

(3) 性別役割分担に賛成する理由

問2ー1 問2で「1. 賛成」または「2. どちらかといえば賛成」と回答された方へおたずねします。その理由について最も近い項目を選んでください。(1つに○)

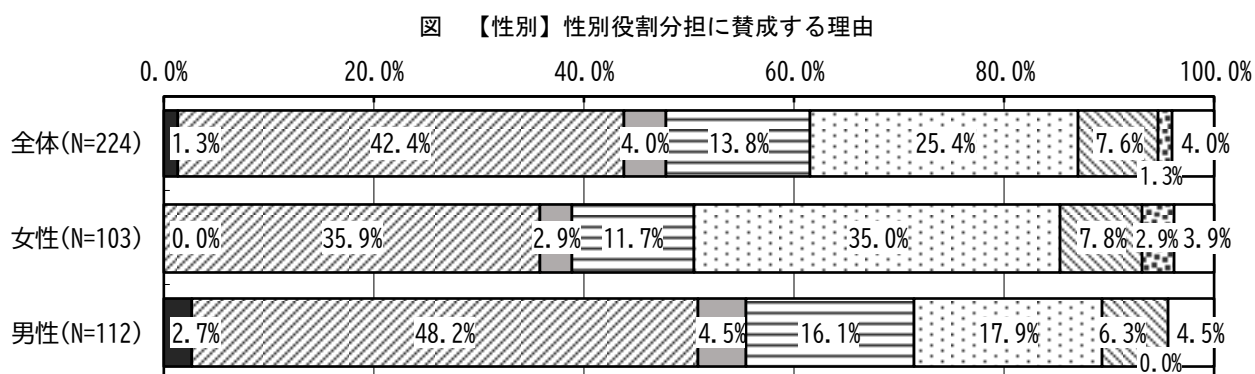
全体でみると、「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」が42.4%で最も高く、次いで「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」(25.4%)、「仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担したほうが効率がよいと思うから」(13.8%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性では「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」が35.9%、「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」が35.0%とほぼ同率で高くなっています。

男性では「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」が最も高く、約5割を占めています。

「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」は女性が17.1ポイント高く、「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」は男性が12.3ポイント高くなっています。



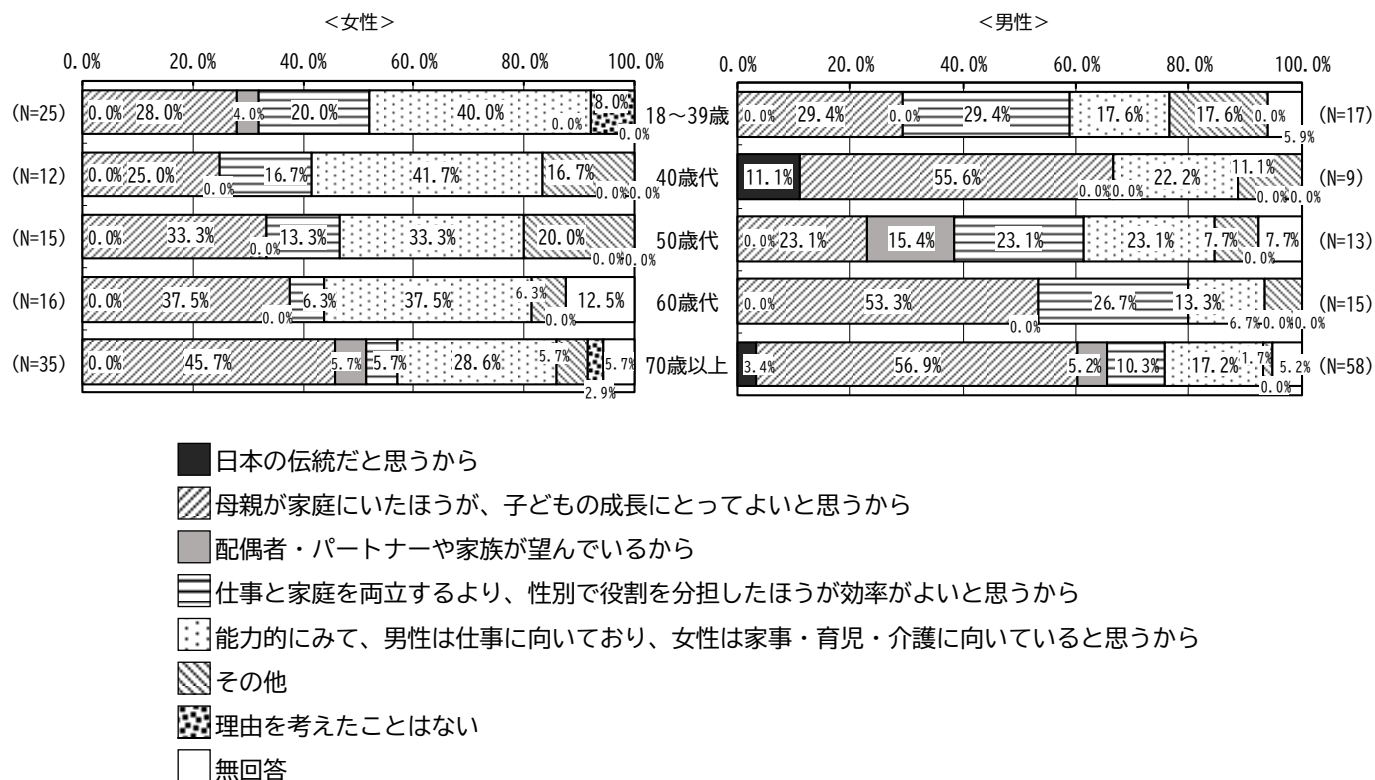
- 日本の伝統だと思うから
- 母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから
- 配偶者・パートナーや家族が望んでいるから
- 仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担したほうが効率がよいと思うから
- 能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから
- その他
- 理由を考えたことはない
- 無回答

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では18～39歳・40歳代で「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」が約4割で高くなっています。「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」は年齢が上がるにつれて概ね高くなっています。

男性では「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」は40・60歳代と70歳以上で50%を超えています。

図 【性年齢別】 性別役割分担に賛成する理由



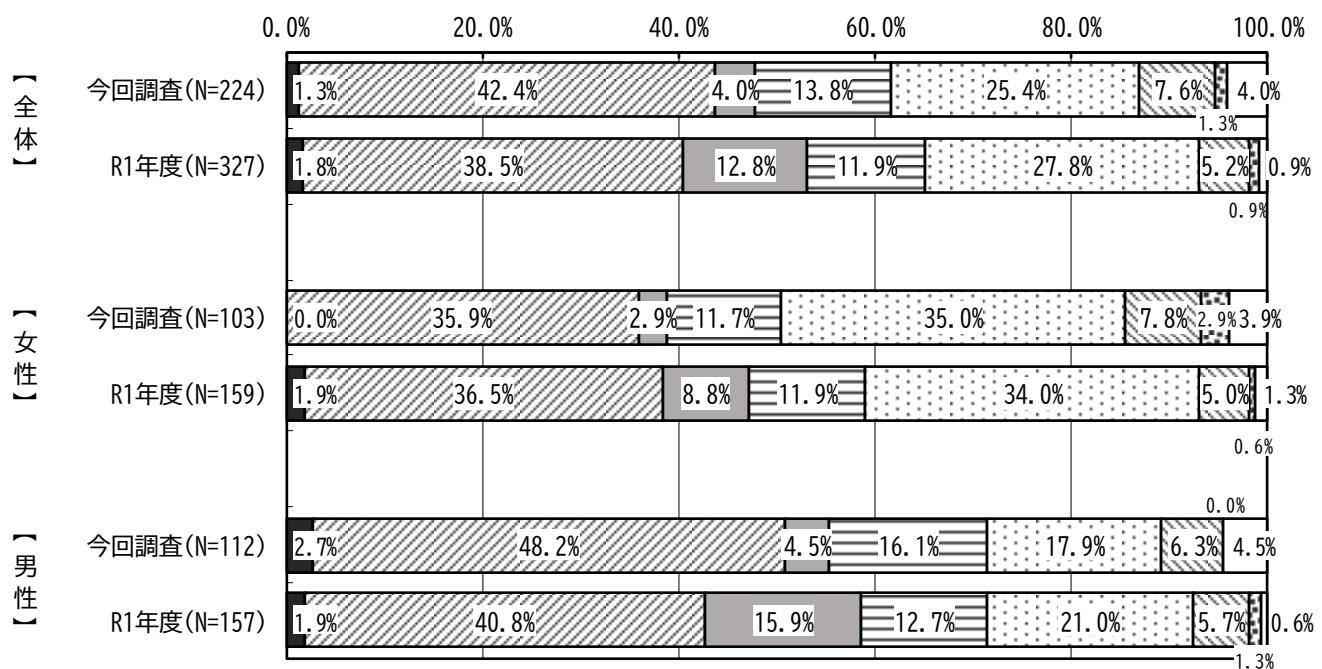
【本市前回調査との比較】

前回調査と比較すると、令和元年度より「配偶者・パートナーや家族が望んでいるから」は8.8ポイント低くなっています。

【性別】

性別でみると、男女とも、令和元年度より「配偶者・パートナーや家族が望んでいるから」は低くなっており、女性で-5.9ポイント、男性で-11.4ポイントとなっています。

図 性別役割分担に賛成する理由〔前回調査（令和元年度）との比較〕



- 日本の伝統だと思うから
- ▨ 母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから
- 配偶者・パートナーや家族が望んでいるから
- ▨ 仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担したほうが効率がよいと思うから
- ▨ 能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから
- ▨ その他
- ▨ 理由を考えたことはない
- 無回答

(4) 性別役割分担に反対する理由

問2ー2 問2で「3. どちらかと言えば反対」または「4. 反対」と回答された方へおたずねします。その理由について最も近いものをお答えください。(1つに○)

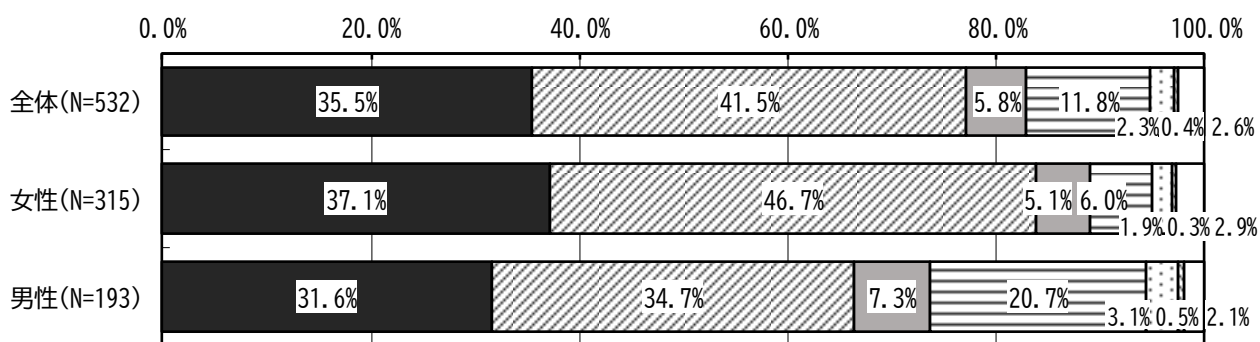
全体でみると、「男女ともに仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから」が41.5%で最も高く、次いで「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」(35.5%)、「家庭以外の場面でも、女性の能力をいかせると思うから」(11.8%)となっています。

【性別】

性別でみると、男女とも上位3項目は全体と同じ項目となっています。

「男女共に仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから」は女性が12.0ポイント高く、「家庭以外の場面でも、女性の能力をいかせると思うから」は男性が14.7ポイント高くなっています。

図 【性別】性別役割分担に反対する理由



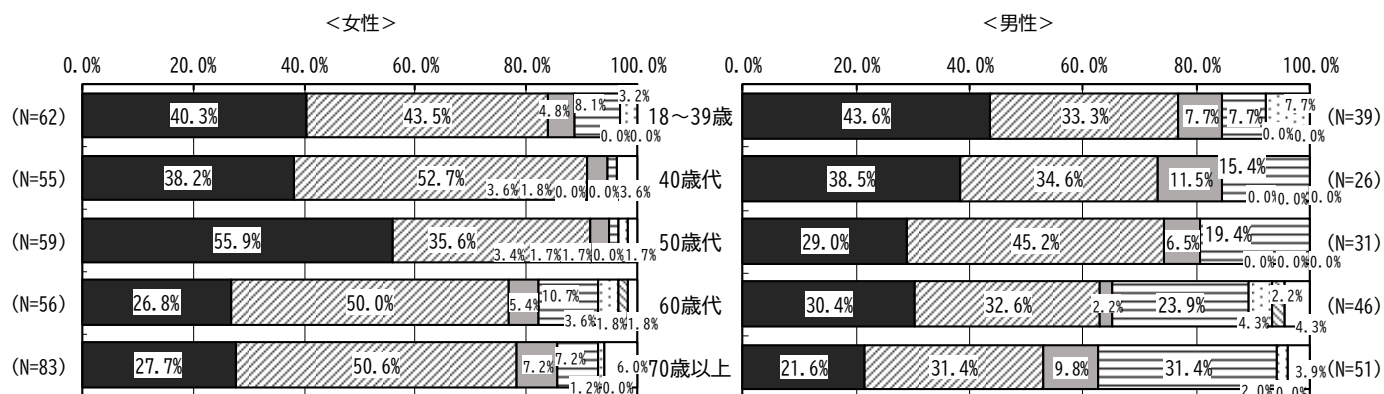
- 性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから
- ▨ 男女ともに仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから
- 女性も仕事をするほうが、生活が安定すると思うから
- ▨ 家庭以外の場面でも、女性の能力をいかせると思うから
- ▨ その他
- ▨ 理由を考えたことはない
- 無回答

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」が50歳代で55.9%と最も高く、その他の年齢では「男女ともに仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから」が約4割から約5割で高くなっています。

男性では「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」は年齢が上がるにつれて低くなっており、50歳代以上では「男女ともに仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから」が約3割から4割で高くなっています

図 【性年齢別】 性別役割分担に反対する理由



- 性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから
- ▨ 男女ともに仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから
- 女性も仕事をするほうが、生活が安定すると思うから
- ▨ 家庭以外の場面でも、女性の能力をいかせると思うから
- ▨ その他
- ▨ 理由を考えたことはない
- 無回答

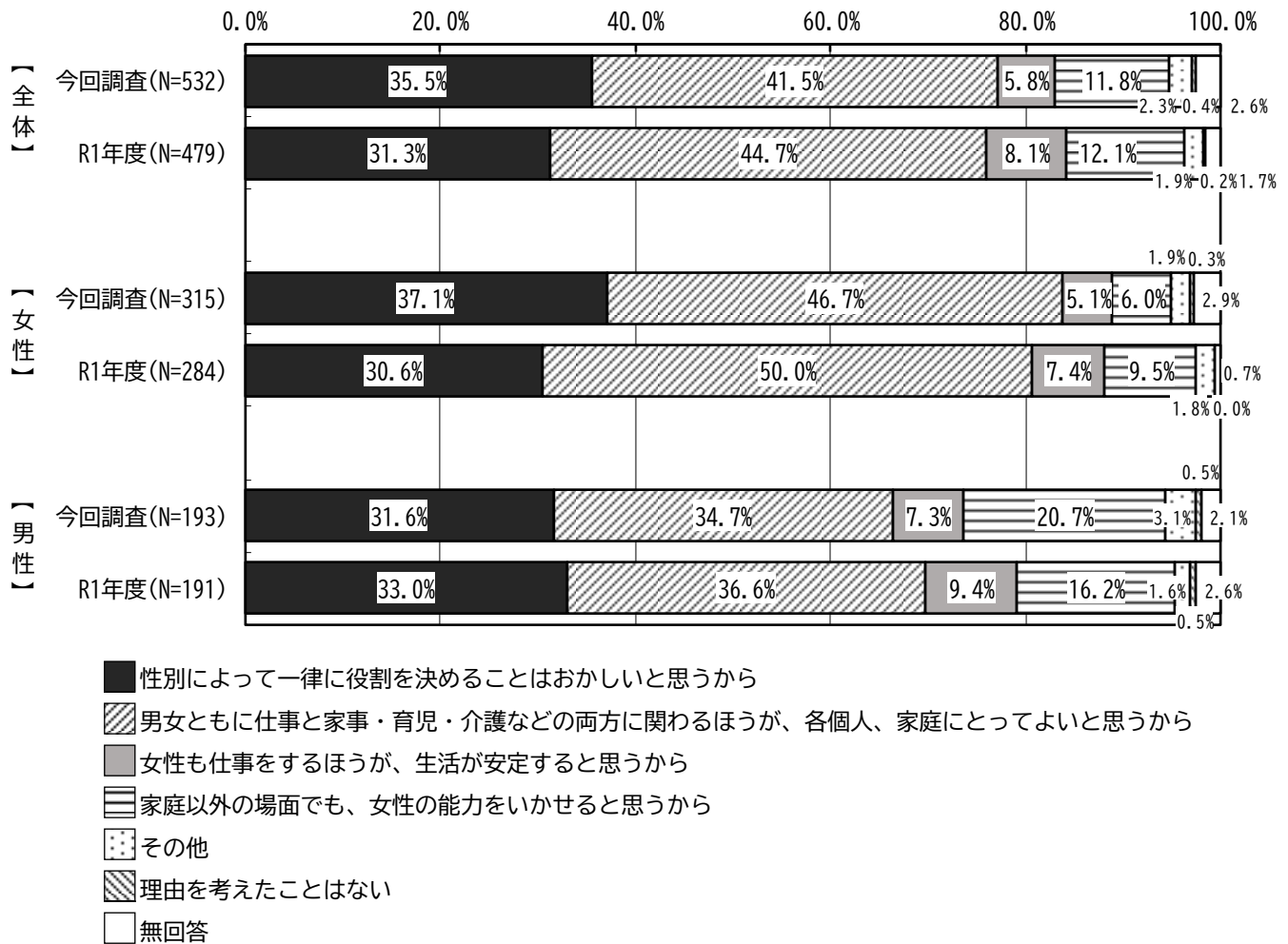
〔本市前回調査との比較〕

前回調査と比較すると、概ね同様の結果となっています。

【性別】

性別でみると、女性では「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」が 6.5 ポイント高くなっています。

図 性別役割分担に反対する理由〔令和元年度（前回調査）との比較〕



（５）性別役割分担意識を期待された経験

問３ あなたは日常生活で、「女らしさ／男らしさ」や「女性の役割／男性の役割」などを言われたり期待されたりすることはありますか。（１つに○）

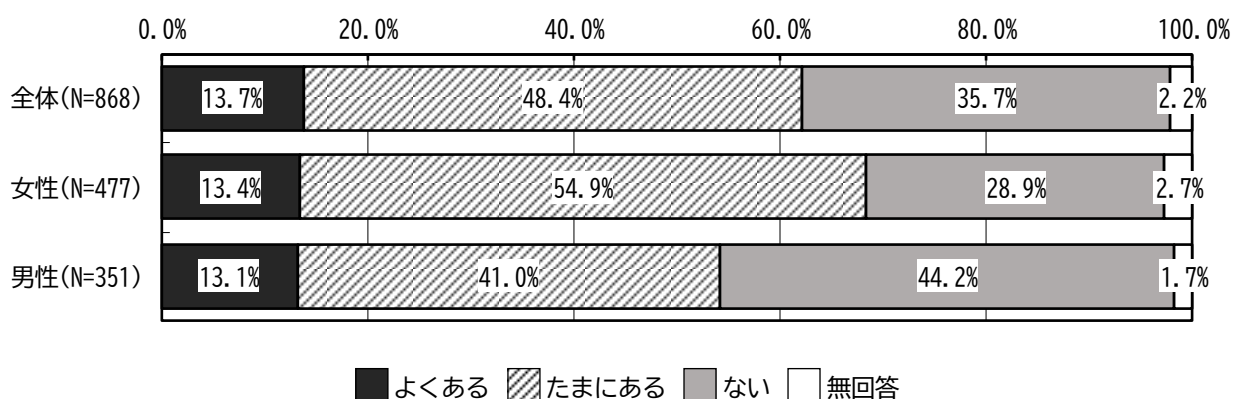
全体でみると、「よくある」が 13.7%、「たまにある」が 48.4%、「ない」が 35.7%となっています。

『ある』（「よくある」と「たまにある」の合計）は 6 割を超えています。

【性別】

性別でみると、『ある』は女性が 68.3%、男性が 54.1%で、女性が 14.2 ポイント高くなっています。

図 【性別】性別役割分担意識を期待された経験

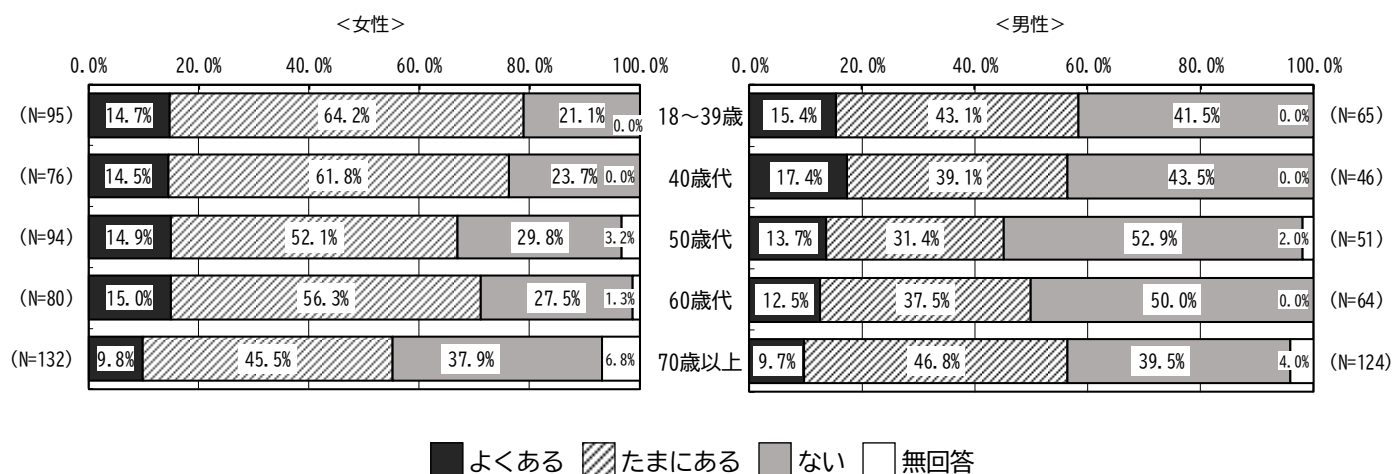


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では『ある』が 18～39 歳・40・60 歳代で 70%を超えています。

男性ではすべての年齢で『ある』が約 5 割から約 6 割となっており、18～39 歳が 58.5%で最も高くなっています。

図 【性年齢別】性別役割分担意識を期待された経験



(6) 性別役割分担意識を期待された場面

問3-1 問3で「1. よくある」または「2. たまにある」と回答された方へおたずねします。
どのような場で言われたり期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

全体でみると、「家庭」が51.4%で最も高く、次いで「親族」(41.9%)、「職場」(40.8%)となっています。

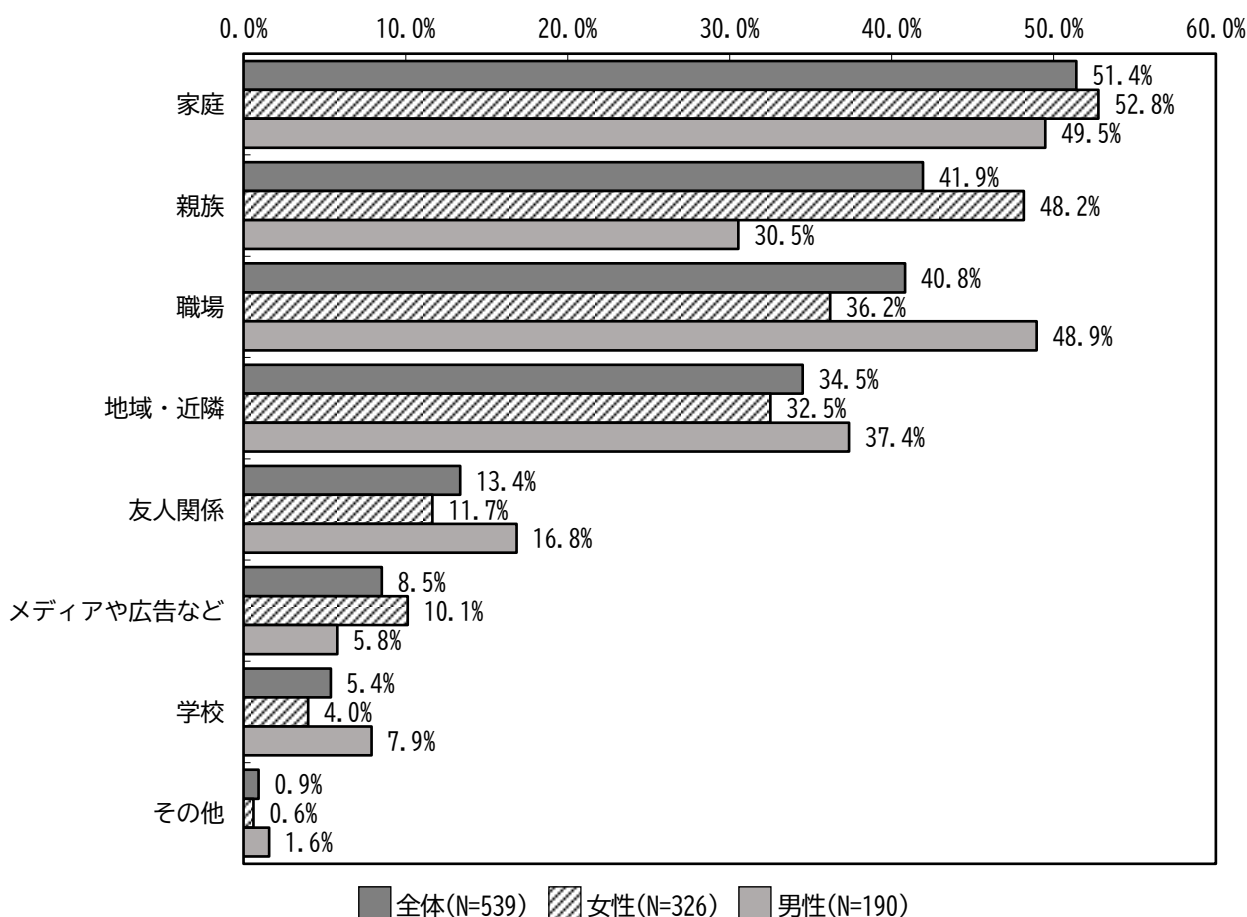
【性別】

性別でみると、男女とも「家庭」が最も高く、約5割となっています。

次いで、女性では「親族」(48.2%)、「職場」(36.2%)、男性では「職場」(48.9%)、「地域・近隣」(37.4%)となっています。

「職場」は男性が12.7ポイント高く、「親族」は女性が17.7ポイント高くなっています。

図 【性別】性別役割分担意識を期待された場面（複数回答）

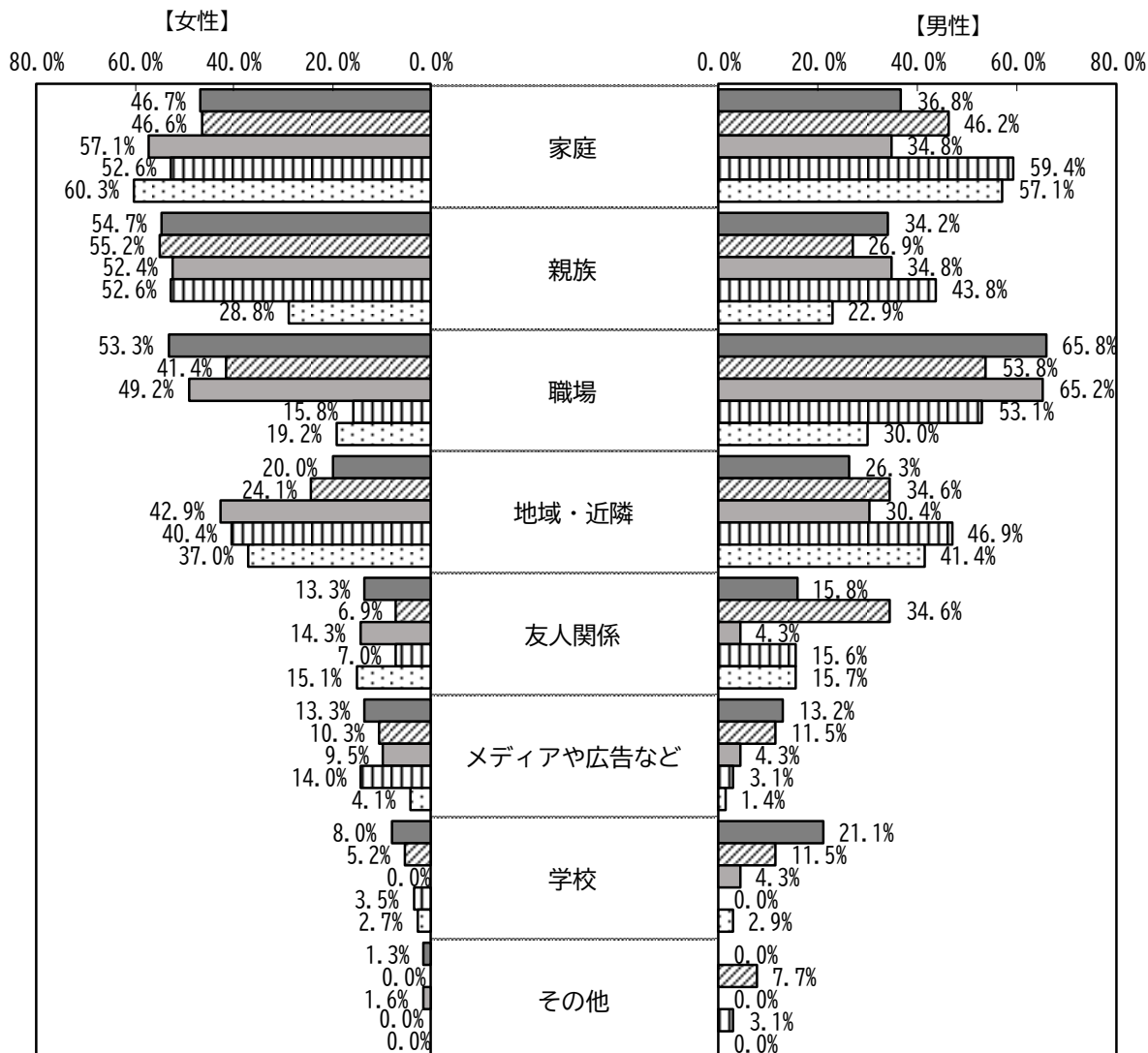


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では18～39歳・40歳代は「親族」、50歳代・70歳以上は「家庭」が最も高くなっています。60歳代は「家庭」と「親族」が同率で最も高くなっています。

男性では18～39歳・40・50歳代は「職場」、60歳代以上は「家庭」が最も高くなっています。

図 【性年齢別】性別役割分担意識を期待された場面（複数回答）



■ 18～39歳(N=75)
 ▨ 40歳代(N=58)
 ▩ 50歳代(N=63)
 ▪ 60歳代(N=57)
 ▫ 70歳以上(N=73)

■ 18～39歳(N=38)
 ▨ 40歳代(N=26)
 ▩ 50歳代(N=23)
 ▪ 60歳代(N=32)
 ▫ 70歳以上(N=70)

(7) 期待された性別役割分担意識の内容

問3-2 それはどのような内容ですか。(〇はいくつでも)

全体でみると、「行動の仕方」が48.1%で最も高く、次いで「家事・育児・介護」(46.0%)、「働き方・仕事内容」(41.9%)となっています。

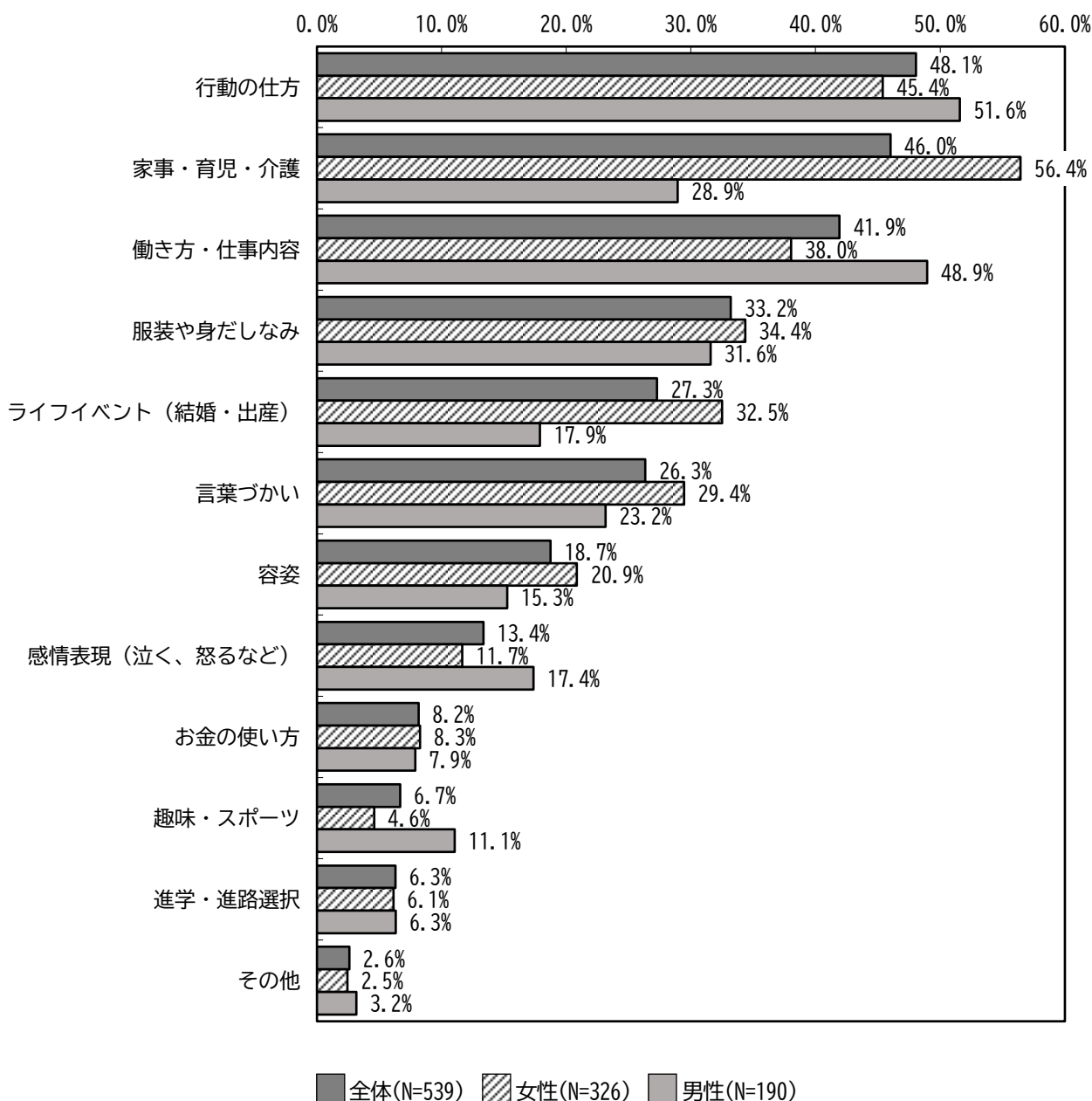
【性別】

性別でみると、女性では「家事・育児・介護」が56.4%で最も高く、次いで「行動の仕方」(45.4%)となっています。

男性では「行動の仕方」が51.6%で最も高く、次いで「働き方・仕事内容」(48.9%)となっています。

「ライフイベント(結婚・出産)」は、女性が14.6ポイント高くなっています。

図 【性別】期待された性別役割分担意識の内容(複数回答)

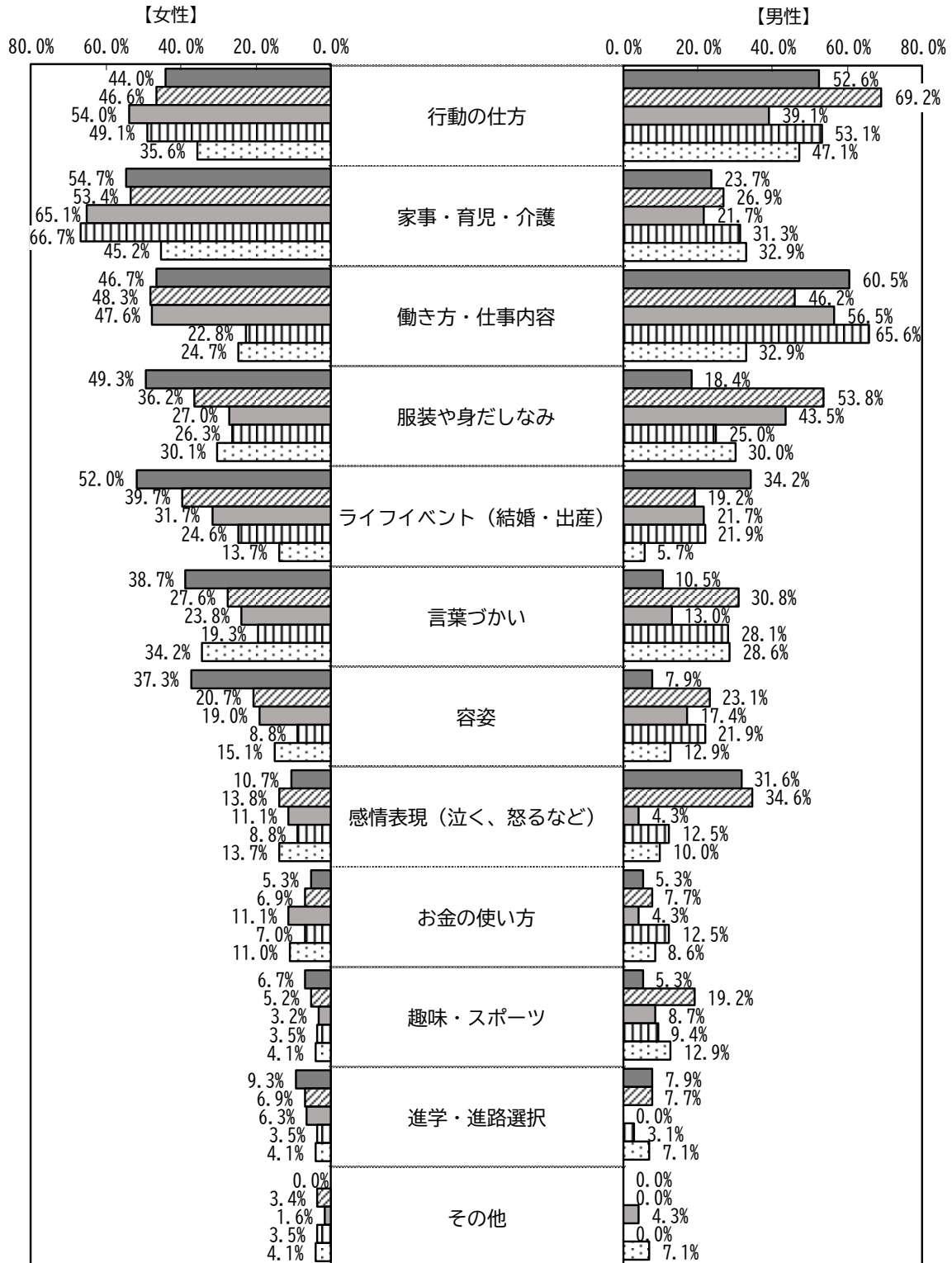


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では「家事・育児・介護」がすべての年齢で最も高く、50・60 歳代は 65% を超えています。

男性では 18～39 歳・50・60 歳代で「働き方・仕事内容」、40 歳代・70 歳以上で「行動の仕方」が最も高くなっています。

図 【性年齢別】期待された性別役割分担意識の内容（複数回答）



■ 18～39歳(N=75)
 ▨ 40歳代(N=58)
 ▩ 50歳代(N=63)
 ▪ 60歳代(N=57)
 ▫ 70歳以上(N=73)

■ 18～39歳(N=38)
 ▨ 40歳代(N=26)
 ▩ 50歳代(N=23)
 ▪ 60歳代(N=32)
 ▫ 70歳以上(N=70)

(8) 性別役割分担意識に不都合さや不快感を感じるか

問3-3 上記について、不都合さや不快感を感じますか。(1つに○)

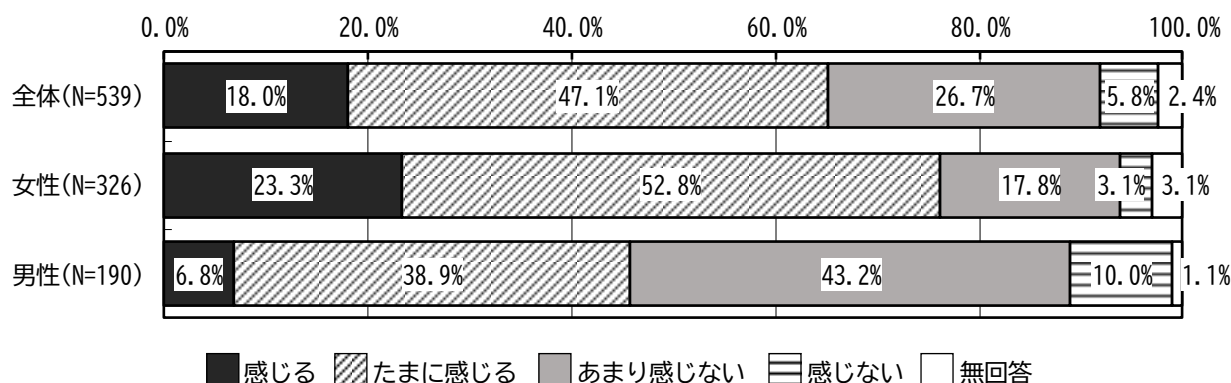
全体でみると、「たまに感じる」が47.1%で最も高く、次いで「あまり感じない」(26.7%)、「感じる」(18.0%)となっています。

『感じる』(「感じる」と「たまに感じる」の合計)が65.1%、『感じない』(「感じない」と「あまり感じない」の合計)が32.5%となっています。

【性別】

性別でみると、『感じる』は女性が30.4ポイント高くなっています。

図 【性別】性別役割分担意識に不都合さや不快感を感じるか

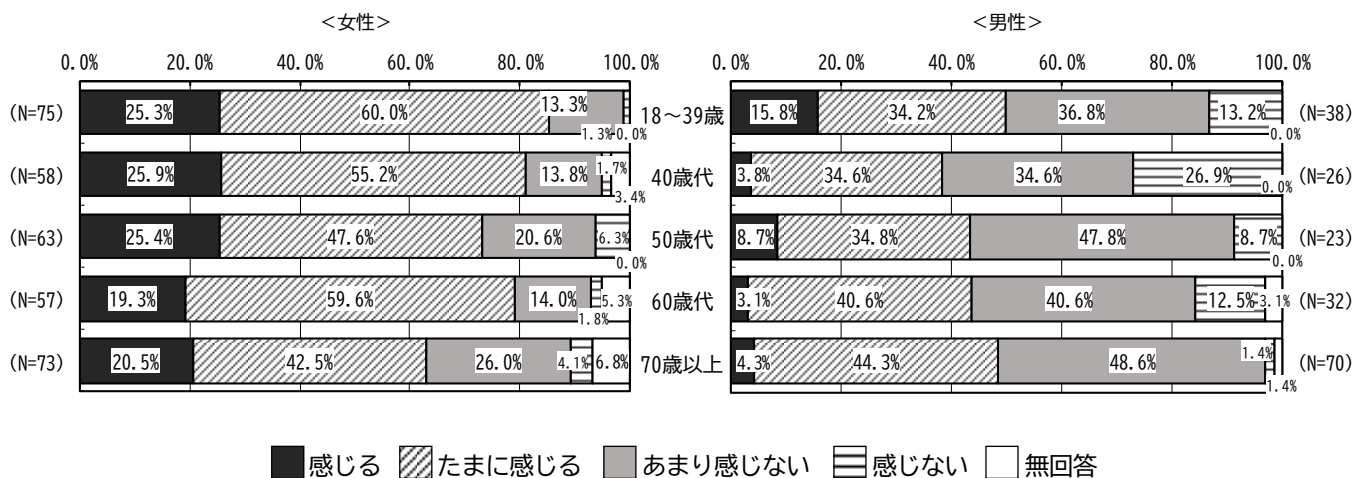


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では『感じる』は約6割から約8割を占め、18～39歳が85.3%で最も高くなっています。

男性では『感じる』は約4割から約5割となっており、18～39歳が50.0%で最も高くなっています。

図 【性年齢別】性別役割分担意識に不都合さや不快感を感じるか



(9) 地域での男女間格差の有無

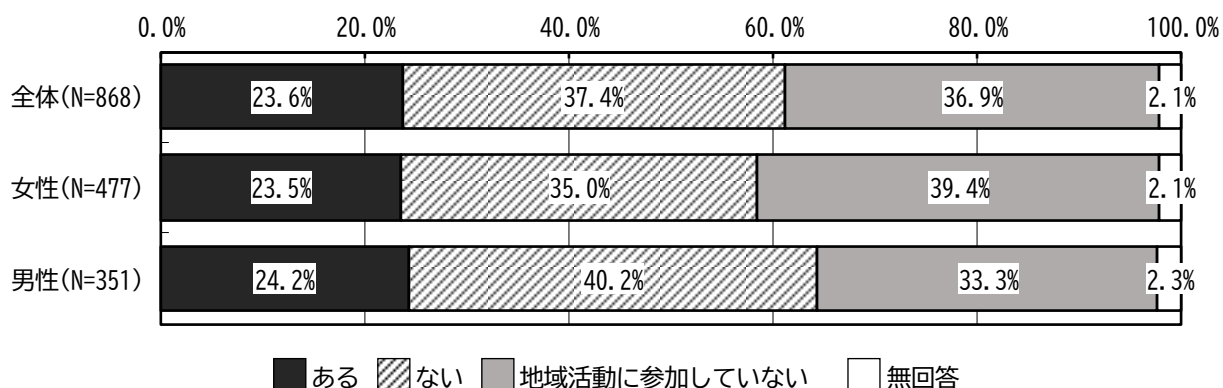
問4 あなたの住んでいる地域（まちづくり協議会・自治会・町内会）の行事・役割などで、男女間の格差を感じることがありますか。（1つに○）

全体でみると、「ある」が23.6%、「ない」が37.4%、「地域活動に参加していない」が36.9%となっています。

【性別】

性別でみると、「ない」は男性が5.2ポイント高くなっていますが、「地域活動に参加していない」は女性が6.1ポイント高くなっています。

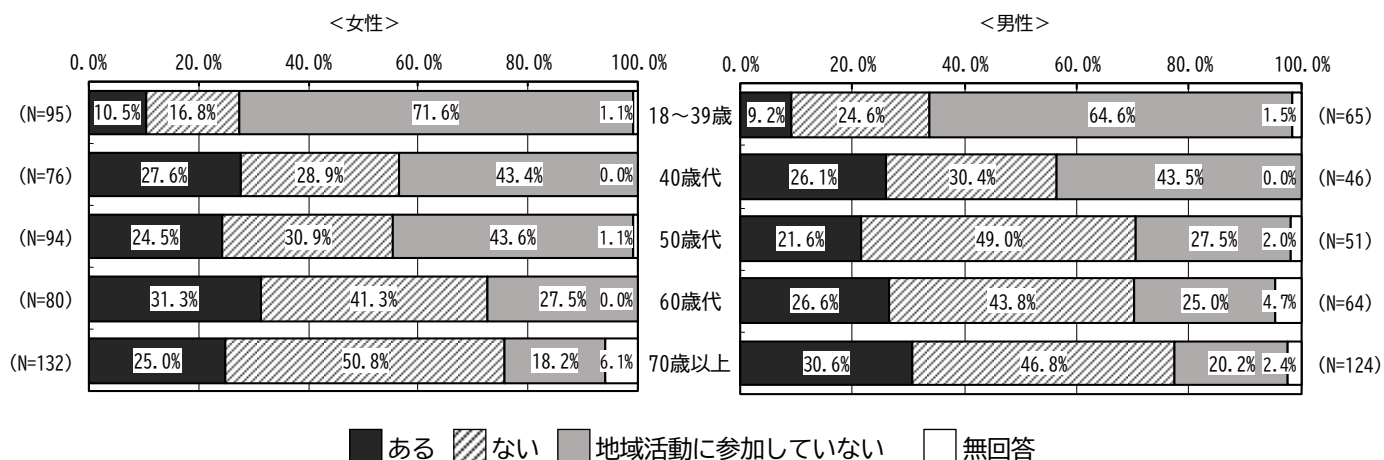
図 【性別】 地域での男女間格差の有無



【性年齢別】

性年齢別でみると、男女とも「ある」が40歳代以上で約2割から約3割となっています。18～39歳では「ある」が約1割と他の年齢と比べて低く、「地域活動に参加していない」は約6割から約7割で最も高くなっています。

図 【性年齢別】 地域での男女間格差の有無

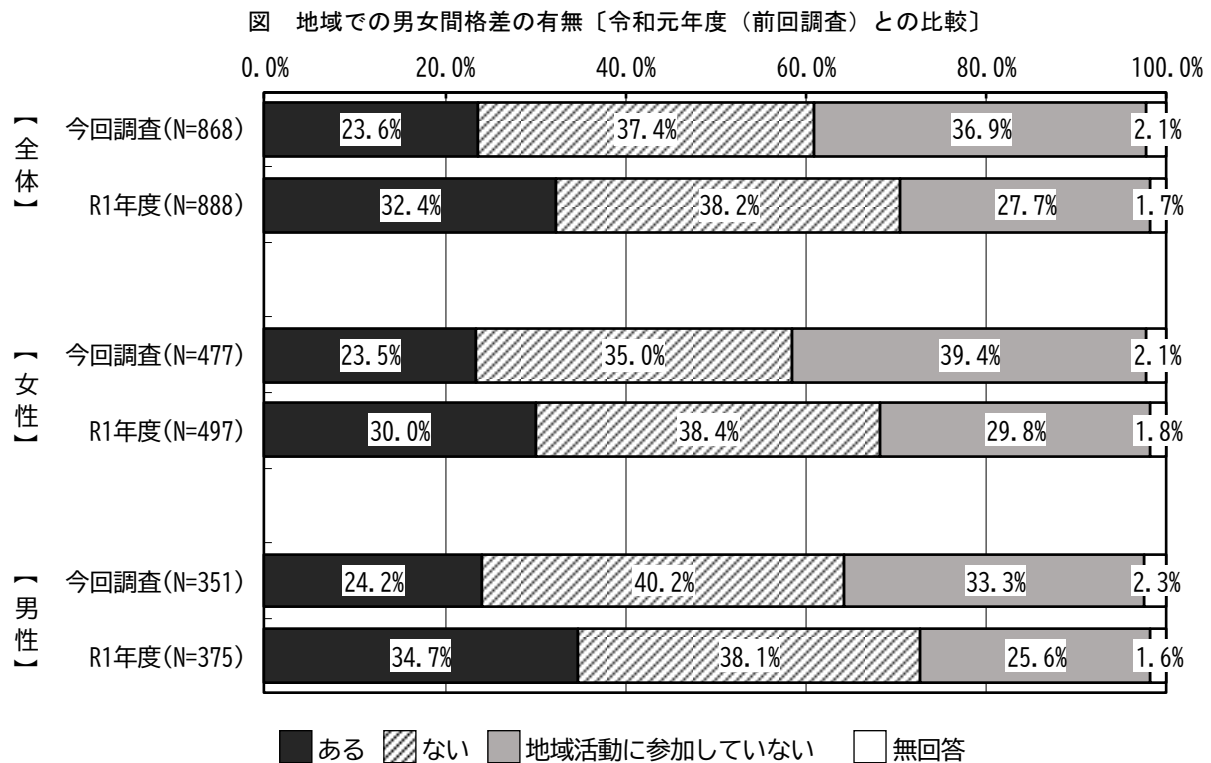


〔本市前回調査との比較〕

前回調査と比較すると、前回調査とでは「地域活動に参加していない」が9.2ポイント高くなっています。

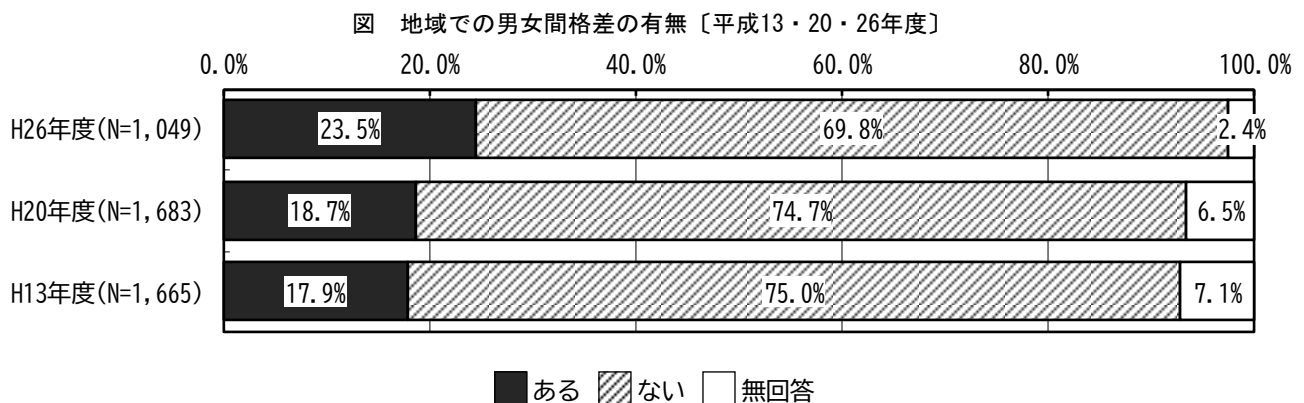
【性別】

性別でみると、男女とも「地域活動に参加していない」は高くなっており、女性で+9.6ポイント、男性で+7.7ポイントとなっています。



〔本市調査との経年比較〕

平成13・20・26年度で経年比較すると、「ある」は年々高くなっています。



(10) 地域での男女間格差の内容

問4ー1 問4で「1. ある」と回答された方へおたずねします。

あなたの住んでいる地域（まちづくり協議会・自治会・町内会）の行事・役割などで、どのようなことに男女間の格差を感じることがありますか。（〇はいくつでも）

全体でみると、「実際に活動しているのは妻である女性なのに、名義や役職は夫の名前である」が40.0%で最も高く、次いで「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」(38.0%)、「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」(30.7%)となっています。

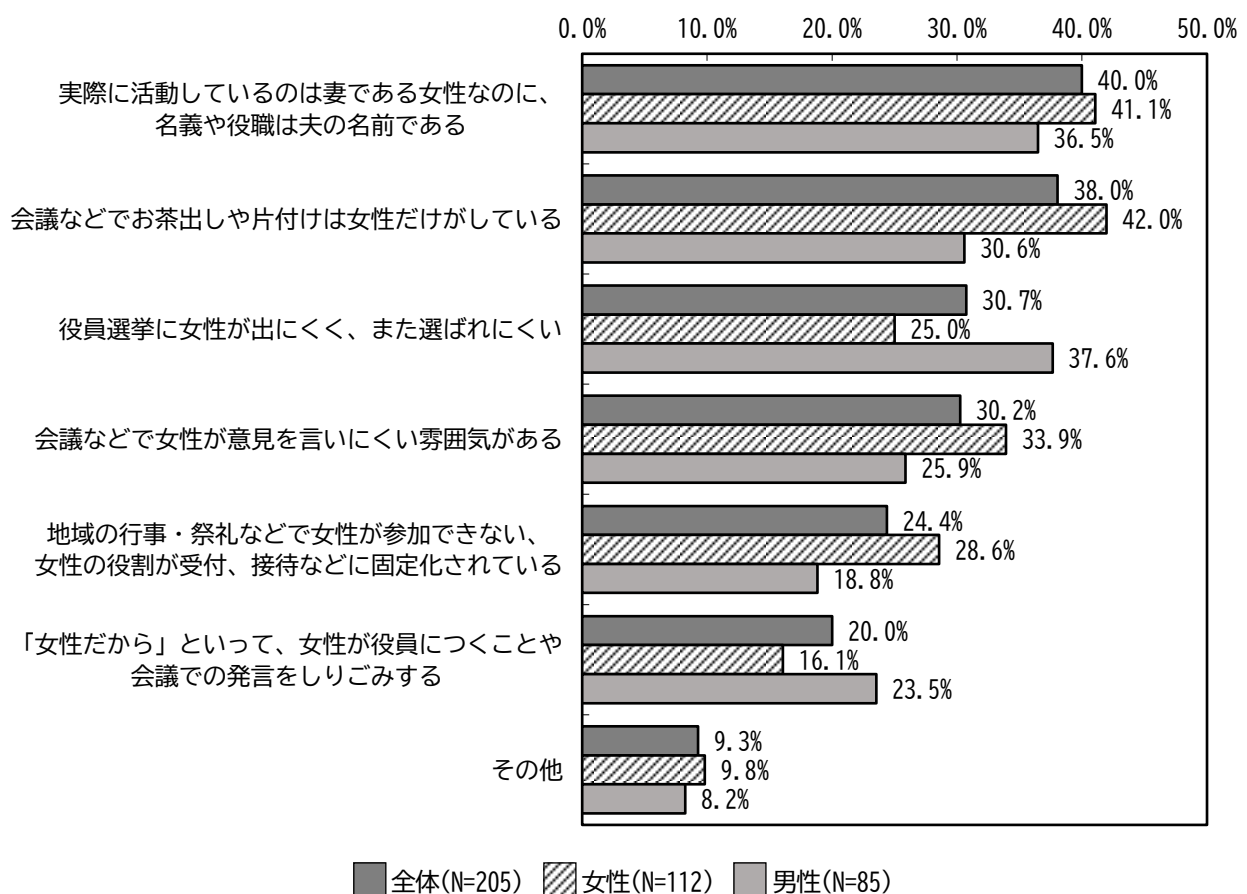
【性別】

性別でみると、女性では「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」が42.0%、男性では「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」が37.6%でそれぞれ最も高くなっています。

「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」は女性が11.4ポイント高く、「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」は男性が12.6ポイント高くなっています。

さらに「地域の行事・祭礼などで女性が参加できない、女性の役割が受付、接待に固定化されている」についても、女性が9.8ポイント高くなっています。

図 【性別】 地域での男女間格差の内容（複数回答）

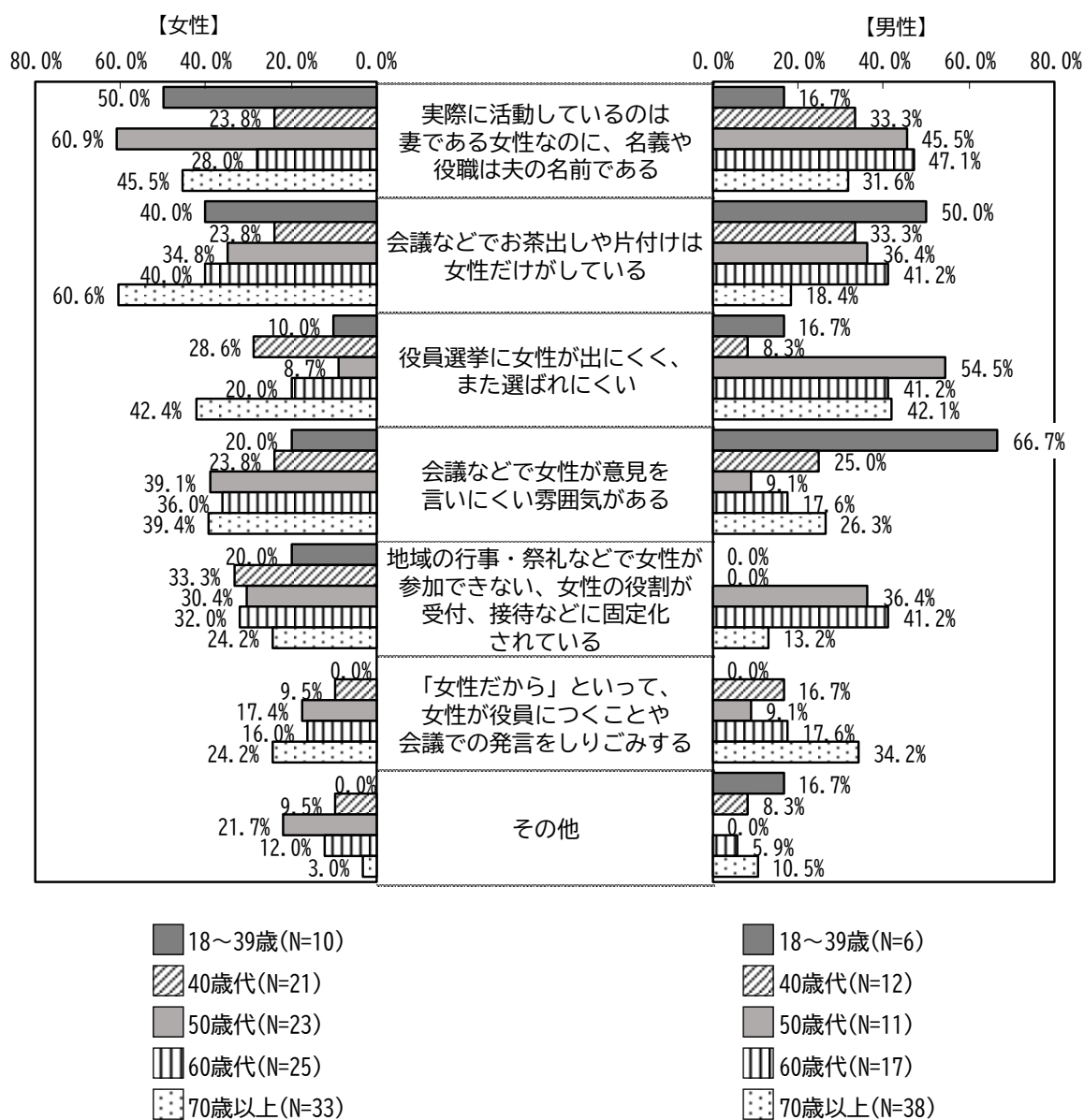


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では18～39歳・50歳代で「実際に活動しているのは妻である女性なのに、名義や役職は夫の名前である」、40歳代で「地域の行事・祭礼などで女性が参加できない」、女性の役割が受付、接待に固定化されている」、60歳代以上で「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」がそれぞれ最も高くなっています。

男性では18～39歳で「会議などで女性が意見を言いにくい雰囲気がある」、40歳代では「実際に活動しているのは妻である女性なのに、名義や役職は夫の名前である」と「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」が同率、50歳代・70歳以上で「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」、60歳代で「実際に活動しているのは妻である女性なのに、名義や役職は夫の名前である」がそれぞれ最も高くなっています。

図 【性年齢別】 地域での男女間格差の内容（複数回答）



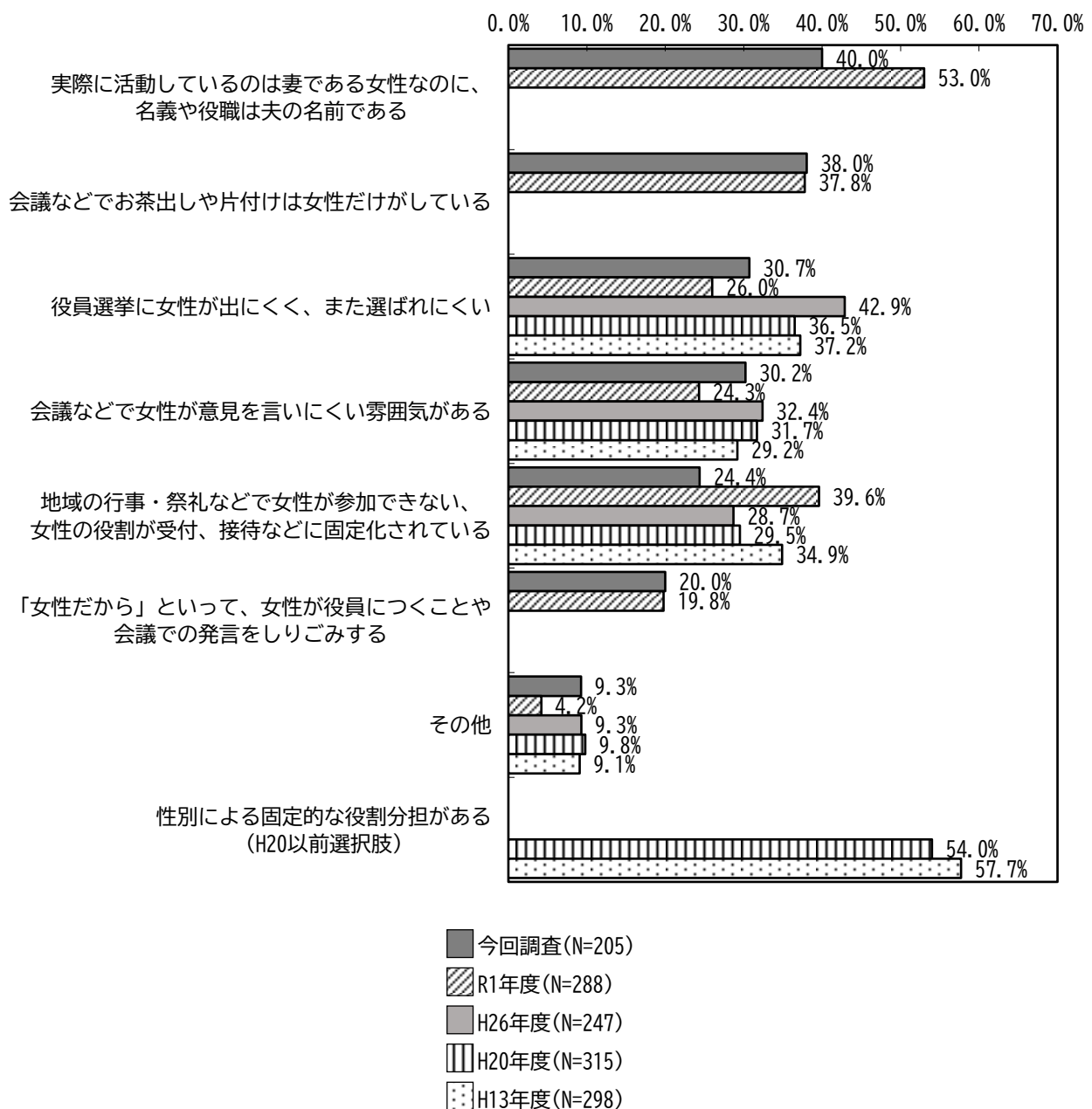
〔本市調査の経年比較〕

本市調査を経年で比較すると、「実際に活動しているのは妻である女性なのに、名義や役職は夫の名前である」は令和元年度よりも13ポイント低くなっています。

「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」は、平成13年度から平成20年度は30%台で平成26年に42.9%に上がり、令和元年度には26.0%まで下がり、今回調査で30.7%と再度高くなっています。

「地域の行事・祭礼などで女性が参加できない、女性の役割が受付、接待に固定化されている」は、平成13年度は34.9%で平成20年度から平成26年度で20%台まで下がりますが、令和元年度に39.6%に上がり、今回調査で24.4%と再度低くなっています。

図 地域での男女間格差の内容（複数回答）〔平成13・20・26・令和元年度との経年比較〕



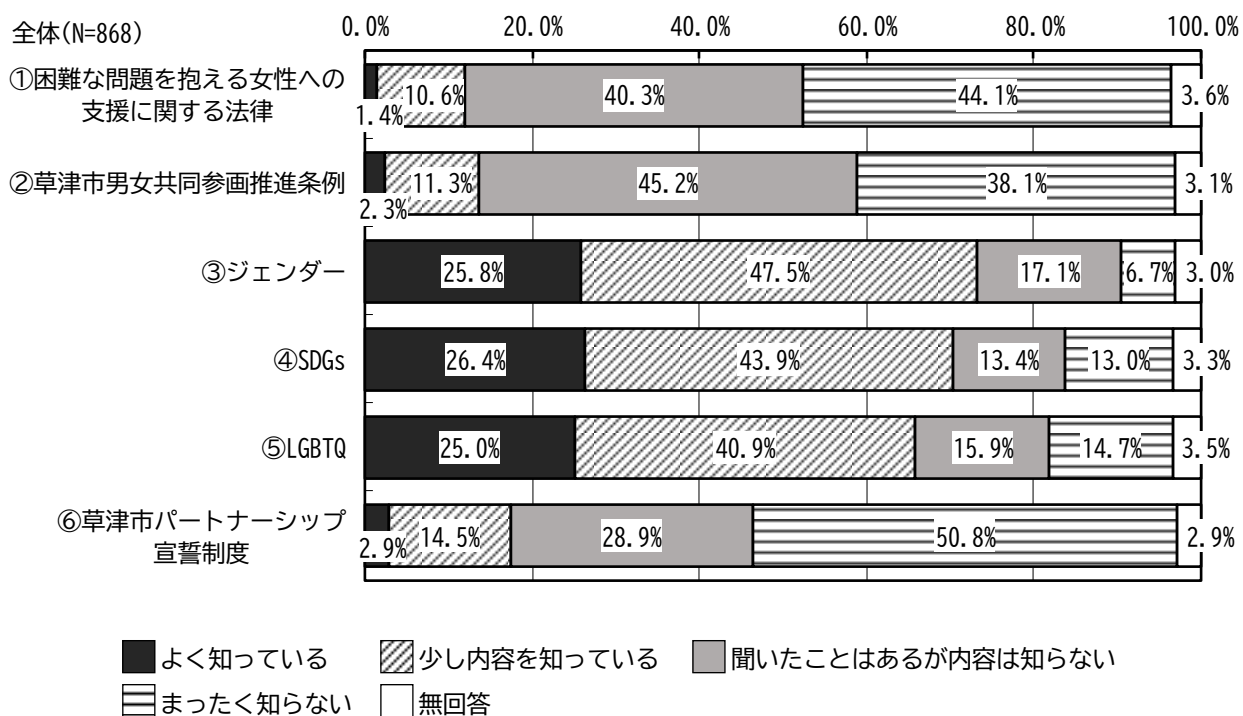
※今回調査の項目でのみ比較。

(11) 男女共同参画に関する用語の認知

問5 次の言葉について、知っていますか。(1～6のそれぞれ1つに○)

全体でみると、『知っている』(「よく知っている」と「少し内容を知っている」の合計)は、「③ジェンダー」、「④SDGs」、「⑤LGBTQ」では約7割となっています。一方、「①困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」、「②草津市男女共同参画推進条例」、「⑥草津市パートナーシップ宣誓制度」では2割以下となっています。

図 男女共同参画に関する用語の認知

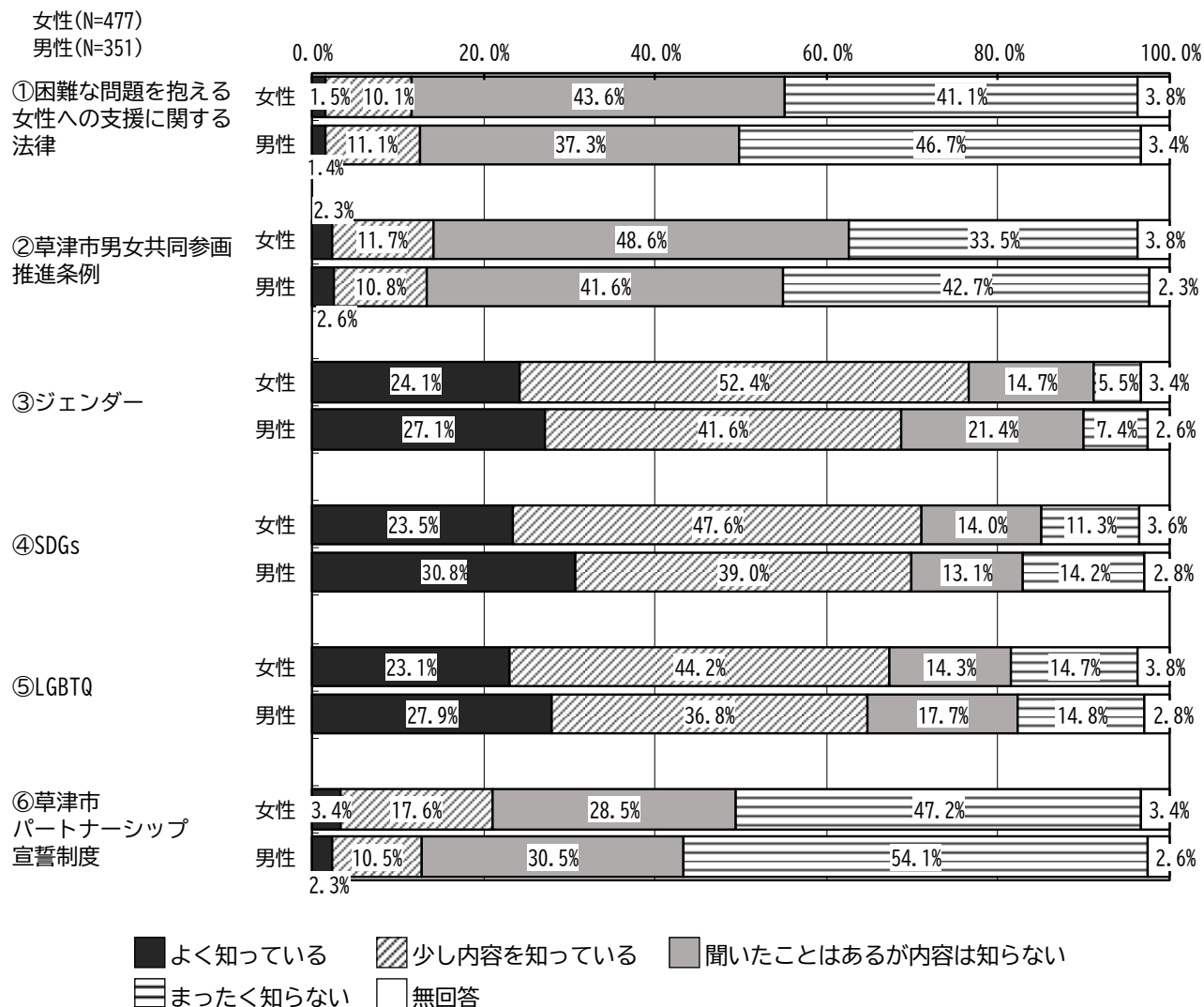


【性別】

性別でみると、『知っている』は「①困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」以外、すべて女性の方が高くなっています。

特に、「③ジェンダー」は7.8ポイント、「⑥草津市パートナーシップ宣誓制度」は8.2ポイント、女性が高くなっています。

図 【性別】 男女共同参画に関する用語の認知



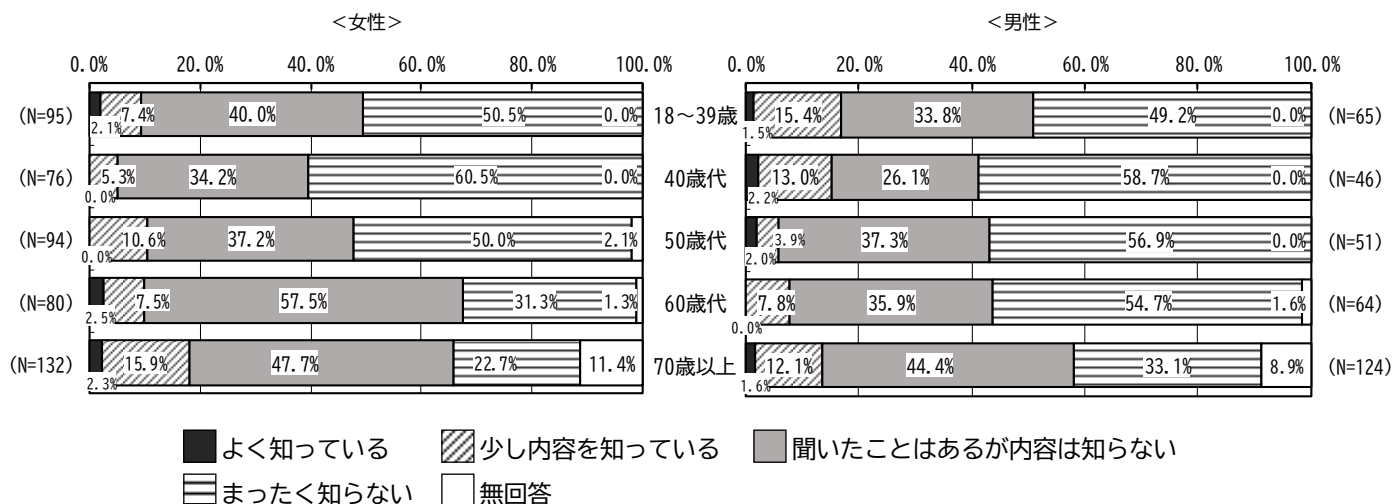
【性年齢別】

① 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

性年齢別でみると、女性では「まったく知らない」は60歳代以上で約2割から約3割にとどまっていますが、50歳代以下は約5割から約6割となっています。

男性では「まったく知らない」は70歳以上で33.1%と低くなっていますが、60歳代以下は約5割から約6割となっています。

図 【性年齢別】男女共同参画に関する用語の認知 — ① 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

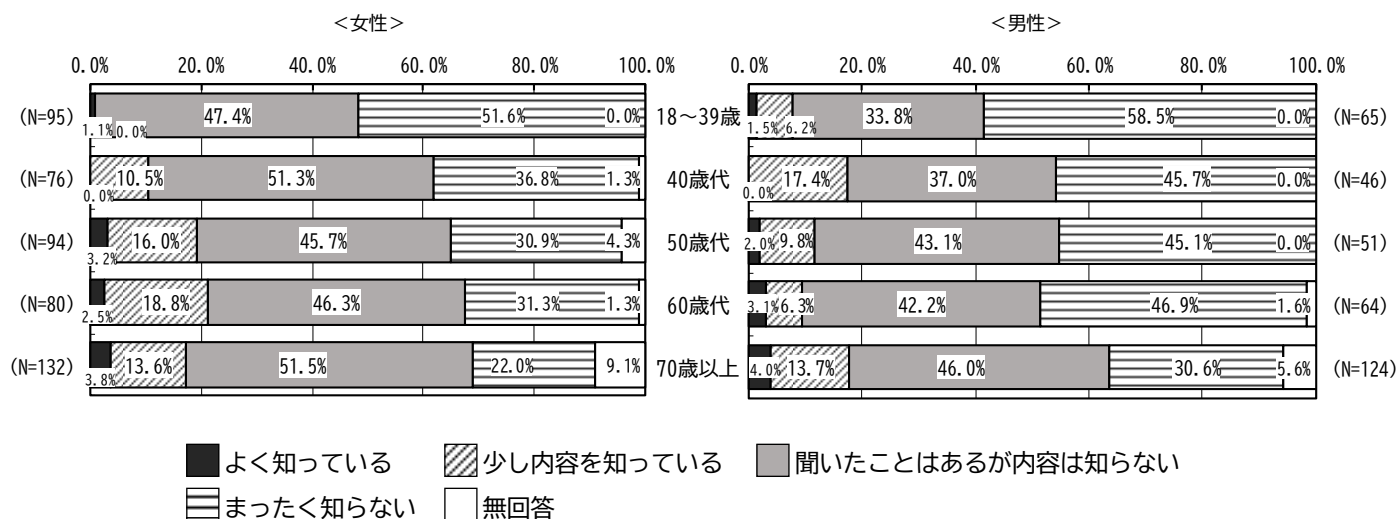


② 草津市男女共同参画推進条例

性年齢別でみると、女性では「まったく知らない」が18～39歳が51.6%で最も高く、年齢が上がるにつれて低くなっています。

男性では「まったく知らない」が18～39歳が58.5%で最も高く、年齢が上がるにつれて概ね低くなっています。

図 【性年齢別】男女共同参画に関する用語の認知 — ② 草津市男女共同参画推進条例



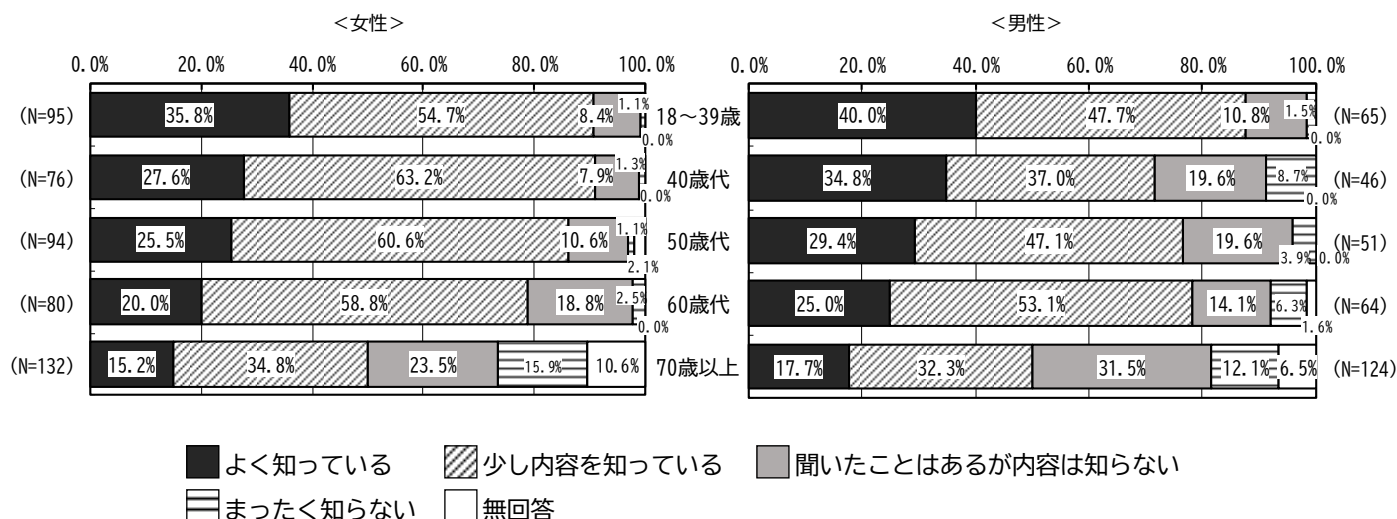
③ ジェンダー

性年齢別でみると、「よく知っている」は男女とも年齢が上がるにつれて低くなっています。

『知っている』は男性の18～39歳・女性の50歳代以下で80%を超えています。

『知らない』は男女とも70歳以上が約4割となっています。

図 【性年齢別】男女共同参画に関する用語の認知 ー ③ ジェンダー



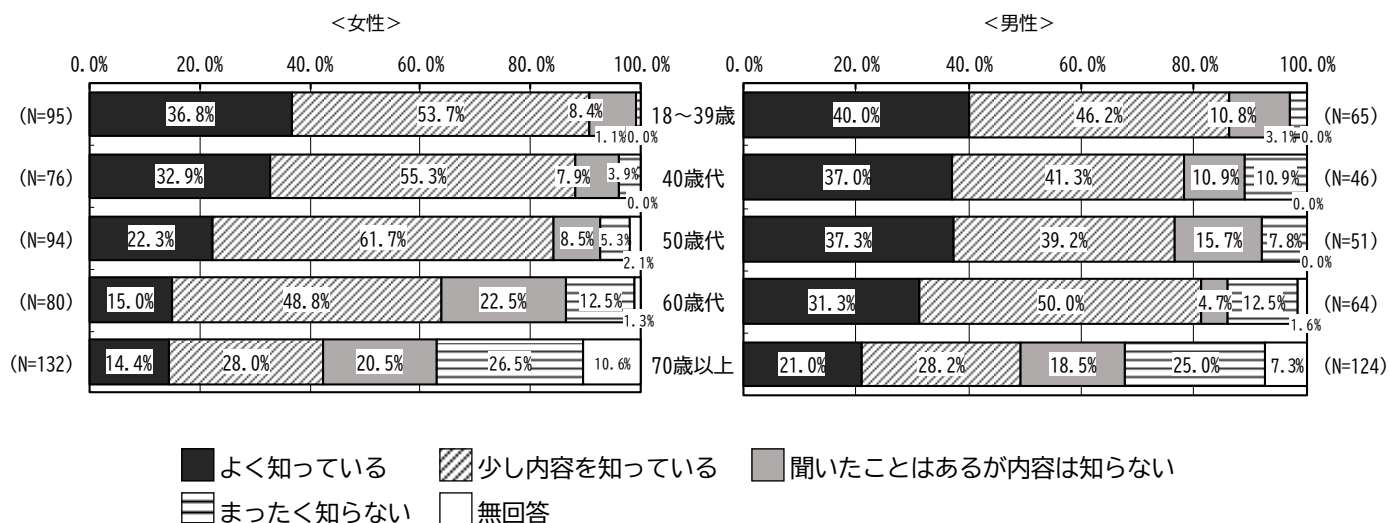
④ S D G s

性年齢別でみると、女性では「よく知っている」と『知っている』は年齢が上がるにつれて低くなっています。18～39歳は『知っている』が90%を超えています。

男性では「よく知っている」は年齢が上がるにつれて概ね低くなっています。

60歳代の『知っている』は男性が17.5ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】男女共同参画に関する用語の認知 ー ④ S D G s



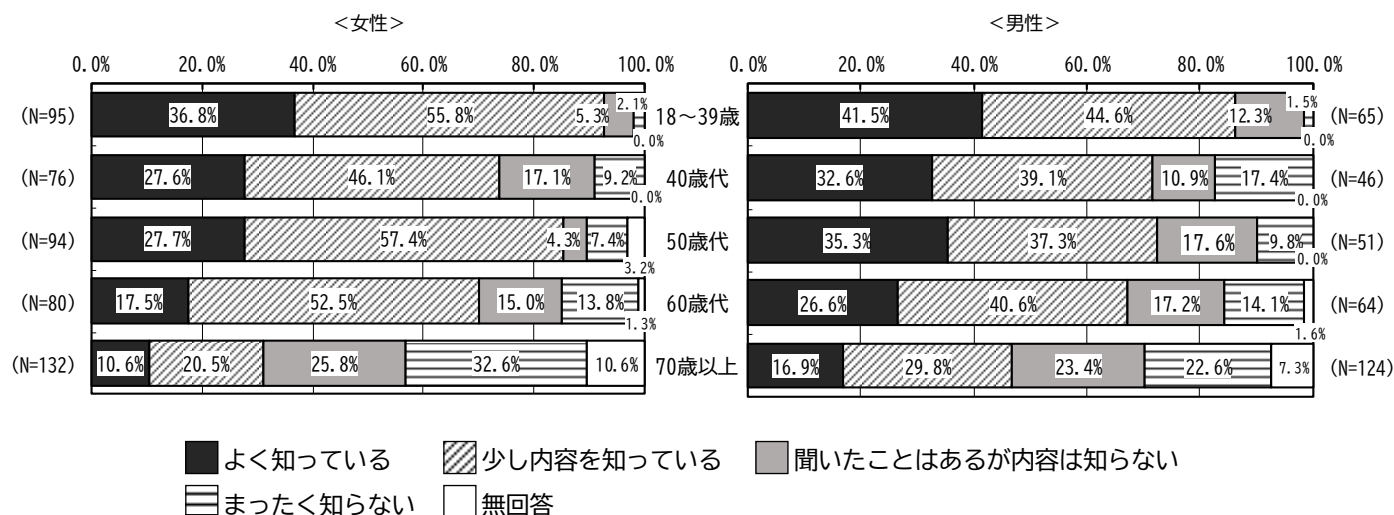
⑤ L G B T Q

性年齢別でみると、男女とも「よく知っている」は年齢が上がるにつれて概ね低くなっています。

『知っている』は18～39歳の男女と50歳代の女性で約9割を占めています。

『知らない』は70歳以上の女性で58.4%と半数以上となっています。

図 【性年齢別】男女共同参画に関する用語の認知 ー ⑤ L G B T Q

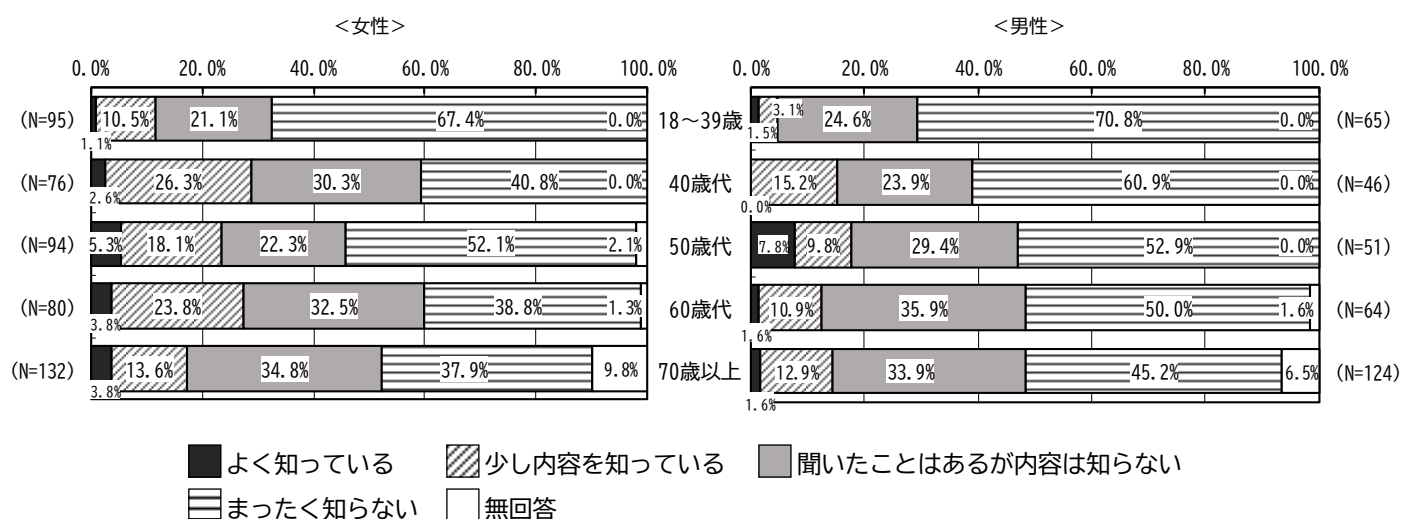


⑥ 草津市パートナーシップ宣誓制度

性年齢別でみると、女性では「まったく知らない」が18～39歳で67.4%と最も高く、次いで50歳代が52.1%となっています。70歳以上は37.9%で最も低くなっています。

男性では「まったく知らない」は年齢が上がるにつれて低くなっており、60歳以下では50.0%を超えています。

図 【性年齢別】男女共同参画に関する用語の認知 ー ⑥ 草津市パートナーシップ宣誓制度



〔本市前回調査との比較〕

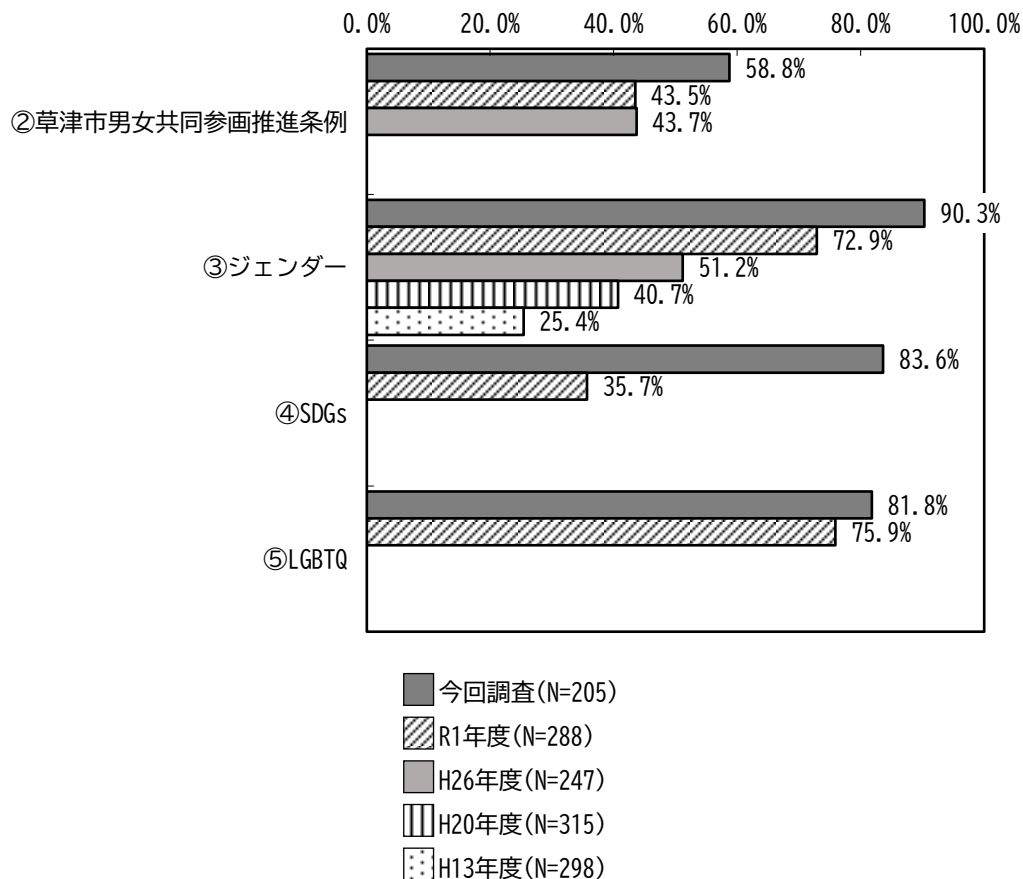
本市調査を経年で比較すると、「②草津市男女共同参画推進条例」は平成 26 年度から令和元年まで 40% 台でしたが、今回調査では 58.8% と高くなっています。

「③ジェンダー」は平成 13 年には 25.4% でしたが、年々高くなり、今回調査では 90.3% となっています。

「④SDGs」は令和元年度では 35.7% でしたが、今回調査では 83.6% と大幅に高くなっています。

「⑤LGBTQ」は令和元年度では 75.9% でしたが、今回調査では 81.8% と高くなっています。

図 男女共同参画に関する用語の認知〔令和元年度（前回調査）との比較〕



※今回調査の項目でのみ比較

※今回調査は「よく知っている」「少し内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計。

※令和元年度（前回調査）は「だいたい内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計。

※平成26・20・13年度は「知っていた」「聞いたことはある」の合計。

3. 仕事について

(1) 現在の就労状況

問6 あなたと、配偶者・パートナーの就労状況について、現在の状況をおたずねします。それぞれあてはまるものを下の選択肢から選び、番号をご記入ください。(配偶者・パートナーのいない方はご自身の欄のみにご記入ください。)(各1つ)

●自身の職業

全体でみると、「勤め人(正規の社員や職員、会社などの役員)」が35.3%で最も高く、次いで「無職」(21.4%)、「主に家事」(12.4%)となっています。職業を持っている人は58.8%となっています。

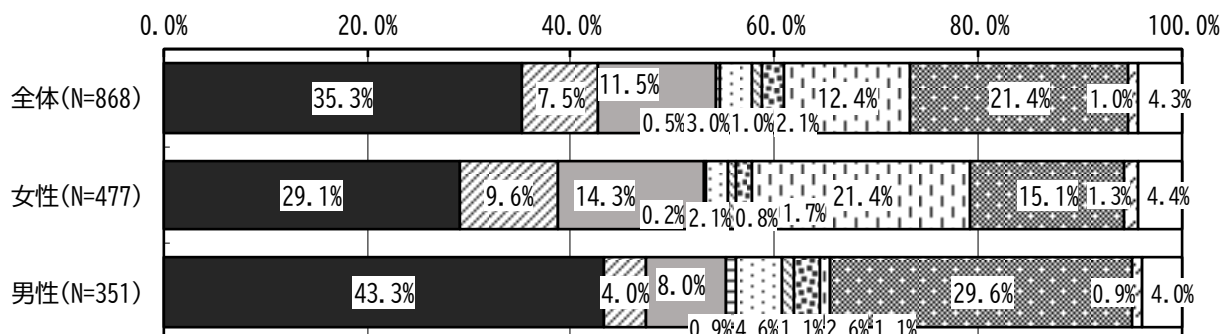
【性別】

性別でみると、女性では「勤め人(正規の社員や職員、会社などの役員)」が29.1%で最も高く、次いで「主に家事」(21.4%)、「無職」(15.1%)となっています。現在、職業を持っている人は56.1%となっています。

男性では、「勤め人(正規の社員や職員、会社などの役員)」が43.3%で最も高く、次いで「無職」(29.6%)、「勤め人(非正規の社員や職員(パート・アルバイト・派遣など)で週あたりの就業時間が35時間未満)」(8.0%)となっています。現在、職業を持っている人は61.9%となっています。

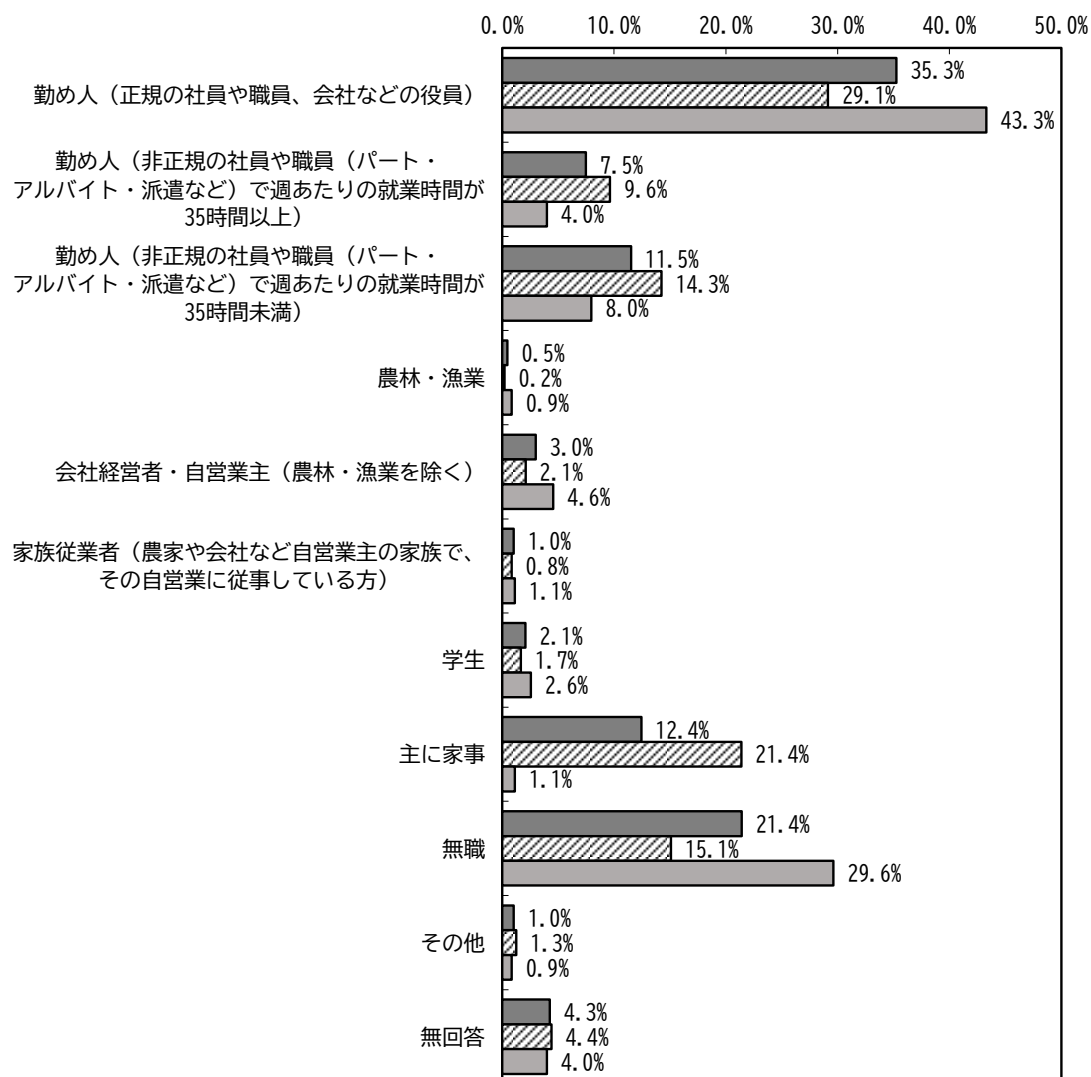
現在、職業を持っている人は、男性の方が5.8ポイント高くなっています。

図 【性別】自身の職業



- 勤め人(正規の社員や職員、会社などの役員)
- ▨ 勤め人(非正規の社員や職員(パート・アルバイト・派遣など)で週あたりの就業時間が35時間以上)
- ▤ 勤め人(非正規の社員や職員(パート・アルバイト・派遣など)で週あたりの就業時間が35時間未満)
- ▧ 農林・漁業
- ▩ 会社経営者・自営業主(農林・漁業を除く)
- 家族従業者(農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方)
- 学生
- ▬ 主に家事
- ▭ 無職
- ▮ その他
- 無回答

図 【性別】自身の職業



■ 全体(N=868) ■ 女性(N=477) ■ 男性(N=351)

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」は18～39歳で63.2%となっていますが、年齢が上がるにつれて低くなっています。60歳以上は「主に家事」が最も高くなっています。

男性では「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が50歳代以下で約7割から約8割を占めています。60歳代になると35.9%まで低くなり、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間未満）」、「無職」、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間以上）」の割合が高くなり、70歳以上は「無職」が65.3%となっています。

図 【性年齢別】自身の職業

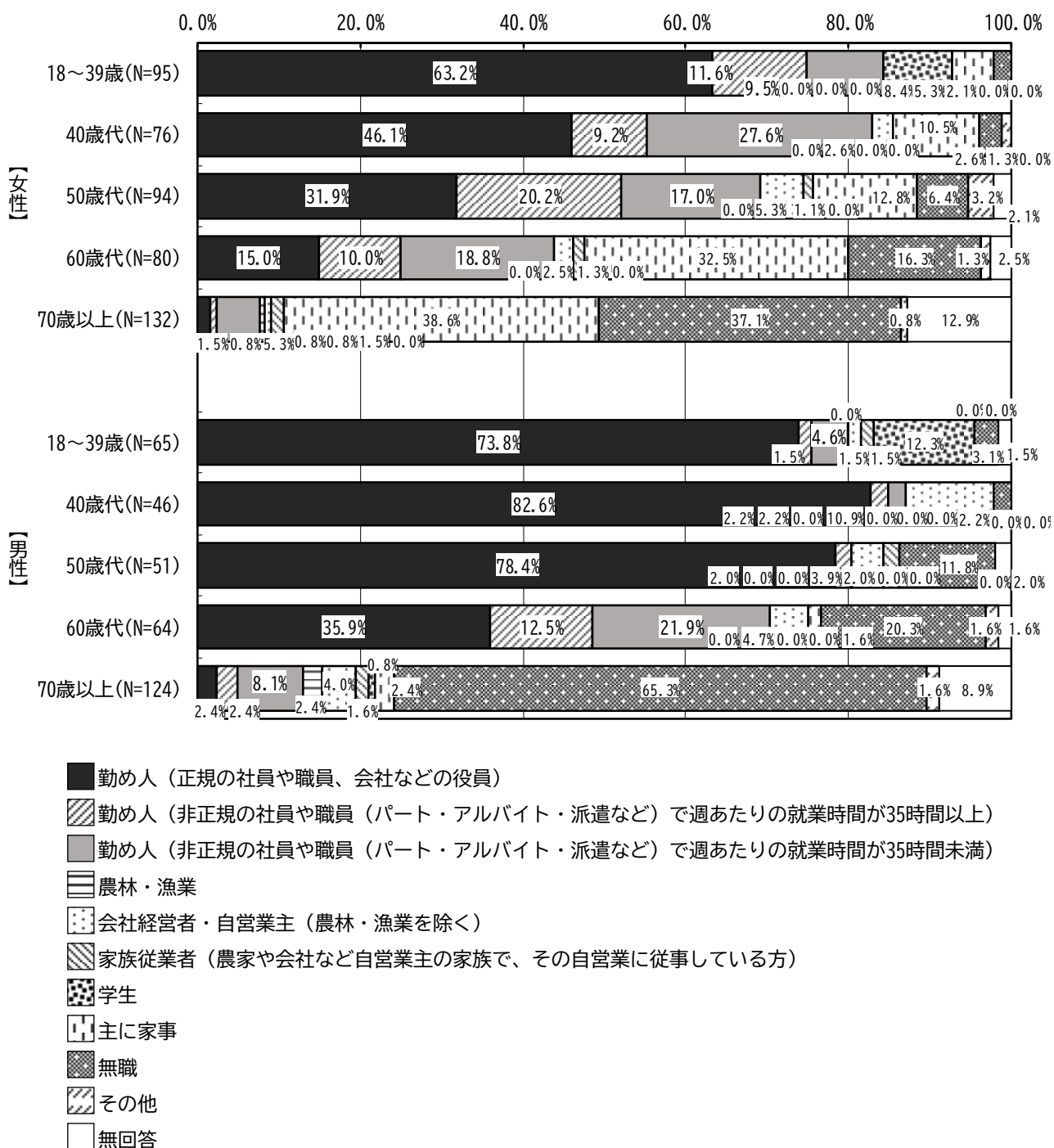
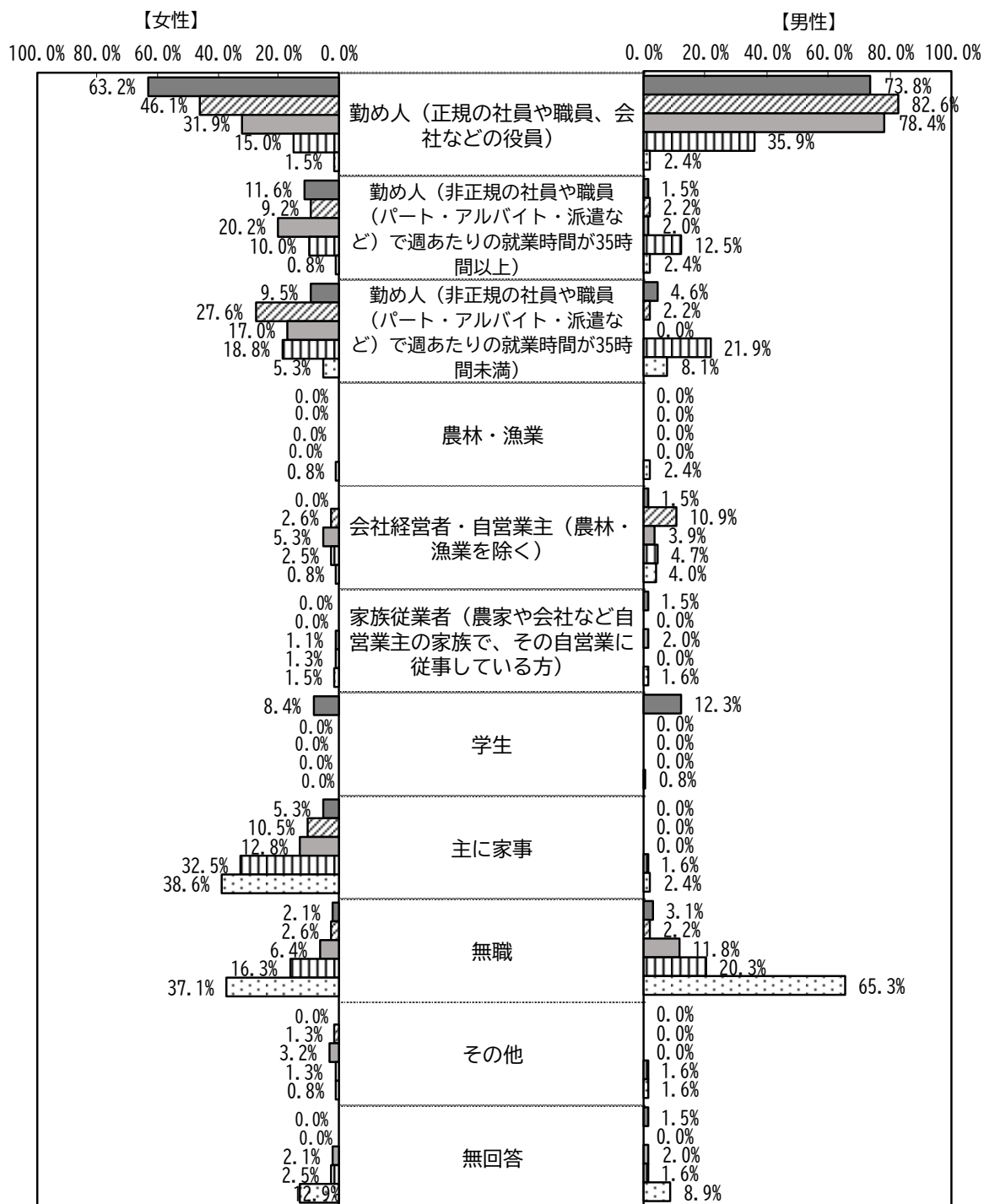


図 【性年齢別】自身の職業



■ 18～39歳(N=95)
 ▨ 40歳代(N=76)
 ■ 50歳代(N=94)
 ▨ 60歳代(N=80)
 ▨ 70歳以上(N=132)

■ 18～39歳(N=65)
 ▨ 40歳代(N=46)
 ■ 50歳代(N=51)
 ▨ 60歳代(N=64)
 ▨ 70歳以上(N=124)

●配偶者・パートナーの職業

「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が 34.0%で最も高く、次いで「無職」（20.7%）、「主に家事」（13.5%）となっています。職業を持っている人は 59.1%となっています。

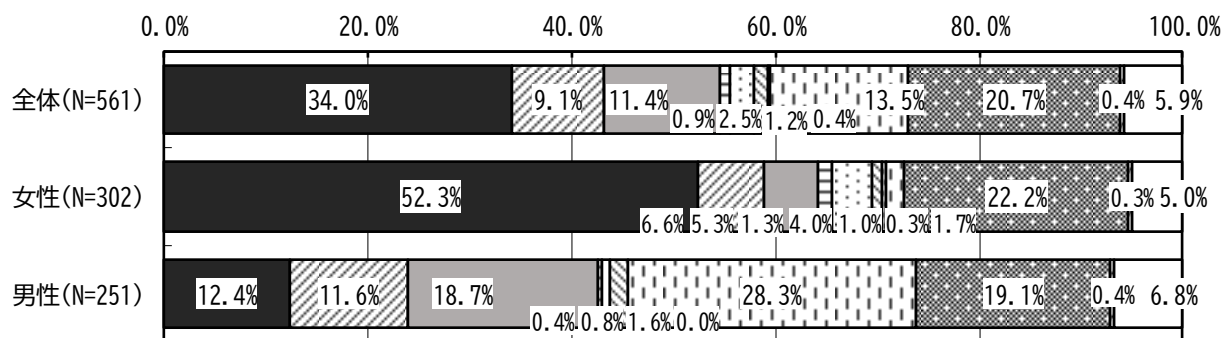
【性別】

性別にみると、女性の配偶者・パートナーでは、「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が 52.3%で最も高く、次いで「無職」（22.2%）、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が 35 時間以上）」（6.6%）となっています。現在、職業を持っている人は 70.5%となっています。

男性の配偶者・パートナーでは、「主に家事」が 28.3%で最も高く、次いで「無職」（19.1%）、「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が 35 時間未満）」（18.7%）となっています。現在、職業を持っている人は 45.5%となっています。

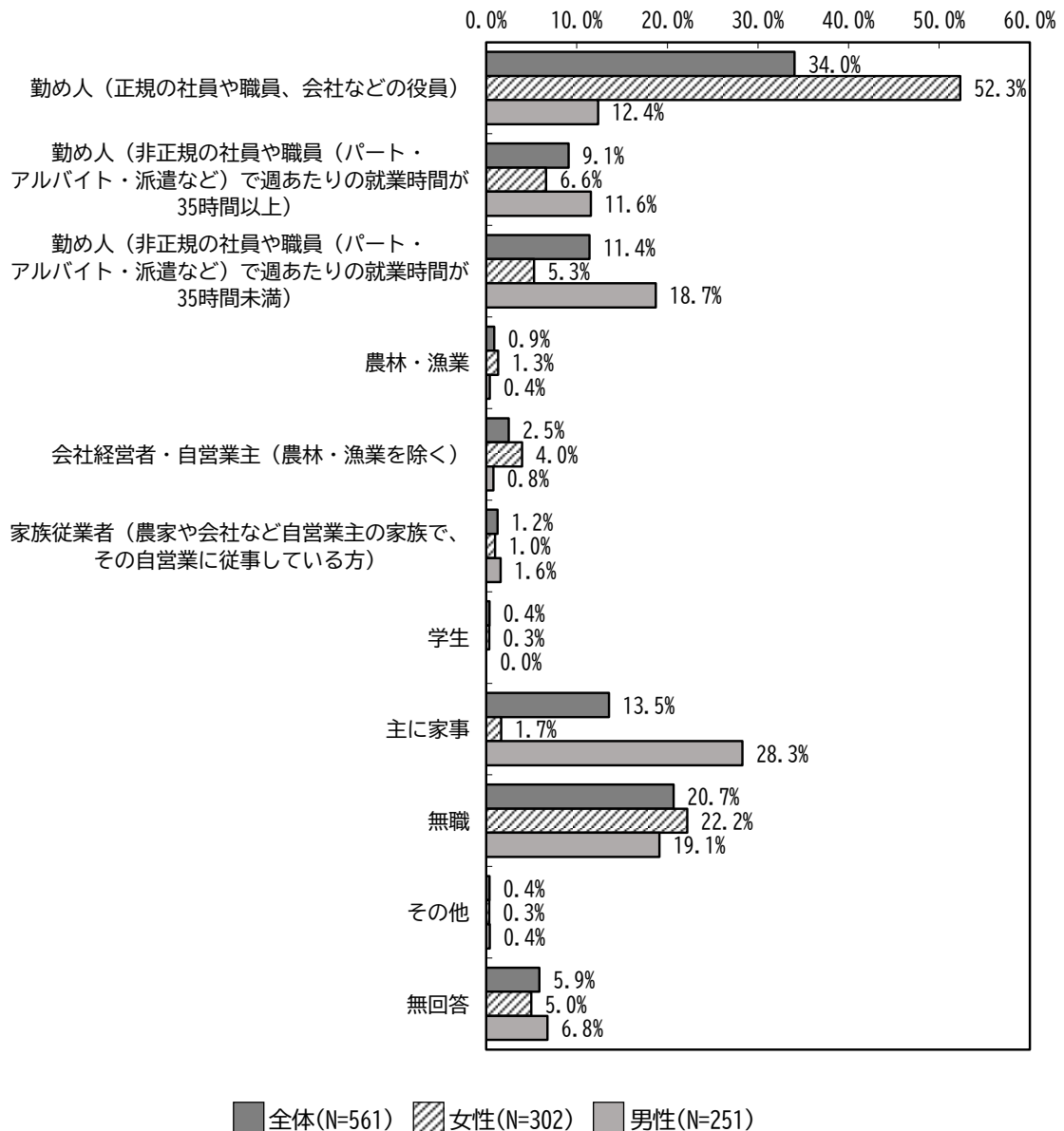
現在、職業を持っている人は、女性の配偶者・パートナーの方が 25.0 ポイント高くなっています。

図 【性別】配偶者・パートナーの職業



- 勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）
- ▨ 勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間以上）
- ▨ 勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間未満）
- ▨ 農林・漁業
- ▨ 会社経営者・自営業主（農林・漁業を除く）
- ▨ 家族従業者（農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方）
- ▨ 学生
- ▨ 主に家事
- ▨ 無職
- ▨ その他
- 無回答

図 【性別】配偶者・パートナーの職業

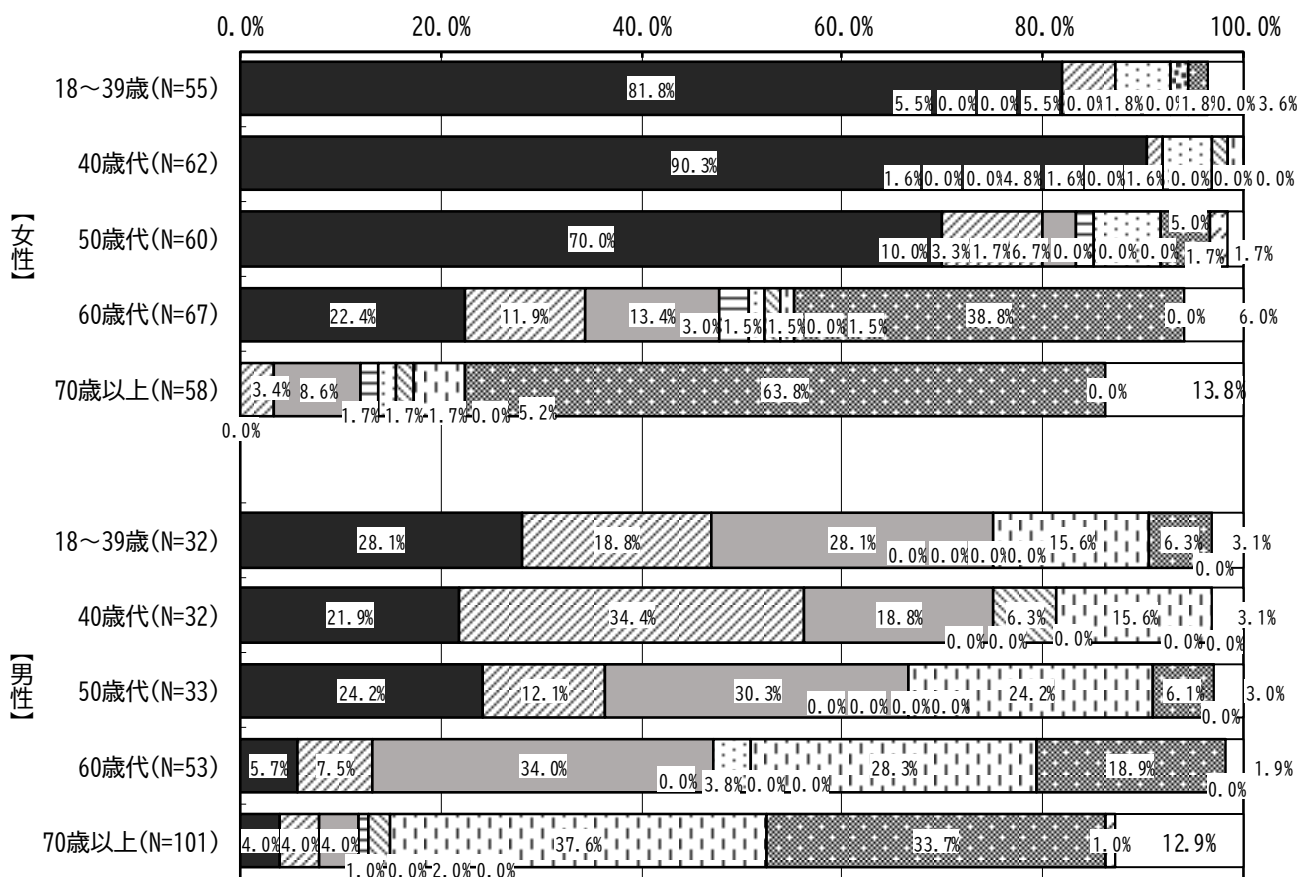


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が50歳代以下で70%以上を占めています。60歳代になると22.4%まで低くなり、「無職」が38.8%で「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間未満）」と「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間以上）」の割合もやや高くなっています。70歳以上は「無職」が63.8%となっています。

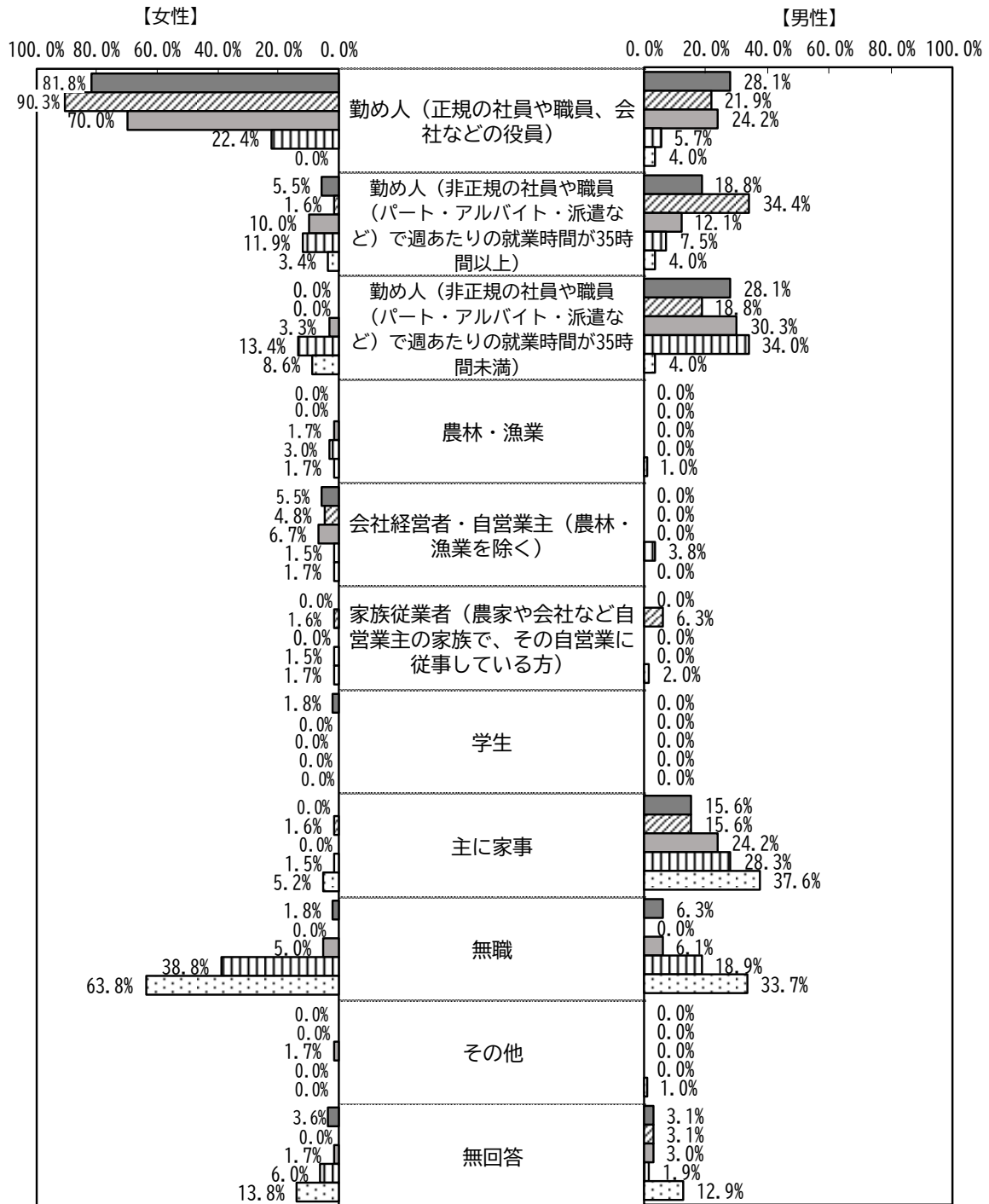
男性では18～39歳で「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」と「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間未満）」がいずれも28.1%、40歳代で「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間以上）」が34.4%、50・60歳代で「勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間未満）」が約30%、70歳以上で「主に家事」が37.6%でそれぞれ最も高くなっています。

図 【性年齢別】 配偶者・パートナーの職業



- 勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）
- ▨ 勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間以上）
- ▤ 勤め人（非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）で週あたりの就業時間が35時間未満）
- ▧ 農林・漁業
- ▩ 会社経営者・自営業主（農林・漁業を除く）
- 家族従業者（農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方）
- 学生
- ▬ 主に家事
- ▭ 無職
- ▮ その他
- 無回答

図 【性年齢別】配偶者・パートナーの職業



■ 18~39歳(N=55)
 ▨ 40歳代(N=62)
 ■ 50歳代(N=60)
 ▨ 60歳代(N=67)
 ▨ 70歳以上(N=58)

■ 18~39歳(N=32)
 ▨ 40歳代(N=32)
 ■ 50歳代(N=33)
 ▨ 60歳代(N=53)
 ▨ 70歳以上(N=101)

(2)「主に家事」・「無職」の理由

問7 問6で、ご自身が「8. 主に家事」または「9. 無職」と回答された方におたずねします。
その理由をお答えください。(〇はいくつでも)

全体をみると、「その他」が 29.9%で最も高く、次いで「健康上の理由」(28.6%)、「仕事に年齢制限があるため」(24.8%)となっています。

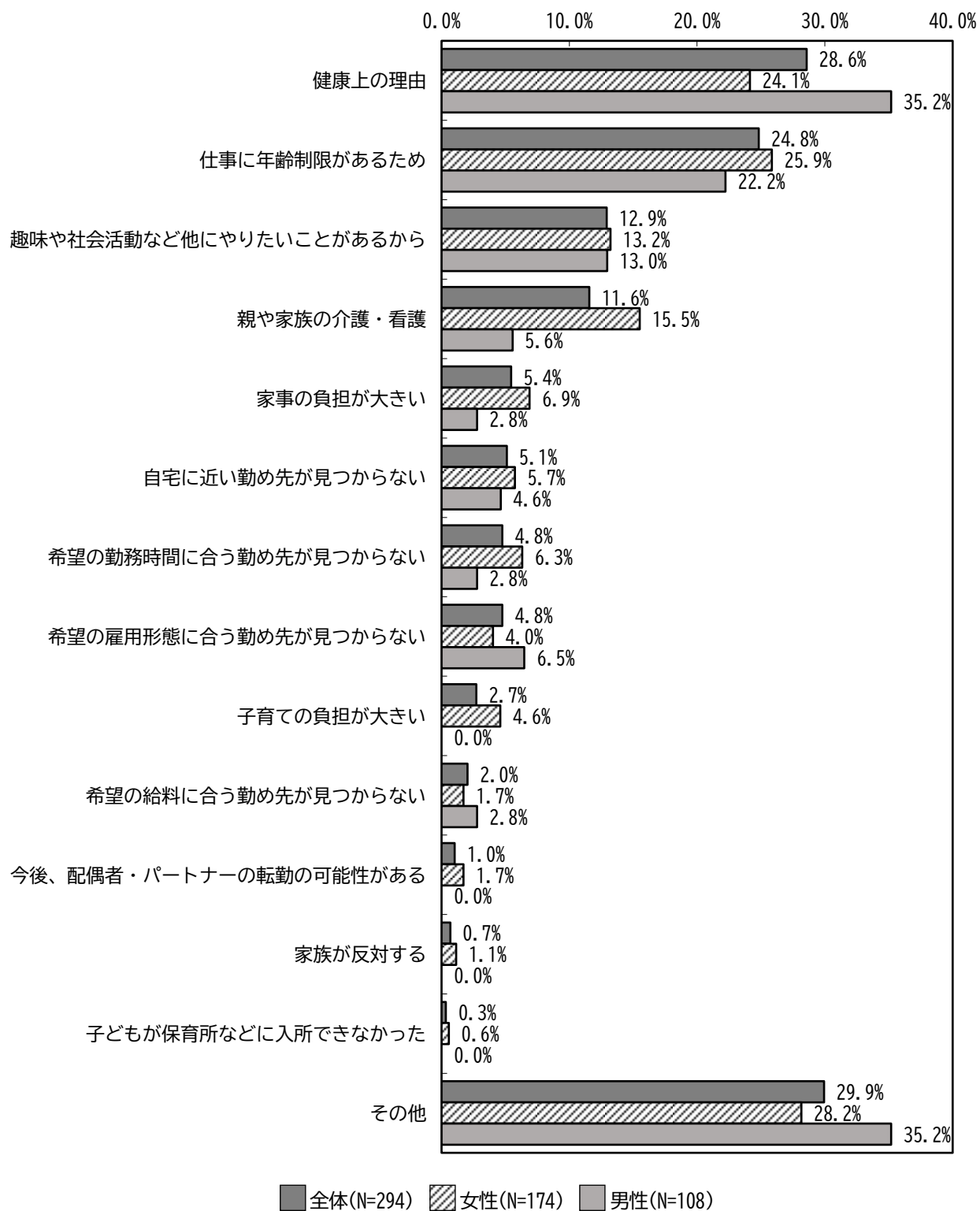
「その他」の内容としては、「高齢(定年退職、年金受給中を含む)」が最も高く、「病気や体力低下」、「経済的にゆとりがある」、「出産妊娠をきっかけに再就職のタイミングを失った」、「専業主婦がよい」、「子育てに専念したい」といった意見がみられました。

【性別】

性別でみると、男女とも上位3項目は全体と同じ項目となっています。

「健康上の理由」は男性が 11.1 ポイント高く、「親や家族の介護・看護」は女性が 9.9 ポイント高くなっています。

図 【性別】「主に家事」・「無職」の理由（複数回答）



【性年齢別】

性年齢別でみると、女性の18～39歳は「自宅に近い勤め先が見つからない」と「その他」がいずれも28.6%、40歳代では「子育ての負担が大きい」と「その他」がいずれも30.0%、50歳代では「親や家族の介護・看護」が44.4%、60歳代は「仕事に年齢制限があるため」が35.9%、70歳以上は「その他」が35.0%でそれぞれ最も高くなっています。

男女で比較すると、50 歳代の「親や家族の介護・看護」は女性が 27.7 ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】「主に家事」・「無職」の理由（複数回答）

		回答者数	仕事に年齢制限があるため	趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから	自宅に近い勤め先が見つからない	希望の給料に合う勤め先が見つからない	希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない	希望の雇用形態に合う勤め先が見つからない	今後、配偶者・パートナーの転勤の可能性がある	子育ての負担が大きい	子どもが保育所などに入所できなかった	家事の負担が大きい	親や家族の介護・看護	健康上の理由	家族が反対する	その他
女性	18～39歳	7	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%
	40歳代	10	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	30.0%	0.0%	20.0%	10.0%	20.0%	0.0%	30.0%
	50歳代	18	22.2%	16.7%	16.7%	0.0%	5.6%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	16.7%	44.4%	27.8%	0.0%	16.7%
	60歳代	39	35.9%	20.5%	5.1%	5.1%	10.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	20.5%	25.6%	2.6%	15.4%
	70歳以上	100	27.0%	11.0%	3.0%	1.0%	3.0%	1.0%	0.0%	2.0%	0.0%	4.0%	10.0%	24.0%	1.0%	35.0%
男性	18～39歳	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	1	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	6	0.0%	16.7%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%
	60歳代	14	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	42.9%	0.0%	21.4%
	70歳以上	84	25.0%	10.7%	2.4%	1.2%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	3.6%	28.6%	0.0%	39.3%

(3) 女性が仕事を続けていくために必要なこと

問8 あなたは、女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

全体でみると、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が 50.3%で最も高く、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」(41.9%)、「職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土など）にすること」(41.6%)となっています。

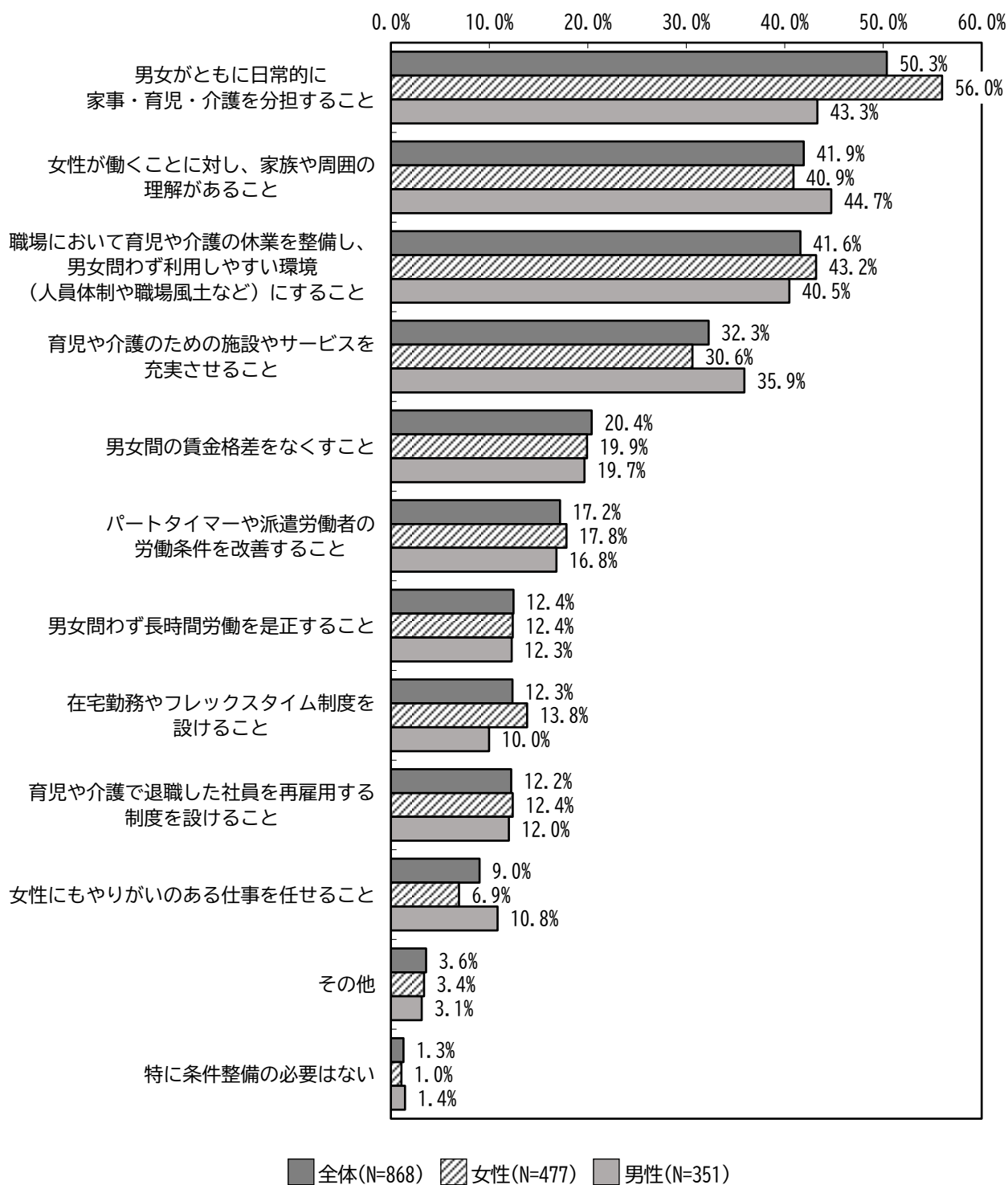
【性別】

性別でみると、女性では「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が 56.0%で最も高く、次いで「職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土など）にすること」(43.2%)、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」(40.9%)となっています。

男性では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」が 44.7%で最も高く、次いで「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」(43.3%)、「職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土など）にすること」(40.5%)となっています。

「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」は、女性が 12.7 ポイント高く、「育児や介護のための施設やサービスを充実させること」は、男性が 5.3 ポイント高くなっています。

図 【性別】 女性が仕事を続けていくために必要なこと（3つ以内で複数回答）

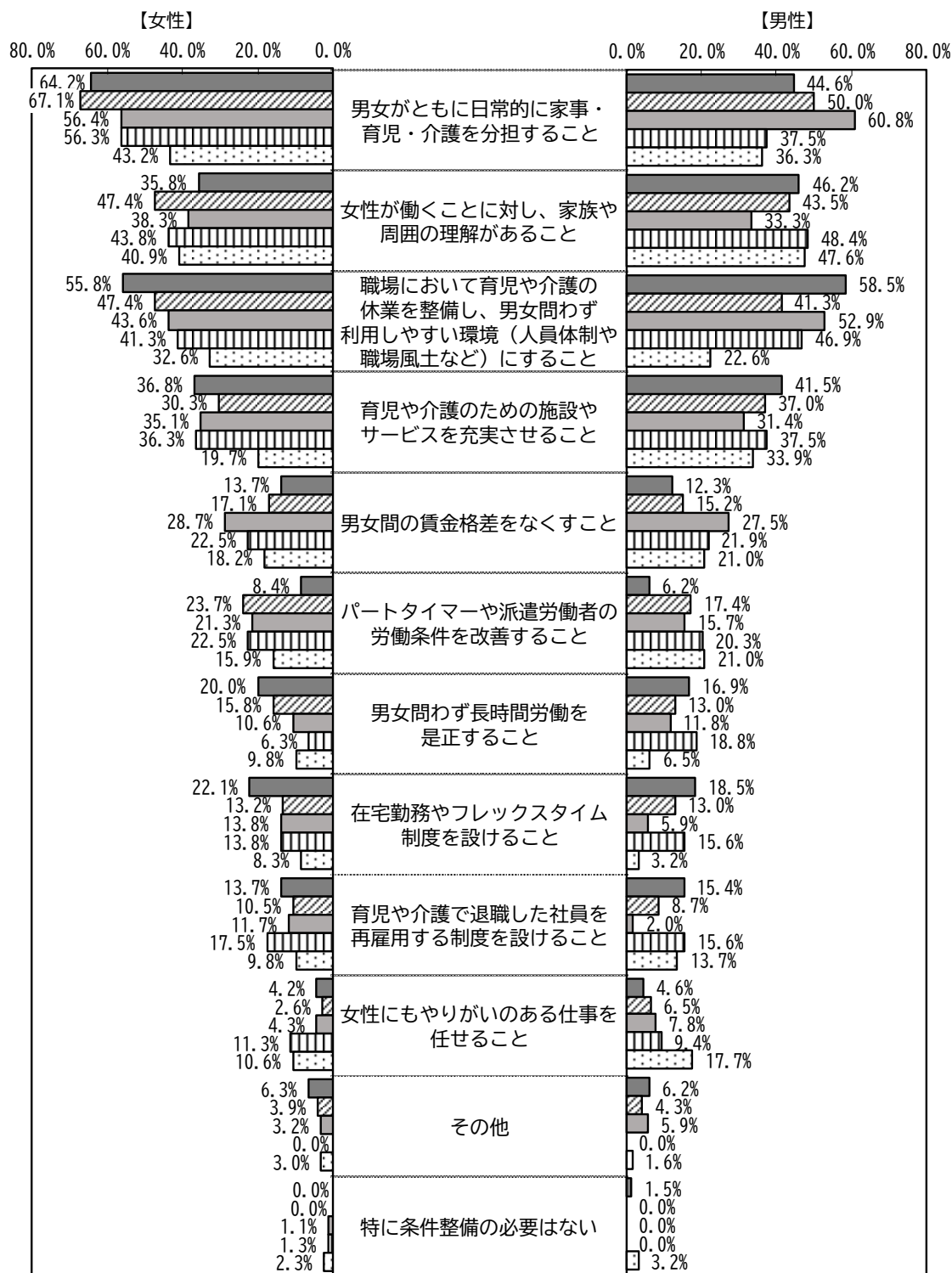


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性はすべての年齢で「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が最も高くなっており、60歳代以下は50%を超えています。

男性では18～39歳で「職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土など）にすること」、40・50歳代で「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」、60歳代・70歳以上で「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」がそれぞれ最も高くなっています。

図 【性年齢別】女性が仕事を続けるために必要なこと（3つ以内で複数回答）



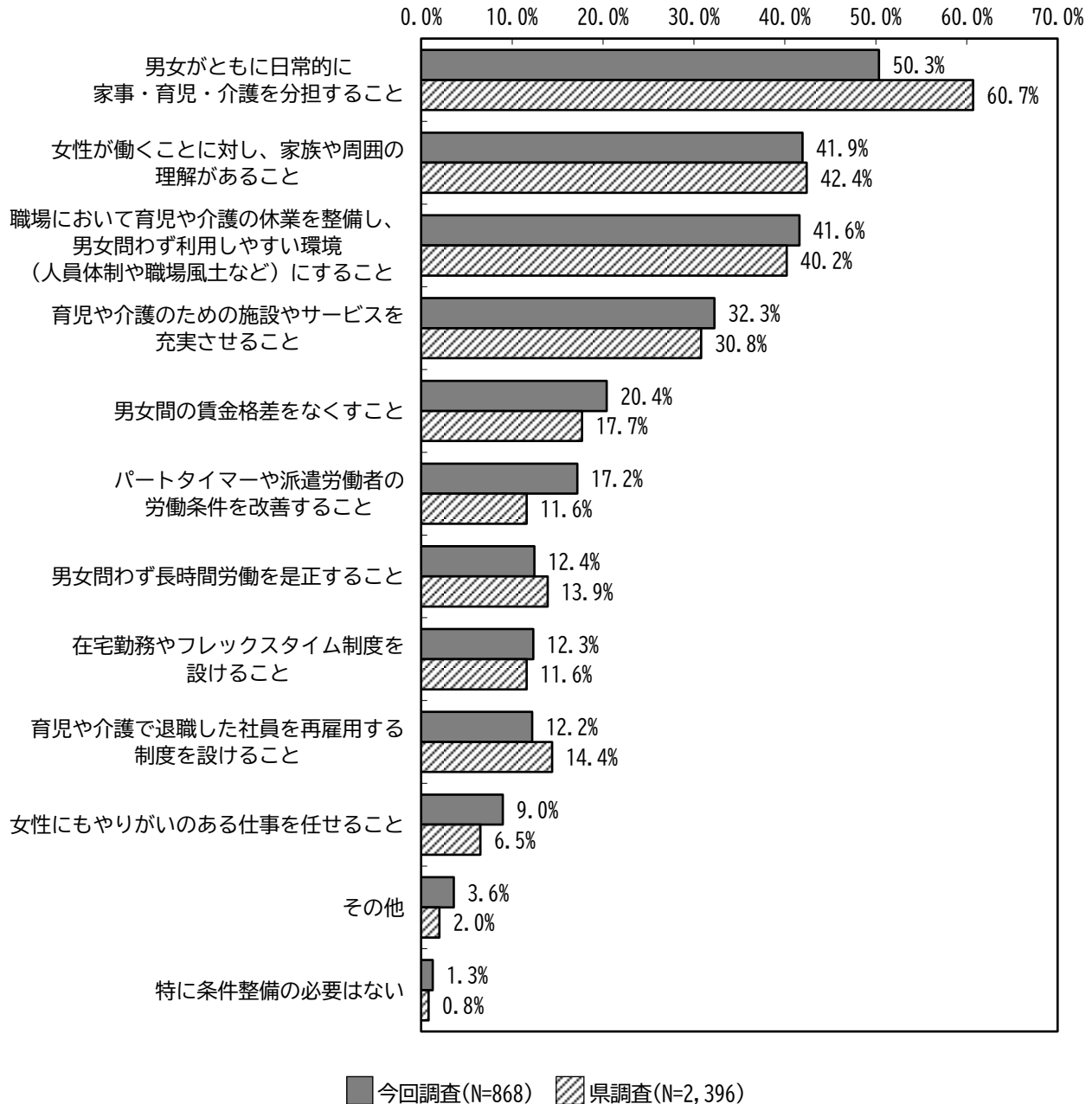
■ 18～39歳(N=75)
 ▨ 40歳代(N=58)
 ■ 50歳代(N=63)
 ▨ 60歳代(N=57)
 ▨ 70歳以上(N=73)

■ 18～39歳(N=38)
 ▨ 40歳代(N=26)
 ■ 50歳代(N=23)
 ▨ 60歳代(N=32)
 ▨ 70歳以上(N=70)

〔滋賀県調査との比較〕

滋賀県調査と比較すると、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」は滋賀県調査の方が 10.4 ポイント、「パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること」は今回調査の方が 5.6 ポイント高くなっています。その他の選択肢では概ね同様の結果となっています。

図 女性が仕事を続けていくために必要なこと（3つ以内で複数回答）〔滋賀県調査との比較〕



(4) 女性管理職が少ない理由

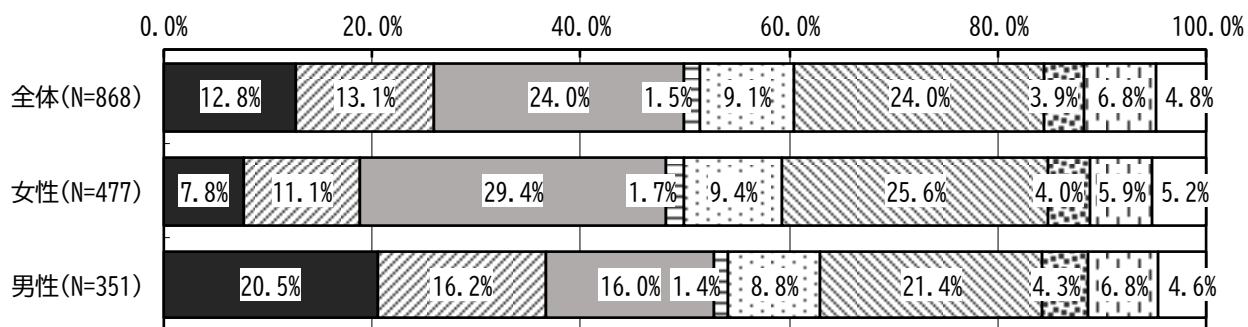
問9 現状では、管理職につく女性が少ない状況にありますが、あなたはその最も大きな理由としてどのようなものがあると思いますか。(1つに○)

全体でみると、「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから」「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」がいずれも 24.0%で最も高く、次いで「女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから」(13.1%) となっています。

【性別】

性別でみると、「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから」は女性が 13.4 ポイント高く、「女性自身が管理職につくことに消極的だから」は男性が 12.7 ポイント高くなっています。

図 【性別】女性管理職が少ない理由



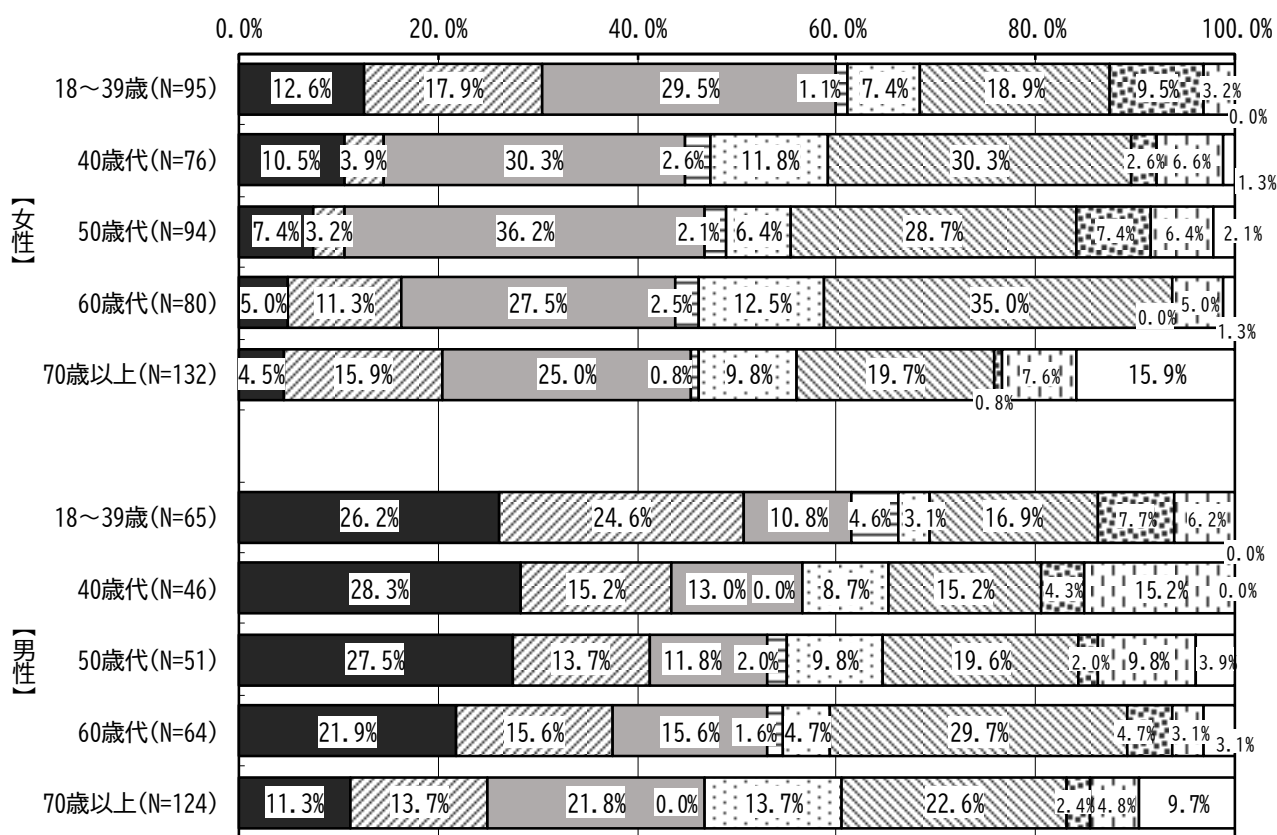
- 女性自身が管理職につくことに消極的だから
- ▨ 女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから
- 女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから
- ▨ 女性は、能力的にみて管理職に向いていないから
- ▨ 女性は、管理職に必要とされる能力（知識や経験、判断力など）を高める機会が少ないから
- ▨ 会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから
- ▨ その他
- ▨ わからない
- 無回答

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では「女性自身が管理職につくことに消極的だから」は年齢が上がるにつれて低くなっています。「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから」はすべての年齢で約3割から約4割となっていますが、50歳代が36.2%で最も高くなっています。「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」は60歳代が35.0%で最も高くなっています。

男性では「女性自身が管理職につくことに消極的だから」は年齢が上がるにつれて概ね低くなっており、さらに女性よりも男性の方が高い傾向にあります。「女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから」は18～39歳が24.6%、「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」は60歳代が29.7%でそれぞれ高くなっています。

図 【性年齢別】 女性管理職が少ない理由



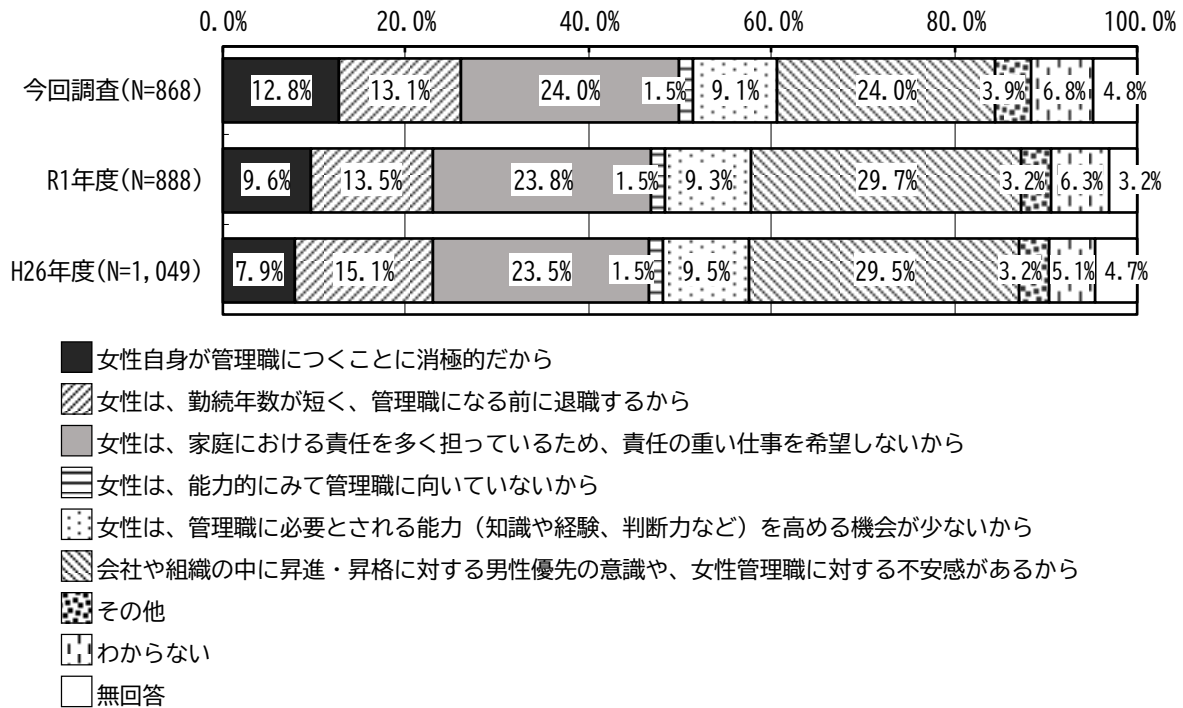
- 女性自身が管理職につくことに消極的だから
- ▨ 女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから
- ▩ 女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから
- ▨ 女性は、能力的にみて管理職に向いていないから
- ▨ 女性は、管理職に必要とされる能力（知識や経験、判断力など）を高める機会が少ないから
- ▨ 会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから
- ▨ その他
- ▨ わからない
- 無回答

〔本市調査の経年比較〕

本市調査を経年で比較すると、「女性自身が管理職につくことに消極的だから」は平成 26 年度の 7.9%から微増し、今回調査では 12.8%となっています。

「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」は平成 26 年度から令和元年度まではほぼ横ばいでしたが、今回調査では 24.0%と微減しています。

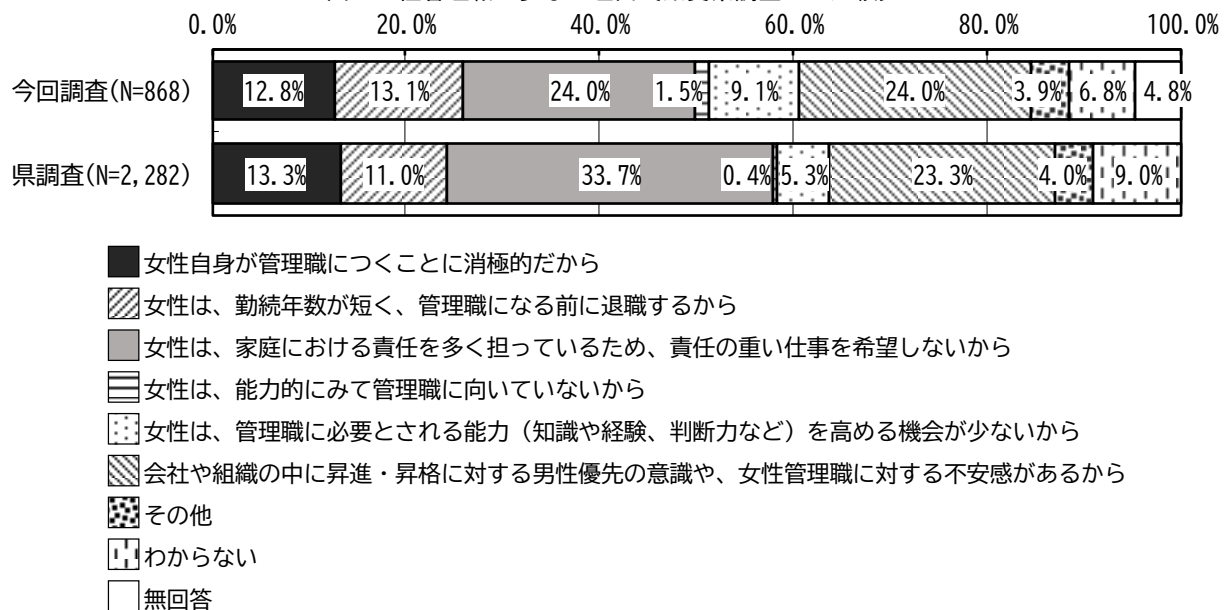
図 女性管理職が少ない理由〔本市調査の経年比較（平成26・令和元年度）〕



〔滋賀県調査との比較〕

滋賀県調査と比較すると、「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから」は滋賀県調査の方が 9.7 ポイント高くなっています。その他の選択肢では概ね同様の結果となっています。

図 女性管理職が少ない理由〔滋賀県調査との比較〕



4. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

問 10 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

(1) 希望と(2) 現実について、それぞれ下の選択肢から最も近いものを選び、番号をご記入ください。(各1つ)

<希望>

全体でみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が 29.3%で最も高く、次いで『家庭生活』を優先したい」(19.1%)、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」(15.4%) となっています。

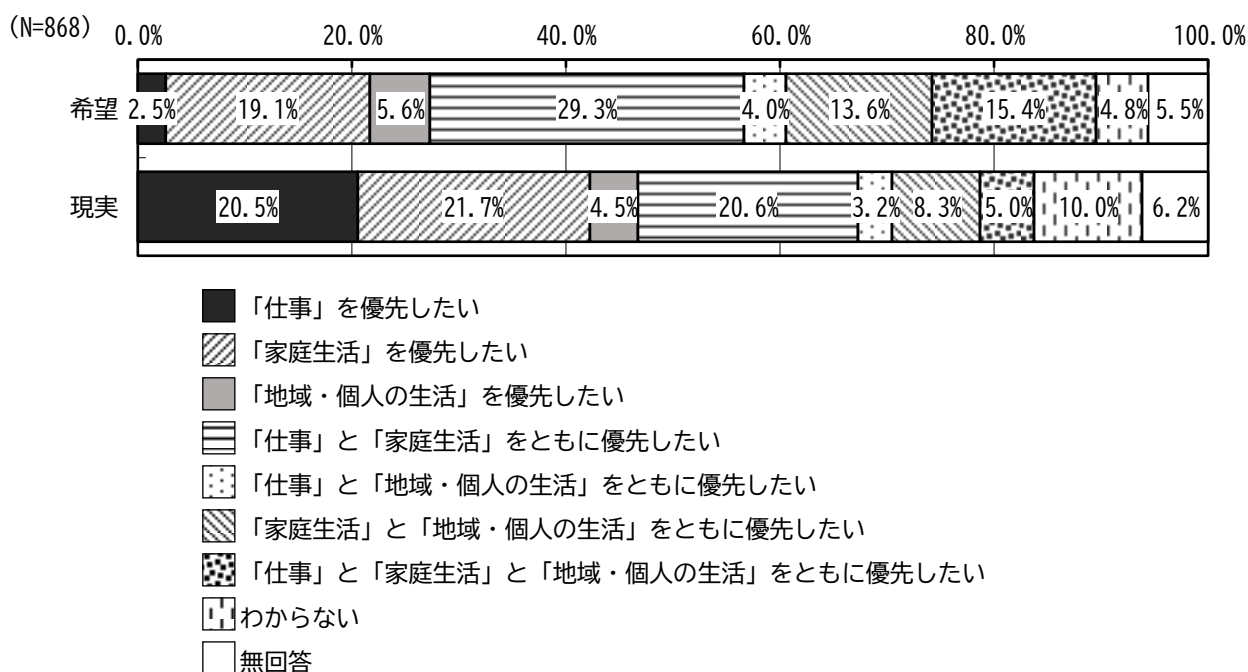
<現実>

全体でみると、『家庭生活』を優先したい」が 21.7%で最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」(20.6%)、『仕事』を優先したい」(20.5%) となっています。

<希望>と<現実>を比較すると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」では 10.4 ポイント、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」では 8.7 ポイント、<希望>の方が高くなっています。

一方、『仕事』を優先したい(している)」は<現実>の方が 18.0 ポイント高くなっています。

図 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度



【性別】

性別でみると、女性の＜希望＞は『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が約3割で最も高く、次いで『家庭生活』を優先したい、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が約2割となっています。

＜現実＞は『家庭生活』を優先したい（している）」が約3割で最も高く、次いで『仕事』を優先したい（している）、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（している）」が約2割となっています。

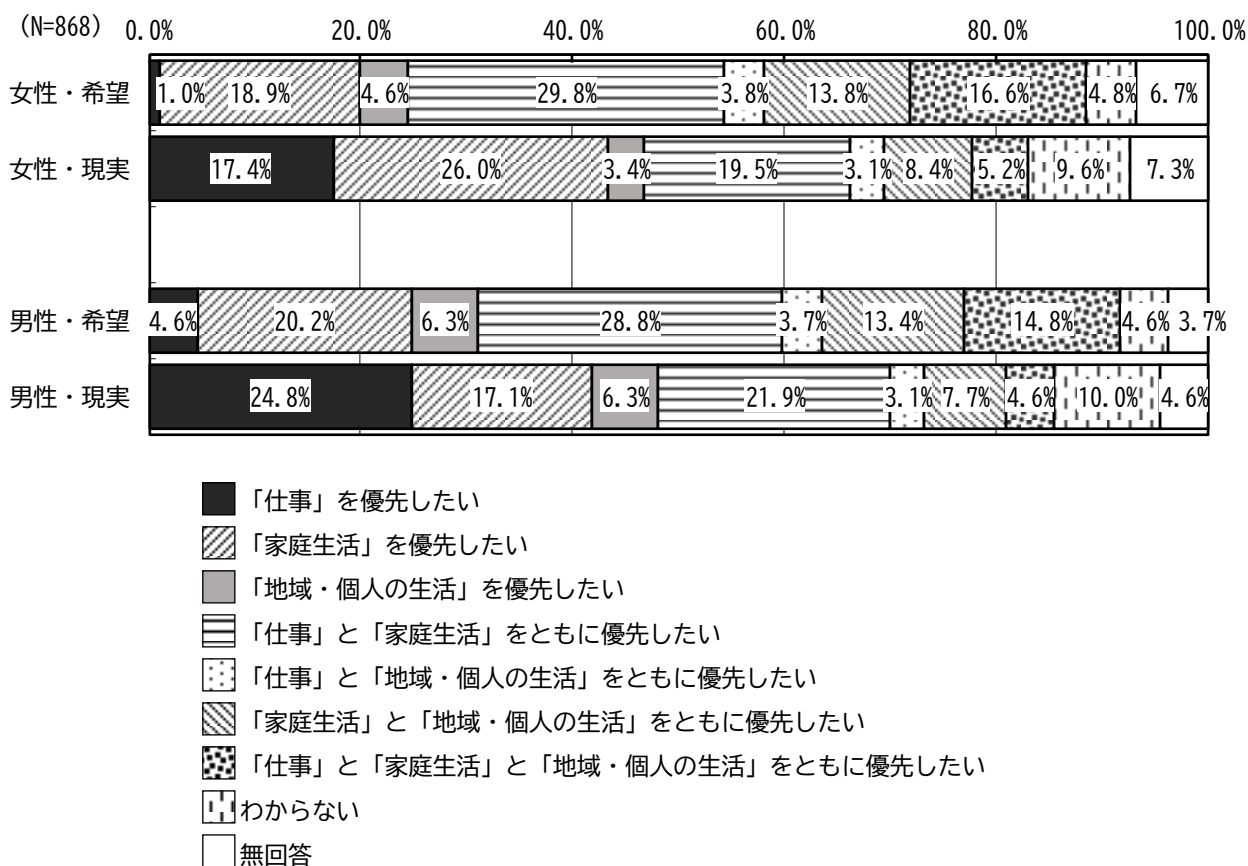
女性の＜希望＞と＜現実＞での差をみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（している）、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい（している）」は、＜現実＞が10ポイント以上低くなっています。

男性の＜希望＞は『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が約3割で最も高く、次いで『家庭生活』を優先したい」が約2割となっています。

＜現実＞は『仕事』を優先したい（している）」が最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（している）」で、いずれも約2割となっています。

男性の＜希望＞と＜現実＞での差をみると、『仕事』を優先したい（している）」は、＜現実＞が20ポイント以上高くなっています。

図 【性別】生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度



【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では＜希望＞においては、60 歳代以下では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい、70 歳以上では『家庭生活』を優先したい』が高くなっています。＜現実＞においては、18～39 歳・50 歳代では『仕事』を優先したい（している）、40 歳代では＜希望＞と同じく『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（している）、60 歳代以上は『家庭生活』を優先したい（している）が高くなっています。

男性では＜希望＞においては、60 歳代以下では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい、70 歳以上では『家庭生活』を優先したい』が高くなっています。＜現実＞においては、50 歳代以下は『仕事』を優先したい（している）、60 歳代では＜希望＞と同じく『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（している）、70 歳以上は＜希望＞と同じく『家庭生活』を優先したい（している）が高くなっています。

男女で比較すると、40 歳代の＜現実＞において『仕事』を優先したい（している）は男性が 37.7 ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜女性＞

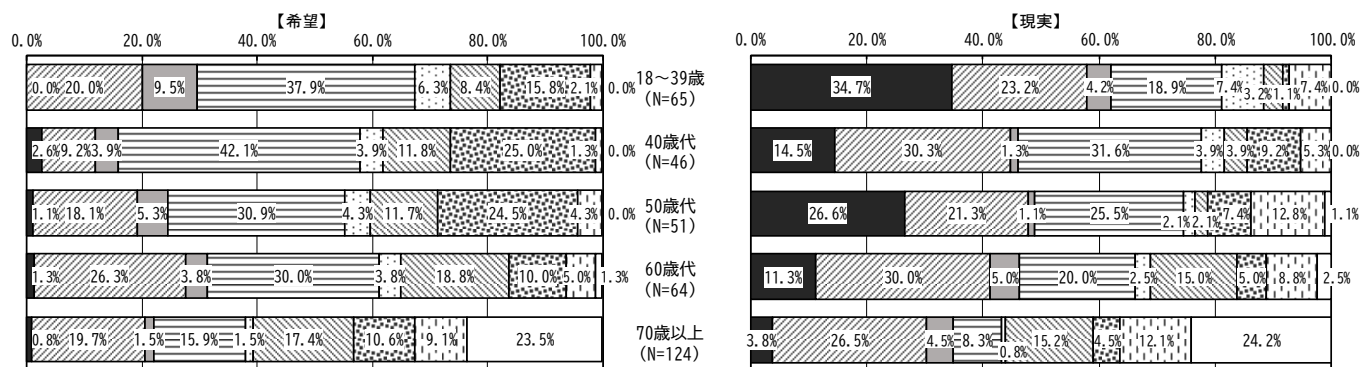
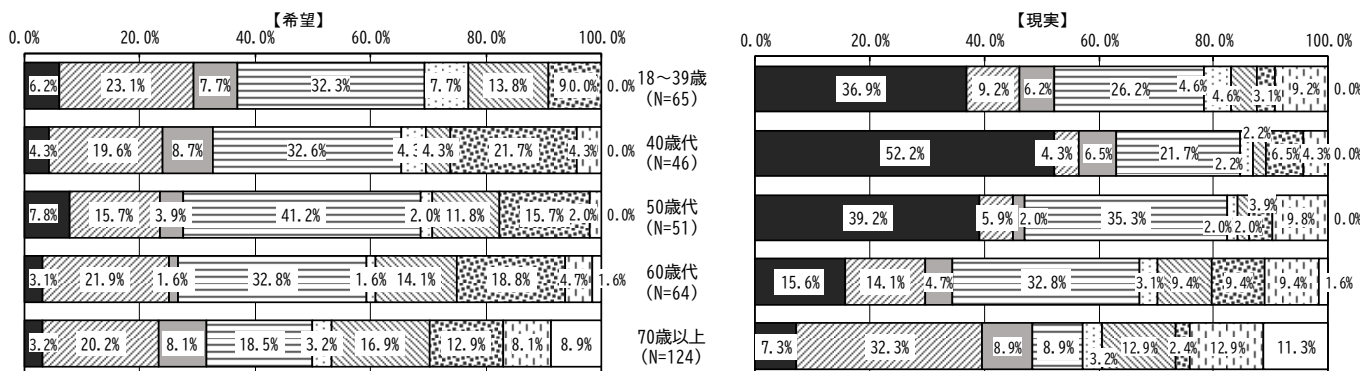


図 【性年齢別】生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜男性＞



- 「仕事」を優先したい
- ▨ 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- わからない
- 無回答

【本市調査の経年比較】

本市調査を経年で比較すると、＜希望＞は『家庭生活』を優先したいと『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが令和元年度以降、約2割から約3割と高くなっています。

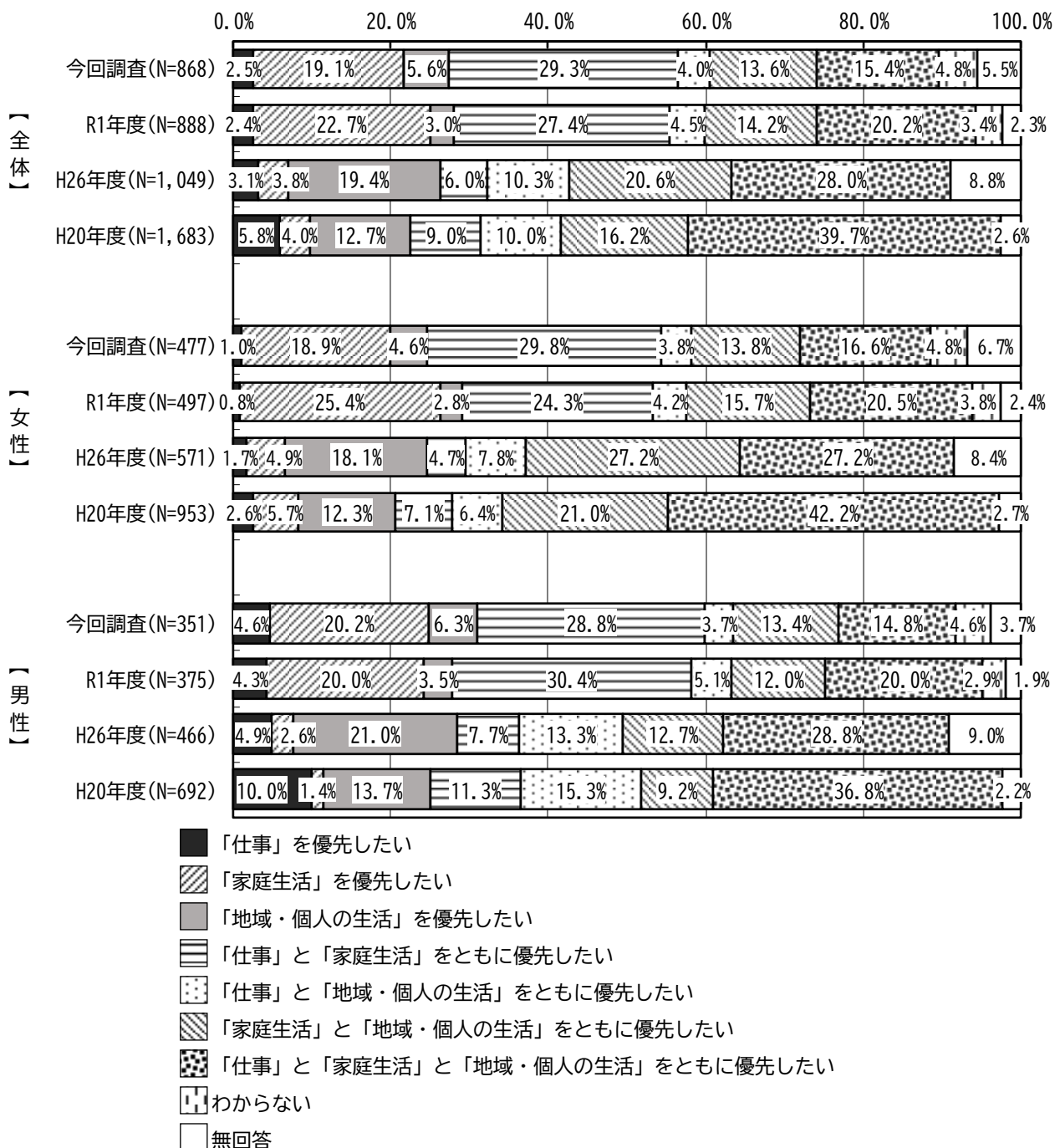
『地域・個人の生活』を優先したいと『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したいは令和元年以降、割合が低くなっています。

【性別】

性別でみると、男女とも令和元年度以降は概ね同様の結果となっています。

図 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜希望＞

〔本市調査の経年比較 ― 平成20・26・令和元年度〕



※「家庭生活」は平成26年度までは「家事」、平成26年度以前は「わからない」無し。

【本市調査の経年比較】

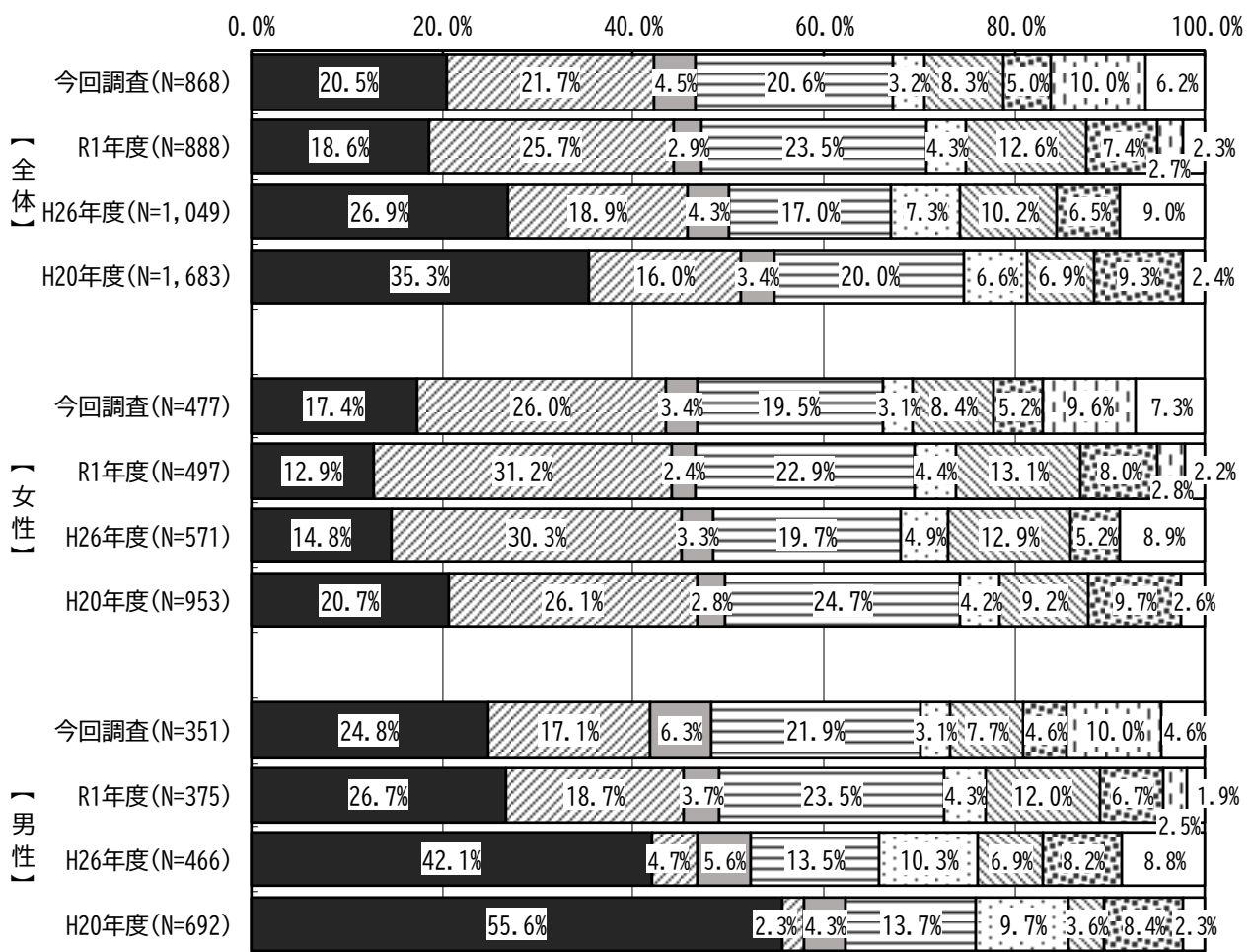
本市調査の経年で比較すると、＜現実＞は『仕事』を優先したい（している）」が平成 20 年以降、年々概ね低くなっています。

【性別】

性別でみると、男性では『仕事』を優先したい（している）」が平成 20 年では 55.6%でしたが年々低くなり今回調査では 24.8%となっています。

図 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜現実＞

〔本市調査の経年比較 ― 平成20・26・令和元年度〕



- 「仕事」を優先したい
- ▨ 「家庭生活」を優先したい
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先したい
- ▤ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- ▥ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▦ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- ▧ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- わからない
- 無回答

※「家庭生活」は平成26年度までは「家事」、平成26年度以前は「わからない」無し。

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 10 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜希望＞〕

同居している子どもの年齢別に生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の＜希望＞をみると、すべての年齢で『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが約2割から5割で高くなっています。

図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問10 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜希望＞

	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	合計
0～2歳	2 5.7%	9 25.7%	0 0.0%	16 45.7%	0 0.0%	5 14.3%	2 5.7%	1 2.9%	0 0.0%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	1 2.1%	11 23.4%	0 0.0%	21 44.7%	1 2.1%	5 10.6%	7 14.9%	1 2.1%	0 0.0%	47 100.0%
小学生	2 2.5%	21 25.9%	1 1.2%	37 45.7%	0 0.0%	8 9.9%	12 14.8%	0 0.0%	0 0.0%	81 100.0%
中学生	0 0.0%	10 21.3%	1 2.1%	22 46.8%	0 0.0%	2 4.3%	12 25.5%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%
高校生以上の学生	3 3.4%	14 16.1%	0 0.0%	32 36.8%	0 0.0%	11 12.6%	23 26.4%	3 3.4%	1 1.1%	87 100.0%
1～5以外	1 0.8%	25 20.3%	5 4.1%	30 24.4%	3 2.4%	20 16.3%	21 17.1%	9 7.3%	9 7.3%	123 100.0%
有効回答数	6 1.9%	65 20.6%	5 1.6%	110 34.9%	4 1.3%	41 13.0%	60 19.0%	13 4.1%	11 3.5%	315 100.0%

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 10 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜現実＞〕

同居している子どもの年齢別に生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の＜現実＞をみると、小学生以下と1～5以外では『家庭生活』を優先したい（している）が約4割、中学生以上では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい（している）が約3割でそれぞれ高くなっています。

図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問10 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度＜現実＞

	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	合計
0～2歳	8 22.9%	14 40.0%	0 0.0%	9 25.7%	0 0.0%	3 8.6%	0 0.0%	1 2.9%	0 0.0%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	9 19.1%	19 40.4%	0 0.0%	14 29.8%	1 2.1%	2 4.3%	1 2.1%	1 2.1%	0 0.0%	47 100.0%
小学生	16 19.8%	31 38.3%	1 1.2%	21 25.9%	1 1.2%	4 4.9%	4 4.9%	3 3.7%	0 0.0%	81 100.0%
中学生	11 23.4%	14 29.8%	0 0.0%	16 34.0%	1 2.1%	1 2.1%	3 6.4%	1 2.1%	0 0.0%	47 100.0%
高校生以上の学生	18 20.7%	15 17.2%	0 0.0%	26 29.9%	1 1.1%	10 11.5%	11 12.6%	6 6.9%	0 0.0%	87 100.0%
1～5以外	11 8.9%	37 30.1%	5 4.1%	21 17.1%	2 1.6%	14 11.4%	8 6.5%	15 12.2%	10 8.1%	123 100.0%
有効回答数	51 16.2%	92 29.2%	7 2.2%	76 24.1%	4 1.3%	26 8.3%	22 7.0%	26 8.3%	11 3.5%	315 100.0%

(2) 普段（平日と休日）の生活時間の使い方

問 11 あなたの普段（平日と休日）の生活時間についておたずねします。以下の活動について、1日に平均して何分くらい費やしていますか。（1）～（5）それぞれについてお答えください。（該当しない場合は、□の枠内に「×」を記入してください）

(1) 仕事・学校

<仕事や学校のある日>

全体でみると、仕事や学校のある日の仕事・学校の時間は、平均 8.11 時間となっています。

「該当しない」が 21.4%で最も高く、次いで「8時間～10時間未満」(20.9%)、「10時間～12時間未満」(13.0%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性は「該当しない」が 22.6%で最も高く、次いで「8時間～10時間未満」(18.0%)となっています。

男性は「8時間～10時間未満」が 23.6%で最も高く、次いで「該当しない」(20.2%)となっています。

女性の平均時間は 7.76 時間、男性の平均時間は 8.50 時間で、男性がやや長くなっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性の 40 歳代以下では「8時間～10時間未満」が約 2 割から約 3 割で、50 歳代以上と比べて高くなっています。『10 時間以上』は 18～39 歳で 39.0%となっています。

男性の 40 歳代以下では「8時間～10時間未満」が約 4 割と高くなっています。『10 時間以上』の割合も 18～39 歳・50 歳代で 40%以上、40 歳代では 50.0%と高くなっています。

<休みの日・仕事や学校のない日>

休みの日・仕事や学校のない日の仕事・学校の時間は、全体の平均時間で 1.18 時間となっています。

「該当しない」が 33.3%で最も高く、次いで「0分」(29.0%)、「1時間～2時間未満」(5.1%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間は 1.22 時間、男性の平均時間は 1.03 時間で、女性が若干長くなっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、男女とも 50 歳代以下では「1時間～2時間未満」で 3～10%程度の回答がみられます。

表 【性別、性年齢別】 普段（平日と休日）の生活時間の使い方 - (1)仕事・学校

		回答者数	0分	30分未満	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	平均時間
(1) 仕事・学校 仕事や学校のある日																
	全体	868	2.0%	0.1%	0.0%	0.6%	1.4%	1.5%	6.3%	9.8%	20.9%	13.0%	8.2%	21.4%	14.9%	8.11
性別	女性	477	1.5%	0.2%	0.0%	0.6%	1.7%	2.1%	8.0%	11.5%	18.0%	10.9%	6.9%	22.6%	15.9%	7.76
	男性	351	2.8%	0.0%	0.0%	0.6%	1.1%	0.9%	4.3%	7.4%	23.6%	15.7%	10.3%	20.2%	13.1%	8.50
女性	18～39歳	95	2.1%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	5.3%	8.4%	35.8%	23.2%	15.8%	7.4%	1.1%	8.98
	40歳代	76	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	1.3%	11.8%	17.1%	28.9%	14.5%	7.9%	11.8%	3.9%	7.88
	50歳代	94	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.1%	2.1%	13.8%	14.9%	18.1%	18.1%	11.7%	12.8%	6.4%	8.30
	60歳代	80	2.5%	1.3%	0.0%	1.3%	2.5%	3.8%	10.0%	20.0%	10.0%	2.5%	1.3%	33.8%	11.3%	5.92
	70歳以上	132	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	3.0%	2.3%	3.0%	3.8%	0.0%	0.0%	40.2%	43.2%	4.43
男性	18～39歳	65	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	9.2%	38.5%	27.7%	15.4%	4.6%	1.5%	9.41
	40歳代	46	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	2.2%	4.3%	39.1%	30.4%	19.6%	2.2%	0.0%	9.63
	50歳代	51	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	5.9%	31.4%	29.4%	17.6%	5.9%	5.9%	9.61
	60歳代	64	6.3%	0.0%	0.0%	3.1%	1.6%	0.0%	6.3%	17.2%	25.0%	9.4%	10.9%	17.2%	3.1%	7.45
	70歳以上	124	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%	6.5%	3.2%	6.5%	1.6%	0.8%	41.9%	32.3%	5.31
(1) 仕事・学校 仕事や学校のない日																
	全体	868	29.0%	0.1%	1.6%	5.1%	3.2%	1.7%	1.7%	1.0%	0.6%	0.5%	0.8%	33.3%	21.3%	1.18
性別	女性	477	27.5%	0.2%	0.8%	5.0%	2.9%	1.7%	1.5%	1.7%	0.4%	0.4%	0.6%	34.6%	22.6%	1.22
	男性	351	31.3%	0.0%	2.6%	5.4%	3.4%	2.0%	2.0%	0.3%	0.9%	0.6%	0.6%	32.5%	18.5%	1.03
女性	18～39歳	95	47.4%	0.0%	1.1%	7.4%	2.1%	2.1%	1.1%	3.2%	1.1%	2.1%	1.1%	23.2%	8.4%	1.27
	40歳代	76	43.4%	0.0%	1.3%	6.6%	5.3%	0.0%	1.3%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	27.6%	11.8%	0.66
	50歳代	94	31.9%	1.1%	1.1%	7.4%	5.3%	2.1%	2.1%	1.1%	0.0%	0.0%	1.1%	33.0%	13.8%	1.09
	60歳代	80	17.5%	0.0%	1.3%	3.8%	1.3%	3.8%	2.5%	1.3%	1.3%	0.0%	1.3%	43.8%	22.5%	2.30
	70歳以上	132	6.8%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	0.8%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	42.4%	45.5%	1.25
男性	18～39歳	65	49.2%	0.0%	3.1%	6.2%	4.6%	3.1%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	26.2%	4.6%	0.82
	40歳代	46	30.4%	0.0%	8.7%	10.9%	4.3%	6.5%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	15.2%	13.0%	1.82
	50歳代	51	45.1%	0.0%	3.9%	7.8%	2.0%	0.0%	3.9%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	27.5%	7.8%	0.74
	60歳代	64	45.3%	0.0%	1.6%	3.1%	4.7%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	32.8%	7.8%	0.63
	70歳以上	124	9.7%	0.0%	0.0%	3.2%	2.4%	0.8%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	37.9%	0.98

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間の使い方 ― (1)仕事・学校
仕事や学校のある日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間 ― (1)仕事・学校 仕事や学校のある日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 14.3%	6 17.1%	9 25.7%	5 14.3%	7 20.0%	2 5.7%	35 100.0%	9.29
未就学児 (3歳～6歳)	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.4%	5 10.6%	8 17.0%	16 34.0%	3 6.4%	10 21.3%	0 0.0%	47 100.0%	8.66
小学生	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	1 1.2%	10 12.3%	12 14.8%	20 24.7%	16 19.8%	7 8.6%	8 9.9%	5 6.2%	81 100.0%	8.24
中学生	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	1 2.1%	4 8.5%	6 12.8%	14 29.8%	9 19.1%	6 12.8%	5 10.6%	1 2.1%	47 100.0%	8.54
高校生以上の 学生	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 1.1%	9 10.3%	8 9.2%	26 29.9%	13 14.9%	12 13.8%	10 11.5%	7 8.0%	87 100.0%	8.63
1～5以外	5 4.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.4%	4 3.3%	9 7.3%	15 12.2%	15 12.2%	3 2.4%	3 2.4%	39 31.7%	27 22.0%	123 100.0%	6.29
有効回答数	7 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 1.3%	6 1.9%	27 8.6%	37 11.7%	66 21.0%	45 14.3%	22 7.0%	62 19.7%	39 12.4%	315 100.0%	8.11

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間の使い方 ― (1)仕事・学校
休みの日・仕事や学校のない日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間 ― (1)仕事・学校 仕事や学校のない日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	16 45.7%	0 0.0%	2 5.7%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	12 34.3%	3 8.6%	35 100.0%	0.80
未就学児 (3歳～6歳)	15 31.9%	0 0.0%	2 4.3%	7 14.9%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	14 29.8%	5 10.6%	47 100.0%	1.07
小学生	30 37.0%	0 0.0%	1 1.2%	8 9.9%	5 6.2%	0 0.0%	2 2.5%	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19 23.5%	14 17.3%	81 100.0%	0.82
中学生	13 27.7%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.1%	3 6.4%	1 2.1%	0 0.0%	2 4.3%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	16 34.0%	8 17.0%	47 100.0%	1.39
高校生以上の 学生	29 33.3%	0 0.0%	6 6.9%	7 8.0%	3 3.4%	1 1.1%	3 3.4%	0 0.0%	1 1.1%	0 0.0%	1 1.1%	23 26.4%	13 14.9%	87 100.0%	1.10
1～5以外	25 20.3%	0 0.0%	1 0.8%	4 3.3%	2 1.6%	2 1.6%	2 1.6%	0 0.0%	2 1.6%	0 0.0%	1 0.8%	50 40.7%	34 27.6%	123 100.0%	1.63
有効回答数	91 28.9%	0 0.0%	10 3.2%	22 7.0%	11 3.5%	3 1.0%	5 1.6%	4 1.3%	3 1.0%	0 0.0%	3 1.0%	98 31.1%	65 20.6%	315 100.0%	1.18

（２）家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）

＜仕事や学校のある日＞

仕事や学校のある日の家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）は、全体の平均時間で 2.47 時間となっています。

「1 時間～2 時間未満」が 17.7%で最も高く、次いで「該当しない」（14.4%）、「2 時間～3 時間未満」（14.1%）となっています。

【性別】

性別でみると、女性は「4 時間～6 時間未満」が 17.6%で最も高く、次いで「2 時間～3 時間未満」（15.1%）、「3 時間～4 時間未満」（13.6%）となっています。『6 時間以上』が合計 8.9%となっています。

男性は「1 時間～2 時間未満」が 24.8%で最も高く、次いで「該当しない」（19.4%）、「30 分～1 時間未満」（13.1%）となっています。男性は「0 分」を含めて『1 時間未満』が合計 23.3%です。

女性の平均時間は 3.33 時間、男性の平均時間は 1.29 時間で、女性が 2.04 時間長くなっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は 18～39 歳で「1 時間～2 時間未満」、40 歳代は「3 時間～4 時間未満」と「4 時間～6 時間未満」が同率、50・60 歳代では「4 時間～6 時間未満」、70 歳以上は「該当しない」が高くなっています。平均時間は 40 歳代が 4.03 時間で最も長く、男性の 40 歳代と比べて 2.92 時間長くなっています。

男性は 60 歳代以下で「1 時間～2 時間未満」が約 3 割～約 4 割で最も高くなっています。「該当しない」は 60 歳代で 17.2%、70 歳以上で 36.3%となっています。

＜休みの日・仕事や学校のない日＞

休みの日・仕事や学校のない日の家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）の時間は、全体の平均時間で 3.52 時間となっています。

「4 時間～6 時間未満」が 19.4%で最も高く、次いで「3 時間～4 時間未満」（15.1%）、「2 時間～3 時間未満」（14.2%）となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間が 4.53 時間に対して、男性は 2.07 時間で女性が 2.46 時間長くなっています。

女性は「4 時間～6 時間未満」が 27.7%で最も高く、次いで「3 時間～4 時間未満」（17.2%）、「2 時間～3 時間未満」（9.9%）となっています。

男性は「1 時間～2 時間未満」が 23.4%で最も高く、次いで「2 時間～3 時間未満」（20.8%）、「3 時間～4 時間未満」が 11.7%となっています。

『4 時間以上』の割合は、女性で約 5 割を占めていますが、男性では約 1 割程度となっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性はすべての年齢で「4時間～6時間未満」が最も高く、40歳代で42.1%となっています。平均時間は40・50歳代で5時間を超えています。『10時間以上』の割合は40・50・60歳代で10%を超えています。

男性は18～39歳で「1時間～2時間未満」、40・50・60歳代で「2時間～3時間未満」、70歳以上で「該当しない」が高くなっています。「0分」は50歳代が5.9%で最も高く、平均時間は2.00時間で女性の50歳代より3.28時間短くなっています。

表 【性別、性年齢別】 普段（平日と休日）の生活時間の使い方 — (2)家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）

	回答者数	0分	310分未満	130時間未満	21時間未満	32時間未満	43時間未満	64時間未満	86時間未満	180時間未満	1120時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	平均時間
(2)家事 仕事や学校のある日															
全体	868	3.6%	1.6%	6.8%	17.7%	14.1%	9.8%	10.9%	2.8%	1.6%	0.3%	0.6%	14.4%	15.8%	2.47
女性	477	0.8%	0.4%	2.3%	12.6%	15.1%	13.6%	17.6%	4.8%	2.7%	0.6%	0.8%	11.1%	17.4%	3.33
男性	351	7.1%	3.1%	13.1%	24.8%	11.7%	4.6%	2.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	19.4%	13.1%	1.29
女性	18～39歳	95	3.2%	0.0%	9.5%	28.4%	21.1%	12.6%	8.4%	3.2%	0.0%	0.0%	9.5%	4.2%	1.98
	40歳代	76	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	18.4%	22.4%	22.4%	10.5%	3.9%	0.0%	2.6%	5.3%	4.03
	50歳代	94	0.0%	1.1%	0.0%	13.8%	16.0%	20.2%	24.5%	6.4%	3.2%	1.1%	1.1%	3.2%	3.54
	60歳代	80	1.3%	0.0%	2.5%	6.3%	18.8%	8.8%	22.5%	2.5%	7.5%	1.3%	1.3%	15.0%	3.89
	70歳以上	132	0.0%	0.8%	0.0%	4.5%	6.1%	7.6%	13.6%	3.0%	0.8%	0.8%	0.0%	18.9%	3.60
男性	18～39歳	65	6.2%	3.1%	18.5%	41.5%	15.4%	4.6%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	1.5%	1.15
	40歳代	46	8.7%	10.9%	15.2%	30.4%	17.4%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	1.11
	50歳代	51	11.8%	0.0%	25.5%	27.5%	15.7%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	13.7%	2.0%	1.33
	60歳代	64	10.9%	3.1%	15.6%	25.0%	12.5%	6.3%	4.7%	0.0%	0.0%	0.0%	17.2%	4.7%	1.29
	70歳以上	124	3.2%	1.6%	3.2%	12.9%	5.6%	4.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.3%	29.0%	1.63
(2)家事 仕事や学校のない日															
全体	868	1.5%	1.0%	3.3%	13.4%	14.2%	15.1%	19.4%	6.5%	2.2%	2.1%	1.7%	6.6%	13.1%	3.52
女性	477	1.0%	0.0%	1.5%	5.7%	9.9%	17.2%	27.7%	9.6%	3.4%	3.8%	2.9%	3.6%	13.8%	4.53
男性	351	2.3%	2.3%	6.0%	23.4%	20.8%	11.7%	8.3%	2.0%	0.6%	0.0%	0.0%	11.1%	11.7%	2.07
女性	18～39歳	95	3.2%	0.0%	4.2%	10.5%	13.7%	23.2%	23.2%	10.5%	3.2%	1.1%	2.1%	3.2%	3.68
	40歳代	76	0.0%	0.0%	1.3%	2.6%	7.9%	11.8%	42.1%	11.8%	6.6%	5.3%	1.3%	3.9%	5.43
	50歳代	94	1.1%	0.0%	0.0%	3.2%	6.4%	20.2%	33.0%	11.7%	2.1%	5.3%	6.4%	1.1%	5.28
	60歳代	80	1.3%	0.0%	1.3%	5.0%	10.0%	18.8%	28.8%	11.3%	5.0%	7.5%	2.5%	6.3%	4.75
	70歳以上	132	0.0%	0.0%	0.8%	6.1%	10.6%	12.9%	18.2%	5.3%	1.5%	1.5%	0.0%	7.6%	3.65
男性	18～39歳	65	1.5%	1.5%	4.6%	30.8%	23.1%	18.5%	7.7%	1.5%	1.5%	0.0%	6.2%	3.1%	2.11
	40歳代	46	2.2%	2.2%	4.3%	23.9%	32.6%	19.6%	10.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	2.13
	50歳代	51	5.9%	0.0%	15.7%	21.6%	25.5%	11.8%	5.9%	3.9%	2.0%	0.0%	5.9%	2.0%	2.00
	60歳代	64	0.0%	6.3%	7.8%	23.4%	25.0%	9.4%	9.4%	6.3%	0.0%	0.0%	9.4%	3.1%	2.19
	70歳以上	124	2.4%	1.6%	2.4%	20.2%	11.3%	6.5%	8.1%	0.0%	0.0%	0.0%	21.0%	26.6%	1.95

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間の使い方 ― (2)家事（炊事、買物、洗濯、掃除など） 仕事や学校のある日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間 ― (2)家事（炊事、買物、洗濯、掃除など） 仕事や学校のある日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	0 0.0%	0 0.0%	3 8.6%	7 20.0%	6 17.1%	2 5.7%	6 17.1%	1 2.9%	2 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	5 14.3%	3 8.6%	35 100.0%	2.73
未就学児 (3歳～6歳)	1 2.1%	1 2.1%	2 4.3%	10 21.3%	11 23.4%	4 8.5%	5 10.6%	2 4.3%	3 6.4%	0 0.0%	2 4.3%	4 8.5%	2 4.3%	47 100.0%	3.57
小学生	4 4.9%	0 0.0%	4 4.9%	13 16.0%	12 14.8%	10 12.3%	16 19.8%	9 11.1%	4 4.9%	0 0.0%	1 1.2%	3 3.7%	5 6.2%	81 100.0%	3.55
中学生	2 4.3%	1 2.1%	2 4.3%	4 8.5%	6 12.8%	5 10.6%	12 25.5%	5 10.6%	4 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.4%	3 6.4%	47 100.0%	3.75
高校生以上の 学生	5 5.7%	3 3.4%	11 12.6%	9 10.3%	6 6.9%	15 17.2%	19 21.8%	5 5.7%	3 3.4%	0 0.0%	2 2.3%	4 4.6%	5 5.7%	87 100.0%	3.11
1～5以外	3 2.4%	1 0.8%	4 3.3%	7 5.7%	8 6.5%	16 13.0%	23 18.7%	6 4.9%	4 3.3%	2 1.6%	0 0.0%	21 17.1%	28 22.8%	123 100.0%	3.62
有効回答数	11 3.5%	5 1.6%	20 6.3%	38 12.1%	32 10.2%	42 13.3%	57 18.1%	18 5.7%	12 3.8%	2 0.6%	4 1.3%	33 10.5%	41 13.0%	315 100.0%	2.47

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間の使い方 ― (2)家事（炊事、買物、洗濯、掃除など） 休みの日・仕事や学校がない日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間 ― (2)家事（炊事、買物、洗濯、掃除など） 休みの日・仕事や学校のない日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	4 11.4%	5 14.3%	5 14.3%	9 25.7%	5 14.3%	4 11.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	1 2.9%	35 100.0%	3.97
未就学児 (3歳～6歳)	0 0.0%	1 2.1%	1 2.1%	4 8.5%	11 23.4%	8 17.0%	10 21.3%	4 8.5%	4 8.5%	0 0.0%	4 8.5%	0 0.0%	0 0.0%	47 100.0%	4.66
小学生	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%	9 11.1%	6 7.4%	15 18.5%	19 23.5%	10 12.3%	3 3.7%	5 6.2%	6 7.4%	3 3.7%	3 3.7%	81 100.0%	5.15
中学生	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	3 6.4%	8 17.0%	7 14.9%	9 19.1%	6 12.8%	3 6.4%	2 4.3%	5 10.6%	1 2.1%	2 4.3%	47 100.0%	5.48
高校生以上の 学生	4 4.6%	0 0.0%	3 3.4%	11 12.6%	9 10.3%	12 13.8%	24 27.6%	7 8.0%	3 3.4%	4 4.6%	4 4.6%	2 2.3%	4 4.6%	87 100.0%	4.24
1～5以外	2 1.6%	0 0.0%	2 1.6%	10 8.1%	12 9.8%	14 11.4%	27 22.0%	10 8.1%	4 3.3%	7 5.7%	2 1.6%	10 8.1%	23 18.7%	123 100.0%	4.38
有効回答数	5 1.6%	1 0.3%	7 2.2%	30 9.5%	37 11.7%	45 14.3%	77 24.4%	29 9.2%	12 3.8%	14 4.4%	12 3.8%	13 4.1%	33 10.5%	315 100.0%	3.52

(3) 育児・子育て

<仕事や学校のある日>

仕事や学校のある日の育児・子育ての時間は、全体の平均時間で 1.41 時間となっています。

「該当しない」が 44.2%で最も高く、次いで「0分」(19.5%)、「2時間～3時間未満」(4.0%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間が 2.12 時間に対し、男性は 0.35 時間で、女性が 1.77 時間長くなっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は 40 歳代で「2時間～3時間未満」が 19.7%、「12 時間以上」は 3.9%と高くなっており、平均時間は 3.34 時間とその他の年齢よりも長くなっています。

男性は 40 歳代で「1時間～2時間未満」が 15.2%、次いで「30 分～1時間未満」が 10.9%となっています。平均時間は 0.46 時間で、女性よりも 2.88 時間短くなっています。

<休みの日・仕事や学校のない日>

仕事や学校のない日の育児・子育ての時間は、全体の平均時間で 3.36 時間となっています。

「該当しない」が 42.3%で最も高く、次いで「0分」(18.0%)、「12 時間以上」(4.3%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間が 4.27 時間に対し、男性は 1.68 時間で、女性が 2.59 時間長くなっています。

「12 時間以上」では、女性が 5.0 ポイント高くなっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は「12 時間以上」が 18～39 歳で 15.8%、40 歳代で 17.1%と高くなっています。平均時間は 18～39 歳が 5.43 時間、40 歳代が 6.33 時間で同年齢の男性と比べて、18～39 歳では 2.22 時間、40 歳代では 3.79 時間長くなっています。

男性は 18～39 歳で「4 時間～6 時間未満」が 6.2%、40 歳代で「30～1 時間未満」と「3 時間～4 時間未満」がいずれも 8.7%、50 歳代で「1 時間～2 時間未満」が 11.8%と高くなっています。

「12 時間以上」は 18～39 歳で 4.6%、40 歳代で 2.2%みられます。平均時間は 18～39 歳が 3.21 時間で最も長く、次いで 40 歳代が 2.54 時間となっています。

表 【性別、性年齢別】 普段（平日と休日）の生活時間の使い方 ― (3)育児・子育て

	回答者数	0分	30分未満	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	11時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	平均時間
(3) 育児・子育て 仕事や学校のある日															
全体	868	19.5%	0.3%	2.1%	3.9%	4.0%	1.2%	2.5%	1.3%	0.2%	0.2%	0.6%	44.2%	19.9%	1.41
女性	477	16.8%	0.0%	1.0%	2.9%	5.9%	1.5%	4.2%	1.9%	0.4%	0.4%	1.0%	42.6%	21.4%	2.12
男性	351	24.5%	0.9%	3.7%	5.1%	1.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	46.4%	17.1%	0.35
女性	18~39歳	95	31.6%	0.0%	1.1%	1.1%	4.2%	0.0%	10.5%	5.3%	1.1%	1.1%	34.7%	8.4%	2.23
	40歳代	76	10.5%	0.0%	2.6%	9.2%	19.7%	7.9%	5.3%	5.3%	1.3%	3.9%	22.4%	10.5%	3.34
	50歳代	94	22.3%	0.0%	2.1%	3.2%	7.4%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	1.1%	45.7%	12.8%	1.53
	60歳代	80	17.5%	0.0%	0.0%	2.5%	2.5%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	58.8%	16.3%	0.65
	70歳以上	132	5.3%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	47.7%	46.2%	0.13
男性	18~39歳	65	29.2%	1.5%	4.6%	9.2%	4.6%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.9%	10.8%	0.58
	40歳代	46	28.3%	4.3%	10.9%	15.2%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.4%	8.7%	0.46
	50歳代	51	35.3%	0.0%	7.8%	7.8%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	41.2%	5.9%	0.30
	60歳代	64	34.4%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.8%	6.3%	0.02
	70歳以上	124	11.3%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	54.0%	33.1%	0.19
(3) 育児・子育て 仕事や学校のない日															
全体	868	18.0%	0.0%	0.7%	2.4%	3.1%	1.8%	2.9%	1.3%	1.3%	0.9%	4.3%	42.3%	21.1%	3.36
女性	477	16.1%	0.0%	0.2%	2.1%	4.2%	1.3%	3.1%	1.7%	1.3%	1.5%	6.1%	40.3%	22.2%	4.27
男性	351	21.7%	0.0%	1.4%	2.6%	2.0%	2.6%	2.3%	0.9%	1.4%	0.3%	1.1%	45.3%	18.5%	1.68
女性	18~39歳	95	31.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	1.1%	2.1%	2.1%	4.2%	15.8%	30.5%	8.4%	5.43
	40歳代	76	9.2%	0.0%	0.0%	5.3%	14.5%	3.9%	11.8%	1.3%	3.9%	1.3%	17.1%	21.1%	6.33
	50歳代	94	20.2%	0.0%	1.1%	4.3%	3.2%	2.1%	3.2%	4.3%	1.1%	2.1%	43.6%	13.8%	2.51
	60歳代	80	16.3%	0.0%	0.0%	2.5%	3.8%	0.0%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	55.0%	20.0%	0.90
	70歳以上	132	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	47.0%	46.2%	0.22
男性	18~39歳	65	27.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	3.1%	6.2%	3.1%	4.6%	0.0%	36.9%	10.8%	3.21
	40歳代	46	17.4%	0.0%	8.7%	6.5%	4.3%	8.7%	6.5%	2.2%	2.2%	2.2%	28.3%	10.9%	2.54
	50歳代	51	29.4%	0.0%	0.0%	11.8%	3.9%	5.9%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	41.2%	5.9%	0.85
	60歳代	64	34.4%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	56.3%	6.3%	0.35
	70歳以上	124	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52.4%	36.3%	0.14

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間の使い方 - (3)育児・子育て
仕事や学校のある日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間 - (3)育児・子育て 仕事や学校のある日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	1 2.9%	1 2.9%	1 2.9%	5 14.3%	2 5.7%	2 5.7%	9 25.7%	3 8.6%	2 5.7%	1 2.9%	0 0.0%	7 20.0%	1 2.9%	35 100.0%	3.64
未就学児 (3歳～6歳)	2 4.3%	0 0.0%	3 6.4%	8 17.0%	8 17.0%	3 6.4%	8 17.0%	2 4.3%	2 4.3%	2 4.3%	4 8.5%	5 10.6%	0 0.0%	47 100.0%	4.52
小学生	5 6.2%	0 0.0%	8 9.9%	14 17.3%	17 21.0%	6 7.4%	9 11.1%	4 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	4 4.9%	6 7.4%	8 9.9%	81 100.0%	3.07
中学生	2 4.3%	0 0.0%	3 6.4%	5 10.6%	9 19.1%	3 6.4%	7 14.9%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	7 14.9%	8 17.0%	47 100.0%	3.05
高校生以上の 学生	14 16.1%	2 2.3%	8 9.2%	10 11.5%	10 11.5%	0 0.0%	5 5.7%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	25 28.7%	11 12.6%	87 100.0%	1.67
1～5以外	16 13.0%	0 0.0%	1 0.8%	3 2.4%	4 3.3%	1 0.8%	2 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	62 50.4%	34 27.6%	123 100.0%	0.87
有効回答数	34 10.8%	3 1.0%	18 5.7%	29 9.2%	32 10.2%	10 3.2%	22 7.0%	9 2.9%	2 0.6%	2 0.6%	5 1.6%	96 30.5%	53 16.8%	315 100.0%	1.41

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間の使い方 - (3)育児・子育て
休みの日・仕事や学校のない日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間 - (3)育児・子育て 仕事や学校のない日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.9%	1 2.9%	5 14.3%	1 2.9%	6 17.1%	3 8.6%	12 34.3%	4 11.4%	2 5.7%	35 100.0%	10.62
未就学児 (3歳～6歳)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.1%	4 8.5%	3 6.4%	5 10.6%	4 8.5%	4 8.5%	4 8.5%	19 40.4%	3 6.4%	0 0.0%	47 100.0%	10.45
小学生	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	7 8.6%	13 16.0%	7 8.6%	14 17.3%	4 4.9%	1 1.2%	4 4.9%	17 21.0%	7 8.6%	6 7.4%	81 100.0%	6.67
中学生	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 10.6%	2 4.3%	6 12.8%	7 14.9%	4 8.5%	3 6.4%	2 4.3%	4 8.5%	6 12.8%	8 17.0%	47 100.0%	5.89
高校生以上の 学生	9 10.3%	0 0.0%	5 5.7%	9 10.3%	9 10.3%	5 5.7%	6 6.9%	2 2.3%	3 3.4%	0 0.0%	3 3.4%	25 28.7%	11 12.6%	87 100.0%	3.25
1～5以外	16 13.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.4%	4 3.3%	1 0.8%	1 0.8%	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	59 48.0%	38 30.9%	123 100.0%	0.92
有効回答数	25 7.9%	0 0.0%	6 1.9%	17 5.4%	23 7.3%	14 4.4%	23 7.3%	11 3.5%	10 3.2%	8 2.5%	34 10.8%	88 27.9%	56 17.8%	315 100.0%	3.36

(4)介護

<仕事や学校のある日>

仕事や学校のある日の介護の時間は、全体の平均時間で 0.42 時間となっています。

「該当しない」が 48.7%で最も高く、次いで「0分」(26.2%)、「1時間～2時間未満」(1.4%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間が 0.62 時間に対し、男性の平均時間が 0.10 時間で、女性が 0.52 時間長くなっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は年齢が上がるにつれて平均時間が概ね長くなっており、70 歳以上が 2.83 時間で最も長くなっています。

男性は 60 歳代の平均時間が 0.41 時間となっていますが、その他の年齢では 0.00 時間となっています。

<休みの日・仕事や学校のない日>

仕事や学校のない日の介護の時間は、全体の平均時間で 0.80 時間となっています。

「該当しない」が 45.9%で最も高く、次いで「0分」(24.8%)、「1時間～2時間未満」(2.1%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間が 0.94 時間に対し、男性の平均時間が 0.46 時間で、女性が 0.48 時間長く、<仕事や学校のある日>と概ね同様となっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は年齢が上がるにつれて平均時間が概ね長くなっており、70 歳以上では 2.97 時間となっています。50 歳代では『8時間以上』の割合が 2.2%となっています。

男性は 60 歳代の平均時間が 1.20 時間で最も長くなっています。

表 【性別、性年齢別】 普段（平日と休日）の生活時間の使い方 ― (4)介護

	回答者数	0分	30分未満	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	11時間以上	12時間以上	該当しない	無回答	平均時間
(4) 介護 仕事や学校のある日															
全体	868	26.2%	0.1%	0.7%	1.4%	0.6%	0.3%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	48.7%	20.6%	0.42
女性	477	24.5%	0.2%	0.6%	2.1%	0.8%	0.6%	1.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%	47.2%	22.0%	0.62
男性	351	29.6%	0.0%	0.6%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.4%	18.2%	0.10
女性	18~39歳	95	42.1%	1.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	46.3%	9.5%	0.02
	40歳代	76	40.8%	0.0%	0.0%	2.6%	1.3%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	47.4%	6.6%	0.23
	50歳代	94	26.6%	0.0%	0.0%	6.4%	2.1%	1.1%	2.1%	0.0%	0.0%	1.1%	45.7%	14.9%	0.91
	60歳代	80	18.8%	0.0%	2.5%	1.3%	0.0%	1.3%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	57.5%	16.3%	0.74
	70歳以上	132	4.5%	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	1.5%	0.0%	0.0%	0.8%	42.4%	48.5%	2.83
男性	18~39歳	65	43.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	44.6%	12.3%	0.00
	40歳代	46	39.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	47.8%	13.0%	0.00
	50歳代	51	43.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	51.0%	5.9%	0.00
	60歳代	64	32.8%	0.0%	3.1%	3.1%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	50.0%	7.8%	0.41
	70歳以上	124	12.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	54.8%	33.1%	0.00
(4) 介護 仕事や学校のない日															
全体	868	24.8%	0.2%	0.8%	2.1%	1.3%	0.7%	1.5%	0.7%	0.6%	0.0%	0.2%	45.9%	21.3%	0.80
女性	477	23.5%	0.4%	0.8%	2.3%	1.9%	0.8%	1.9%	0.8%	0.2%	0.0%	0.4%	44.7%	22.2%	0.94
男性	351	27.9%	0.0%	0.9%	1.4%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%	47.6%	19.4%	0.46
女性	18~39歳	95	43.2%	1.1%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.3%	9.5%	0.05
	40歳代	76	36.8%	0.0%	0.0%	5.3%	3.9%	1.3%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	44.7%	6.6%	0.50
	50歳代	94	26.6%	0.0%	0.0%	4.3%	3.2%	0.0%	5.3%	0.0%	1.1%	0.0%	42.6%	16.0%	1.37
	60歳代	80	15.0%	1.3%	3.8%	2.5%	1.3%	2.5%	1.3%	2.5%	0.0%	0.0%	51.3%	18.8%	1.22
	70歳以上	132	4.5%	0.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%	2.3%	0.8%	0.0%	0.8%	41.7%	47.0%	2.97
男性	18~39歳	65	41.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	43.1%	13.8%	0.04
	40歳代	46	37.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	45.7%	15.2%	0.03
	50歳代	51	37.3%	0.0%	2.0%	2.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	49.0%	5.9%	0.50
	60歳代	64	32.8%	0.0%	1.6%	4.7%	0.0%	3.1%	3.1%	3.1%	1.6%	0.0%	43.8%	6.3%	1.20
	70歳以上	124	11.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	52.4%	35.5%	0.13

(5)個人の時間（学習、趣味、スポーツ、友人付き合いなど）

＜仕事や学校のある日＞

仕事や学校のある日の個人の時間（学習、趣味、スポーツ、友人付き合いなど）の時間は、全体の平均時間で 1.90 時間となっています。

「該当しない」が 20.3%で最も高く、次いで「1 時間～2 時間未満」（18.8%）、「2 時間～3 時間未満」（14.5%）となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間が 1.78 時間、男性の平均時間が 2.04 時間で、男性が 0.26 時間長くなっています。

『6 時間以上』の割合は、女性が 1.8%に対して、男性が 4.0%となっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、男女とも 50 歳代以下では「1 時間～2 時間未満」、60 歳代以上では「該当しない」が最も高くなっています。

＜休みの日・仕事や学校のない日＞

仕事や学校のない日の個人の時間（学習、趣味、スポーツ、友人付き合いなど）の時間は、全体の平均時間で 4.33 時間となっています。

「2 時間～3 時間未満」が 15.4%で最も高く、次いで「4 時間～6 時間未満」（14.5%）、「3 時間～4 時間未満」（12.8%）となっています。

【性別】

性別でみると、女性の平均時間が 4.08 時間、男性の平均時間が 4.70 時間で、男性が 0.62 時間長くなっています。

「0 分」を含めた『1 時間未満』の割合は、女性が 4.4%、男性が 2.3%で女性が 2.1 ポイント高くなっています。一方、『6 時間以上』の割合は、女性が 16.6%、男性が 24.0%で男性が 7.4 ポイント高くなっています。

【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は 18～39 歳で「3 時間～4 時間未満」と「4 時間～6 時間未満」が同率、40・50 歳代で「2 時間～3 時間未満」、60 歳代で「2 時間～3 時間未満」と「4 時間～6 時間未満」が同率、70 歳以上は「該当しない」が最も高くなっています。

男性は 18～39 歳と 70 歳以上で「2 時間～3 時間未満」、40 歳代で「2 時間～3 時間未満」と「3 時間～4 時間未満」が同率、50 歳代で「3 時間～4 時間未満」と「4 時間～6 時間未満」が同率、60 歳代で「4 時間～6 時間未満」がそれぞれ最も高くなっています。

表 【性別、性年齢別】 普段（平日と休日）の生活時間の使い方 ― (5)個人の時間（学習、趣味、スポーツ、友人付き合いなど）

		回答者数	0分	30分未満	1時間未満	2時間未満	3時間未満	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	平均時間
(5) 個人の時間 仕事や学校のある日																
性別	全体	868	10.1%	0.3%	4.0%	18.8%	14.5%	7.6%	5.6%	1.2%	0.8%	0.6%	0.2%	20.3%	15.9%	1.90
	女性	477	10.3%	0.2%	4.6%	18.7%	15.3%	7.3%	5.2%	0.8%	0.4%	0.6%	0.0%	19.3%	17.2%	1.78
	男性	351	9.4%	0.6%	3.4%	20.2%	12.5%	8.0%	6.3%	1.7%	1.4%	0.6%	0.3%	21.9%	13.7%	2.04
女性	18～39歳	95	12.6%	0.0%	6.3%	21.1%	15.8%	20.0%	7.4%	1.1%	1.1%	0.0%	0.0%	10.5%	4.2%	1.95
	40歳代	76	19.7%	1.3%	7.9%	26.3%	17.1%	3.9%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.5%	6.6%	1.17
	50歳代	94	11.7%	0.0%	8.5%	24.5%	21.3%	4.3%	8.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.8%	7.4%	1.53
	60歳代	80	7.5%	0.0%	1.3%	20.0%	16.3%	5.0%	7.5%	1.3%	0.0%	1.3%	0.0%	30.0%	10.0%	2.04
	70歳以上	132	3.8%	0.0%	0.8%	7.6%	9.1%	3.8%	1.5%	1.5%	0.8%	1.5%	0.0%	25.8%	43.9%	2.48
男性	18～39歳	65	10.8%	0.0%	4.6%	27.7%	15.4%	6.2%	10.8%	1.5%	6.2%	0.0%	0.0%	12.3%	4.6%	2.30
	40歳代	46	15.2%	2.2%	4.3%	32.6%	13.0%	10.9%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	6.5%	1.51
	50歳代	51	13.7%	0.0%	5.9%	29.4%	21.6%	7.8%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.7%	3.9%	1.35
	60歳代	64	9.4%	1.6%	3.1%	21.9%	10.9%	12.5%	6.3%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%	25.0%	4.7%	2.17
	70歳以上	124	4.8%	0.0%	1.6%	6.5%	8.1%	5.6%	4.8%	3.2%	0.0%	1.6%	0.0%	33.9%	29.8%	2.73
(5) 個人の時間 仕事や学校のない日																
性別	全体	868	2.3%	0.1%	1.2%	11.8%	15.4%	12.8%	14.5%	5.8%	5.3%	3.7%	5.0%	8.1%	14.2%	4.33
	女性	477	2.5%	0.2%	1.7%	12.8%	14.7%	13.0%	14.7%	4.4%	4.8%	3.4%	4.0%	7.5%	16.4%	4.08
	男性	351	1.7%	0.0%	0.6%	10.8%	15.7%	12.8%	14.2%	7.4%	6.0%	4.0%	6.6%	9.4%	10.8%	4.70
女性	18～39歳	95	1.1%	0.0%	2.1%	10.5%	6.3%	15.8%	15.8%	9.5%	12.6%	8.4%	10.5%	3.2%	4.2%	5.92
	40歳代	76	2.6%	1.3%	2.6%	17.1%	19.7%	14.5%	15.8%	3.9%	3.9%	1.3%	3.9%	5.3%	7.9%	3.40
	50歳代	94	3.2%	0.0%	1.1%	12.8%	22.3%	14.9%	19.1%	3.2%	3.2%	3.2%	3.2%	4.3%	9.6%	3.70
	60歳代	80	5.0%	0.0%	0.0%	13.8%	17.5%	11.3%	17.5%	2.5%	6.3%	1.3%	3.8%	11.3%	10.0%	3.92
	70歳以上	132	1.5%	0.0%	2.3%	11.4%	10.6%	9.8%	8.3%	3.0%	0.0%	2.3%	0.0%	12.1%	38.6%	2.91
男性	18～39歳	65	1.5%	0.0%	0.0%	10.8%	20.0%	10.8%	4.6%	7.7%	12.3%	7.7%	16.9%	4.6%	3.1%	6.07
	40歳代	46	0.0%	0.0%	0.0%	10.9%	17.4%	17.4%	13.0%	4.3%	13.0%	6.5%	8.7%	4.3%	4.3%	5.51
	50歳代	51	5.9%	0.0%	0.0%	11.8%	7.8%	19.6%	19.6%	17.6%	0.0%	3.9%	3.9%	5.9%	3.9%	4.14
	60歳代	64	1.6%	0.0%	1.6%	12.5%	12.5%	10.9%	26.6%	9.4%	4.7%	1.6%	7.8%	9.4%	1.6%	4.69
	70歳以上	124	0.8%	0.0%	0.8%	8.9%	17.7%	10.5%	11.3%	3.2%	3.2%	2.4%	0.8%	15.3%	25.0%	3.52

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間の使い方 ― (5)個人の時間(学習・趣味・スポーツ・友人付き合いなど) 仕事や学校のある日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間の使い方 ―
(5)個人の時間(学習・趣味・スポーツ・友人付き合いなど) 仕事や学校のある日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	6 17.1%	0 0.0%	3 8.6%	12 34.3%	0 0.0%	2 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 28.6%	2 5.7%	35 100.0%	0.88
未就学児 (3歳～6歳)	11 23.4%	1 2.1%	4 8.5%	13 27.7%	4 8.5%	2 4.3%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 21.3%	1 2.1%	47 100.0%	1.00
小学生	17 21.0%	1 1.2%	8 9.9%	25 30.9%	12 14.8%	3 3.7%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 9.9%	6 7.4%	81 100.0%	1.03
中学生	12 25.5%	1 2.1%	4 8.5%	10 21.3%	7 14.9%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 14.9%	4 8.5%	47 100.0%	0.94
高校生以上の 学生	17 19.5%	1 1.1%	6 6.9%	21 24.1%	14 16.1%	3 3.4%	5 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 12.6%	9 10.3%	87 100.0%	1.27
1～5以外	7 5.7%	0 0.0%	2 1.6%	17 13.8%	11 8.9%	8 6.5%	4 3.3%	1 0.8%	0 0.0%	3 2.4%	1 0.8%	39 31.7%	30 24.4%	123 100.0%	2.43
有効回答数	47 14.9%	2 0.6%	19 6.0%	73 23.2%	36 11.4%	16 5.1%	10 3.2%	1 0.3%	0 0.0%	3 1.0%	1 0.3%	63 20.0%	44 14.0%	315 100.0%	1.90

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 11 生活時間 ― (5)個人の時間(学習・趣味・スポーツ・友人付き合いなど) 休みの日・仕事や学校のない日〕

図 問28-1 同居している子どもの年齢 ×問11 生活時間の使い方 ―
(5)個人の時間(学習・趣味・スポーツ・友人付き合いなど) 仕事や学校のない日

	0分	1分～30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間～12時間未満	12時間以上	該当しない	無回答	合計	平均時間
0～2歳	1 2.9%	0 0.0%	2 5.7%	10 28.6%	7 20.0%	6 17.1%	2 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 11.4%	3 8.6%	35 100.0%	1.90
未就学児 (3歳～6歳)	2 4.3%	1 2.1%	2 4.3%	14 29.8%	12 25.5%	5 10.6%	3 6.4%	0 0.0%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	5 10.6%	2 4.3%	47 100.0%	1.90
小学生	3 3.7%	1 1.2%	2 2.5%	20 24.7%	18 22.2%	12 14.8%	10 12.3%	2 2.5%	2 2.5%	1 1.2%	1 1.2%	3 3.7%	6 7.4%	81 100.0%	2.68
中学生	3 6.4%	1 2.1%	1 2.1%	7 14.9%	5 10.6%	15 31.9%	6 12.8%	2 4.3%	1 2.1%	1 2.1%	0 0.0%	2 4.3%	3 6.4%	47 100.0%	2.84
高校生以上の 学生	2 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	11 12.6%	16 18.4%	20 23.0%	15 17.2%	9 10.3%	1 1.1%	1 1.1%	1 1.1%	4 4.6%	7 8.0%	87 100.0%	3.33
1～5以外	4 3.3%	0 0.0%	1 0.8%	11 8.9%	19 15.4%	14 11.4%	17 13.8%	6 4.9%	0 0.0%	3 2.4%	3 2.4%	17 13.8%	28 22.8%	123 100.0%	3.57
有効回答数	12 3.8%	1 0.3%	5 1.6%	50 15.9%	57 18.1%	52 16.5%	39 12.4%	16 5.1%	4 1.3%	5 1.6%	4 1.3%	28 8.9%	42 13.3%	315 100.0%	4.33

(3) ワーク・ライフ・バランス実現のために必要な職場における取組

問 12 あなたは「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現された社会」に近づくために、職場においてどのような取組が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

全体でみると、「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」が 45.9%で最も高く、次いで「管理職の意識改革を行う」(37.0%)、「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」(36.3%) となっています。

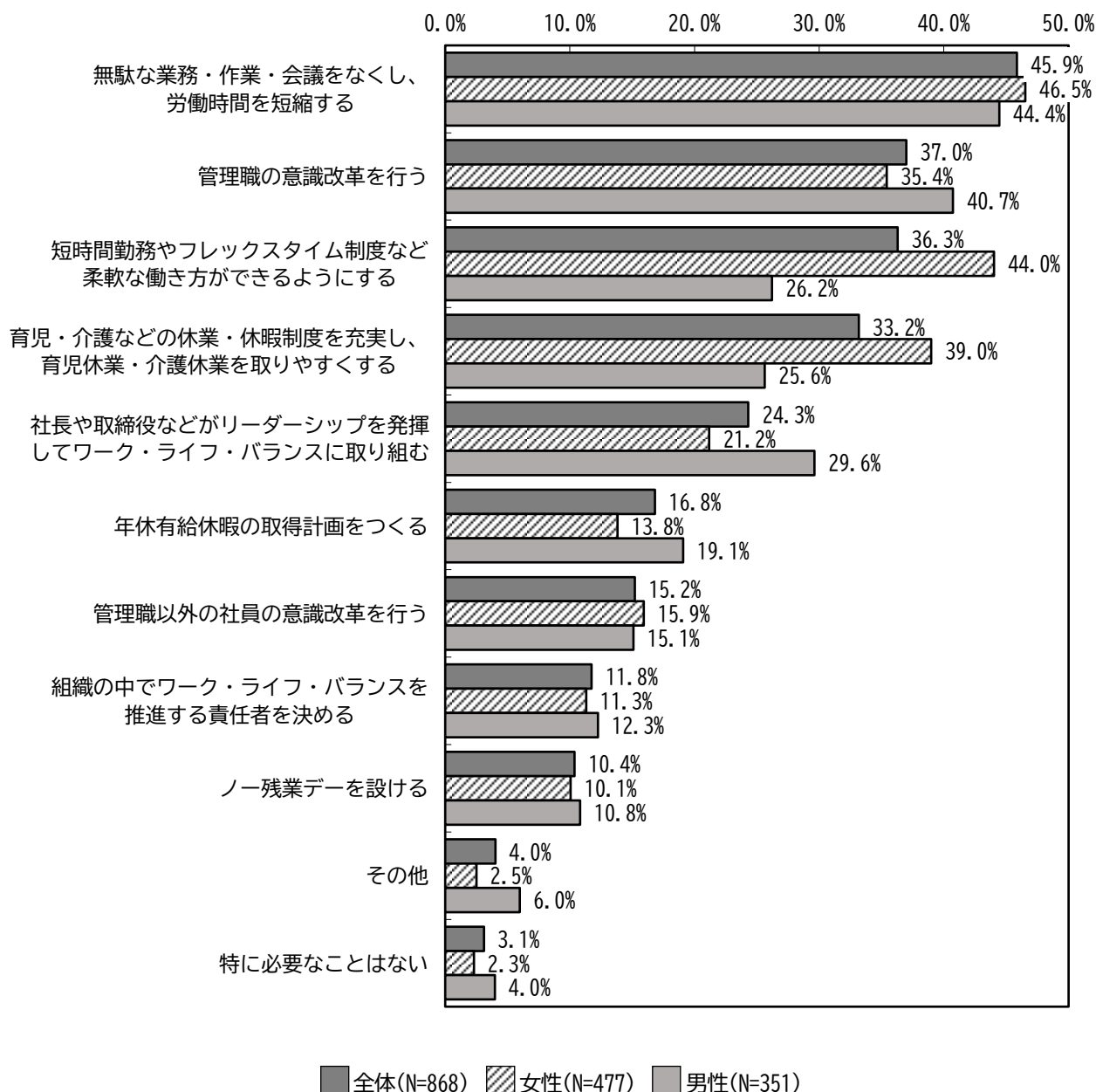
【性別】

性別でみると、男女とも「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」が最も高く4割を超えています。

次いで、女性では、「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」、「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児休業・介護休業を取りやすくする」がいずれも約4割となっています。男性では「管理職の意識改革を行う」が40.7%となっています。

「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」は、女性が17.8ポイント高く、「社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」は男性が8.4ポイント高くなっています。

図 【性別】ワーク・ライフ・バランス実現のために必要な職場における取組（3つ以内で複数回答）



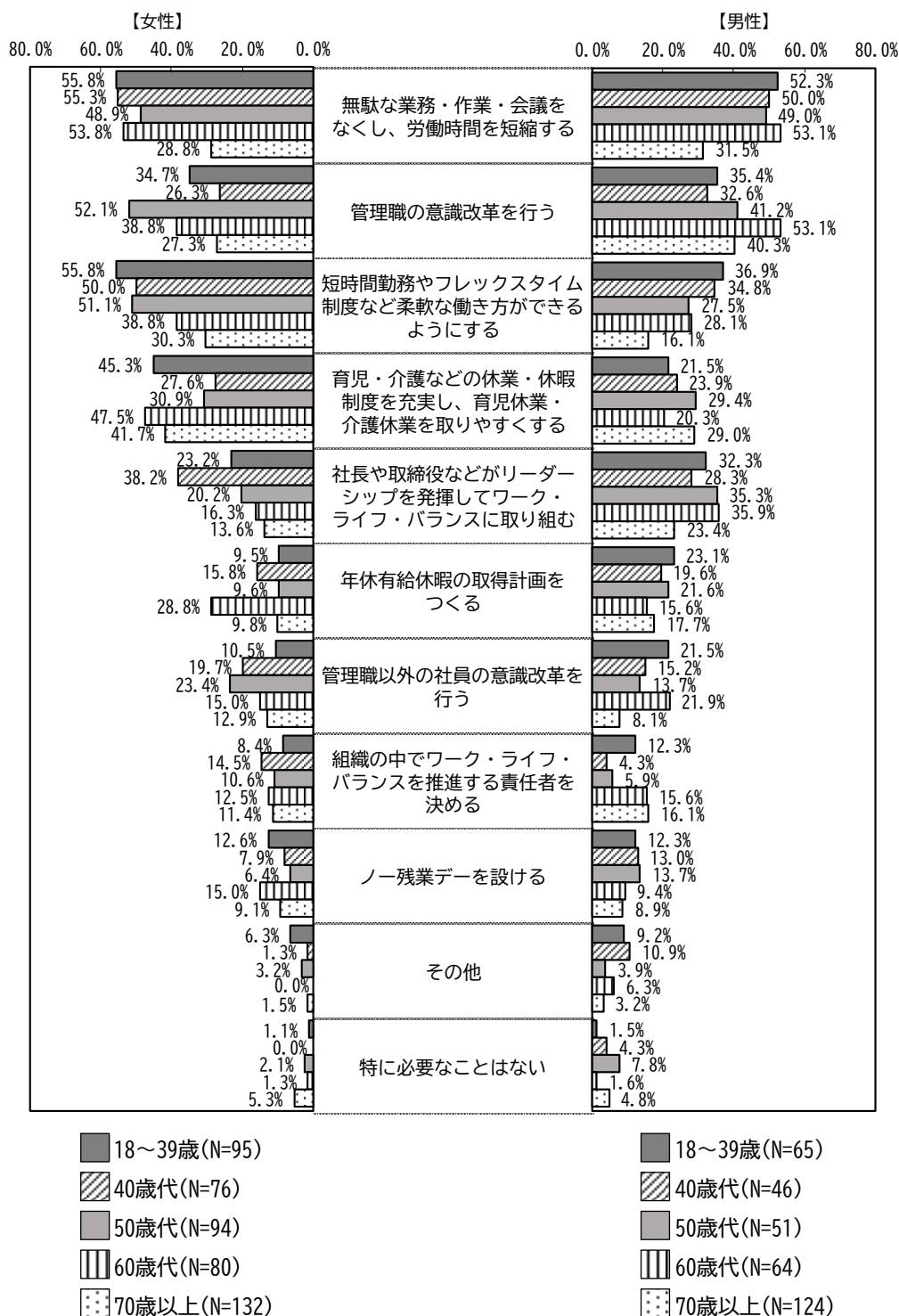
【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では、「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」と「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」は年齢が低いほど概ね高くなっています。

男性では、60歳代以下で「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」が高くなっており、どの年齢も約5割となっています。70歳以上では「管理職の意識改革を行う」が40.3%で高くなっています。

「育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児休業・介護休業を取りやすくする」は、女性が60歳代で27.2ポイント、18～39歳で23.8ポイントと大幅に高くなっています。

図 【性年齢別】 ワーク・ライフ・バランス実現のために必要な職場における取組（3つ以内で複数回答）



〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 12 職場でのワーク・ライフ・バランス実現への取組〕

同居している子どもの年齢別に必要な職場でのワーク・ライフ・バランス実現への取組をみると、小学生以下と1～5以外は「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」が約4割から約5割、中学生は「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」が44.7%、高校生以上の学生は「管理職の意識改革を行う」と「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」がいずれも41.4%で高くなっています。

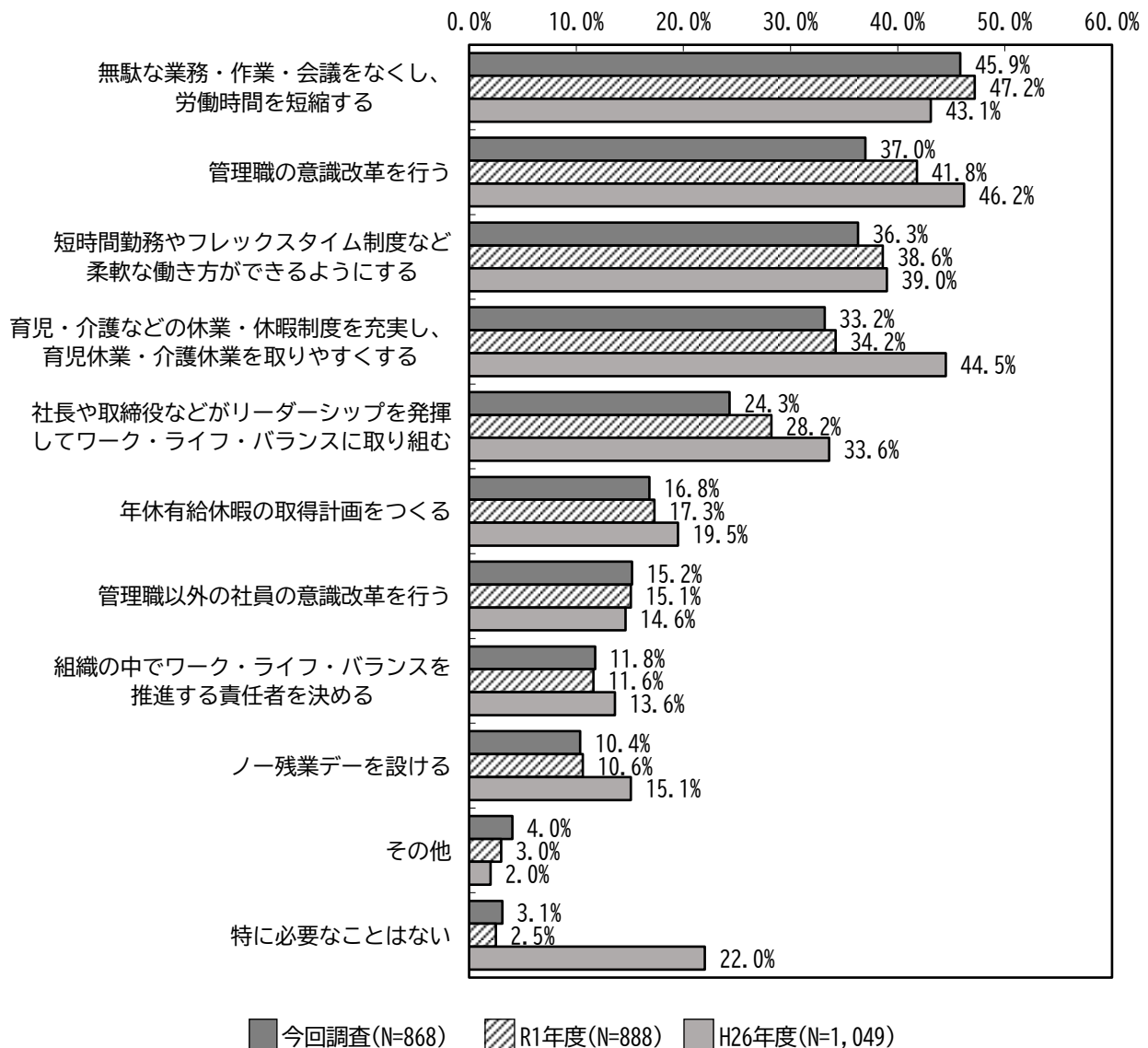
図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問12 職場でのワーク・ライフ・バランス実現への取組

	社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む	組織の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める	管理職の意識改革を行う	管理職以外の社員の意識改革を行う	無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する	年休有給休暇の取得計画をつくる	ノー残業デーを設ける	育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児休業・介護休業を取りやすくする	短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする	その他	特に必要なことはない	有効回答数
0～2歳	10 28.6%	1 2.9%	10 28.6%	5 14.3%	19 54.3%	5 14.3%	6 17.1%	15 42.9%	15 42.9%	1 2.9%	1 2.9%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	16 34.0%	4 8.5%	14 29.8%	7 14.9%	25 53.2%	8 17.0%	5 10.6%	17 36.2%	16 34.0%	4 8.5%	0 0.0%	47 100.0%
小学生	25 30.9%	7 8.6%	30 37.0%	10 12.3%	40 49.4%	16 19.8%	6 7.4%	24 29.6%	38 46.9%	2 2.5%	0 0.0%	81 100.0%
中学生	18 38.3%	7 14.9%	16 34.0%	8 17.0%	19 40.4%	6 12.8%	4 8.5%	12 25.5%	21 44.7%	2 4.3%	0 0.0%	47 100.0%
高校生以上の学生	24 27.6%	12 13.8%	36 41.4%	18 20.7%	36 41.4%	13 14.9%	8 9.2%	28 32.2%	30 34.5%	3 3.4%	3 3.4%	87 100.0%
1～5以外	29 23.6%	14 11.4%	44 35.8%	12 9.8%	48 39.0%	19 15.4%	14 11.4%	46 37.4%	44 35.8%	4 3.3%	5 4.1%	123 100.0%
有効回答数	86 27.3%	35 11.1%	115 36.5%	46 14.6%	136 43.2%	52 16.5%	32 10.2%	101 32.1%	118 37.5%	10 3.2%	11 3.5%	315 100.0%

〔本市調査の経年比較〕

本市調査を経年で比較すると、「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」、「管理職以外の社員の意識改革を行う」、「組織の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める」、「その他」、「特に必要なことはない」以外では平成 26 年度以降、年々低くなっています。

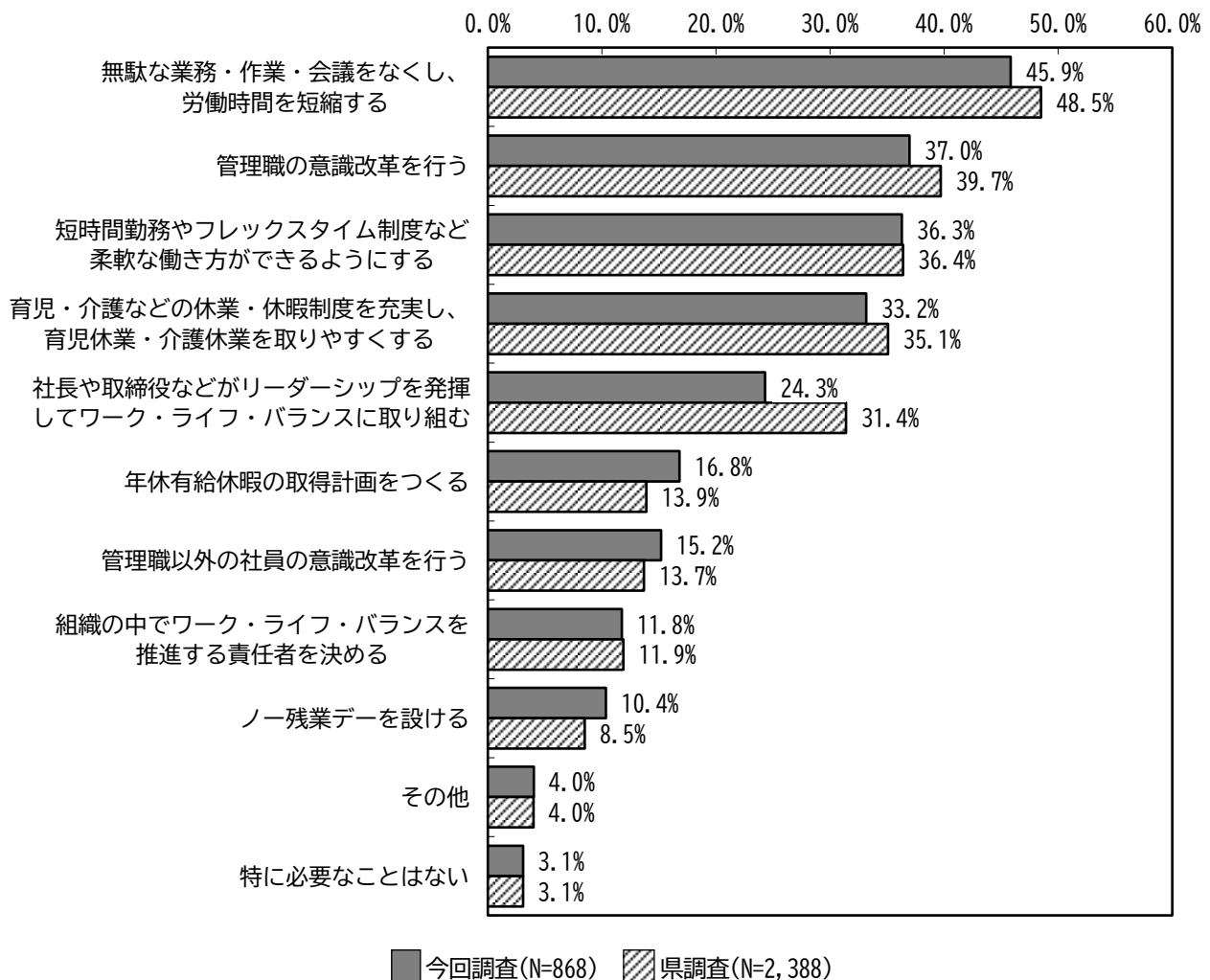
図 職場でのワーク・ライフ・バランス実現への必要な取組（3つ以内で複数回答）〔本市調査の経年比較（平成26・令和元年度）〕



〔滋賀県調査との比較〕

滋賀県調査と比較すると、「社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」は滋賀県調査の方が7.1ポイント高くなっています。その他の選択肢では概ね同様の結果となっています。

図 職場でのワーク・ライフ・バランス実現への必要な取組（3つ以内で複数回答）〔滋賀県調査との比較〕



（４）男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと

問 13 あなたは今後、男性が家事・子育て・介護などの家庭生活により積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

全体でみると、「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が 50.9%で最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(40.9%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」(39.4%)となっています。

【性別】

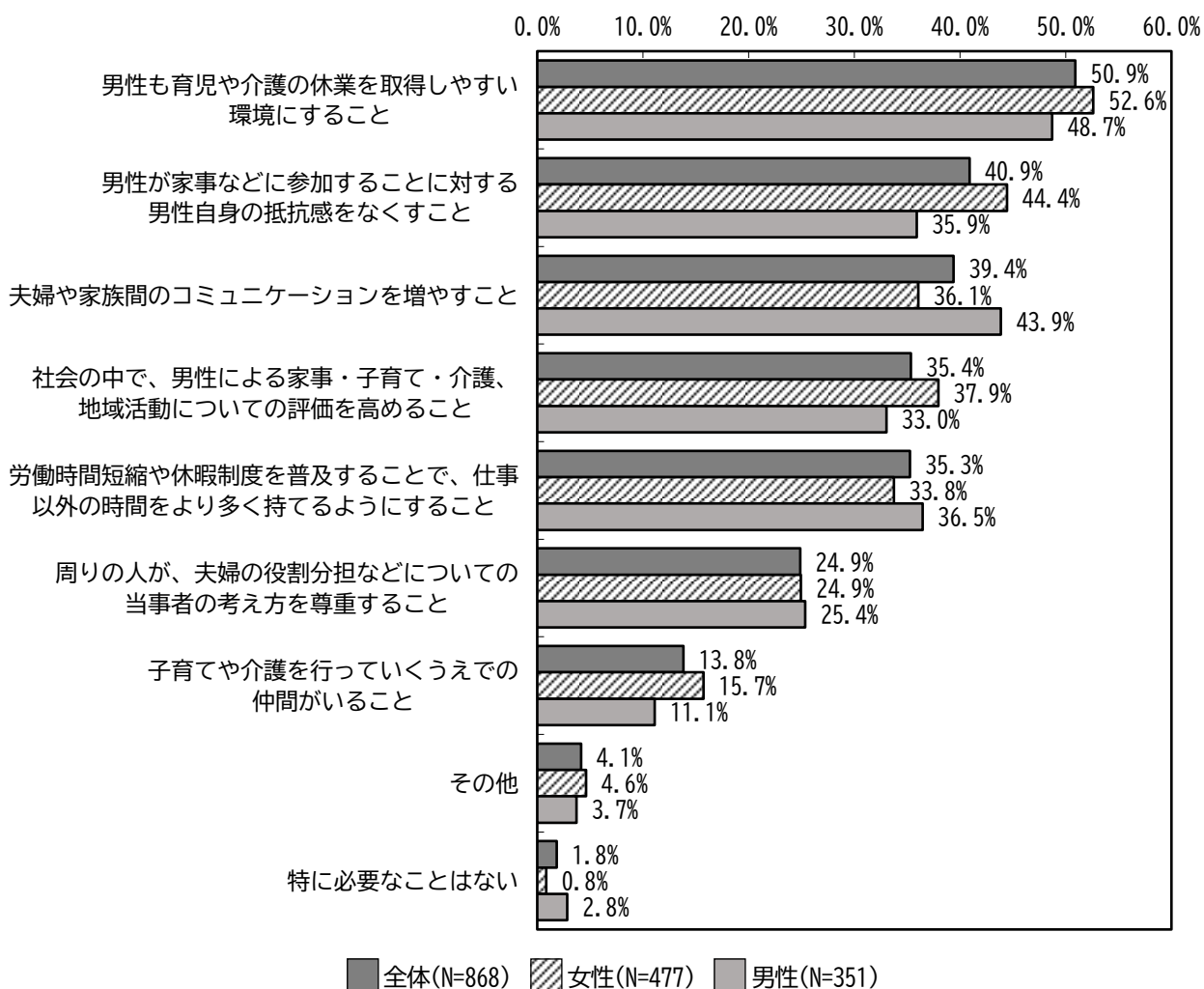
性別でみると、男女とも「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が最も高く、約5割となっています。

次いで、女性では、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「社会の中で、男性による家事・子育て・介護、地域活動についての評価を高めること」が約4割となっています。

男性では、「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が約4割となっています。

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、女性が 8.5 ポイント、「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」は、男性が 7.8 ポイント高くなっています。

図 【性別】 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと（3つ以内で複数回答）



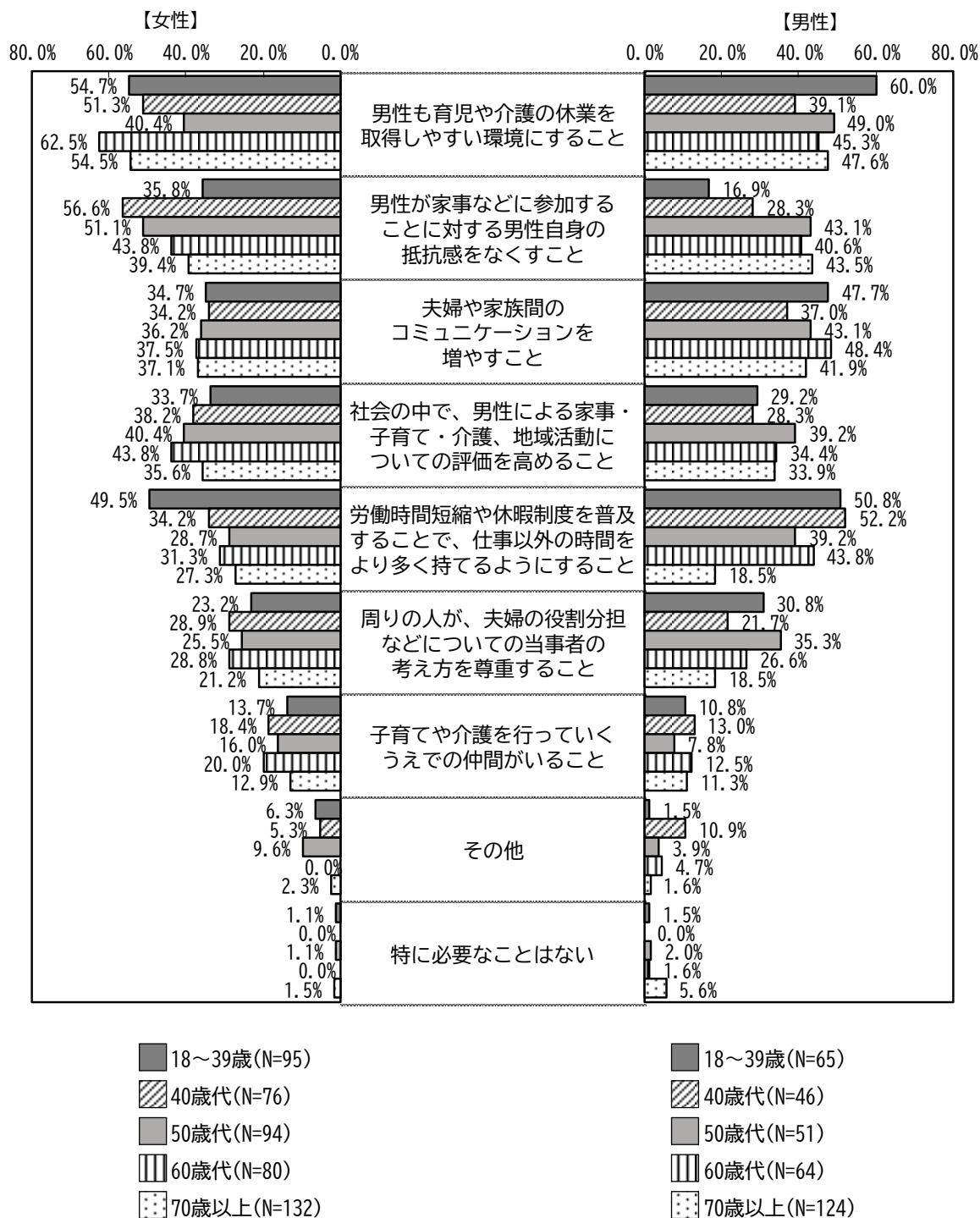
【性年齢別】

性年齢別でみると、男女とも18～39歳・70歳以上で「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が最も高くなっており、約5割から約6割を占めています。

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、40歳代で女性が28.3ポイントと大幅に高くなっています。

「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は、40歳代で男性が18.0ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと（3つ以内で複数回答）



〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 13 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと〕

同居している子どもの年齢別に男性の積極的家庭生活参加のために必要なことをみると、未就学児（3歳～6歳）以下は「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が約7割、小学生は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」がいずれも42.0%、中学生・高校生以上の学生は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が約5割、1～5以外は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」がいずれも46.3%で高くなっています。

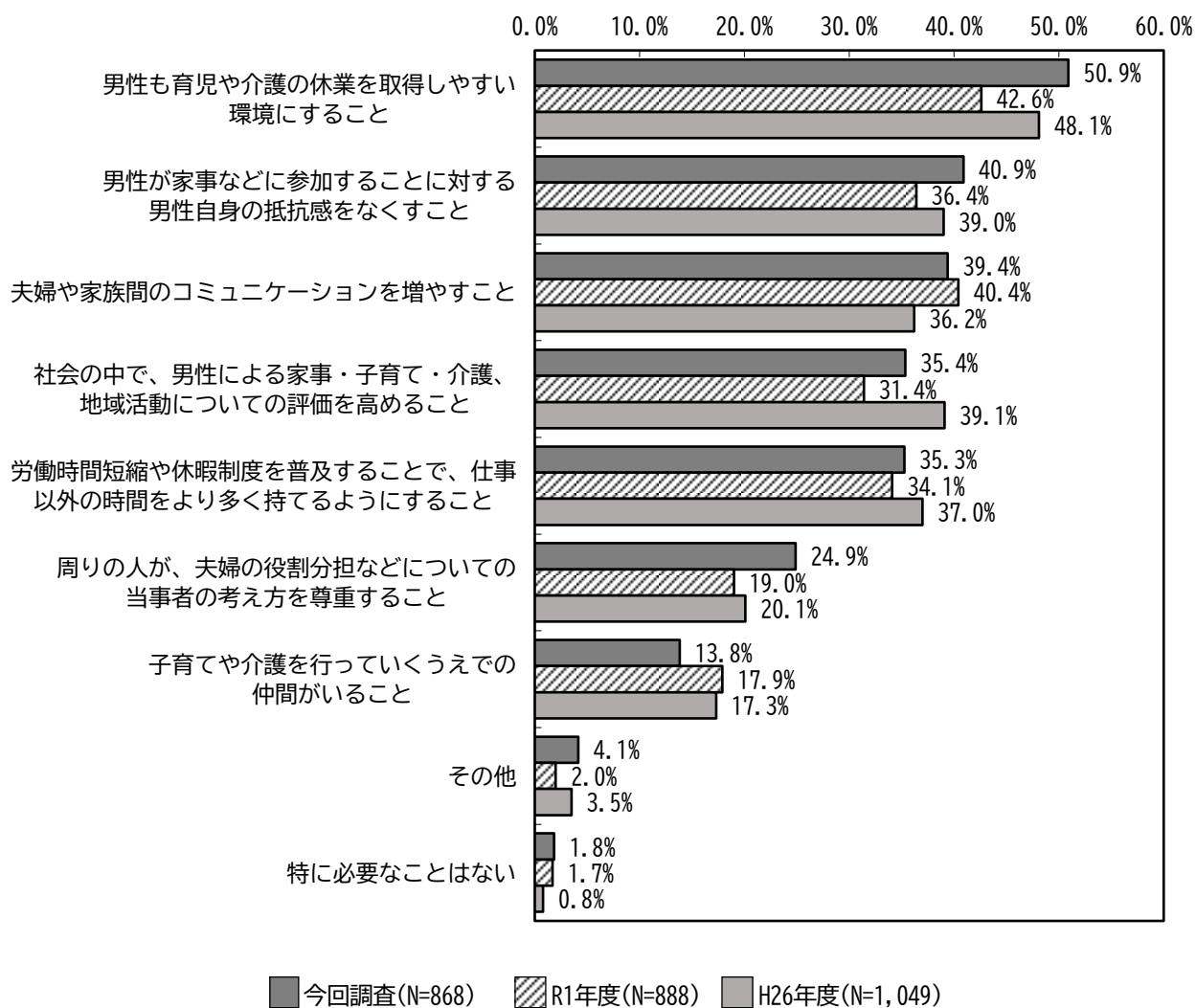
図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問13 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと

	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと	周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・子育て・介護、地域活動についての評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること	子育てや介護を行っていくうえで仲間がいること	その他	特に必要はない	有効回答数
0～2歳	10 28.6%	18 51.4%	7 20.0%	11 31.4%	16 45.7%	23 65.7%	2 5.7%	0 0.0%	1 2.9%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	17 36.2%	15 31.9%	9 19.1%	15 31.9%	22 46.8%	31 66.0%	6 12.8%	3 6.4%	0 0.0%	47 100.0%
小学生	34 42.0%	28 34.6%	22 27.2%	29 35.8%	29 35.8%	34 42.0%	16 19.8%	7 8.6%	0 0.0%	81 100.0%
中学生	24 51.1%	17 36.2%	11 23.4%	15 31.9%	14 29.8%	18 38.3%	10 21.3%	5 10.6%	0 0.0%	47 100.0%
高校生以上の学生	44 50.6%	34 39.1%	26 29.9%	26 29.9%	30 34.5%	39 44.8%	13 14.9%	4 4.6%	0 0.0%	87 100.0%
1～5以外	57 46.3%	48 39.0%	26 21.1%	52 42.3%	34 27.6%	57 46.3%	19 15.4%	7 5.7%	4 3.3%	123 100.0%
有効回答数	136 43.2%	121 38.4%	74 23.5%	119 37.8%	108 34.3%	146 46.3%	48 15.2%	17 5.4%	5 1.6%	315 100.0%

〔本市調査の経年比較〕

本市調査を経年で比較すると、「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」、「周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」は平成26年度から今回調査では微増しています。

図 男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと（3つ以内で複数回答）〔本市調査の経年比較（平成26・令和元年度）〕



（５）男性の育児休業・介護休業取得についての考え

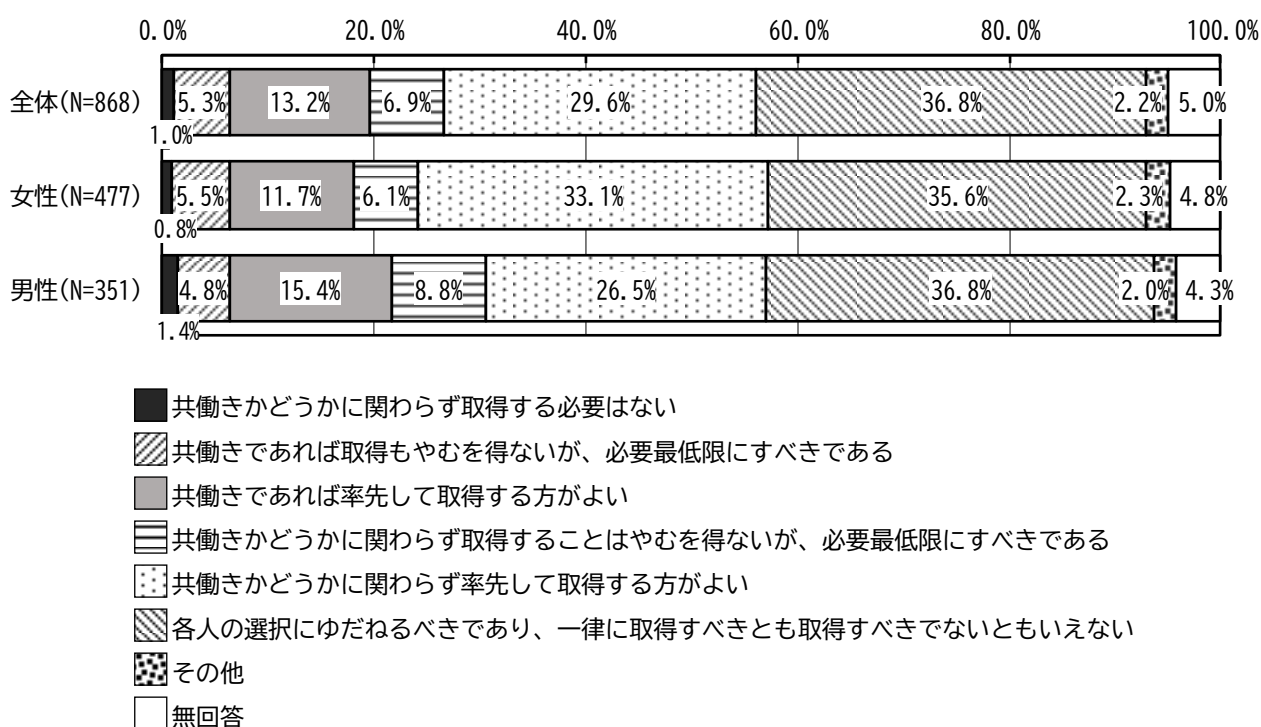
問 14 あなたは、男性が、育児休業や介護休業を取得することをどのように感じられますか。最も近い項目を選んでください。（１つに○）

全体でみると、「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない」が 36.8% で最も高く、次いで「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」(29.6%)、「共働きであれば率先して取得する方がよい」(13.2%) となっています。

【性別】

性別でみると、「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」は女性が 6.6 ポイント高くなっています。

図 【性別】男性の育児休業や介護休業取得についての考え



【性年齢別】

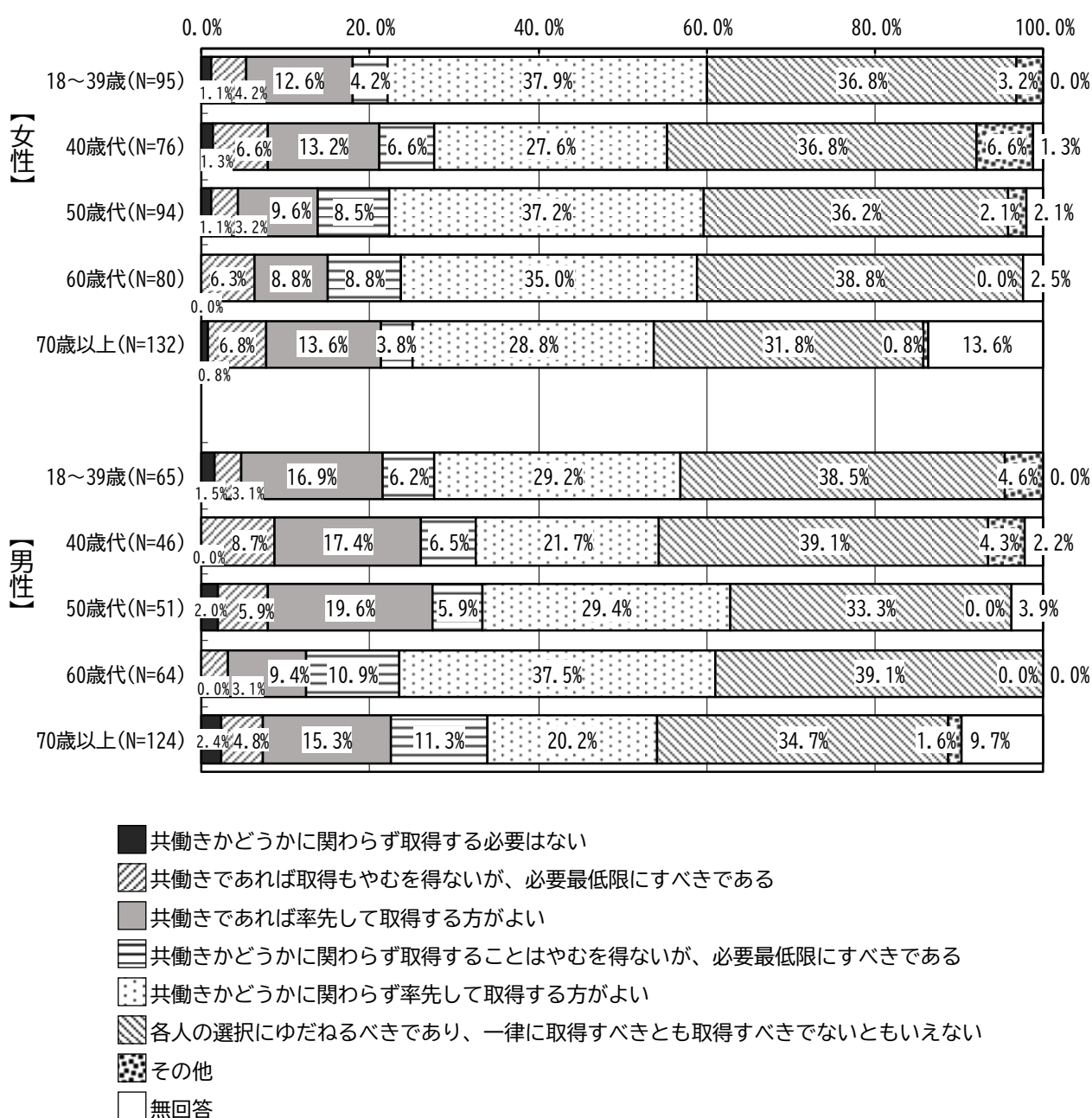
性年齢別でみると、女性では、18～39歳・50歳代で「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」、40・60歳代・70歳以上で「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない」が最も高くなっています。

男性では、すべての年齢で「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない」が最も高くなっています。

「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」は、18～39歳で女性が8.7ポイント高くなっています。

「共働きであれば率先して取得する方がよい」は、50歳代で男性が10.0ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】 男性の育児休業や介護休業取得についての考え



〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 14 男性の育児休業や介護休業取得について〕

同居している子どもの年齢別に男性の育児休業や介護休業取得についてみると、0～2歳と1～5以外は「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」が約4割から約5割、未就学児（3歳～6歳）は「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」と「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない」がいずれも31.9%、小学生・中学生・高校生以上の学生は「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない」が約3割から約5割でそれぞれ高くなっています。

図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問14 男性の育児休業や介護休業取得についての考え

	共働きかどうかに関わらず取得する必要はない	共働きであれば取得もやむを得ないが、必要最低限にすべきである	共働きであれば率先して取得する方がよい	共働きかどうかに関わらず取得することはやむを得ないが、必要最低限にすべきである	共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい	各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない	その他	無回答	合計
0～2歳	1 2.9%	0 0.0%	5 14.3%	1 2.9%	16 45.7%	11 31.4%	0 0.0%	1 2.9%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	0 0.0%	4 8.5%	8 17.0%	2 4.3%	15 31.9%	15 31.9%	2 4.3%	1 2.1%	47 100.0%
小学生	0 0.0%	6 7.4%	11 13.6%	7 8.6%	22 27.2%	28 34.6%	5 6.2%	2 2.5%	81 100.0%
中学生	0 0.0%	2 4.3%	6 12.8%	3 6.4%	10 21.3%	22 46.8%	3 6.4%	1 2.1%	47 100.0%
高校生以上の学生	0 0.0%	4 4.6%	12 13.8%	7 8.0%	19 21.8%	39 44.8%	3 3.4%	3 3.4%	87 100.0%
1～5以外	0 0.0%	8 6.5%	13 10.6%	9 7.3%	44 35.8%	38 30.9%	2 1.6%	9 7.3%	123 100.0%
有効回答数	1 0.3%	17 5.4%	38 12.1%	24 7.6%	101 32.1%	110 34.9%	9 2.9%	15 4.8%	315 100.0%

（６）男性の育児休業・介護休業取得のために必要な職場における取組

問 15 あなたは、男性の育児休業や介護休業の取得を進めるために、職場においてどのような取組が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

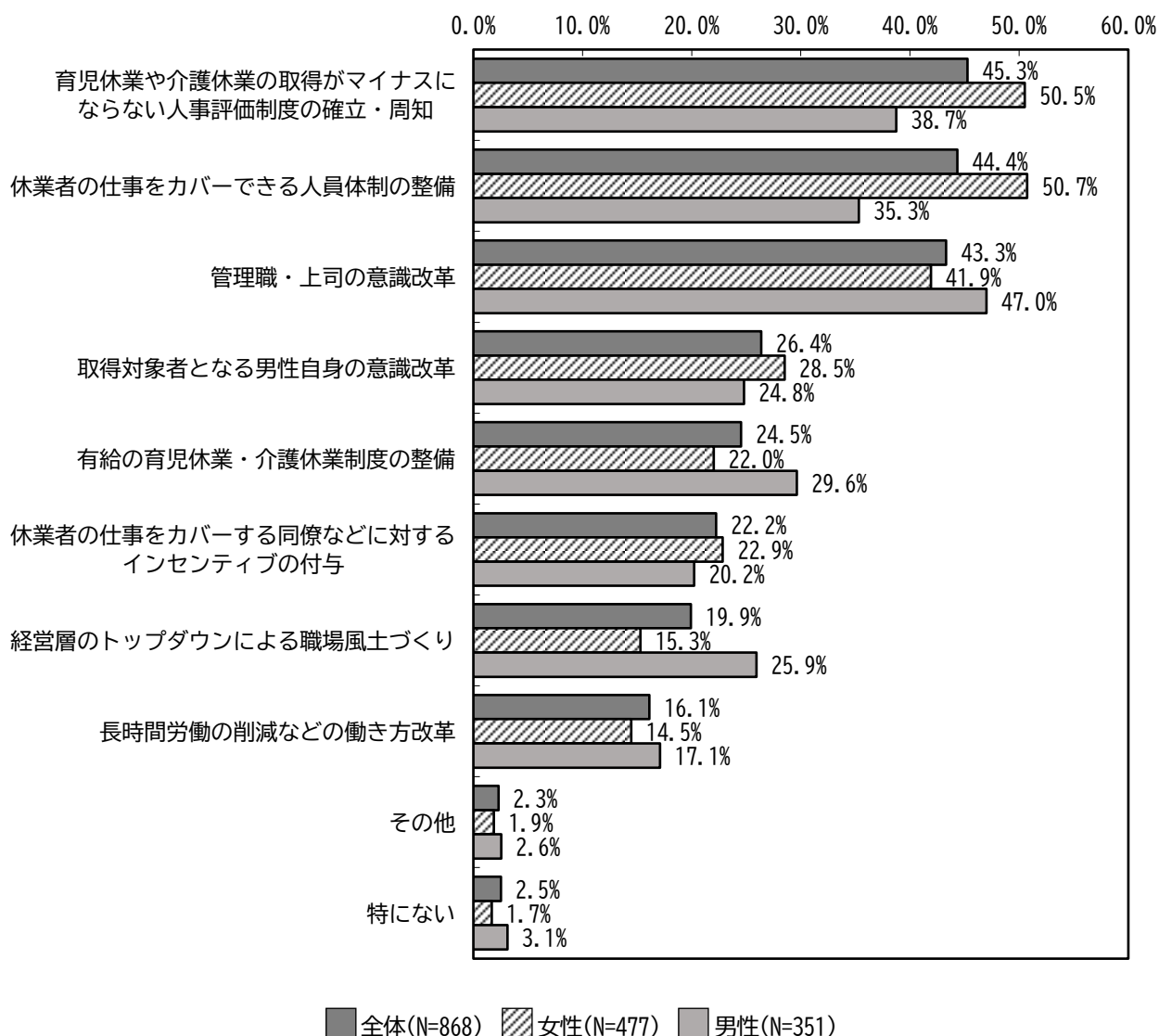
全体でみると、「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」が45.3%で最も高く、次いで「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」（44.4%）、「管理職・上司の意識改革」（43.3%）となっています。

【性別】

性別でみると、女性では、「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」、「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」が50%を超えています。

男性は女性と比べ、「経営層のトップダウンによる職場風土づくり」が10.6ポイント、「有給の育児休業・介護休業制度の整備」が7.6ポイント高くなっています。

図 【性別】 男性の育児休業や介護休業取得のために必要な職場における取組

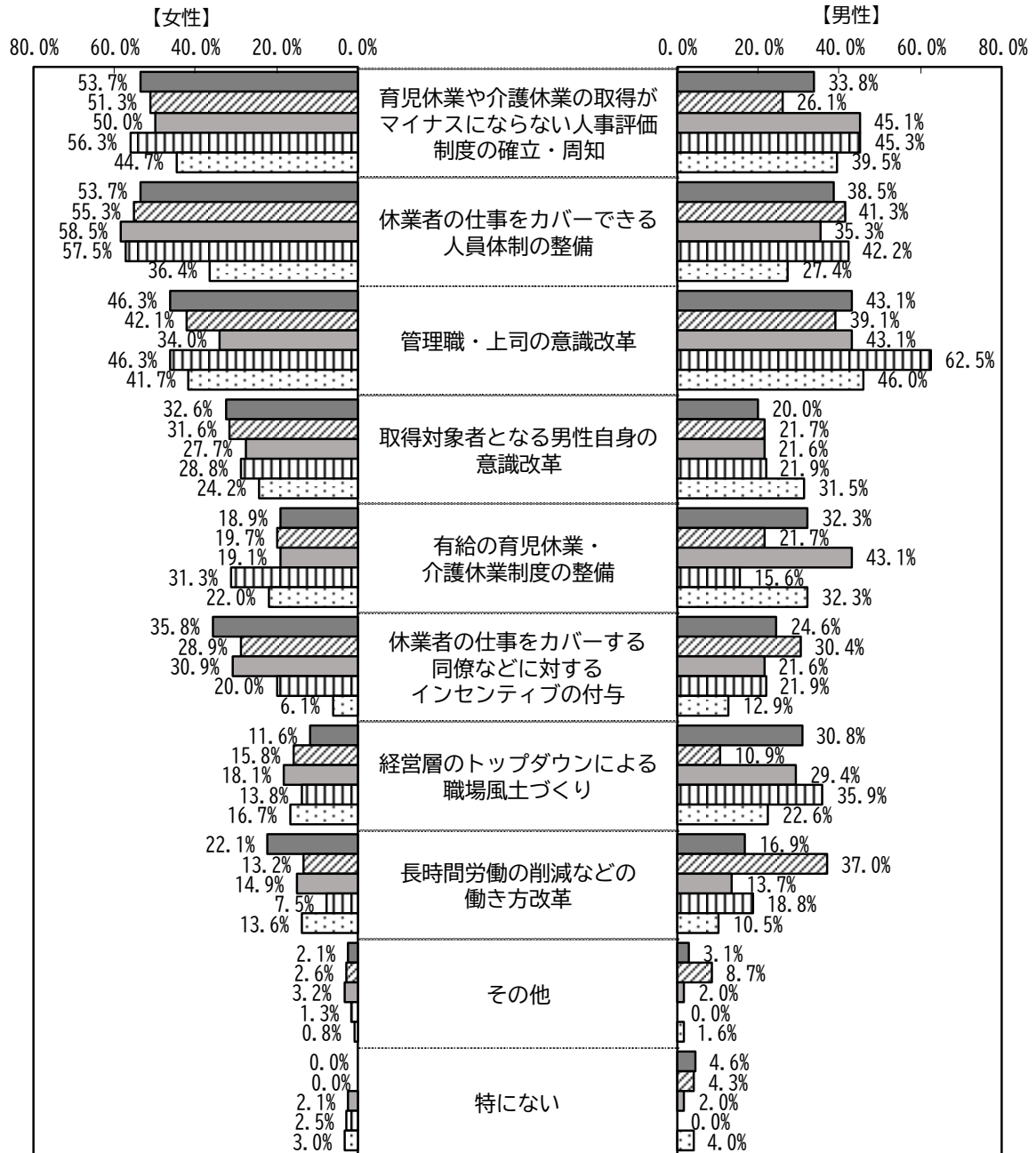


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性は男性に比べ、40歳代で「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」が25.2ポイント、50歳代で「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」が23.2ポイント高くなっています。

一方、男性は女性に比べ、50歳代で「有給の育児休業・介護休業制度の整備」が24.0ポイント、40歳代で「長時間労働の削減などの働き方改革」が23.8ポイント、60歳代で「経営層のトップダウンによる職場風土づくり」が22.1ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】 男性の育児休業や介護休業取得のために必要な職場における取組



■ 18～39歳(N=95)
 ▨ 40歳代(N=76)
 ■ 50歳代(N=94)
 ▨ 60歳代(N=80)
 ▨ 70歳以上(N=132)

■ 18～39歳(N=65)
 ▨ 40歳代(N=46)
 ■ 50歳代(N=51)
 ▨ 60歳代(N=64)
 ▨ 70歳以上(N=124)

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 15 男性の育児休業や介護休業取得のために必要な職場における取組〕

同居している子どもの年齢別に男性の育児休業や介護休業取得のために必要な職場における取組についてみると、0～2歳・未就学児（3歳～6歳）・中学生は「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」が約5割、小学生は「管理職・上司の意識改革」が46.9%、高校生以上の学生と1～5以外は「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」が約4割から約5割でそれぞれ高くなっています。

図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問15 男性の育児休業や介護休業取得のために必要な職場における取組

	取得対象者となる男性自身の意識改革	管理職・上司の意識改革	経営層のトップダウンによる職場風土づくり	育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知	有給の育児休業・介護休業制度の整備	長時間労働の削減などの働き方改革	休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備	休業者の仕事をカバーする同僚などに対するインセンティブの付与	その他	特になし	有効回答数
0～2歳	10 28.6%	13 37.1%	7 20.0%	18 51.4%	8 22.9%	9 25.7%	15 42.9%	8 22.9%	0 0.0%	1 2.9%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	14 29.8%	20 42.6%	9 19.1%	24 51.1%	13 27.7%	5 10.6%	19 40.4%	14 29.8%	3 6.4%	0 0.0%	47 100.0%
小学生	24 29.6%	38 46.9%	17 21.0%	31 38.3%	13 16.0%	14 17.3%	32 39.5%	24 29.6%	5 6.2%	0 0.0%	81 100.0%
中学生	14 29.8%	18 38.3%	7 14.9%	22 46.8%	10 21.3%	7 14.9%	21 44.7%	16 34.0%	3 6.4%	1 2.1%	47 100.0%
高校生以上の学生	17 19.5%	39 44.8%	18 20.7%	43 49.4%	21 24.1%	17 19.5%	46 52.9%	18 20.7%	2 2.3%	2 2.3%	87 100.0%
1～5以外	35 28.5%	47 38.2%	26 21.1%	45 36.6%	37 30.1%	16 13.0%	53 43.1%	23 18.7%	1 0.8%	7 5.7%	123 100.0%
有効回答数	83 26.3%	133 42.2%	65 20.6%	130 41.3%	75 23.8%	53 16.8%	142 45.1%	73 23.2%	7 2.2%	11 3.5%	315 100.0%

5. 男女間の暴力やハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

問 16 あなたは過去5年間に、職場や学校、地域などで次のようなハラスメントを受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

<職場>

「どれもされたことはない」が54.8%で最も高く、次いで「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」(12.6%)、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたりした」(7.0%)となっています。

<学校>

「どれもされたことはない」が49.1%で最も高く、次いで「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」(2.3%)、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたりした」(1.0%)となっています。

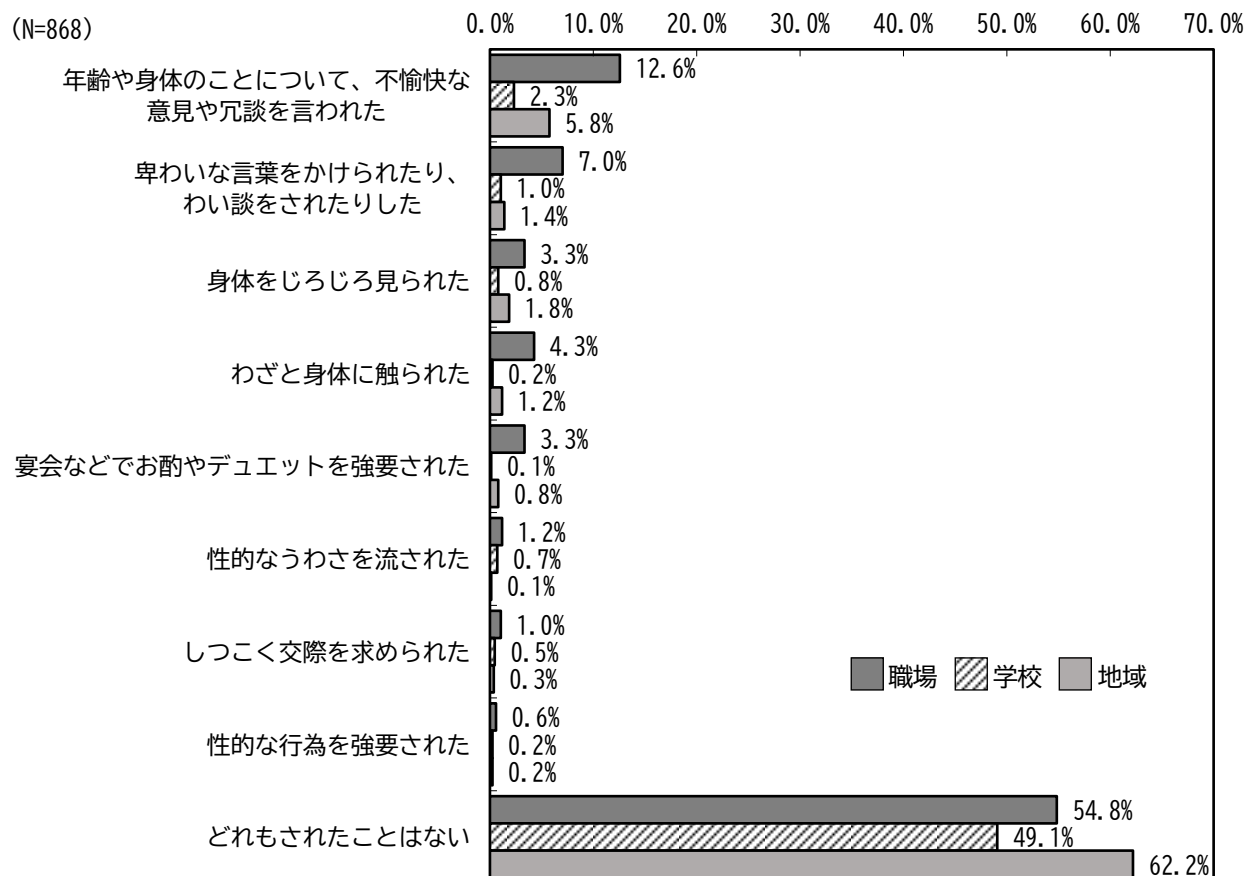
<地域>

「どれもされたことはない」が62.2%で最も高く、次いで「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」(5.8%)、「身体をじろじろ見られた」(1.8%)となっています。

全体でみると、いずれの場面においても「どれもされたことはない」が約5割から約6割にとどまっています。

受けた行為は、いずれの場面においても「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が最も高く、すべての行為において、<職場>で受けた経験が最も高くなっています。

図 セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（複数回答）



【性別】

性別でみると、女性の＜職場＞で受けた経験では、「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたりした」、「わざと身体に触られた」が約1割から約2割と高くなっています。さらに＜地域＞で受けた経験でも、「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が6.7%となっています。

男性では、＜職場＞で受けた経験で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が8.3%となっている以外、すべての場面における経験は5%以内となっています。

図 【性別】セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（複数回答）＜職場＞

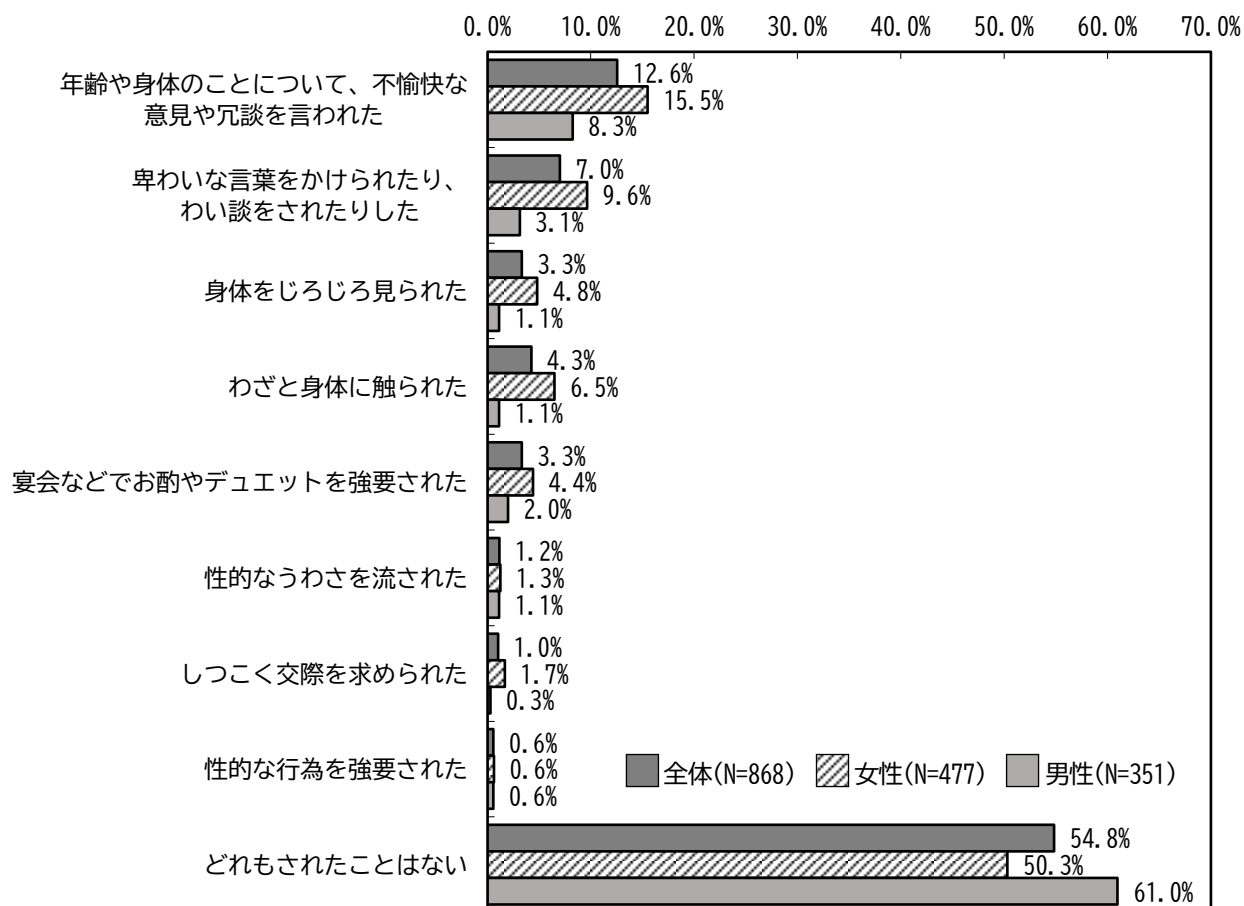


図 【性別】セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（複数回答）＜学校＞

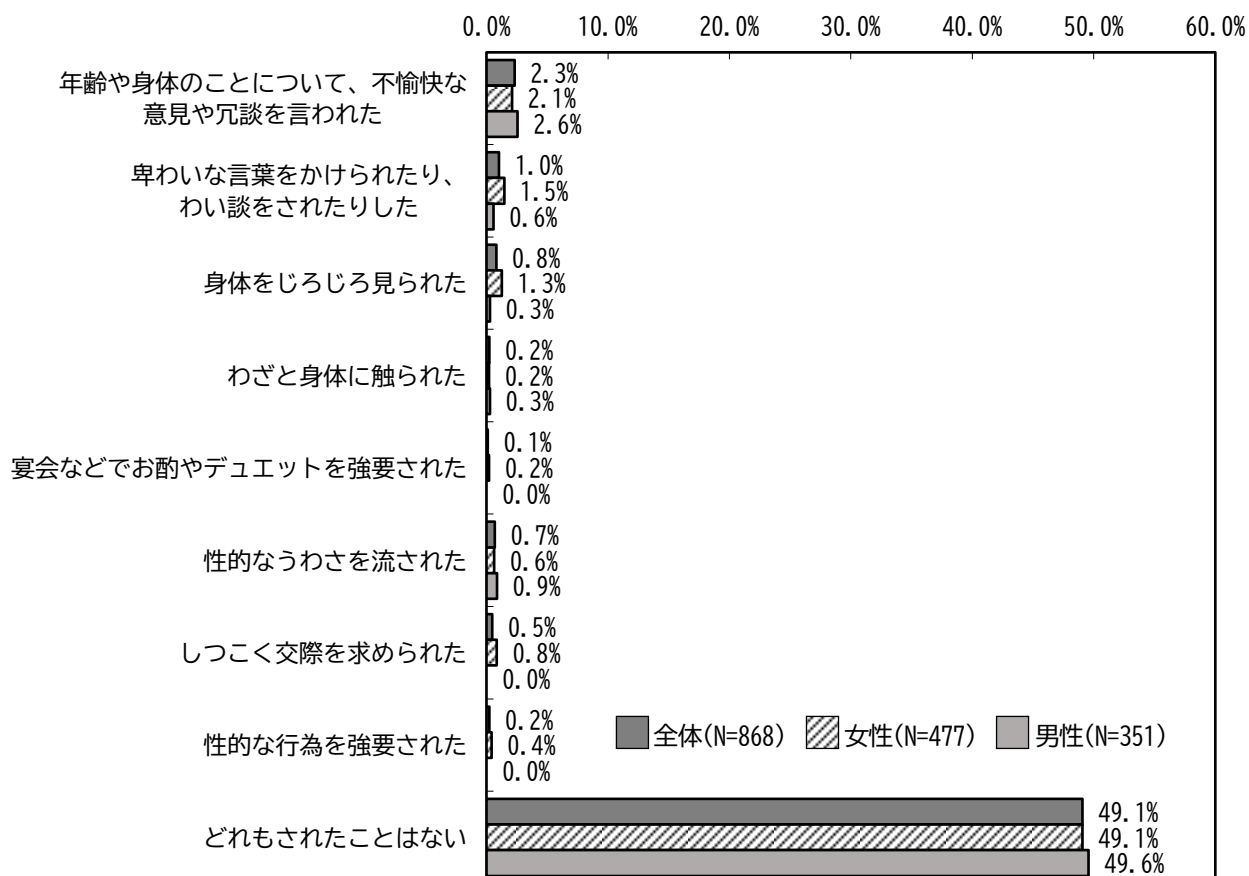
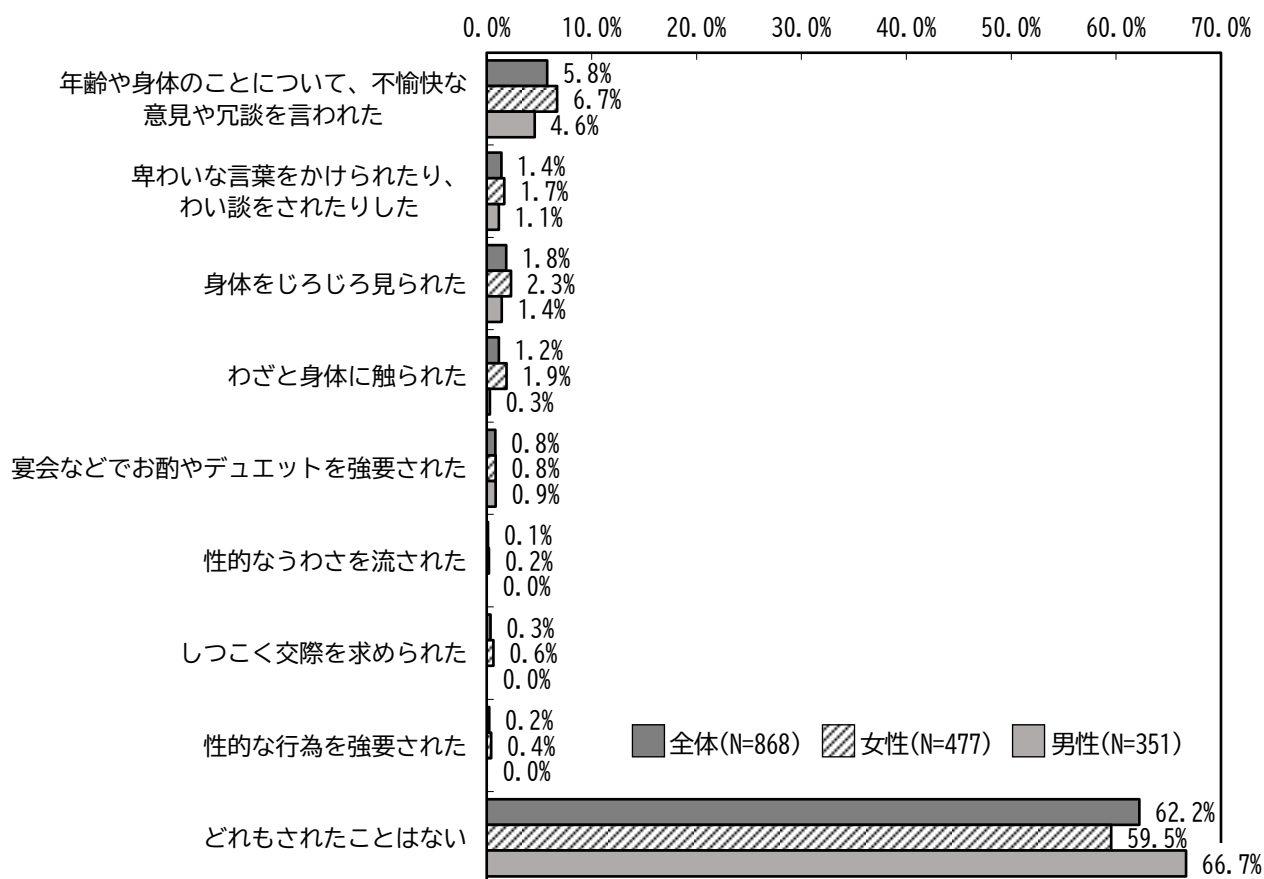


図 【性別】セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（複数回答）＜地域＞



【性年齢別】

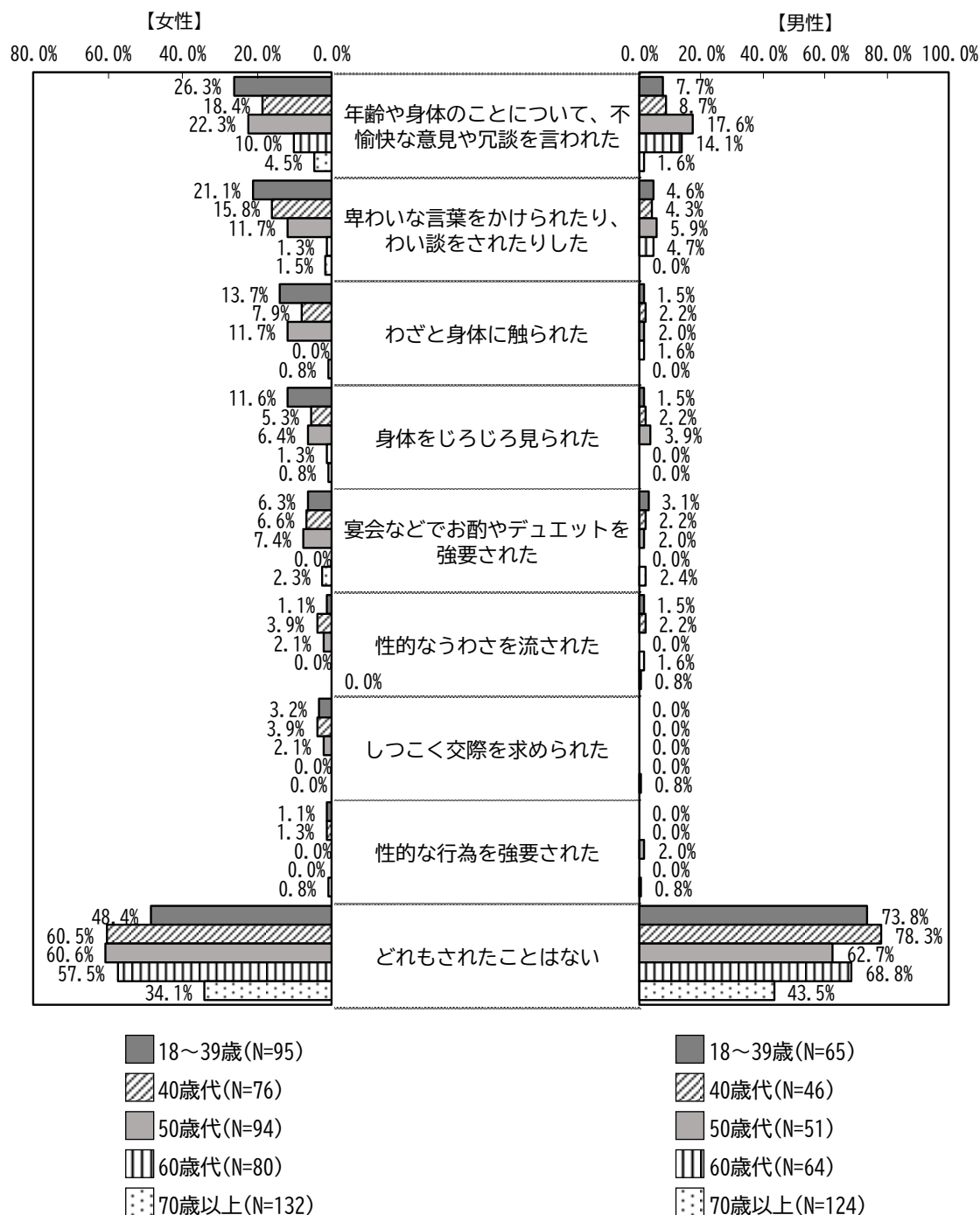
<職場>

性年齢別でみると、女性では、50 歳代以下で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が約 2 割から約 3 割となっています。さらに、40 歳代以下で「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたりした」も約 2 割となっています。60 歳代で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が 10.0%となっています。

男性では、50・60 歳代で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が 10%を超えています。40 歳代以下では「どれもされたことはない」が 70%を超えています。

「性的な行為を強要された」は女性の 18～39 歳・40 歳代・70 歳以上で 1 人、男性の 50 歳代で 1 人となっています。

図 【性年齢別】セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（複数回答）<職場>



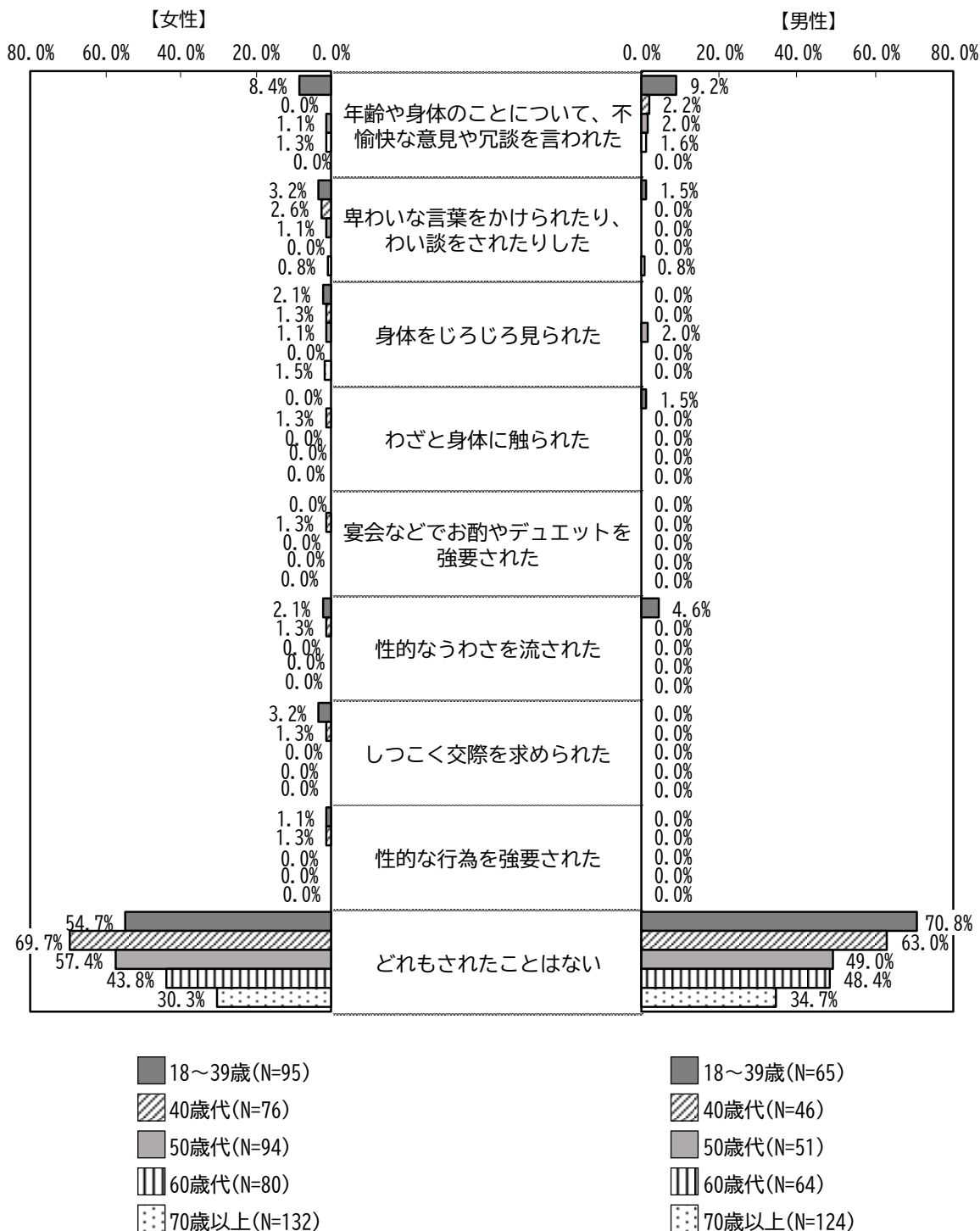
<学校>

性年齢別でみると、女性では、18～39歳で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が8.4%となっています。

男性では、18～39歳で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が9.2%、「性的なうわさを流された」が4.6%となっています。

「性的な行為を強要された」は女性の18～39歳・40歳代で1人となっています。

図 【性年齢別】セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（複数回答）<学校>



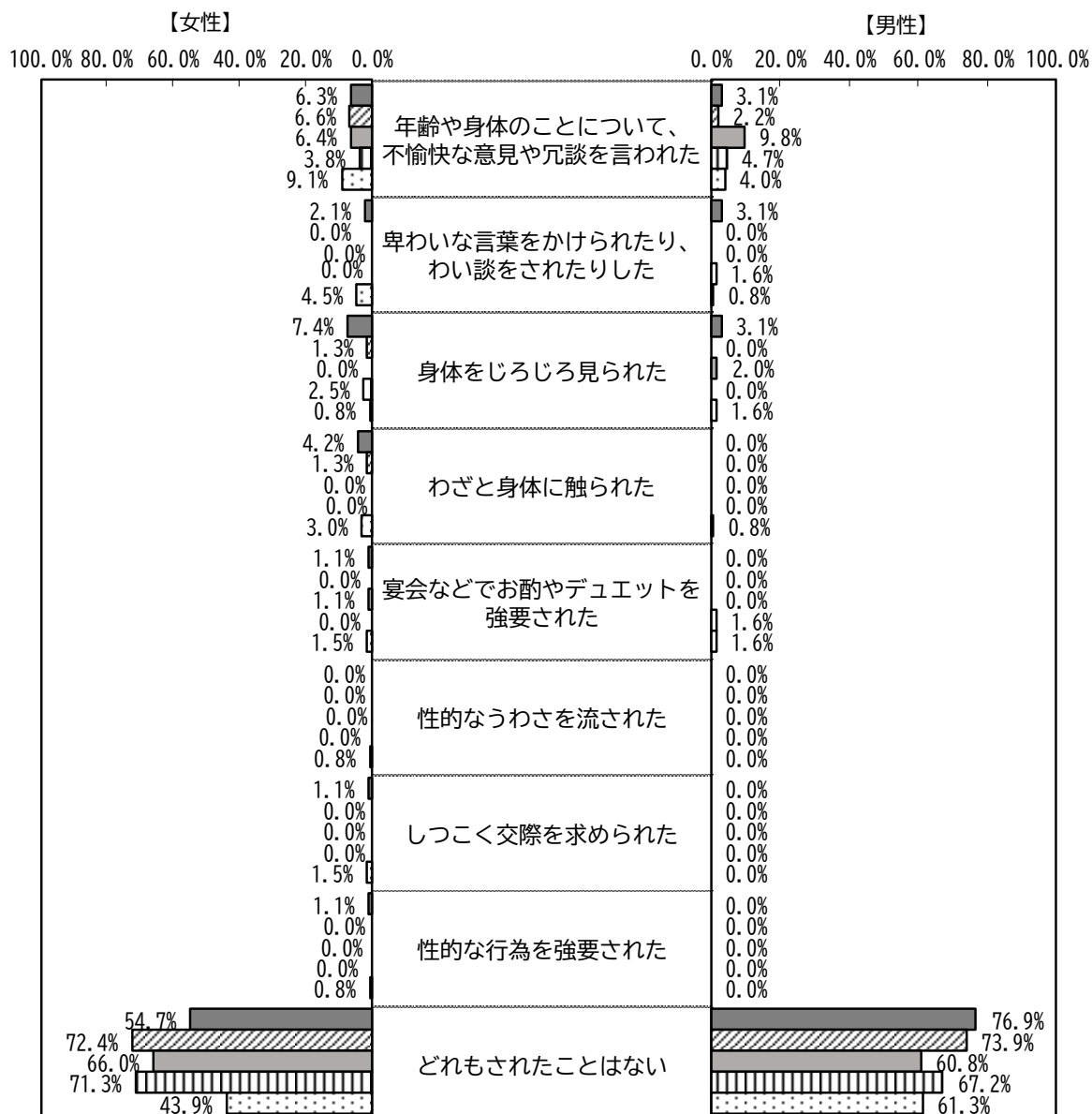
<地域>

性年齢別でみると、女性では、18～39歳で「身体をじろじろ見られた」が7.4%、40歳代以上で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が10%未満で最も高くなっています。

男性では、すべての年齢で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が高く、50歳代では9.8%と最も高くなっています。

「性的な行為を強要された」は女性の18～39歳・70歳以上で1人となっています。

図 【性年齢別】セクシュアル・ハラスメントを受けた経験（複数回答）<地域>



■ 18～39歳(N=95)
 ▨ 40歳代(N=76)
 ■ 50歳代(N=94)
 ▨ 60歳代(N=80)
 ▨ 70歳以上(N=132)

■ 18～39歳(N=65)
 ▨ 40歳代(N=46)
 ■ 50歳代(N=51)
 ▨ 60歳代(N=64)
 ▨ 70歳以上(N=124)

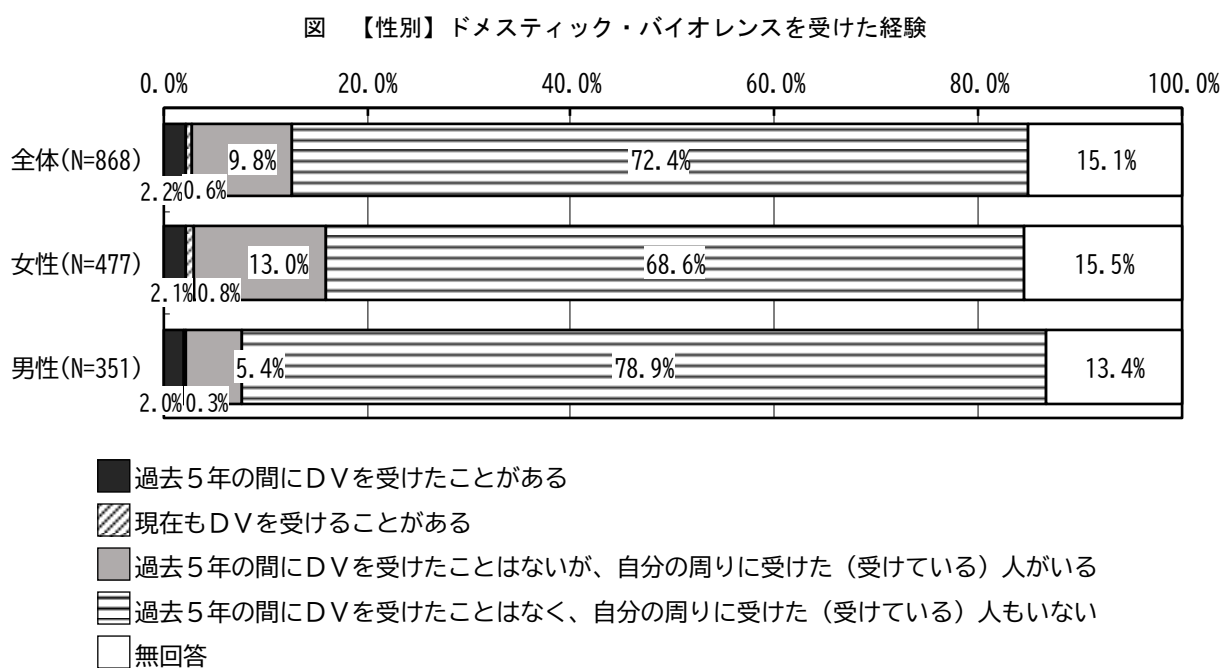
(2) ドメスティック・バイオレンスを受けた経験

問 17 あなたは過去5年間に、配偶者やパートナーなどからドメスティック・バイオレンス（DV）やデートDVを受けた経験や見聞きしたことはありますか。（1つに○）

全体でみると、「過去5年の間にDVを受けたことはなく、自分の周りに受けた（受けている）人もいない」が72.4%で最も高く、次いで「過去5年の間にDVを受けたことはないが、自分の周りに受けた（受けている）人がいる」（9.8%）、「過去5年の間にDVを受けたことがある」（2.2%）となっています。

【性別】

性別でみると、女性では、「過去5年の間にDVを受けたことはないが、自分の周りに受けた（受けている）人がいる」が13.0%で、男性と比べ7.6ポイント高くなっています。

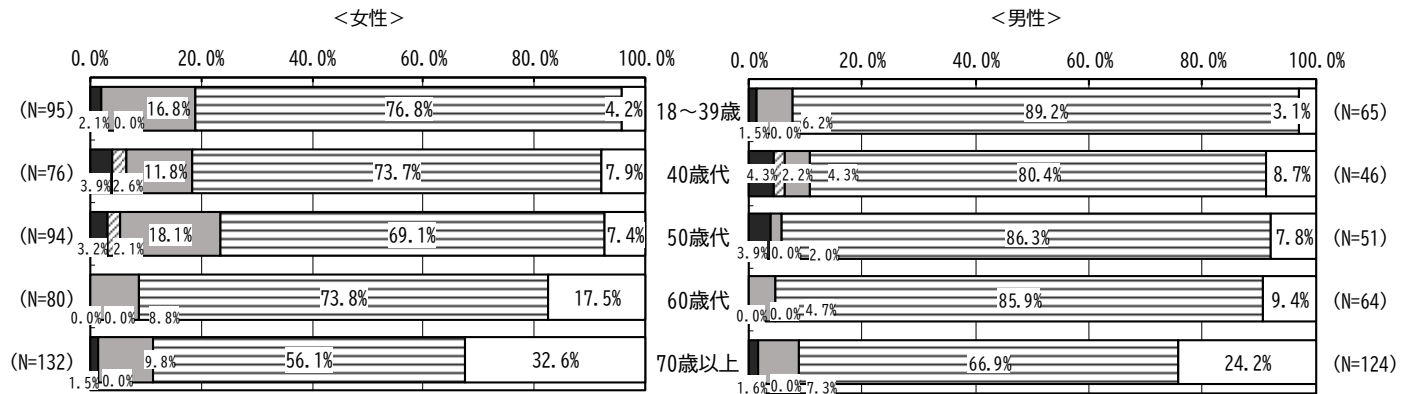


【性年齢別】

性年齢別でみると、男女とも「過去5年の間にDVを受けたことはなく、自分の周りに受けた（受けている）人もいない」は年齢が上がるにつれて概ね低くなっています。

「現在もDVを受けている」は、女性の40・50歳代でそれぞれ2人、男性の40歳代で1人となっています。

図 【性年齢別】ドメスティック・バイオレンスを受けた経験



- 過去5年の間にDVを受けたことがある
- ▨ 現在もDVを受けることがある
- 過去5年の間にDVを受けたことはないが、自分の周りに受けた（受けている）人がいる
- 過去5年の間にDVを受けたことはなく、自分の周りに受けた（受けている）人もいない
- 無回答

(3) ドメスティック・バイオレンスへの対処方法

問 17-1 問 17 で「1. 過去5年の間にDVを受けたことがある」または「2. 現在もDVを受けることがある」と回答された方におたずねします。

あなたは、DVを受けたとき、どのように行動しましたか。(〇はいくつでも)

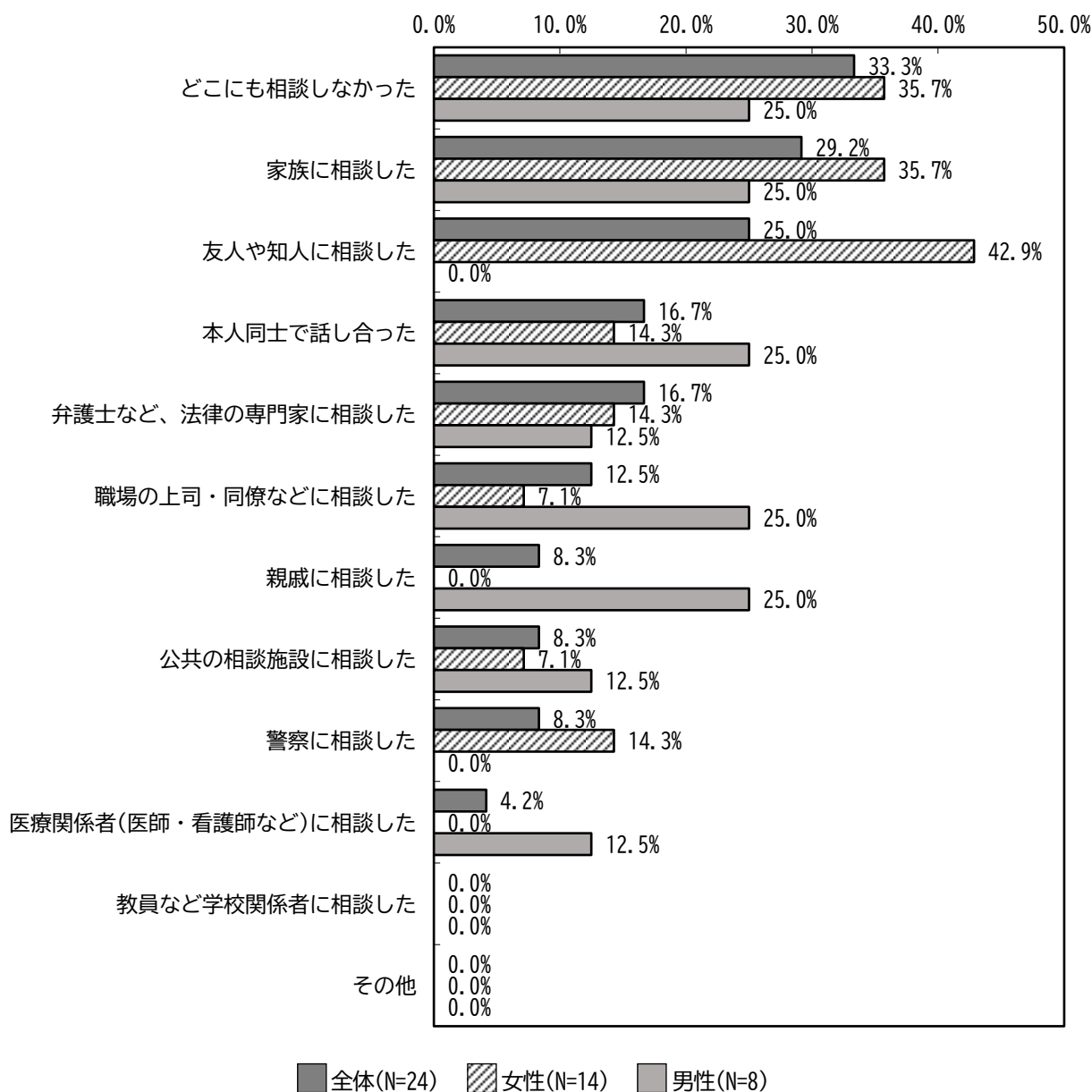
全体でみると、「どこにも相談しなかった」が 33.3%で最も高く、次いで「家族に相談した」(29.2%)、「友人や知人に相談した」(25.0%) となっています。

【性別】

性別でみると、女性では、「友人や知人に相談した」が最も高く 42.9%となっています。次いで、「どこにも相談しなかった」、「家族に相談した」(いずれも 35.7%) となっています。

男性では、「どこにも相談しなかった」、「本人同士で話し合った」、「家族に相談した」、「親戚に相談した」、「職場の上司・同僚などに相談した」がいずれも同率で高くなっています。

図 【性別】ドメスティック・バイオレンスへの対処方法（複数回答）



(4) どこにも相談しなかった理由

問 17-2 問 17-1 で「1. どこにも相談しなかった」と回答された方におたずねします。
相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

全体でみると、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が 62.5%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」「自分にも落ち度があると思ったから」(いずれも 50.0%)となっています。

【性別】

性別でみると、女性では、「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が高くなっています。

男性では、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」、「自分にも落ち度があると思ったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」が高くなっています。

表 【性別】 どこにも相談しなかった理由 (複数回答)

	自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分にも落ち度があると思ったから	相談する人がいなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	相談するほどではないと思ったから	どこに相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから	無回答	有効回答数
全体	5 62.5%	4 50.0%	4 50.0%	3 37.5%	3 37.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
女性	4 80.0%	4 80.0%	2 40.0%	2 40.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
男性	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%

（５）セクシュアリティを理由とした困難な問題や経験の見聞き

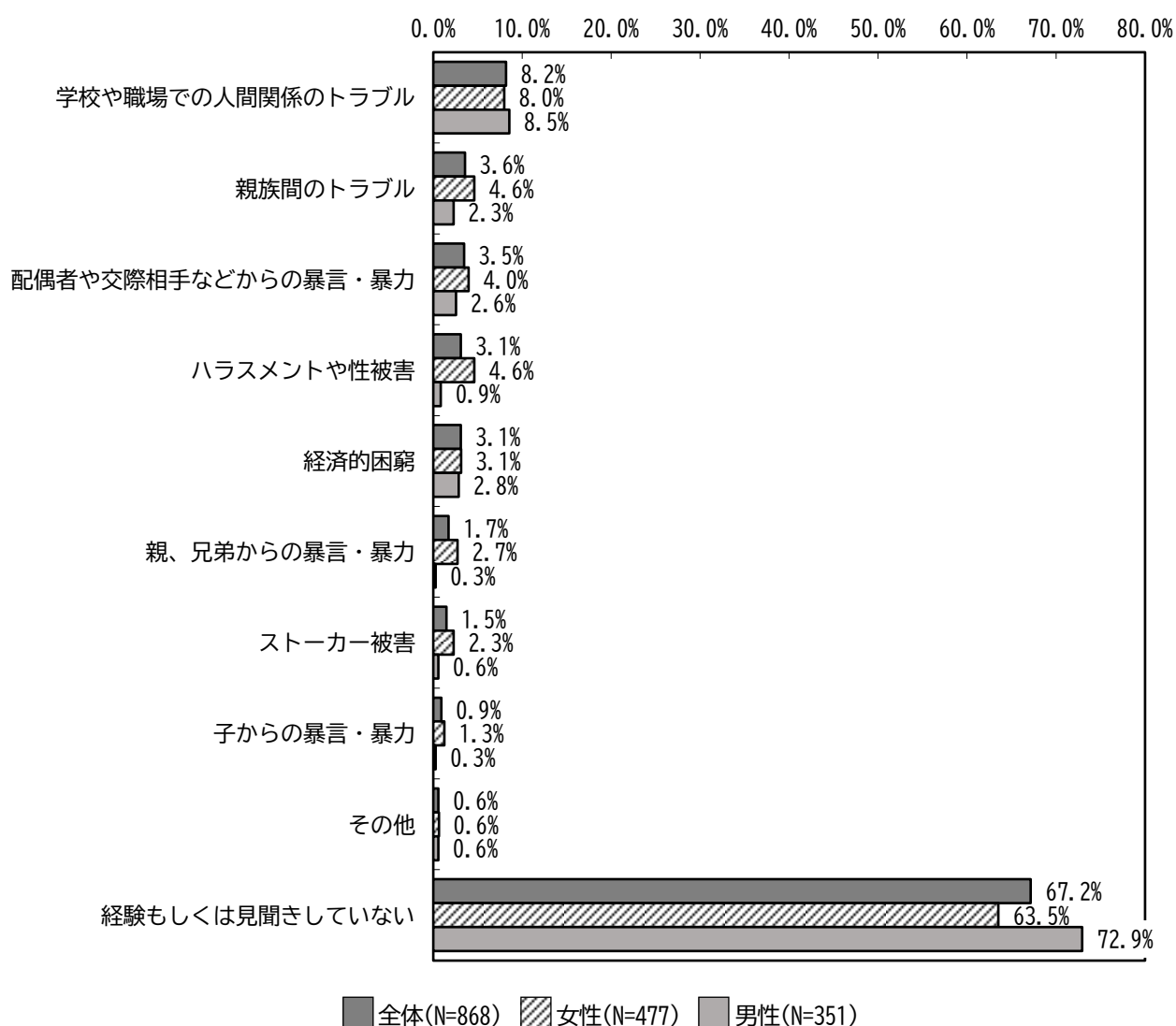
問 18 過去５年間に、あなたもしくは身近な方で、男であること、女であること、自分のセクシュアリティを理由として困難な問題を経験したり、見聞きしたことはありますか。（〇はいくつでも）

全体でみると、「経験もしくは見聞きしていない」が 67.2%で最も高く、次いで「学校や職場での人間関係のトラブル」（8.2%）、「親族間のトラブル」（3.6%）となっています。

【性別】

性別でみると、男女とも「経験もしくは見聞きしていない」が 60%以上を占めており、「学校や職場での人間関係のトラブル」が約 8 %となっている以外は、すべて 5 %未満となっています。

図 【性別】セクシュアリティを理由とした困難な問題の経験や見聞き（複数回答）



（６）セクシュアリティを理由とした問題に対する必要な支援

問 19 あなたは、問 18 のような困難な問題に対する支援として、草津市ではどのような支援があればよいと思いますか。（〇は3つまで）

全体でみると、「気軽に相談できる窓口」が 61.2% で最も高く、次いで「一時保護など緊急時に対応できる体制」(34.4%)、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」(27.8%) となっています。

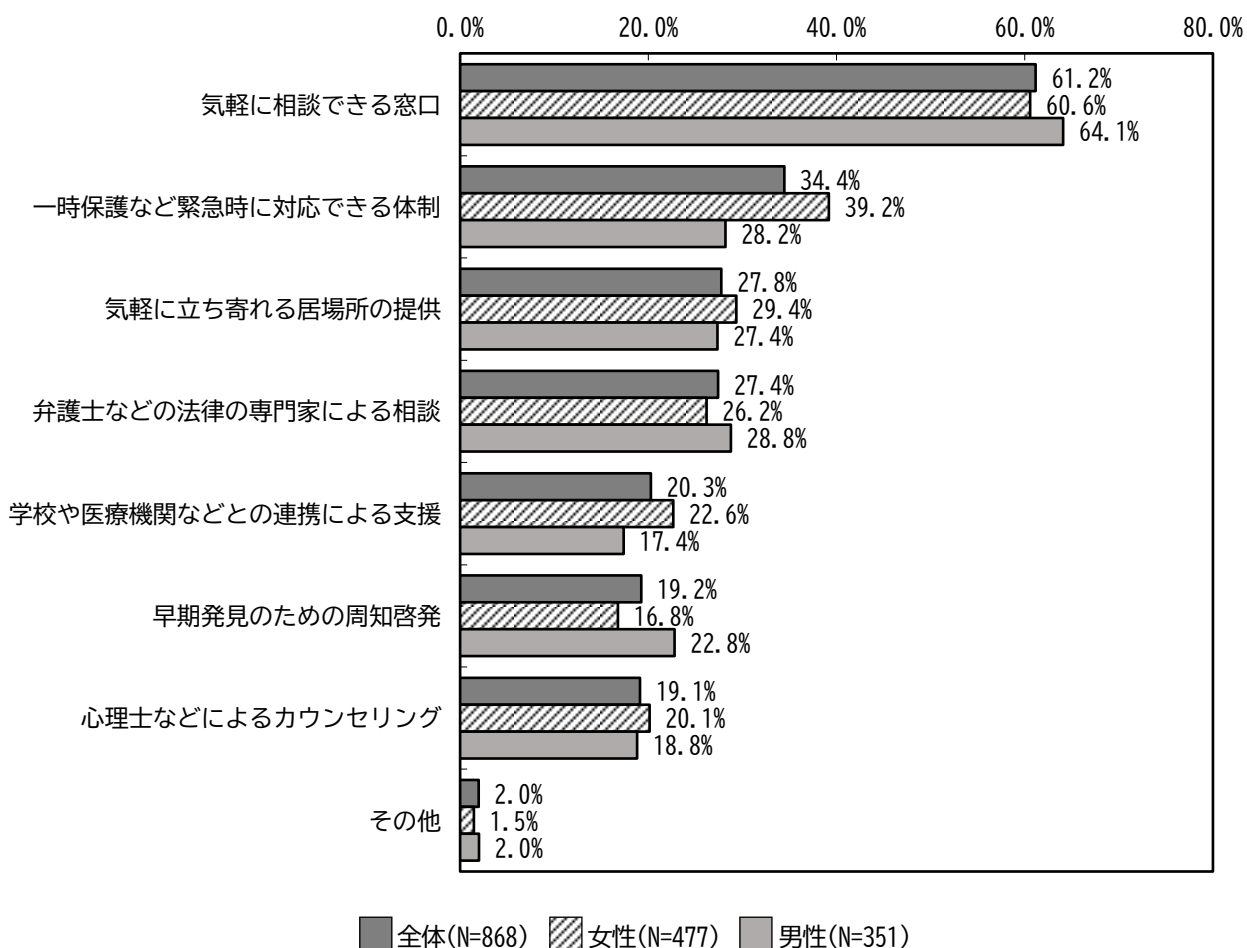
【性別】

性別でみると、男女とも「気軽に相談できる窓口」が最も高く、約 6 割となっています。

次いで、女性では、「一時保護など緊急時に対応できる体制」(39.2%)、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」(29.4%) となっています。男性では、「弁護士などの法律の専門家による相談」(28.8%)、「一時保護など緊急時に対応できる体制」(28.2%) となっています。

「一時保護など緊急時に対応できる体制」は、女性が 11.0 ポイント高くなっています。

図 【性別】セクシュアリティを理由とした問題に対する必要な支援（3つ以内で複数回答）



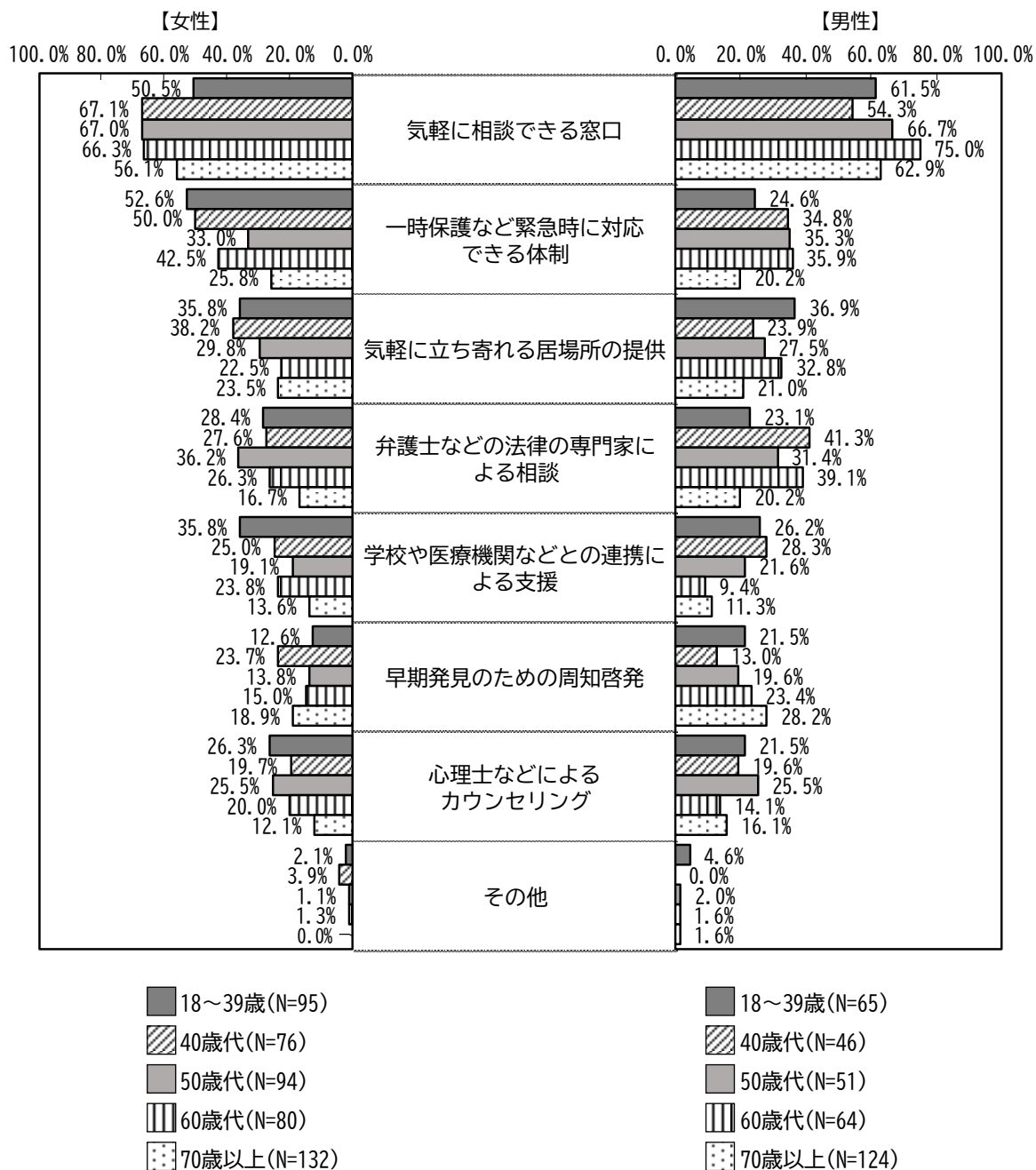
【性年齢別】

性年齢別でみると、男女ともに「気軽に相談できる窓口」が約5割から約8割で高くなっています。

「一時保護など緊急時に対応できる体制」は、18～39歳で女性が28.0ポイント高くなっています。

「弁護士などの法律の専門家による相談」は、40歳代で男性が13.7ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】セクシュアリティを理由とした問題に対する必要な支援（3つ以内で複数回答）



(7) 相談機関の認知

問 20 あなたは、次の相談機関を知っていますか。(知っている機関の番号すべてに○)

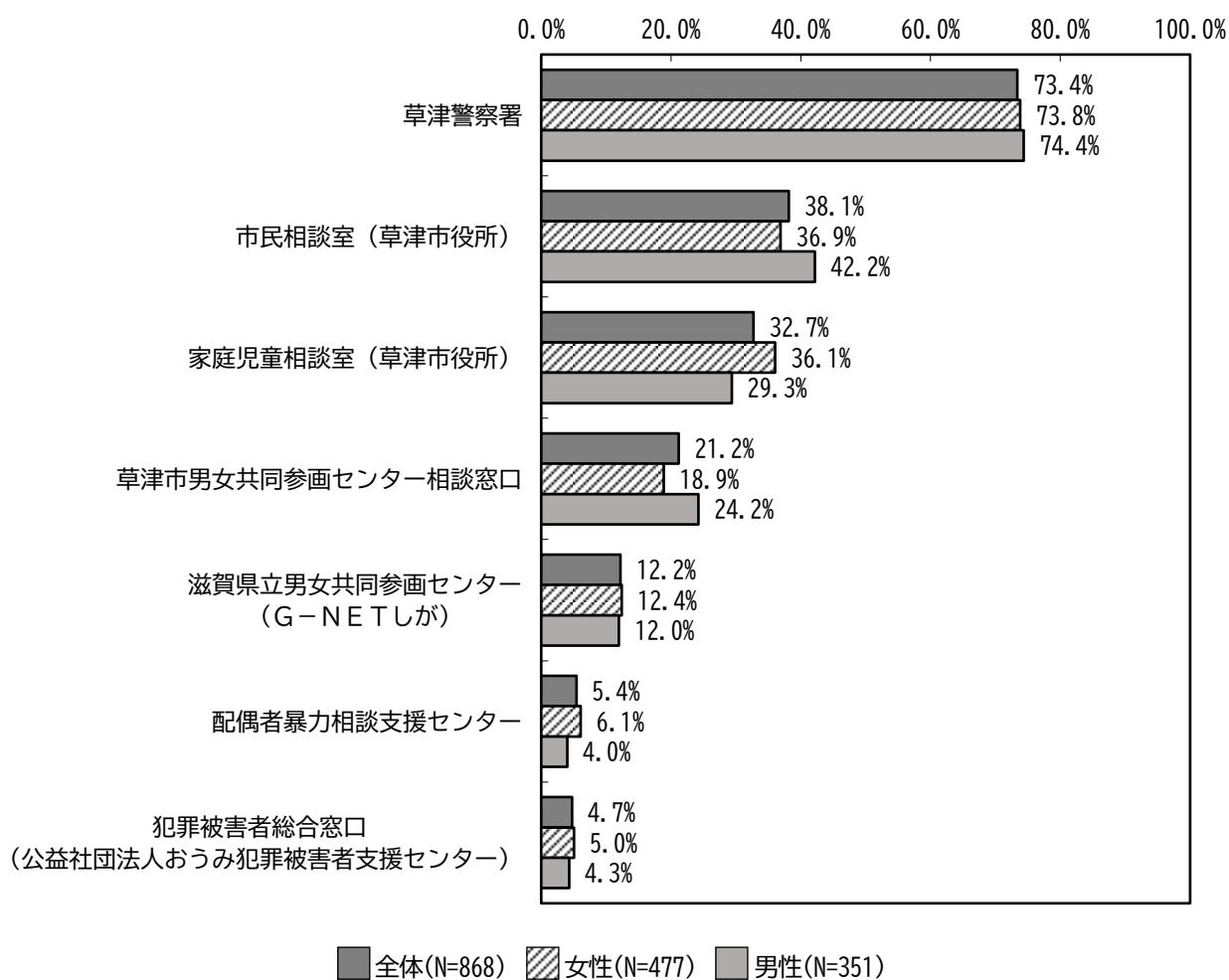
全体でみると、「草津警察署」が 73.4% で最も高く、次いで「市民相談室（草津市役所）」(38.1%)、「家庭児童相談室（草津市役所）」(32.7%) となっています。

【性別】

性別でみると、男女とも「草津警察署」が 7 割を占めています。次いで、「市民相談室（草津市役所）」、「家庭児童相談室（草津市役所）」が約 3 割から約 4 割となっています。

「草津市男女共同参画センター相談窓口」は、男性が 5.3 ポイント高くなっています。

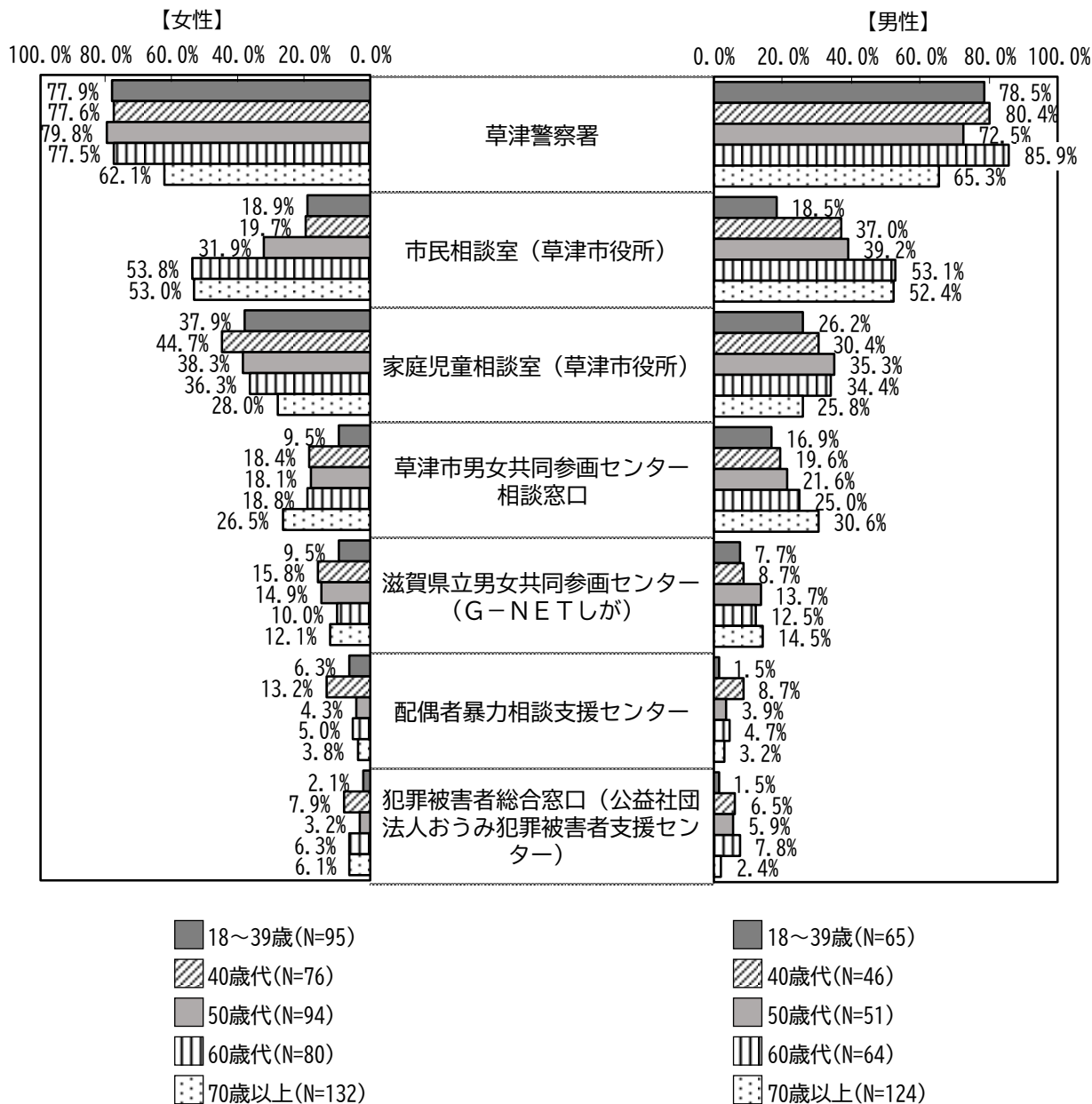
図 【性別】相談機関の認知（複数選択）



【性年齢別】

性年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「草津警察署」が約6割から約9割で最も高くなっています。「市民相談室（草津市役所）」と「草津市男女共同参画センター相談窓口」は年齢が上がるにつれて認知度が概ね高くなっています。

図 【性年齢別】相談機関の認知 — 1. 草津市男女共同参画センター相談窓口（複数選択）



6. 市の施策・男女共同参画センターについて

(1) 男女共同参画センターの認知

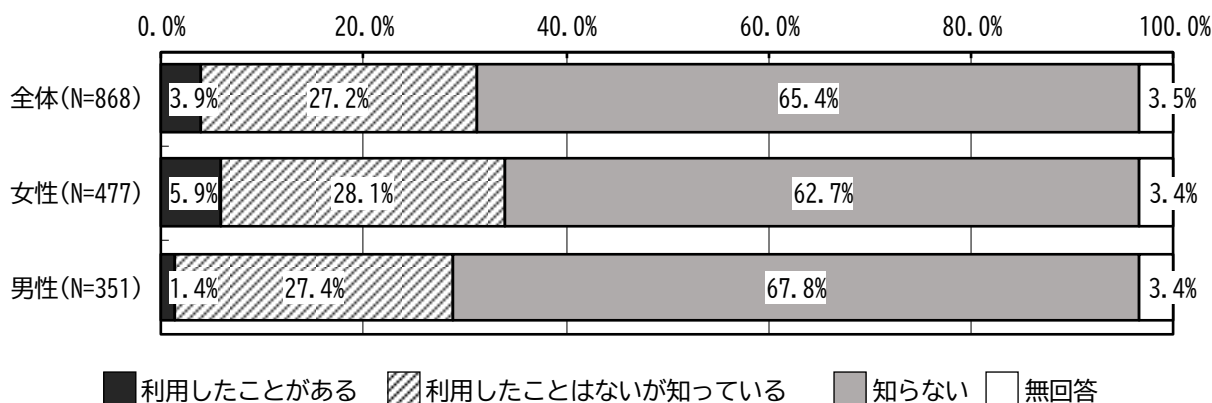
問 21 草津市には令和3年5月から、男女共同参画センター（男女共同参画の推進を図るための拠点）が草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）にあります。あなたはこの施設をご存知ですか。（1つに○）

全体でみると、「知らない」が65.4%で高く、次いで「利用したことはないが知っている」(27.2%)、「利用したことがある」(3.9%)となっています。

【性別】

性別でみると、「知らない」は男性が5.1ポイント高くなっています。

図 【性別】草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）の認知度

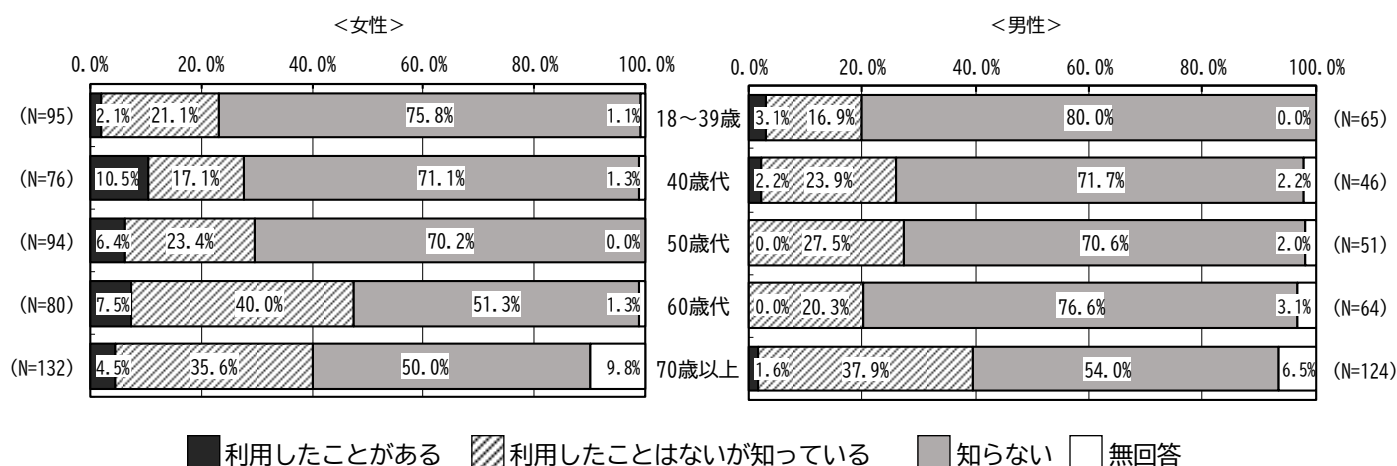


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では、「知らない」はすべての年齢で50%を超えており、50歳代以下で70%を超えています。「利用したことはないが知っている」は60歳代が40.0%で最も高くなっています。

男性でも、「知らない」はすべての年齢で50%を超え、18～39歳は80.0%で最も高く、40・50・60歳代でも70%以上となっています。「利用したことはないが知っている」は、70歳以上が37.9%で最も高くなっています。

図 【性年齢別】草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）の認知度



(2) 男女共同参画センターに期待する機能

問 22 あなたは、男女共同参画の推進を図るための拠点である男女共同参画センターの機能として、どのような運営・役割を期待しますか。(〇は3つまで)

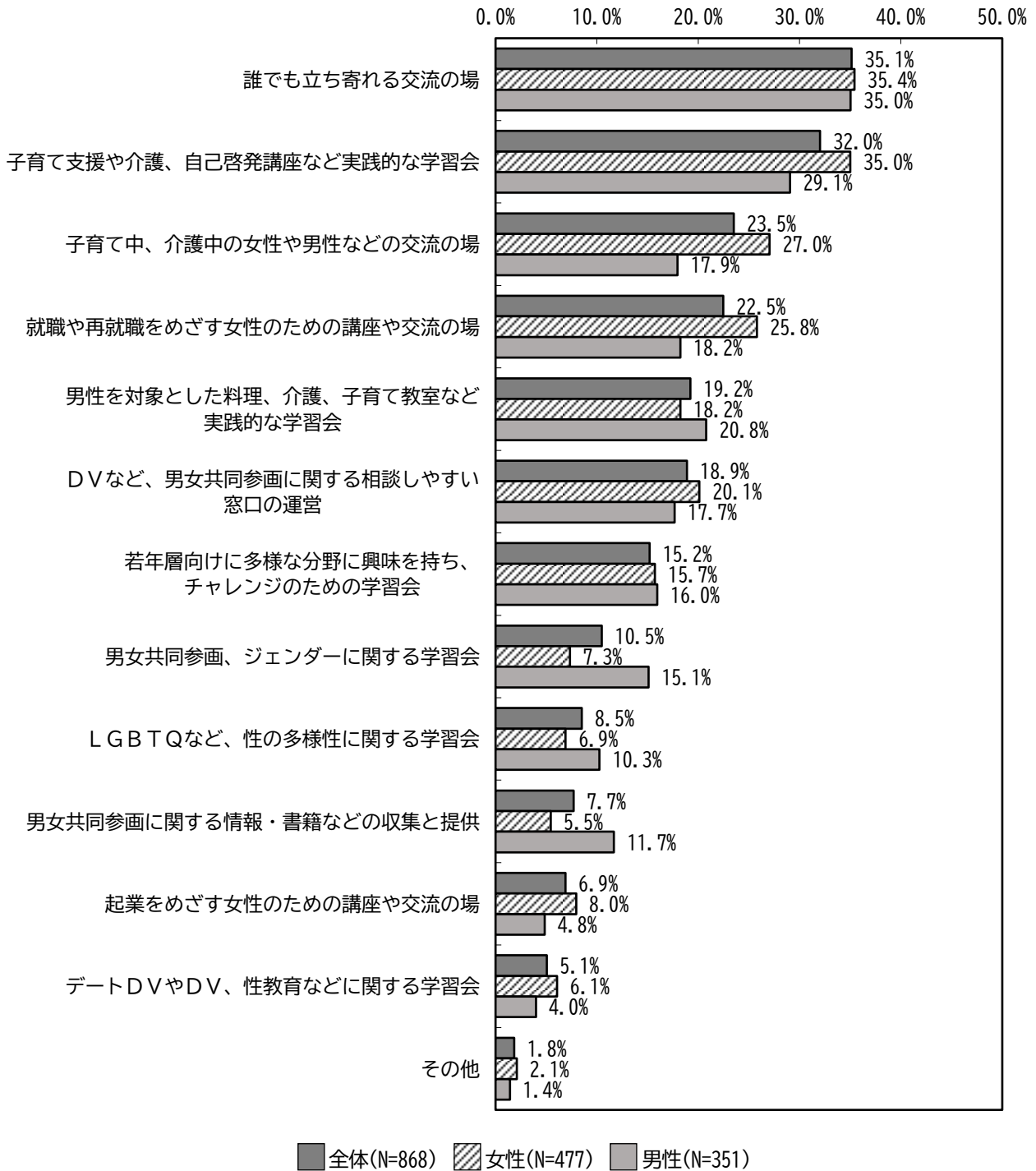
全体でみると、「誰でも立ち寄れる交流の場」が 35.1%で最も高く、次いで「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会」(32.0%)、「子育て中、介護中の女性や男性などの交流の場」(23.5%)となっています。

【性別】

性別でみると、男女とも上位2項目は全体と同じ結果となっています。

「男女共同参画、ジェンダーに関する学習会」、「男女共同参画に関する情報・書籍などの収集と提供」は、男性が5ポイント以上高くなっています。

図 【性別】男女共同参画センターに期待する機能（3つまで複数選択）

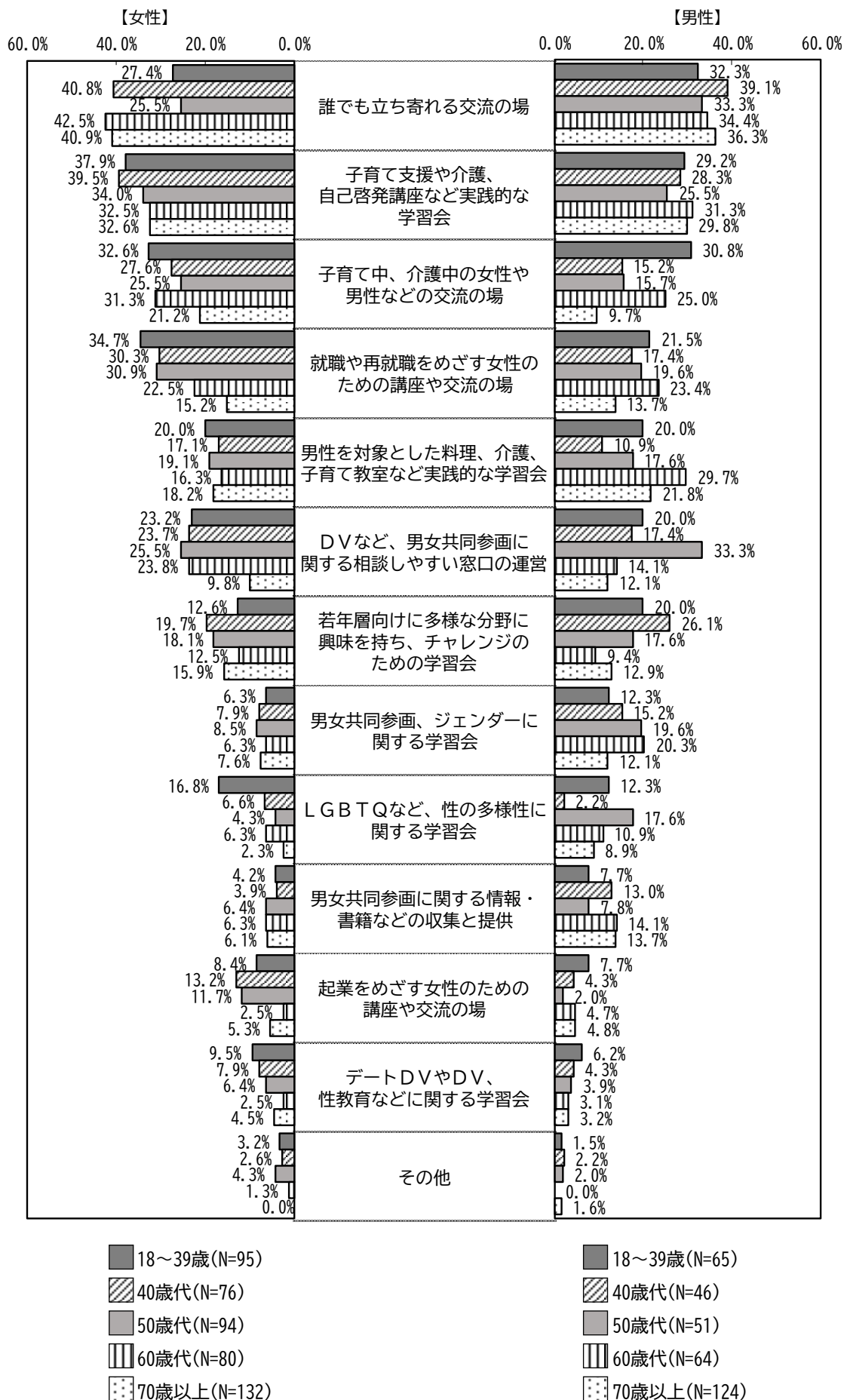


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では18～39歳・50歳代で「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会」、40・60歳代・70歳以上で「誰でも立ち寄れる交流の場」が高くなっています。男性と比べ、18～39歳では「就職や再就職をめざす女性のための講座や交流の場」が13.2ポイント高くなっています。

男性ではすべての年齢で「誰でも立ち寄れる交流の場」が高く、50歳代では同率で「DVなど、男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営」も高くなっています。女性と比べ、60歳代では「男性を対象とした料理、介護、子育て教室などの実践的な学習会」が13.4ポイント高くなっています。さらに、「男女共同参画、ジェンダーに関する学習会」は、すべての年齢で男性が女性を上回っています。

図 【性年齢別】男女共同参画センターに期待する機能（3つまで複数選択）



〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 22 男女共同参画センターに期待する機能〕

同居している子どもの年齢別に男女共同参画センターに期待する機能についてみると、0～2歳・未就学児（3歳～6歳）・高校生以上の学生は「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会」が約4割、小学生・中学生・1～5以外は「誰でも立ち寄れる交流の場」が約3割から約4割となっています。

図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問22 男女共同参画センターに期待する機能

	男女共同 参画、 ジェン ダーに関 する学習 会	L G B T Qなど、 性の多様 性に関す る学習会	子育て支 援や介 護、自己 啓発講座 など実践 的な学習 会	起業をめ ざす女性 のための 講座や交 流の場	就職や再 就職をめ ざす女性 のための 講座や交 流の場	男性を対 象とした 料理、介 護、子育 て教室な ど実践的 な学習会	若年層向 けに多様 な分野に 興味を持 ち、チャ レンジの ための学 習会	デートD VやD V、性教 育などに 関する学 習会	子育て 中、介護 中の女性 や男性な どの交流 の場	誰でも立 ち寄れる 交流の場	DVなど、男女 共同参画 に関する 相談しや すい窓口 の運営	男女共同 参画に関 する情 報・書籍 などの収 集と提供	その他	有効回答 数
0～2歳	6 17.1%	3 8.6%	15 42.9%	4 11.4%	7 20.0%	6 17.1%	10 28.6%	1 2.9%	11 31.4%	9 25.7%	5 14.3%	2 5.7%	0 0.0%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	5 10.6%	2 4.3%	19 40.4%	3 6.4%	11 23.4%	5 10.6%	9 19.1%	3 6.4%	14 29.8%	15 31.9%	9 19.1%	3 6.4%	0 0.0%	47 100.0%
小学生	2 2.5%	4 4.9%	23 28.4%	7 8.6%	22 27.2%	14 17.3%	16 19.8%	6 7.4%	21 25.9%	27 33.3%	18 22.2%	4 4.9%	2 2.5%	81 100.0%
中学生	3 6.4%	4 8.5%	14 29.8%	3 6.4%	9 19.1%	5 10.6%	9 19.1%	5 10.6%	6 12.8%	16 34.0%	10 21.3%	2 4.3%	3 6.4%	47 100.0%
高校生以上の学生	11 12.6%	9 10.3%	36 41.4%	13 14.9%	21 24.1%	12 13.8%	16 18.4%	5 5.7%	18 20.7%	21 24.1%	21 24.1%	5 5.7%	1 1.1%	87 100.0%
1～5以外	13 10.6%	6 4.9%	33 26.8%	6 4.9%	24 19.5%	23 18.7%	20 16.3%	4 3.3%	30 24.4%	46 37.4%	18 14.6%	14 11.4%	2 1.6%	123 100.0%
有効回答数	33 10.5%	22 7.0%	105 33.3%	26 8.3%	70 22.2%	54 17.1%	57 18.1%	15 4.8%	76 24.1%	102 32.4%	61 19.4%	22 7.0%	5 1.6%	315 100.0%

(3) 草津市でのジェンダー平等の進捗状況

問 23 草津市では、男女共同参画社会の実現を市政の重要な柱とし取組を進めていますが、あなたは草津市でのジェンダー平等は進んでいると思いますか。(1つに○)

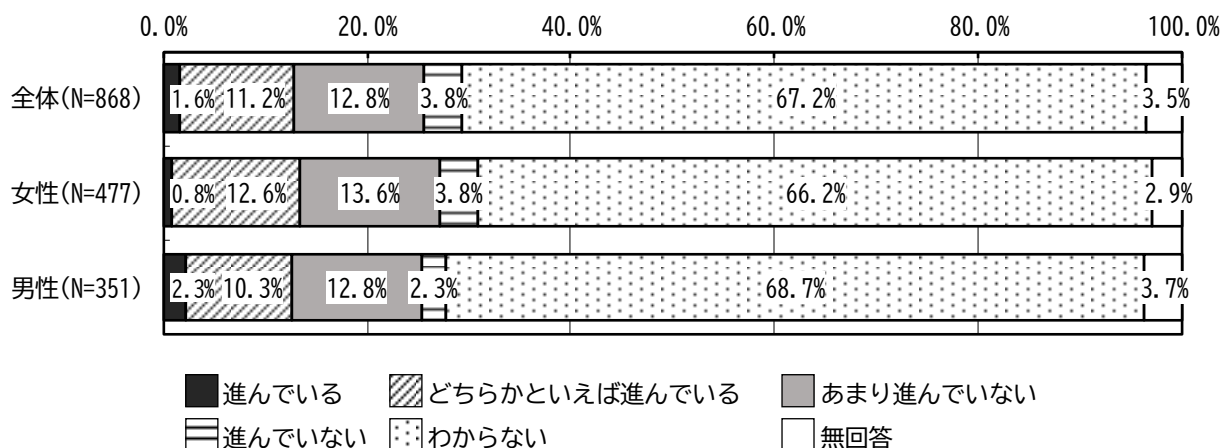
全体でみると、「わからない」が67.2%で最も高く、次いで「あまり進んでいない」(12.8%)、「どちらかといえば進んでいる」(11.2%)となっています。

『進んでいる(「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」の合計)』は12.8%、『進んでいない(「あまり進んでいない」と「進んでいない」の合計)』は16.6%となっています。

【性別】

性別でみると、男女とも「わからない」が60%以上を占めています。他の選択肢においても構成比は男女で概ね同様となっており、性別による大きな差はみられません。

図 【性別】草津市でのジェンダー平等の進捗状況

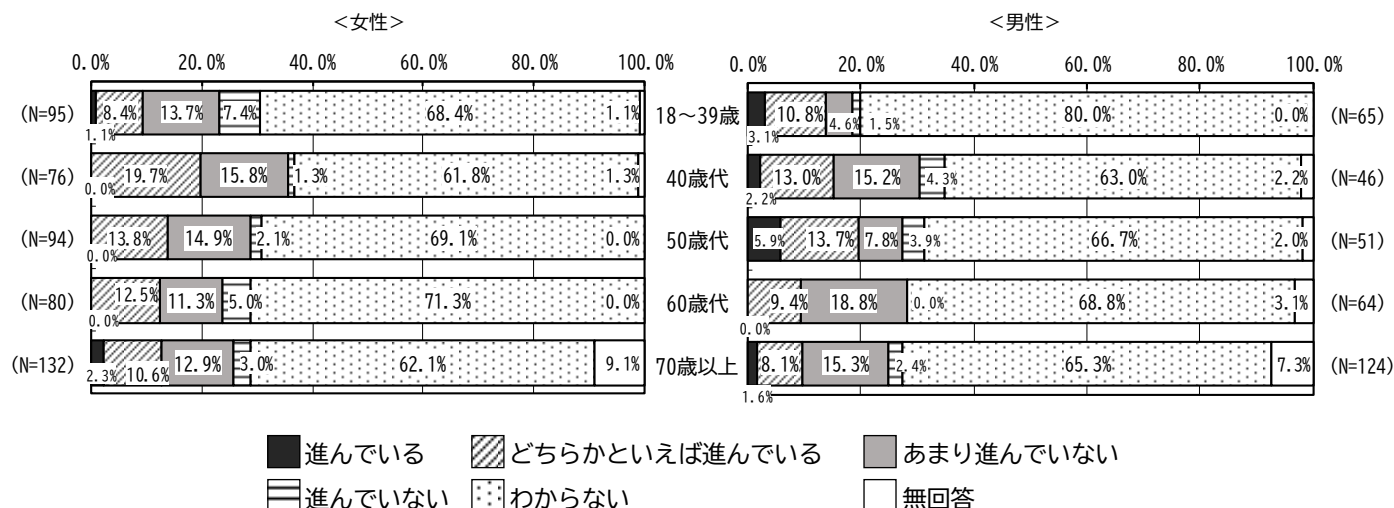


【性年齢別】

性年齢別でみると、女性では、すべての年齢で『進んでいる』は約1割から約2割にとどまり、『進んでいない』は約2割となっています。

男性では、『進んでいる』は40・50歳代では約2割、その他の年齢では約1割にとどまり、『進んでいない』は40・60歳代・70歳以上で約2割、18～39歳・50歳代で約1割となっています。

図 【性年齢別】草津市でのジェンダー平等の進捗状況



(4) 草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組

問 24 あなたは男女共同参画社会の実現に向けて、草津市が今後、特に力を入れるべきだと思うものはどれですか。(〇は3つまで)

全体でみると、「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が49.4%で最も高く、次いで「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」(38.6%)、「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」(34.3%)となっています。

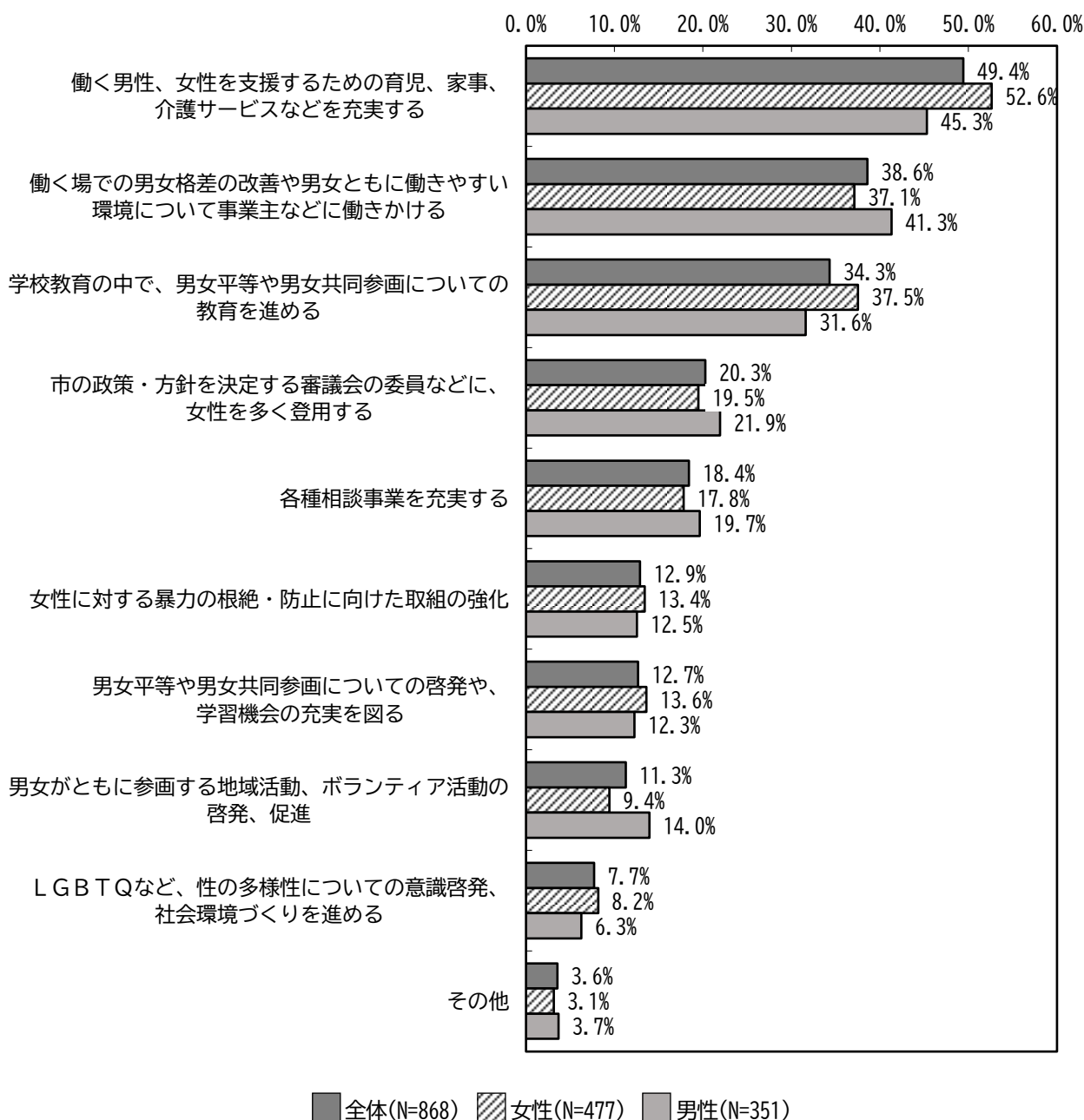
【性別】

性別でみると、男女とも「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が最も高く、約5割となっています。

次いで、女性では、「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」(37.5%)、「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」(37.1%)となっています。

男性では、「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」(41.3%)、「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」(31.6%)となっています。

図 【性別】 草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組（3つまで複数選択）



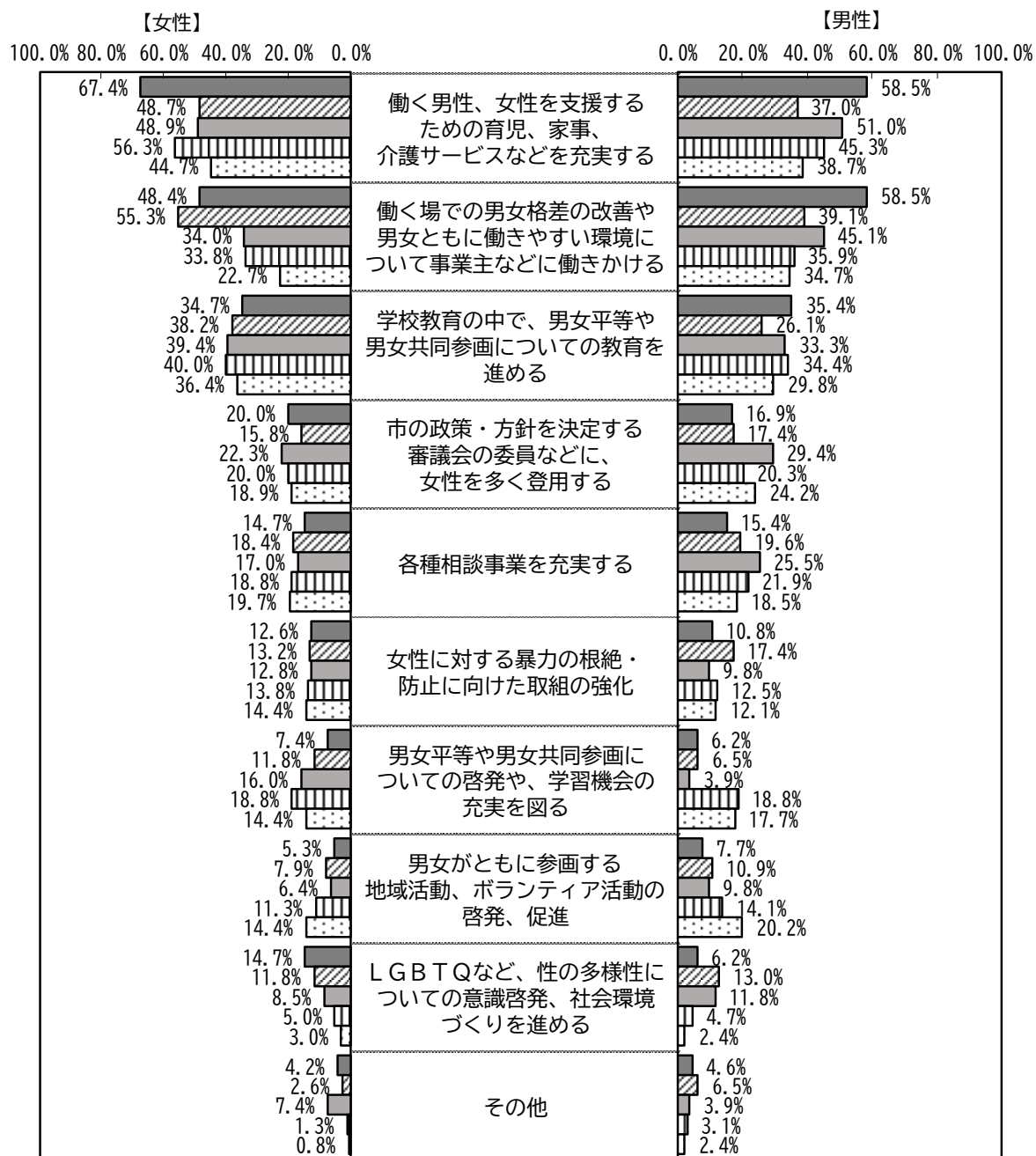
【性年齢別】

性年齢別でみると、男女ともに 40 歳代で「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」、その他の年齢では「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が高くなっています。男性の 18～39 歳では「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」と「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」が同率で最も高くなっています。

「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」は、40 歳代で女性が 12.1 ポイント高くなっています。

「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」は 70 歳以上で男性が 12.0 ポイント高くなっています。

図 【性年齢別】草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組（３つまで複数選択）



18～39歳(N=95)
 40歳代(N=76)
 50歳代(N=94)
 60歳代(N=80)
 70歳以上(N=132)

18～39歳(N=65)
 40歳代(N=46)
 50歳代(N=51)
 60歳代(N=64)
 70歳以上(N=124)

〔問 28-1 同居している子どもの年齢 × 問 24 草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組〕

同居している子どもの年齢別に草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組についてみると、すべての年齢で「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が最も高く、未就学児（3歳～6歳）は同率で「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」も高くなっています。

図 問28-1 同居している子どもの年齢 × 問24 草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組

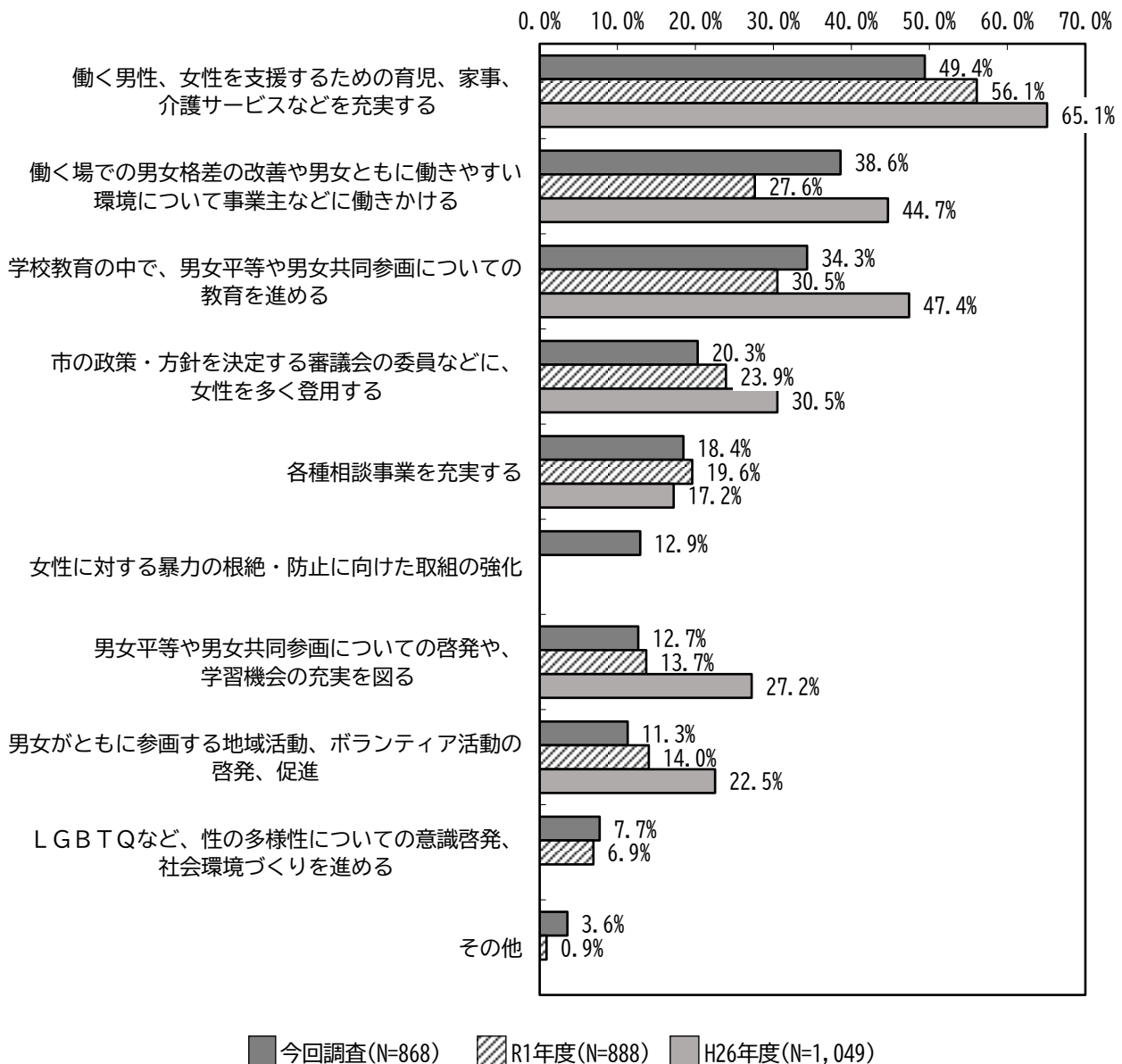
	市の政策・方針を決定する審議会の委員などに、女性を多く登用する	学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める	働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける	働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する	男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動の啓発、促進	各種相談事業を充実する	LGBTQなど、性の多様性についての意識啓発、社会環境づくりを進める	男女平等や男女共同参画についての啓発や、学習機会の充実を図る	女性に対する暴力の根絶・防止に向けた取組の強化	その他	有効回答数
0～2歳	6 17.1%	9 25.7%	23 65.7%	25 71.4%	2 5.7%	3 8.6%	3 8.6%	3 8.6%	5 14.3%	0 0.0%	35 100.0%
未就学児（3歳～6歳）	6 12.8%	15 31.9%	25 53.2%	25 53.2%	6 12.8%	5 10.6%	5 10.6%	3 6.4%	7 14.9%	4 8.5%	47 100.0%
小学生	15 18.5%	34 42.0%	33 40.7%	39 48.1%	4 4.9%	14 17.3%	8 9.9%	6 7.4%	13 16.0%	5 6.2%	81 100.0%
中学生	6 12.8%	18 38.3%	17 36.2%	21 44.7%	2 4.3%	5 10.6%	4 8.5%	4 8.5%	4 8.5%	4 8.5%	47 100.0%
高校生以上の学生	22 25.3%	34 39.1%	37 42.5%	45 51.7%	7 8.0%	11 12.6%	6 6.9%	13 14.9%	8 9.2%	5 5.7%	87 100.0%
1～5以外	28 22.8%	38 30.9%	30 24.4%	60 48.8%	22 17.9%	19 15.4%	5 4.1%	28 22.8%	12 9.8%	4 3.3%	123 100.0%
有効回答数	69 21.9%	104 33.0%	121 38.4%	163 51.7%	36 11.4%	45 14.3%	22 7.0%	44 14.0%	32 10.2%	12 3.8%	315 100.0%

〔本市調査の経年比較〕

本市調査を経年で比較すると、「L G B T Q など、性の多様性についての意識啓発、社会環境づくりを進める」以外のすべてで平成 26 年度より低くなっています。「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」は－15.7 ポイント、「男女平等や男女共同についての啓発や学習機会の充実を図る」は－14.5 ポイント、「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」が－13.1 ポイントとなっています。

図 草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取組（3 つまで複数選択）

〔本市調査の経年比較（平成26・令和元年度）〕



※「女性に対する暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」は今回調査のみ。

※平成 26 年度調査では「L G B T Q など、性の多様性についての意識啓発、社会環境づくりを進める」は無し。

7. 自由記述

80 人から 124 件の意見が寄せられました。内容を分類分けした結果は以下の通りです。

内 容		件数
男女共同参画への意識や推進		60
男女共同参画へのその他の考え方について		10
男女共同参画への肯定的な意見		9
男女共同参画についての理解促進や教育について		9
性別役割分担意識について		9
男女共同参画への否定的な意見		8
男女共同参画の情報発信や市民参画について		8
男女共同参画の施策の実施方法について		5
女性議員の増加や育成について		2
労働環境の改善や働く女性への支援		21
働く女性への支援や産休・育休制度について		9
労働環境の改善や企業への働きかけについて		8
男女間の賃金等の経済的格差について		4
人権尊重やDV・ハラスメントへの対応		12
DVやハラスメントへの対応について		6
性の多様性や制度について		4
夫婦別姓制度の導入について		2
相談機関について		3
相談機関の充実について		3
その他		28
その他の市政、施策について		14
本アンケートについて		10
その他の意見		4
合 計		124

Ⅲ 調査結果の概要

1. 男女共同参画について

(1) 社会の各分野における男女平等感

全体では、社会の各分野における男女の地位の平等感は、「平等である」が最も高いのは「学校教育の場で」(49.3%)ですが、前回調査は55.0%であったのに対し、今回調査では半数を下回っています。

他の分野はすべて『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)の割合が高く、特に「政治分野で」と「社会通念・習慣・しきたりなど」そして「社会全体」では7割を超えています。政治分野における女性の参画が他の先進国に比べて極めて低い実態が市民意識にも反映していると考えられます。また、「社会通念・慣習・しきたりなど」においても女性への無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)や差別意識が根強く残っていることも市民の多くが感じていると考えられます。

性別でみると、女性はずべての分野で「平等である」が低くなっており、特に「法律や制度のうえで」は男性よりも20.4ポイント低くなっています。

さらに、『男性優遇』もすべての分野で女性が高くなっています。特に「家庭生活の中で」、「法律や制度のうえで」は男性よりも20ポイント以上高くなっており、男女の意識差が大きい分野といえます。

滋賀県調査と比較すると、「②職場の中で」の『男性優遇』は今回調査の方が10.5ポイント高くなっています。

(2) 性別役割分担意識

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に対し、全体では、『肯定的』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)が25.8%、『否定的』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)が61.3%で35.5ポイントの差があります。

本市調査を経年で比較してみても、『肯定的』が令和元年度では36.8%に対し25.8%と減少しています。また、『否定的』は平成13年度から平成26年度まで40%台でしたが、令和元年度では53.9%、今回調査では61.3%と上昇しており、性別役割分担意識の変化がうかがえます。

性別でみると、男女とも『否定的』が5割を超えています。しかし『肯定的』は男性が10.3ポイント高く、さらに性年齢別でみると、特に70歳以上では男性が20.3ポイント高くなっています。

(3) 性別役割分担に賛成する理由

肯定的な意見の理由としては、全体では、「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」が42.4%で最も高く、次いで「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」(25.4%)、「仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担したほうが効率がよいと思うから」(13.8%)となっています。

性別でみると、女性では「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」と「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」がいずれも約4割、男性では「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」

が約5割を占めています。

「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから」は女性の方が17.1ポイント、「母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから」は男性の方が12.3ポイント高くなっており、男女問わず“母親が家庭にいた方が子どもの成長に良い”“仕事は男性に向いている”“家事・育児・介護は女性に向いている”といった性別役割分担を内面化している傾向がうかがえます。

（４）性別役割分担に反対する理由

全体では、「男女ともに仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから」が41.5%で最も高く、次いで「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」(35.5%)、「家庭以外の場面でも、女性の能力をいかせると思うから」(11.8%)となっています。

性別でみると、「男女共に仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから」は女性の方が12.0ポイント、「家庭以外の場面でも、女性の能力をいかせると思うから」は男性の方が14.7ポイント高くなっています。社会で活躍する女性の増加が男性の性別役割分担意識の変化に影響していることがうかがえます。

（５）性別役割分担を期待された経験

全体では、「よくある」が13.7%、「たまにある」が48.4%、「ない」が(35.7%)で『ある』（「よくある」と「たまにある」の合計）は6割を超えています。

性別でみると、『ある』は女性が68.3%、男性が54.1%で、女性の方が14.2ポイント高くなっています。

さらに性年齢別でみると、女性では『ある』が18～39歳と40・60歳代で70%を超え、男性ではすべての年齢で『ある』が約5割から約6割となっており、男女とも性別役割分担を期待された経験がある人が多いことがうかがえます。

（６）性別役割分担意識を期待された場面

全体では、「家庭」が51.4%で最も高く、次いで「親族」(41.9%)、「職場」(40.8%)となっています。

性別でみると、男女とも「家庭」が約5割で最も高く、次いで、女性では「親族」(48.2%)、「職場」(36.2%)、男性では「職場」(48.9%)、「地域・近隣」(37.4%)となっています。

「職場」は男性の方が12.7ポイント、「親族」は女性の方が17.7ポイント高くなっています。

（７）期待された性別役割分担意識の内容

全体では、「行動の仕方」が48.1%で最も高く、次いで「家事・育児・介護」(46.0%)、「働き方・仕事内容」(41.9%)となっています。

性別でみると、男女とも「行動の仕方」、次いで「服装や身だしなみ」が高くなっています。「ライフイベント（結婚・出産）」は、女性の方が14.6ポイント高くなっています。

結婚や出産などのライフイベントは、女性の身体や今後のライフプランに直接関わってくることから女性の回答が多くみられます。

また、行動の仕方や服装・身だしなみでもジェンダーバイアスが大きく影響していることがうかがえます。

(8) 性別役割分担意識に不都合さや不快感を感じるか

全体では、「たまに感じる」が47.1%で最も高く、次いで「あまり感じない」(26.7%)、「感じる」(18.0%)となっています。

『感じる』(「感じる」と「たまに感じる」の合計)が65.1%、『感じない』(「感じない」と「あまり感じない」の合計)が32.5%で、『感じる』が32.6ポイントと大幅に高くなっています。

性別でみると、『感じる』は女性が76.1%、男性が45.7%で、女性の方が30.4ポイントと大幅に高くなっています。

(9) 地域での男女間格差の有無

住んでいる地域の行事・役割などでの男女間の格差を感じるものの有無は、「ない」が37.4%、「ある」が23.6%、「地域活動に参加していない」が36.9%となっています。

「地域活動に参加していない」は前回調査の27.7%から9.2ポイント高くなっています。

地域活動における男女格差が原因であるかは明確ではありませんが、地域活動に参加していない人も全体の約4割を占めています。

(10) 地域での男女間格差の内容

全体では、「実際に活動しているのは妻である女性なのに、名義や役職は夫の名前である」が40.0%で最も高く、次いで「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」(38.0%)、「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」(30.7%)となっています。

「会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている」は女性の方が11.4ポイント高く、「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」は男性の方が12.6ポイント高くなっています。さらに「地域の行事・祭礼などで女性が参加できない、女性の役割が受付、接待に固定化されている」についても、女性の方が9.8ポイント高くなっています。

(11) 男女共同参画に関する用語の認知

全体でみると、『知っている』(「よく知っている」と「少し内容を知っている」の合計)は、「ジェンダー」、「SDGs」、「LGBTQ」が約7割となっています。一方、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」、「草津市男女共同参画推進条例」、「草津市パートナーシップ宣誓制度」では2割以下と法律や条例についての認知が低い結果となっています。

性別でみると、『知っている』は「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」以外は女性の認知度が男性を上回っており、特に、「ジェンダー」は7.8ポイント、「草津市パートナーシップ宣誓制度」は8.2ポイント、女性の方が高くなっています。

2. 仕事について

(1) 現在の就労状況

回答者本人は、「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が 35.3%で最も高く、次いで「無職」（21.4%）、「主に家事」（12.4%）で、職業を持っている人は 58.8%となっています。

性別でみると、男女とも「勤め人（正規の社員や職員、会社などの役員）」が最も多くなっていますが、女性の方が 14.2 ポイント低く、「勤め人（非正規の社員や職員）」の合計では女性の方が 11.9 ポイント高く、雇用形態に男女差がみられます。

また、男性では「主に家事」1.1%、「無職」29.6%、女性では「主に家事」21.4%、「無職」15.1%となっており、女性に家事が偏っていることもうかがえます。

(2) 「主に家事」・「無職」の理由

全体をみると、60 歳以上が多くを占めており、「その他」が 29.9%で最も高く、次いで「健康上の理由」（28.6%）、「仕事に年齢制限があるため」（24.8%）となっています。

性年齢別でみると、50 歳代以下の女性では、「子育ての負担が大きい」や「家事の負担が大きい」「親の家族の介護・看護」が多くなっており、家事・育児・介護等の負担が女性へ偏っていることがうかがえます。

(3) 女性が仕事を続けていくために必要なこと

全体では、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」が 50.3%で最も高く、次いで「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること」（41.9%）、「職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境（人員体制や職場風土など）にすること」（41.6%）となっており、社会全体で女性が仕事を続けていける風土づくりや環境整備に重きを置いていることがうかがえます。

性別でみると、「男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること」は女性の方が 12.7 ポイント、「育児や介護のための施設やサービスを充実させること」は男性の方が 5.3 ポイント高くなっており、男女差がみられます。女性が仕事を続けていくためには、日常的な家事・育児・介護の分担等の環境づくり、育児や介護の休業制度を整備し、利用しやすい職場での風土づくりが必要とかがえます。

滋賀県調査と比較すると、「パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること」は今回調査の方が 5.6 ポイント高くなっています。

(4) 女性管理職が少ない理由

全体では、「女性は家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから」「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」がいずれも 24.0%で最も高くなっています。

性別でみると、女性は、「家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから」は女性の方が 13.4 ポイント、「女性自身が管理職につくことに消極的だから」は男性の方が 12.7 ポイント高くなっており、性別役割分担意識や男性優先の考え方により女性の能力を過小評価

する傾向がみられ、男女での認識の差もうかがえます。

3. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先状況を、＜希望＞と＜現実＞で比較すると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」では10.4ポイント、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」では8.7ポイント、＜希望＞の方が高くなっています。

一方、『仕事』を優先、＜現実＞の方が18.0ポイント高くなっています。

性別でみると、女性は、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」で＜希望＞と比べて、＜現実＞が10ポイント以上低くなっています。

男性は、『仕事』を優先」で＜希望＞と比べて、＜現実＞の方が20ポイント以上高くなっています。

男女とも＜希望＞では、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のうち複数を優先したいという回答が約6割を占めていますが、＜現実＞に優先できているのは約4割となっています。

本市調査を経年で比較すると、＜希望＞は『家庭生活』を優先したい」と『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」が令和元年度以降、高くなってきており、＜現実＞は『仕事』を優先」が平成20年以降、年々概ね低くなってきています。

(2) 生活時間

①仕事・学校

＜仕事や学校のある日＞

全体の平均時間は8.11時間となっています。

性別でみると、女性の平均時間は7.76時間、男性の平均時間は8.50時間で、男性がやや長くなっています。

②家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）

＜仕事や学校のある日＞

全体の平均時間は2.47時間となっています。

性別でみると、女性の平均時間は3.33時間で、「4時間～6時間未満」が17.6%と多く、男性の平均時間は1.29時間で、「1時間～2時間未満」が24.8%と多くなっており、女性の平均時間が2.04時間長くなっています。

＜休みの日・仕事や学校のない日＞

全体の平均時間は3.52時間となっています。

性別でみると、女性の平均時間は4.53時間で、「4時間～6時間未満」が27.7%と多く、男性の平均時間は2.07時間で、「1時間～2時間未満」が23.4%と多くなっており、女性の平均時間

が 2.46 時間長くなっています。

③育児・子育て

<仕事や学校のある日>

全体の平均時間は 1.41 時間となっています。

性別で見ると、女性の平均時間が 2.12 時間に対して、男性は 0.35 時間で、女性が 1.77 時間長くなっています。

同居している子どもの年齢別みると、0～2歳は「4時間～6時間未満」(25.7%)、未就学児(3歳～6歳)は「1時間～2時間未満」、「2時間～3時間未満」、「4時間～6時間未満」(いずれも 17.0%) 小学生は「2時間～3時間未満」(21.0%) となっています。

<休みの日・仕事や学校のない日>

全体の平均時間は 3.36 時間となっています。

性別で見ると、女性の平均時間が 4.27 時間に対して、男性は 1.68 時間で、女性が 2.59 時間長くなっています

「12 時間以上」は女性の方が 5.0 ポイント高くなっています。

同居している子どもの年齢別にみると、「12 時間以上」は 0～2歳で 34.3%、未就学児(3歳～6歳)で 40.4%、小学生で 21.0%と、小学生以下の子どもを持つ人の育児・子育ての時間が長くなっています。

④介護

<仕事や学校のある日>

全体の平均時間は 0.42 時間となっています。

性別で見ると、女性の平均時間が 0.62 時間、男性の平均時間が 0.10 時間で、女性が 0.52 時間長くなっています。

<休みの日・仕事や学校のない日>

全体の平均時間は 0.80 時間となっています。

性別で見ると、女性の平均時間が 0.94 時間、男性の平均時間が 0.46 時間で、女性が 0.48 時間長く、<仕事や学校のある日>と概ね同様となっています。

⑤個人の時間(学習、趣味、スポーツ、友人付き合いなど)

<仕事や学校のある日>

全体の平均時間は 1.90 時間となっています。

性別で見ると、女性の平均時間が 1.78 時間、男性の平均時間が 2.04 時間で、男性が 0.26 時間長くなっています。

<休みの日・仕事や学校のない日>

全体の平均時間は 4.33 時間となっています。

性別で見ると、女性の平均時間が 4.08 時間、男性の平均時間が 4.70 時間で、男性が 0.62 時

間長くなっています。

「0分」を含めた1時間未満までの合計は、女性が4.4%、男性が2.3%で女性が2.1ポイント高くなっています。一方、6時間以上の合計は、女性が16.6%、男性が24.0%で男性が7.4ポイント高くなっています。

同居している子どもの年齢別にみると、小学生以下は「1時間～2時間」、中学生・高校生以上の学生は「3時間～4時間未満」で、子どもの年齢が上がるにつれて長くなる傾向にあります。

（３）職場でのワーク・ライフ・バランス実現への取り組み

全体では、「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」が45.9%で最も高く、次いで「管理職の意識改革を行う」(37.0%)、「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」(36.3%)となっています。

「短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする」は、女性の方が17.8ポイント高く、「社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」は男性の方が8.4ポイント高くなっています。

本市調査を経年で比較すると、「特に必要なことはない」は平成26年度から前回調査では大幅に低くなり、今回調査でも横ばい（平成26年度：22.0%、前回調査2.5%、今回調査3.1%）となっており、ワーク・ライフ・バランス実現への取り組みの必要性は社会的に認識されつつあると考えられます。

（４）男性の積極的家庭生活参加のために必要なこと

全体では、「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が50.9%で最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(40.9%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」(39.4%)となっています。

性別でみると、男女とも「男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること」が最も高く、どちらも約5割となっています。

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、女性の方が8.5ポイント高く、「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」は男性の方が7.8ポイント高くなっています。

（５）男性の育児休業・介護休業取得についての考え

全体でみると、「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない」が36.8%で最も高く、次いで「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」(29.6%)、「共働きであれば率先して取得する方がよい」(13.2%)となっています。

性別でみると、「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」は女性の方が6.6ポイント高くなっています。

同居している子どもの年齢別にみると、0～2歳は「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」が約5割、未就学児（3歳～6歳）は「共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい」と「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない」がいずれも約3割、小学生以上は「各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取

得すべきとも取得すべきでないともいえない」が約3割から約5割で高くなっています。

(5) 男性の育児休業・介護休業取得のために必要な職場における取組

全体では、「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」が45.3%で最も高く、次いで「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」(44.4%)、「管理職・上司の意識改革」(43.3%)となっています。

性別でみると、女性では「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」、「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」がいずれも5割を超えています。

男性は女性と比べ、「経営層のトップダウンによる職場風土づくり」が10.6ポイント、「有給の育児休業・介護休業制度の整備」が7.6ポイント高くなっています。

同居している子どもの年齢別にみると、0～2歳・未就学児(3歳～6歳)・中学生は「育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知」が約5割、小学生は「管理職・上司の意識改革」が約5割、高校生以上の学生と1～5以外は「休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備」が約4割から約5割で高くなっています。

4. 男女間の暴力やハラスメントなどについて

(1) 過去5年間にセクシュアル・ハラスメントを受けた経験

全体では、＜職場＞、＜学校＞、＜地域＞のいずれの場面でも、受けたハラスメントの行為は「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が最も高くなっており、すべての行為において、＜職場＞で受けた経験が最も高くなっています。

性別でみると、女性が＜職場＞で受けた経験では、「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」、「卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたりした」、「わざと身体に触られた」が約1割から約2割と高くなっています。

女性が＜地域＞で受けた経験では、「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が6.7%となっています。

男性が＜職場＞で受けた経験で「年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた」が8.3%となっている以外、すべての場面において受けた経験は5%以内となっています。

(2) 過去5年間にドメスティック・バイオレンスを受けた経験

全体では、自身の被害経験である「過去5年の間にDVを受けたことがある」(2.2%)、「現在もDVを受けることがある」(0.6%)をあわせて2.8%となっています。

性別でみると、女性では「過去5年の間にDVを受けたことはないが、自分の周りに受けた(受けている)人がある」が13.0%で、男性と比べ7.6ポイント高くなっています。

(3) ドメスティック・バイオレンスへの対処方法

全体では、「どこにも相談しなかった」が33.3%で最も高く、次いで「家族に相談した」(29.2%)、「友人や知人に相談した」(25.0%)となっています。

性別でみると、女性では「友人や知人に相談した」が最も高く 42.9%となっています。次いで、「どこにも相談しなかった」、「家族に相談した」（いずれも 35.7%）となっています。

男性では「どこにも相談しなかった」、「本人同士で話し合った」、「家族に相談した」、「親戚に相談した」、「職場の上司・同僚などに相談した」がいずれも同率となっています。

（４）どこにも相談しなかった理由

全体では、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が 62.5%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」「自分にも落ち度があると思ったから」（いずれも 50.0%）となっています。

性別でみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」、男性では「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」、「自分にも落ち度があると思ったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」が高くなっています。

（５）過去５年間にセクシュアリティを理由とした困難な問題や経験の見聞き

経験もしくは見聞きした内容は「学校や職場での人間関係のトラブル」（8.2%）が最も高くなっています。

（６）セクシュアリティを理由とした困難な問題に対する必要な支援

全体では、「気軽に相談できる窓口」が 61.2%で最も高く、次いで「一時保護など緊急時に対応できる体制」（34.4%）、「気軽に立ち寄れる居場所の提供」（27.8%）となっています。

性別でみると、男女とも「気軽に相談できる窓口」が最も高く、どちらも約６割となっています。

「一時保護など緊急時に対応できる体制」は、女性の方が 11.0 ポイント高くなっています。

（７）相談窓口の認知

全体では、「草津警察署」が最も高く 70%を超えています。しかしその他の相談機関の認知は 50%を下回っています。

5. 市の施策・男女共同参画センターについて

（１）男女共同参画センターの認知

全体では、「知らない」が 65.4%となっており、性別でみると、男性の方が 5.1 ポイント高くなっています。

（２）男女共同参画センターに期待する機能

全体では、「誰でも立ち寄れる交流の場」が 35.1%で最も高く、次いで「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会」（32.0%）、「子育て中、介護中の女性や男性などの交流の場」（23.5%）となっています。

性年齢別でみると、女性では18～39歳・50歳代で「子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会」、40・60歳代・70歳以上で「誰でも立ち寄れる交流の場」が高くなっています。

「就職や再就職をめざす女性のための講座や交流の場」は18～39歳で女性の方が13.2ポイント高くなっています。

男性ではすべての年齢で「誰でも立ち寄れる交流の場」が高く、50歳代では同率で「DVなど、男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営」も高くなっています。

「男性を対象とした料理、介護、子育て教室などの実践的な学習会」は60歳代で男性の方が13.4ポイント高くなっています。

「男女共同参画、ジェンダーに関する学習会」はすべての年齢で男性が女性を上回っています。

女性は子育て支援や仕事につながる講座を期待し、男性は生活技術の習得や生き方やジェンダーに関する学習機会を期待する傾向がうかがえます。

（３）草津市でのジェンダー平等の進捗状況

全体では、「わからない」が67.2%で最も高く、『進んでいる（「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」の合計）』は12.8%、『進んでいない（「あまり進んでいない」と「進んでいない」の合計）』は16.6%で『進んでいない』がわずかに高くなっています。

性別による大きな差は見られません。

（４）草津市が男女共同参画社会実現に向けて力を入れるべき取り組み

全体では、「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が49.4%で最も高く、次いで「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」（38.6%）、「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」（34.3%）となっています。

性年齢別でみると、40歳代では「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」は女性の方が12.1ポイント高くなっています。

また、70歳以上では「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」は男性の方が12.0ポイント高くなっています。

同居している子どもの年齢別にみると、すべての年齢で「働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する」が最も高く、未就学児（3歳～6歳）は同率で「働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける」も高くなっています。

IV 調査票

草津市男女共同参画についてのアンケート

〈調査の趣旨とご協力のお願い〉

日頃は、市政の各般にわたりまして、温かいご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

草津市では、男女共同参画社会[※]の実現を市政の重要な柱とし、「草津市男女共同参画推進条例」、「草津市男女共同参画推進計画」に基づき、男女が真に対等な市民として、性別にかかわらず持てる力を発揮し、人権が尊重され、平和で豊かな地域づくりをめざして、取組を進めています。

この調査は、市民の皆さまの男女共同参画に関する考えをお伺いし、今後の施策・方針にいかしていくためのもので、市内にお住まいの18歳以上の方3,000人を無作為に抽出し、ご記入をお願いしております。お忙しいところ誠に恐縮ですが、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年9月

草津市長 橋川 渉

※男女共同参画社会

男女が性別にかかわらず、自らの意思によって社会のあらゆる分野で対等に活動する機会が確保され、そのことによって、男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を受けることができ、ともに責任を担う社会のこと。



§ アンケートへの回答にあたって §

- アンケートは、あて名のご本人がご記入ください。何らかの理由でお答えいただけない場合は、代理の方により、ご本人の意見を尊重してご回答いただきますようお願いいたします。
- 住所や氏名などをご記入いただく必要はありません。すべての回答内容は統計的に処理し、調査結果は所期の目的にのみ用い、プライバシーの保護に万全を期します。
- この調査はインターネットでの回答が可能です。

【郵送での回答】

- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）にて、お近くの郵便ポストに投函してください。

【インターネットでの回答】

- パソコン、スマートフォン、タブレットいずれかの方法で回答してください。
インターネットと郵送で重複して提出された場合、インターネット回答を優先します。
- 下記のURLを入力するか二次元コードを読み取り、回答ページにアクセスしてください。
- 回答ページにアクセスしたら、最初にログインIDとパスワードを入力し、画面表示に従って操作してください。

URL : <https://www16.webcas.net/form/pub/enq/kusatsu>

ログインID

パスワード

kusatsu



（回答期限）郵送・インターネットとも **10月8日（火）まで**

（お問い合わせ先）草津市総合政策部 男女共同参画センター

TEL : 077-565-1550 FAX : 077-565-1518 E-mail : danjo@city.kusatsu.lg.jp

よくあるご質問

1. 調査票が自分に届いたのはなぜですか？

今回の調査にご協力をお願いしているのは、草津市にお住まいの18歳以上の方3,000人です。住民基本台帳から無作為に抽出し、選ばれた皆さまに調査票をお送りしています。

2. 回答することで自分の情報が漏^{ろう}えいすることはありますか？

調査票には「質問に対する回答」と「性別や年代など分析に必要な項目」のみを記入していただきます。調査票を返送することで、個人が特定されることはありません。調査票や返信用封筒には、名前や住所などの情報は一切書かずにご返送ください。また、インターネット回答のためのログインID/パスワードによって個人が特定されることはありません。

3. 回答した結果はどう使うのですか？

いただいた回答は、個人が特定されないようすべて数値に置き換え、統計的に処理をしたうえで、集計結果をホームページや報告書によって公表いたします。調査結果は、今後、市の施策を進めるにあたっての基礎資料とさせていただきます。

4. 回答しなくてもいいですか？

今回の調査は任意でご協力いただくものですが、より正確な調査とするために一人でも多くの方に回答いただきたいと考えております。回答時間の目安は10分程度で、インターネットでの回答も便利です。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

5. いつまでに何を送ればいいですか？

この調査票のみを同封の返信用封筒に入れ、10月8日（火）までにお近くの郵便ポストにご投函ください。切手を貼る必要はありません。



■男女共同参画についておたずねします

問1 あなたは、次にあげるそれぞれの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(1～8のそれぞれ1つに○)

	男性が優遇 されている	どちらかとい えは男性が優 遇されている	平等である	どちらかとい えは女性が優 遇されている	女性が優遇 されている	わからない
1. 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
2. 職場の中で	1	2	3	4	5	6
3. 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
4. 地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
5. 政治分野で	1	2	3	4	5	6
6. 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
7. 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6

それでは、

8. 社会全体でみて	1	2	3	4	5	6
------------	---	---	---	---	---	---

問2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。
(1つに○)

1. 賛成	}	1、2を選んだ方は問2-1へ
2. どちらかといえば賛成		
3. どちらかといえば反対	}	3、4を選んだ方は問2-2へ
4. 反対		
5. わからない		

問2-1 問2で「1. 賛成」または「2. どちらかといえば賛成」と回答された方へおたずねします。

その理由について最も近い項目を選んでください。(1つに○)

1. 日本の伝統だと思うから	)
2. 母親が家庭にいたほうが、子どもの成長にとってよいと思うから	
3. 配偶者・パートナーや家族が望んでいるから	
4. 仕事と家庭を両立するより、性別で役割を分担したほうが効率がよいと思うから	
5. 能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護に向いていると思うから	
6. その他(具体的に: _____)	
7. 理由を考えたことはない	

問2-2 問2で「3. どちらかと言えば反対」または「4. 反対」と回答された方へおたずねします。

その理由について最も近いものをお答えください。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから |
| 2. 男女ともに仕事と家事・育児・介護などの両方に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから |
| 3. 女性も仕事をするほうが、生活が安定すると思うから |
| 4. 家庭以外の場面でも、女性の能力をいかせると思うから |
| 5. その他(具体的に: _____) |
| 6. 理由を考えたことはない |

問3 あなたは日常生活で、「女らしさ／男らしさ」や「女性の役割／男性の役割」などを言われたり期待されたりすることはありますか。(1つに○)

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. ない |
|---------|----------|-------|

問3-1 問3で「1. よくある」または「2. たまにある」と回答された方へおたずねします。

どのような場で言われたり期待されたりしますか。(○はいくつでも)

- | | | | | |
|-------|--------------|-----------------|---------|----------|
| 1. 家庭 | 2. 職場 | 3. 学校 | 4. 友人関係 | 5. 地域・近隣 |
| 6. 親族 | 7. メディアや広告など | 8. その他(_____) | | |

問3-2 それはどのような内容ですか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|------------------|------------------|-------------------|----------|
| 1. 言葉づかい | 2. 容姿 | 3. 服装や身だしなみ | 4. 行動の仕方 |
| 5. 感情表現(泣く、怒るなど) | 6. 進学・進路選択 | 7. ライフイベント(結婚・出産) | |
| 8. 趣味・スポーツ | 9. 家事・育児・介護 | 10. 働き方・仕事内容 | |
| 11. お金の使い方 | 12. その他(_____) | | |

問3-3 上記について、不都合さや不快感を感じますか。(1つに○)

- | | | | |
|--------|-----------|------------|---------|
| 1. 感じる | 2. たまに感じる | 3. あまり感じない | 4. 感じない |
|--------|-----------|------------|---------|

問4 あなたの住んでいる地域(まちづくり協議会・自治会・町内会)の行事・役割などで、男女間の格差を感じることはありますか。(1つに○)

- | | | |
|-------|-------|-----------------|
| 1. ある | 2. ない | 3. 地域活動に参加していない |
|-------|-------|-----------------|

次ページへ

問4-1 問4で「1. ある」と回答された方へおたずねします。

あなたの住んでいる地域（まちづくり協議会・自治会・町内会）の行事・役割などで、どのようなことに男女間の格差を感じることがありますか。（〇はいくつでも）

1. 役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい 2. 地域の行事・祭礼などで女性が参加できない、女性の役割が受付、接待などに固定化されている 3. 会議などで女性が意見を言いにくい雰囲気がある 4. 会議などでお茶出しや片付けは女性だけがしている 5. 実際に活動しているのは妻である女性なのに、名義や役職は夫の名前である 6. 「女性だから」といって、女性が役員につくことや会議での発言をしりごみする 7. その他（具体的に：	)
---	---

問5 次の言葉について、知っていますか。（1～6のそれぞれ1つに〇）

	よく 知っている	少し 知っている 内容を	聞いたことは あるが内容は 知らない	まったく 知らない
1. 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3	4
2. 草津市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
3. ジェンダー※	1	2	3	4
4. SDGs※	1	2	3	4
5. LGBTQ※	1	2	3	4
6. 草津市パートナーシップ宣誓制度※	1	2	3	4

※ジェンダー

男らしさ、女らしさといった、社会的につくられた性差のこと。生物学的性別とは区別される。

※SDGs

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称であり、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標。17の目標の一つとして「ジェンダー平等を実現しよう」が設定されている。

※LGBTQ

L=Lesbian（レズビアン、女性同性愛）、G=Gay（ゲイ、男性同性愛）、B=Bisexual（バイセクシュアル、両性愛）、T=Transgender（トランスジェンダー、性同一性障害などの性的違和）、Q=Questioning（クエスチョニング、性的指向・性自認が定まらない）の頭文字をとってつくられた言葉。

※草津市パートナーシップ宣誓制度

戸籍上の性別にとらわれず、お互いを人生のパートナーとして助け合い、協力し合って生活をともにすると約束した、一方または双方が性的マイノリティである2人が、市長に対してパートナーシップである旨の宣誓をし、市が宣誓書受領証や宣誓書受領証カードを交付する制度。

■仕事についておたずねします

問6 あなたと、配偶者・パートナーの就労状況について、現在の状況をおたずねします。
それぞれあてはまるものを下の選択肢から選び、番号をご記入ください。(配偶者・パートナーのいない方はご自身の欄のみにご記入ください。)(各1つ)

●ご自身の職業		●配偶者・パートナーの職業	
番号		番号	
1.	勤め人(正規の社員や職員、会社などの役員)		
2.	勤め人(非正規の社員や職員(パート・アルバイト・派遣など)で週あたりの就業時間が35時間以上)		
3.	勤め人(非正規の社員や職員(パート・アルバイト・派遣など)で週あたりの就業時間が35時間未満)		
4.	農林・漁業		
5.	会社経営者・自営業主(農林・漁業を除く)		
6.	家族従業者(農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方)		
7.	学生		
8.	主に家事		
9.	無職		
10.	その他()		

→問7 問6で、ご自身が「8. 主に家事」または「9. 無職」と回答された方におたずねします。

その理由をお答えください。(〇はいくつでも)

1.	仕事に年齢制限があるため
2.	趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから
3.	自宅に近い勤め先が見つからない
4.	希望の給料に合う勤め先が見つからない
5.	希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない
6.	希望の雇用形態に合う勤め先が見つからない
7.	今後、配偶者・パートナーの転勤の可能性がある
8.	子育ての負担が大きい
9.	子どもが保育所などに入所できなかった
10.	家事の負担が大きい
11.	親や家族の介護・看護
12.	健康上の理由
13.	家族が反対する
14.	その他(具体的に:)

問8 あなたは、女性が仕事を続けていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解があること
2. 男女がともに日常的に家事・育児・介護を分担すること
3. 育児や介護のための施設やサービスを充実させること
4. 職場において育児や介護の休業を整備し、男女問わず利用しやすい環境(人員体制や職場風土など)にすること
5. 育児や介護で退職した社員を再雇用する制度を設けること
6. 男女間の賃金格差をなくすこと
7. 男女問わず長時間労働を是正すること
8. 女性にもやりがいのある仕事を任せること
9. パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること
10. 在宅勤務やフレックスタイム制度※を設けること
11. その他(具体的に:)
12. 特に条件整備の必要はない

※フレックスタイム制度

あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと。

問9 現状では、管理職※につく女性が少ない状況がありますが、あなたはその最も大きな理由としてどのようなものがあると思いますか。(1つに○)

1. 女性自身が管理職につくことに消極的だから
2. 女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから
3. 女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事を希望しないから
4. 女性は、能力的にみて管理職に向いていないから
5. 女性は、管理職に必要とされる能力(知識や経験、判断力など)を高める機会が少ないから
6. 会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから
7. その他(具体的に:)
8. わからない

※管理職

意思決定を行う管理的部門や指導的地位のこと。



■ワーク・ライフ・バランスについておたずねします

問 10 生活の中での「仕事*」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

(1) 希望と(2) 現実について、それぞれ下の選択肢から最も近いものを選び、番号をご記入ください。(各1つ)

*この設問での「仕事」は、週1時間以上働いていることを指します。フルタイム、パート、アルバイト、嘱託などは問いません。

		番号
(1)	あなたの <u>希望</u> に最も近いもの	
(2)	あなたの <u>現実(現状)</u> に最も近いもの	

《選択肢》

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない



問 11 あなたの普段（平日と休日）の生活時間についておたずねします。以下の活動について、1日に平均して何分くらい費やしていますか。（1）～（5）それぞれについてお答えください。（該当しない場合は、□の枠内に「×」を記入してください）

	仕事や学校のある日	休みの日 仕事や学校のない日
(1) 仕事・学校 *仕事にはアルバイト・副業も含む	時間 分	時間 分
(2) 家事（炊事、買物、洗濯、掃除など）	時間 分	時間 分
(3) 育児・子育て	時間 分	時間 分
(4) 介護	時間 分	時間 分
(5) 個人の時間（学習、趣味、スポーツ、友人付き合いなど）	時間 分	時間 分



問 12 あなたは「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現された社会」に近づくために、職場においてどのような取組が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

1. 社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む
2. 組織の中でワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を決める
3. 管理職の意識改革を行う
4. 管理職以外の社員の意識改革を行う
5. 無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する
6. 年休有給休暇の取得計画をつくる
7. ノー残業デーを設ける
8. 育児・介護などの休業・休暇制度を充実し、育児休業・介護休業を取りやすくする
9. 短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする
10. その他（具体的に： _____）
11. 特に必要なことはない

問 13 あなたは今後、男性が家事・子育て・介護などの家庭生活により積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと
3. 周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
4. 社会の中で、男性による家事・子育て・介護、地域活動についての評価を高めること
5. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
6. 男性も育児や介護の休業を取得しやすい環境にすること
7. 子育てや介護を行っていくうえでの仲間がいること
8. その他（具体的に： _____）
9. 特に必要なことはない



問 14 あなたは、男性が、育児休業や介護休業を取得することをどのように感じられますか。最も近い項目を選んでください。(1つに○)

1. 共働きかどうかに関わらず取得する必要はない
2. 共働きであれば取得もやむを得ないが、必要最低限にすべきである
3. 共働きであれば率先して取得する方がよい
4. 共働きかどうかに関わらず取得することはやむを得ないが、必要最低限にすべきである
5. 共働きかどうかに関わらず率先して取得する方がよい
6. 各人の選択にゆだねるべきであり、一律に取得すべきとも取得すべきでないともいえない
7. その他(具体的に:)

問 15 あなたは、男性の育児休業や介護休業の取得を進めるために、職場においてどのような取組が必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 取得対象者となる男性自身の意識改革
2. 管理職・上司の意識改革
3. 経営層のトップダウンによる職場風土づくり
4. 育児休業や介護休業の取得がマイナスにならない人事評価制度の確立・周知
5. 有給の育児休業・介護休業制度の整備
6. 長時間労働の削減などの働き方改革
7. 休業者の仕事をカバーできる人員体制の整備
8. 休業者の仕事をカバーする同僚などに対するインセンティブの付与
9. その他(具体的に:)
10. 特にない



■男女間の暴力やハラスメントなどについておたずねします

問 16 あなたは過去5年間に、職場や学校、地域などで次のようなハラスメントを受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

	職場で	学校で	地域で
1. 年齢や身体のことについて、不愉快な意見や冗談を言われた	1	1	1
2. 卑わいな言葉をかけられたり、わい談をされたりした	2	2	2
3. 身体をじろじろ見られた	3	3	3
4. わざと身体に触られた	4	4	4
5. 宴会などでお酌やデュエットを強要された	5	5	5
6. 性的なうわさを流された	6	6	6
7. しつこく交際を求められた	7	7	7
8. 性的な行為を強要された	8	8	8
9. どれもされたことはない	9	9	9

問 17 あなたは過去5年間に、配偶者やパートナーなどからドメスティック・バイオレンス(DV)※やデートDV※を受けた経験や見聞きしたことはありますか。(1つに〇)

- | | |
|---|-------------------|
| 1. 過去5年の間にDVを受けたことがある | 2. 現在もDVを受けることがある |
| 3. 過去5年の間にDVを受けたことはないが、自分の周りに受けた(受けている)人がある | |
| 4. 過去5年の間にDVを受けたことはなく、自分の周りに受けた(受けている)人もいない | |

※ドメスティック・バイオレンス(DV)、デートDV

配偶者・パートナーや恋人など親密な関係にある(あった)人からの暴力のこと。暴力には、身体的暴力(なぐる、蹴るなど)、精神的暴力(暴言、無視など)、経済的暴力(生活費を渡さない、仕事をさせないなど)、性的暴力(性行為の強要、避妊に協力しないなど)、社会的暴力(行動の制限や監視など)など様々な形態がある。デートDVは交際中のカップル間で起こる暴力のこと。

→ 問 17-1 問 17 で「1. 過去5年の間にDVを受けたことがある」または「2. 現在もDVを受けることがある」と回答された方におたずねします。

あなたは、DVを受けたとき、どのように行動しましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. どこにも相談しなかった | 2. 本人同士で話し合った |
| 3. 家族に相談した | 4. 友人や知人に相談した |
| 5. 親戚に相談した | 6. 職場の上司・同僚などに相談した |
| 7. 公共の相談施設に相談した | 8. 警察に相談した |
| 9. 弁護士など、法律の専門家に相談した | 10. 医療関係者(医師・看護師など)に相談した |
| 11. 教員など学校関係者に相談した | 12. その他() |

→ 次ページへ

問 17-2 問 17-1 で「1. どこにも相談しなかった」と回答された方におたずねします。
相談しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 相談する人がいなかったから | 2. どこに相談してよいのかわからなかったから |
| 3. 相談しても無駄だと思ったから | 4. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから |
| 5. 相談したことがわかったと、仕返しを受けると思ったから | |
| 6. 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから | |
| 7. 自分にも落ち度があると思ったから | 8. 他人を巻き込みたくなかったから |
| 9. 相談するほどではないと思ったから | 10. その他() |

問 18 過去5年間に、あなたもしくは身近な方で、男であること、女であること、自分の
セクシュアリティ※を理由として困難な問題を経験したり、見聞きしたことはあり
ますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 配偶者や交際相手などからの暴言・暴力 | 2. 学校や職場での人間関係のトラブル |
| 3. 親、兄弟からの暴言・暴力 | 4. 子からの暴言・暴力 |
| 5. 親族間のトラブル | 6. ストーカー被害 |
| 7. ハラスメントや性被害 | 8. 経済的困窮 |
| 9. その他() | 10. 経験もしくは見聞きしていない |

※セクシュアリティ

性のあり方のこと。性に関する意識や行動。

問 19 あなたは、問 18 のような困難な問題に対する支援として、草津市ではどのような
支援があればよいと思いますか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 早期発見のための周知啓発 | 2. 気軽に相談できる窓口 |
| 3. 弁護士などの法律の専門家による相談 | 4. 心理士などによるカウンセリング |
| 5. 学校や医療機関などとの連携による支援 | 6. 一時保護など緊急時に対応できる体制 |
| 7. 気軽に立ち寄れる居場所の提供 | 8. その他() |

問 20 あなたは、次の相談機関を知っていますか。(知っている機関の番号すべてに○)

- | | |
|------------------------------------|----------------------------|
| 1. 草津市男女共同参画センター相談窓口 | 2. 市民相談室(草津市役所) |
| 3. 家庭児童相談室(草津市役所) | 4. 配偶者暴力相談支援センター |
| 5. 草津警察署 | 6. 滋賀県立男女共同参画センター(G-NETしが) |
| 7. 犯罪被害者総合窓口(公益社団法人おうみ犯罪被害者支援センター) | |

○男女共同参画センターの相談窓口(市民総合交流センター キラリエ草津5階)

DV相談の他、家族関係の悩みなど様々な悩みについて相談をお受けしています。

困りごとがありましたら、気兼ねなくご相談ください。

(☎ 077-565-1550 月曜～金曜 第1・3土曜〈祝日・年末年始を除く〉8:30～17:15)

■市の施策・男女共同参画センターについておたずねします

問 21 草津市には令和3年5月から、男女共同参画センター（男女共同参画の推進を図るための拠点）が草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）にあります。あなたはこの施設をご存知ですか。（1つに○）

- | | | |
|--------------|--------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 利用したことはないが知っている | 3. 知らない |
|--------------|--------------------|---------|

問 22 あなたは、男女共同参画の推進を図るための拠点である男女共同参画センターの機能として、どのような運営・役割を期待しますか。（○は3つまで）

- | | |
|--|---|
| 1. 男女共同参画、ジェンダーに関する学習会
2. LGBTQなど、性の多様性に関する学習会
3. 子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な学習会
4. 起業をめざす女性のための講座や交流の場
5. 就職や再就職をめざす女性のための講座や交流の場
6. 男性を対象とした料理、介護、子育て教室など実践的な学習会
7. 若年層向けに多様な分野に興味を持ち、チャレンジのための学習会
8. デートDVやDV、性教育などに関する学習会
9. 子育て中、介護中の女性や男性などの交流の場
10. 誰でも立ち寄れる交流の場
11. DVなど、男女共同参画に関する相談しやすい窓口の運営
12. 男女共同参画に関する情報・書籍などの収集と提供
13. その他（具体的に： |) |
|--|---|

問 23 草津市では、男女共同参画社会の実現を市政の重要な柱とし取組を進めていますが、あなたは草津市でのジェンダー平等は進んでいると思いますか。（1つに○）

- | | | |
|-----------|------------------|--------------|
| 1. 進んでいる | 2. どちらかといえば進んでいる | 3. あまり進んでいない |
| 4. 進んでいない | 5. わからない | |

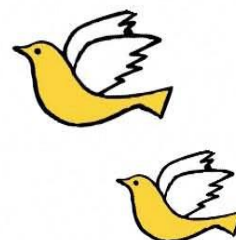


問 24 あなたは男女共同参画社会の実現に向けて、草津市が今後、特に力を入れるべきだと思うものはどれですか。(〇は3つまで)

1. 市の政策・方針を決定する審議会の委員などに、女性を多く登用する
2. 学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める
3. 働く場での男女格差の改善や男女ともに働きやすい環境について事業主などに働きかける
4. 働く男性、女性を支援するための育児、家事、介護サービスなどを充実する
5. 男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動の啓発、促進
6. 各種相談事業を充実する
7. LGBTQなど、性の多様性についての意識啓発、社会環境づくりを進める
8. 男女平等や男女共同参画についての啓発や、学習機会の充実を図る
9. 女性に対する暴力の根絶・防止に向けた取組の強化
10. その他(具体的に: _____)

≪自由記載欄≫

市が実施する男女共同参画社会実現のための施策などに関して、ご意見やご希望がありましたら、ご自由にご記入ください。



■回答者ご本人についておたずねします

問 25 あなたの性別をお答えください。(1つに○) ※あなたが認識している性別でお答えください。

1. 男性	2. 女性	3. 回答しない
-------	-------	----------

※問 25 については、性別による意識の違いについて調査するため質問項目を設けています。

問 26 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

1. 18～19 歳	2. 20～29 歳	3. 30～39 歳
4. 40～49 歳	5. 50～59 歳	6. 60～69 歳
7. 70～79 歳	8. 80 歳以上	

問 27 あなたのパートナー関係（結婚、事実婚など）についてお聞きします。(1つに○)

1. 配偶者・パートナーがいる	2. 配偶者・パートナーとは離別・死別した
3. 配偶者・パートナーはいない、いたことはない	

問 28 あなたは現在、どなたと同居されていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 配偶者・パートナー	2. 父母
3. 祖父母	4. 子ども
5. その他()	6. 誰とも同居していない(ひとり暮らし)

問 28-1 問 28 で同居している子どもがいると回答された人におたずねします。
あてはまる年齢・学齢をすべて選択してください。

1. 0～2歳	2. 未就学児(3歳～6歳)
3. 小学生	4. 中学生
5. 高校生以上の学生	6. 1～5以外

問 29 あなたは草津市に住んで何年になりますか。(1つに○)

1. 生まれてからずっと	2. 5年未満	3. 5年～10年未満
4. 10年～20年未満	5. 20年以上	

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

同封の封筒に入れ、10月8日(火)までにお近くのポストに入れてください。

令和6年度
草津市男女共同参画についてのアンケート調査報告書

令和7年3月
発行：草津市 総合政策部 男女共同参画センター
〒525-0032 草津市大路二丁目1番35号
TEL 077-565-1518